

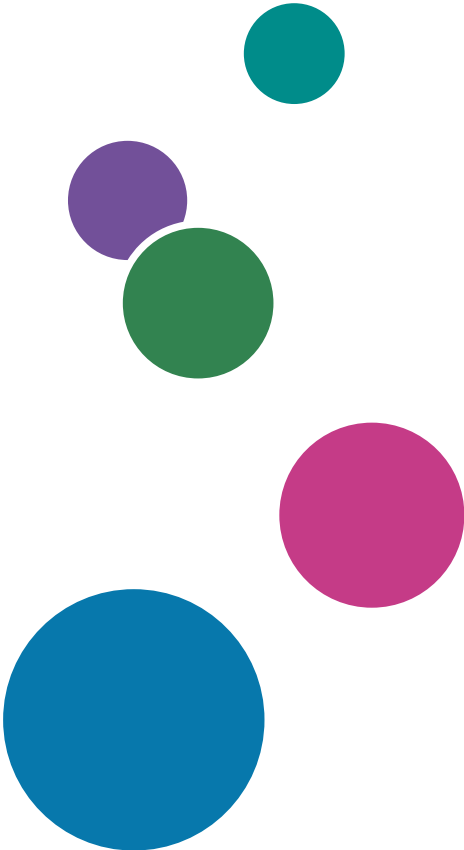


他のアプリケーションと統合する

Version 3.13.1

概要	1
他のアプリケーションからジョブを実行依頼する	2
ワークフローに機能を追加する	3
Webサービスを使用する	4
RICOH ProcessDirectorシンボル表記	5
ジョブチケットのファイルシステムマッピングファイル	6
RICOH ProcessDirector制御ファイルの構文	7
データベースプロパティ名	8
ジョブチケットで設定可能なジョブプロパティ	9

本書に記載されていない情報については、製品のヘルプ・システムを参照してください。



目次

はじめに

おことわり	4
本書についてのご注意	4
使用説明書とヘルプの紹介	4
使用説明書とヘルプの読み方	6
RICOH ProcessDirectorを使用する前に	6
使用説明書とヘルプの利用方法	6
関連製品情報	7
マークについて	8
省略語	8
商標	9

1 概要

システムオブジェクト	12
2次サーバー	14
アプリケーションサーバー	14
入力装置	15
ステップテンプレート	16
RICOH ProcessDirector の Web サービス	17
使用上の注意	18

2 他のアプリケーションからジョブを実行依頼する

ホットフォルダー入力装置	19
バッチ方式	20
バッチジョブ用のファイル	34
ワークフローを割り当てる	42
バッチジョブを処理するようにホットフォルダー入力装置を設定する	45
JDFジョブチケットを使用するように構成する	49
LPD入力装置	53
LPDプロトコルを使用するよう構成する	56
LPDプロトコルを使用した印刷コマンド	61
LPDプロトコルによるジョブの実行依頼を制限する	64

3 ワークフローに機能を追加する

外部プログラムを設定する	74
外部ステップ	77
外部コマンド	77
RICOH ProcessDirector メソッドの使用	79

外部ステップ用にステップテンプレートを設定する	92
コマンド行または制御ファイルを使用する外部ステップ用にステップテンプレートを セットアップする	92
ホットフォルダーを使用する外部ステップ用にステップテンプレートをセットアップす る	93
ステップテンプレートを調整する	96
外部ステップ用にワークフローをセットアップする	97
4 Webサービスを使用する	
RICOH ProcessDirector Rest APIドキュメントを使用する	100
Webサービスを使用してジョブの実行依頼を準備する	103
5 RICOH ProcessDirectorシンボル表記	
6 ジョブチケットのファイルシステムマッピングファイル	
7 RICOH ProcessDirector制御ファイルの構文	
規則用	113
receive_jcl_jobtype.cfg	113
receive_lpd_jobtype.cfg	116
receive_lpd_pdf_jobtype.cfg	119
receive_text_jobtype.cfg	121
JCL および LPD の jobtype ファイルで -ooutbin パラメーターを使用する	123
パススループリンターの場合	124
アーカイブ機能の制御ファイル	125
関連プロパティファイルを作成する	125
文書プロパティファイル	132
エクスポート結果ファイル	132
8 データベースプロパティ名	
ジョブ用	135
ワークフロー用	155
プリンター用	157
メディア用	164
入力装置用	166
入力ファイル用	172
通知オブジェクト用	173
サーバー用	175
ステップテンプレート用	176
システムプロパティ用	179

ユーザー用	185
グループ用	187
位置用	187
セキュリティー	188

9 ジョブチケットで設定可能なジョブプロパティ

はじめに

おことわり

適用される法律で許容される最大限の範囲内で、いかなる場合でも、本製品の故障、書類またはデータの紛失、本製品およびそれに付属の取扱説明書の使用または使用不能から生じるいかなる損害についても、製造者は責任を負いません。

重要な文書やデータのコピーやバックアップを常にとっておいてください。操作上の誤りやソフトウェアの誤動作により、文書やデータが消去されることがあります。また、コンピュータウイルス、ワーム、およびその他の有害なソフトウェアに対する保護対策を講ずる責任があります。

いかなる場合でも、製造者は、本製品を使用してお客様が作成した文書またはお客様が実行したデータの結果について責任を負いません。

本書についてのご注意

- 製品の改良または変更により、このガイドのイラストまたは説明に、使用している製品との差異が生じる場合があります。
- この文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。
- この文書のいかなる部分も、提供者の事前の許可なく重複、複製、あらゆる形のコピー、変更、または引用することを禁じます。
- 本書では、ディレクトリーパスの参照は、デフォルトパスのみを示しています。RICOH ProcessDirectorやその一部のコンポーネントを別の場所（別のドライブなど）にインストールする場合は、パスを適宜調整する必要があります。
たとえば、Windowsオペレーティングシステムを実行しているコンピューターのD:ドライブにRICOH ProcessDirectorをインストールした場合、ディレクトリーパスのC:をD:に置き換えます。

使用説明書とヘルプの紹介

RICOH ProcessDirector の資料 CD には RICOH ProcessDirector の資料が収められています。

使用説明書

ご利用いただける使用説明書は次のとおりです。

- 「RICOH ProcessDirector: 他のアプリケーションと統合する」（本書）
この使用説明書には、他のアプリケーションとデータを交換するようにRICOH ProcessDirectorを構成する方法に関する技術的な情報が記載されています。
- 「Linux、Windows用RICOH ProcessDirector：プランニング/インストールする」

この使用説明書では、使用しているオペレーティングシステムでのRICOH ProcessDirectorについての計画とインストール手順について説明します。パブリケーションCDには、使用しているオペレーティングシステム（Linux、Windows）用の本取扱説明書が収録されています。

- 「RICOH ProcessDirector: 文書処理機能のインストール」
この使用説明書は、ジョブとジョブ内の個々の文書の両方を制御および追跡するRICOH ProcessDirector機能のインストール方法について説明しています。
- 「RICOH ProcessDirector: RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat」を使用する
この使用説明書は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatの使用方法について説明しています。Adobe Acrobat プラグインを使用して、PDF ファイルでテキスト、バーコード、イメージ、およびその他の拡張を定義できます。拡張機能を制御ファイルに保存すると、RICOH ProcessDirectorワークフローでは、制御ファイルを使用してPDFファイルを同様に拡張できます。
- 「Font Summary」
この使用説明書は、InfoPrint Font Collectionのフォントの概念とさまざまな種類のフォントについて説明します。「Font Summary」は英語版のみです。
- 「ホワイトペーパー - 拡張 AFP 機能を使用する」
この使用説明書は、拡張AFP制御ファイルを設定および使用方法について説明します。この使用説明書は英語版のみです。
- RICOH ProcessDirectorのreadmeファイル(readme.html)
このファイルには、他の使用説明書へのアクセス方法が示されています。READMEファイルは英語版のみです。
- RICOH ProcessDirectorリリースノート
このリリースノートには、新しい機能やアップデート、既知の制限事項、問題、回避策、コード変更要求を含むRICOH ProcessDirectorのリリースに関する情報が記載されています。リリースノートは英語版のみです。

また、説明書は[RICOHソフトウェアインフォメーションセンター](https://help.ricohsoftware.com/swinfocenter/) (https://help.ricohsoftware.com/swinfocenter/)からダウンロードできます。

RICOH ProcessDirector インフォメーションセンター

インフォメーションセンターには、管理者、スーパーバイザー、オペレーターがRICOH ProcessDirectorについて詳しく知るために役立つトピックがあります。インフォメーションセンターは、ユーザーインターフェースから使用でき、クイックナビゲーションと検索機能を提供します。

ヘルプ

フィールドヘルプは、特定のタスクや設定に関する情報を提供するために、多くの画面で利用できます。

使用説明書とヘルプの読み方

RICOH ProcessDirectorを使用する前に

本書には、他のアプリケーションとデータを交換するようにRICOH ProcessDirectorを構成するための指示および注意事項が記載されています。RICOH ProcessDirectorを使用して他のアプリケーションとデータを交換する前に、本書を最後までよくお読みください。このマニュアルはいつでも参照できるようお手元に置いておいてください。

使用説明書とヘルプの利用方法

使用説明書は、ニーズに合わせて使用してください。

RICOH ProcessDirectorの計画、インストール、開始方法を知りたいとき

「Linux、Windows用RICOH ProcessDirector：プランニング/インストールする」を参照してください。パブリケーションCDには、使用しているオペレーティングシステム（Linux、Windows）用の本取扱説明書が収録されています。

RICOH ProcessDirectorの操作、インストールされている機能を知りたいとき

RICOH ProcessDirector インフォメーションセンターを参照してください。

ユーザーインターフェースでプロパティ値の設定方法を知りたいとき

フィールドヘルプをご覧ください。

他のアプリケーションとデータを交換できるように**RICOH ProcessDirector**を構成する方法は、次を参照してください。

「RICOH ProcessDirector: 他のアプリケーションと統合する」を参照してください。

文書処理機能のインストール方法:

「RICOH ProcessDirector: 文書処理機能をインストールする」を参照してください。

の機能と基本操作について知りたいとき を参照してください。 **RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat**

「RICOH ProcessDirector: RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat の使用」を参照してください。

資料を表示する

RICOH ProcessDirectorの使用説明書は、資料CDに収録されているため、アプリケーションをインストールする前にアクセスできます。



補足

- 資料を表示するには、Adobe Acrobat Reader などの PDF ビューアーが必要です。

Windows で RICOH ProcessDirector 資料 CD にアクセスするには、次の手順に従います。

1. CD を CD ドライブに挿入します。

Windows システムが CD を自動実行するように構成されている場合は、Windows Explorer が自動的に開き、CD の内容が表示されます。

-
2. Windows Explorer が自動的に起動しない場合は、手動で開いてから CD ドライブの内容を表示します。
 3. readme.htmlを開き、CDの内容についての情報を参照します。

これらの資料の一部は、RICOH ProcessDirectorユーザーインターフェースからも入手可能です。

↓ 補足

- 資料を閲覧するには、RICOH ProcessDirectorのユーザーインターフェースにログインする必要があります。

RICOH ProcessDirectorのユーザーインターフェースのバナーで  ボタンをクリックし、以下の資料の中から1つを選択してダウンロードしてください。

- 「RICOH ProcessDirector: 他のアプリケーションと統合する」
- 「RICOH ProcessDirector: 文書処理機能をインストールする」
- 「RICOH ProcessDirector: Adobe Acrobat 用 RICOH ProcessDirector プラグインを使用する」
- 「RICOH ProcessDirector : リリースノート」

インフォメーションセンターを表示する

RICOH ProcessDirectorインフォメーションセンターは、ユーザーインターフェースから利用できます。

インフォメーションセンターを表示するには、次の手順に従います。

- RICOH ProcessDirectorのユーザーインターフェースのバナーで、 をクリックして [ヘルプ] を選択します。

また、ブラウザでインフォメーションセンターの位置にブックマークを付け、RICOH ProcessDirector 外部からいつでも開くこともできます。

各機能の使用と操作に関する情報は、機能がシステムにインストールされている場合にのみ使用できます。

関連製品情報

当社製品の詳細:

- [リコーWebサイト](https://ricohsoftware.com) (https://ricohsoftware.com)
- [RICOHソフトウェアインフォメーションセンター](https://help.ricohsoftware.com/swinfocenter/) (https://help.ricohsoftware.com/swinfocenter/)

関連製品については、次の情報を参照してください。

- 「InfoPrint ManagerAIX用: スタートガイド」 G550-1061
- 「InfoPrint ManagerAIX用: プランニングガイド」、G550-1060
- 「InfoPrint ManagerLinux用: スタートガイド」, G550-20263

-
- 「InfoPrint ManagerLinux用: プランニングガイド」、G550-20262
 - 「InfoPrint ManagerWindows用: スタートガイド」、G550-1072
 - 「InfoPrint ManagerWindows用: プランニングガイド」、G550-1071
 - 「InfoPrint Manager: PSF and Server Messages」、G550-1053
 - 「RICOH InfoPrint XT for Linux: インストールおよびユーザーズガイド」、G550-20375
 - 「RICOH InfoPrint XT for Windows: インストールおよびユーザーズガイド」、GLD0-0025
 - 「AFP Conversion and Indexing Facility User's Guide」、G550-1342
 - 「IBM Print Services Facility for z/OS: AFP Download Plus」、S550-0433
 - 「IBM Print Services Facility for z/OS: Download for z/OS」、S550-0429

マークについて

このマニュアルでは、内容を迅速に識別するために、次のシンボルが使用されています。

★ 重要

- 製品を使用する際に注意する点を示しています。次の説明を必ずお読みください。

↓ 補足

- タスクを完了するために直接関係のない有益な補足情報を示します。

太字

[太字] は、ダイアログ、メニュー、メニュー項目、設定、フィールドラベル、ボタンキーの名前を示します。

イタリック

イタリック体は、独自の情報で置き換える必要があるマニュアルと変数のタイトルを示します。

モノスペース

モノスペース体は、コンピュータの入出力を示します。

省略語

AFP

Advanced Function Presentation

API

Application Programming Interface

CSV

Comma-Separated Values

DNS

Domain Name System

HTTP

Hyper Text Transfer Protocol

IP

Internet Protocol

JDF

Job Definition Format

LPD

Line printer daemon

PDF

Portable Document Format

PSF

Print Services Facility

REST

Representational State Transfer

SMIT

System Management Interface Tool

SOAP

Simple Object Access Protocol

SSL

Secure Sockets Layer

YaST

Yet Another Setup Tool

商標

RICOH ProcessDirector™ および RICOH InfoPrint Manager™ は、株式会社 Ricoh の米国およびその他の国における商標です。

Adobe、Reader、および PostScript は、Adobe Systems Inc の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

IBM、AIX、MVS、Print Services Facility、および z/OS は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Impostrip® は、Ultimate TechnoGraphics Inc. の登録商標です。

Kodakは、Eastman Kodak Companyの登録商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

MarcomCentralおよびFusionPro は、Ricoh CompanyのMarcomCentralの登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、および Internet Explorer は、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Oracle および Java は、Oracle およびその関連会社の登録商標です。

UNIX は、The Open Group の登録商標です。

Xeroxは、Xerox Corporationの登録商標です。

Sentinel®は、Thales DIS CPL USA, Inc.の登録商標です。

Windows オペレーティングシステムの正式名称は次のとおりです。

- Windows 10:
 - Microsoft Windows 10 Pro
 - Microsoft Windows 10 Enterprise
- Windows 11の製品名は次のとおりです。
 - Microsoft Windows 11 Pro
- Windows Server 2012 R2:
 - Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard
 - Microsoft Windows Server 2012 R2 Enterprise
- Windows Server 2016:
 - Microsoft Windows Server 2016 Standard
 - Microsoft Windows Server 2016 Datacenter
- Windows Server 2019:
 - Microsoft Windows Server 2019 Standard
- Windows Server 2022の製品名は次のとおりです。
 - Microsoft Windows Server 2022 Standard

本書に記載されているその他の製品名は、識別のためにのみ使用されており、各社の商標の可能性がります。当社では、このような商標に関する一切の権利を否認します。

1. 概要

- システムオブジェクト
- RICOH ProcessDirector の Web サービス

RICOH ProcessDirector は、いくつかのメカニズムで他のアプリケーションと対話します。使用するメカニズムは、目標とアプリケーションの機能に依存します。

RICOH ProcessDirector と他のアプリケーションを使用するときに達成したいであろう一般的な目標は、次のとおりです。

1. ジョブを処理と印刷のために実行依頼します。

アプリケーションは、印刷ファイルをホットフォルダー入力装置にコピーできます。これはRICOH ProcessDirectorが 構成可能な間隔で監視するディレクトリーです。RICOH ProcessDirectorは、印刷ファイルを受け入れ、印刷ジョブに変換します。

さまざまな方法を使用してホットフォルダーにジョブを送ることができます。ジョブ定義形式 (JDF) ジョブチケットと共に印刷ファイルを実行依頼した場合、ホットフォルダー入力装置はそのジョブチケットを使用してジョブプロパティーを設定できます。JDF ジョブチケットは、処理中のジョブと共に保持されます。多くのジョブプロパティーとジョブチケットの値は、ジョブチケットが必要とされるときにいつでも同期します。また JDF バッチ方式では、1 つの MIME パッケージで PDF、JDF、JMF 情報とともにジョブをホットフォルダーに送信できます。JMF は、DeviceID としてホットフォルダーの名前を参照する必要があります。

アプリケーションが line print (LPR) 機能を使用してファイルを送信する場合、ラインプリンターデーモン (LPD) 入力装置に送信できます。LPD 入力装置はホットフォルダー入力装置に似ていますが、これは LPR を使用して送信されたファイルを受信するだけです。

2. RICOH ProcessDirector で使用できない処理機能を印刷ワークフローに追加します。

アプリケーションが提供する処理が印刷ワークフローに組み込み可能な場合 (アドレスのクリア、データストリーム変換、組み付けなど)、RICOH ProcessDirector からアプリケーションに印刷ジョブを送り、有効な戻りコードを待機し、RICOH ProcessDirector で処理を続行するためのステップを作成できます。

ご使用のアプリケーションがホットフォルダーを監視している場合、作成するステップは印刷ジョブをそれらのホットフォルダーの間でコピーできます。ご使用のアプリケーションにコマンド行がある場合、ステップは適切なコマンドを実行して、結果のファイルが戻るのを待機します。

JDF ジョブチケットとともにジョブを実行依頼する場合、アプリケーションはジョブチケットの値 (RICOH ProcessDirector がサポートしない場合でも) を使用できます。アプリケーションがジョブチケットの値を更新する場合、新しい値は RICOH ProcessDirector に反映されます。

RICOH ProcessDirector は、他のプログラムをワークフローに組み込みやすくする機能を提供します。

RICOH ProcessDirector 機能	関連プログラム
Avanti Slingshot Connect	Avanti Slingshot
Quadient Inspire Connect	Quadient Inspire Designer
Marcom Central Connect	MarcomCentral

RICOH ProcessDirector 機能	関連プログラム
PitStop Connect	Enfocus PitStopサーバー10以上
Ultimate Impostrip® Connect	Ultimate Impostrip®

RICOH ProcessDirector は、Postal Enablement 機能も提供します。Postal Enablement 機能によって、選択した外部郵便ソフトウェアに接続できます。郵便ソフトウェアの例として、TEC Mailing Solutions MailPreparer や Bell and Howell BCC Mail Manager が挙げられます。

3. REST APIによりRICOH ProcessDirectorへアクセスします。

RICOH ProcessDirector で提供されている REST API を使用して、アプリケーション用の Web サービスと統合できます。この REST API では、Web サービスを使用して、要求の作成やコマンドの発行を実行できます。

Web サービスによる要求の作成の例として、システム内のオブジェクトの状況、プロパティ値、およびログファイルの検索が挙げられます。例えば、システム内の多様なジョブに関して同じ情報を収集してレポート内で使用したり別のユーザーインターフェースで表示したりする場合、Web サービス要求を作成してその情報を取得できます。

Web サービスによるコマンドの発行の例として、入力装置の接続と切断、オブジェクトの使用可能化と使用不可化、およびオブジェクトプロパティの設定が挙げられます。たとえば、入力装置を使用可能にして接続する場合、適切なコマンドを発行する Web サービス要求を作成できます。

それぞれの目標とそれを達成する方法については、後半の章で説明します。それらの章を読む前に、この章で説明している RICOH ProcessDirector の基本情報を理解したことを確認してください。

システムオブジェクト

RICOH ProcessDirector システムには、ハードウェア、ソフトウェア、ファイル、用紙、およびプロセスなどを表すオブジェクトが含まれています。そのオブジェクトのプロパティを要件に合うように構成できます。

基本製品には、次のように多くのシステムオブジェクトがあります。

- 1次サーバー

RICOH ProcessDirector がインストールされているシステム。このシステムには、内部データベース、Web サーバー、印刷ドライバー、ヘルプシステム、メッセージログなど多くの製品コンポーネントが保持されます。

- 2次サーバー

1次サーバーと接続できるその他のLinuxシステム。2次サーバーは、リソース集中プロセスのステップの負荷を分散して処理速度を改善するために使用できます。

また、2次サーバーを使用して、別のコンピューターで実行しているアプリケーションにアクセスできます。

2次サーバーは、RICOH ProcessDirector for Linux とのみ同時に使用できます。

- アプリケーションサーバー

アプリケーションサーバーは、1次サーバーが使用するデータベースを共有し、ジョブを効率的に処理するために1次サーバーと連携します。アプリケーションサーバー

は、Windows コンピューターにインストールされます。Windows 上のアプリケーションを必要とするステップを実行し、入力装置、Ricoh PDF プリンター、カスタム PDF プリンター、RICOH TotalFlow プリンター、Kodak プリンター、Xerox プリンター、およびパススループリンターの親サーバーとしても使用されます。その他のステップ（PrintJobs など）は実行できず、他の種類のプリンターの親サーバーとしても使用できません。

アプリケーションサーバーは、RICOH ProcessDirector for Linux とだけ使用できます。

- ステップテンプレート

ステップテンプレートとは、RICOH ProcessDirector システムにおける処理の基本構成要素です。それぞれのステップテンプレートには、特定のアクションを実行するコードが含まれます。ジョブプロパティの設定、データストリーム間の変換、指定期間のジョブの保存、などです。

ステップテンプレートは、ワークフローに追加されると 1 つのステップとしてインスタンス化されます。

- ワークフロー

ワークフローはステップの集合で、印刷プロバイダーの要件に合わせて配置および構成されています。印刷ジョブは、エラーにならずにワークフローを完了するか、処理パスの終了に到達するまで、ワークフローのステップからステップに移動します。1 つのジョブが複数のワークフローで処理されることもあります。ワークフローは、線形または条件付きになります。線形ワークフローでは、それぞれのステップが 1 つのステップからジョブを受け取り、1 つのステップに送ります。条件付きワークフローでは、それぞれのステップが 1 つ以上のステップからジョブを受け取り、1 つ以上のステップに送ります。1 つのステップが複数のステップにジョブを送るとき、そのステップの間のコネクターがジョブを送るステップを制御する条件を指定します。

★重要

- [ワークフローエディター] を使用して、以前のバージョンの RICOH ProcessDirector で作成したジョブタイプを編集すると、そのジョブタイプはワークフローになります。そうすると、[管理] ページでワークフロー → ジョブタイプをクリックしても開けなくなります。

- 入力装置

入力装置は入力ファイルを受け取り、それらのファイルから印刷ジョブを作成し、印刷ジョブをワークフローに割り当て、ジョブの処理を実行依頼します。入力装置にはいくつかの種類があります。ジョブが実行依頼される方法に基づいて、入力装置の種類を選択します。

- プリンター

プリンターとは、システムに接続されて RICOH ProcessDirector からジョブを受け取ることができるプリンターハードウェアです。

オプション機能や拡張機能によって、システムに他の種類のオブジェクトを追加できます。

RICOH ProcessDirector が他のアプリケーションと対話する場合の重要なオブジェクトは、2 次サーバー、アプリケーションサーバー、入力装置、およびステップテンプレートです。

使用可能なシステムオブジェクトのリストに対しては、RICOH ProcessDirector REST API ドキュメントの utility セクションにある [objecttypes] API を使用できます。詳しくは、[P. 100 「RICOH ProcessDirector Rest API ドキュメントを使用する」](#) を参照してください。

2次サーバー

2次サーバーで処理を分散させることで、RICOH ProcessDirectorシステムをより効率的に稼働させることができます。

2次サーバーを使用することで、処理が集中するステップの一部をさまざまなワークフローで実行でき、1次サーバーが過負荷になるのを防ぐことができます。1次サーバーは2次サーバーと連動し、システム全体のすべてのジョブの移動を調整します。2次サーバーには、システム情報を保管するための独自の組み込みデータベースはありません。すべてのサーバーは、1次コンピューターにインストールされたデータベースを使用します。

2次サーバーは、入力装置、ステップ、プリンターなど、すべてのタイプのRICOH ProcessDirectorオブジェクトを管理できます。また、外部ステップによってRICOH ProcessDirectorがアクセスする外部プログラムを実行することもできます。外部プログラムは、追加の処理や特殊なタイプの処理を行うことができます。

多くのプリンターが設置され、大量のジョブが処理されるインストール環境では、2次サーバーをシステムに追加することで、ジョブのスループットを向上させることができます。スループットが向上するのは、各サーバーが監視および制御するプリンターやジョブの数が少なくなるためです。

アプリケーションサーバー

アプリケーションサーバーは、RICOH ProcessDirector と通信するように構成された Windows システムです。ワークフローで Windows 上で実行されるアプリケーションによる処理が必要な場合は、RICOH ProcessDirector アプリケーションサーバーコードを Windows コンピューターにインストールすることでそれらのアプリケーションにアクセスできます。

アプリケーションサーバーは、Linux を実行している 1 次コンピューターで動作します。Windows を実行している 1 次コンピューターでは動作しません。

アプリケーションサーバーは、1 次サーバーが使用するデータベースを共有し、ジョブを効率的に処理するために 1 次サーバーと連携します。アプリケーションサーバーは Windows コンピューターにのみインストールできるため、Windows のアプリケーションを必要とするステップのみを実行できます。それ以外のステップ ([PrintJobs] など) は実行できません。

アプリケーションサーバーは、RICOH PDF プリンター、カスタム PDF プリンター、およびパススループリンターの親サーバーになることができます。それ以外のプリンターの親サーバーになることはできません。

これらのオペレーティングシステムには、アプリケーションサーバーをインストールすることができます。

- Windows 10 ProまたはEnterprise 64-bit
- Windows 11 Pro
- Windows Server 2019 64 ビット
- Windows Server 2022 64 ビット

入力装置

入力装置は入力ファイルを受け取り、ジョブを作成し、そのジョブを処理するためにワークフローに割り当てます。

RICOH ProcessDirectorには、次の入力装置のタイプがあります。

- ホットフォルダー入力装置は、システムがモニターするディレクトリーです。印刷ジョブがホットフォルダーにコピーまたは送信されると、システムはこれを検知し、処理を開始します。
- ラインプリンターデーモン (LPD) 入力装置は、LPDプロトコルを使用して実行依頼されるジョブを受信します。LPD入力装置は、制御ファイル、`receive_lpd_jobtype.cfg`または`receive_lpd_pdf_jobtype.cfg`を指定し、そのジョブのLPD制御ファイルパラメーターをテキストベースのジョブプロパティーファイルに変換します。
- REST Webサービスの入力装置は、REST (Representational State Transfer) Webサービスを呼び出して、サードパーティーアプリケーションからXMLまたはJSONファイルを取得します。入力装置は、XMLまたはJSONファイル全体を含むジョブを作成したり、XPathまたはJSONPath式を使用してファイルをチェックしたりできます。入力装置が式に指定されたXMLエレメントまたはJSONオブジェクトを検索する場合、この装置はファイル全体を含む1つのジョブを作成できます。また、別の方法として、それぞれファイルの一部を含めて1つ以上のジョブを作成できます。この装置タイプは、Web Services Enablement機能がインストールされている場合にのみ使用可能になります。
- SOAP Webサービスの入力装置は、SOAP (Simple Object Access Protocol) Webサービスを呼び出して、サードパーティーアプリケーションからXMLファイルを取得します。入力装置は、XMLファイル全体を含むジョブを作成したり、XPath式を使用してファイルをチェックしたりできます。入力装置が式に指定されたXMLエレメントを検索する場合、この装置はファイル全体を含む1つのジョブを作成できます。また、別の方法として、それぞれファイルの一部を含めて1つ以上のジョブを作成できます。この装置タイプは、Web Services Enablement機能がインストールされている場合にのみ使用可能になります。

AFP Support機能は、Download入力装置を提供します。これらの入力装置はDownload for z/OSまたはAFP Download Plusからデータセットを受け取ります。ジョブの実行依頼については、「Print Services Facility for z/OS: Download for z/OS」(S550-0429)または「Print Services Facility for z/OS: AFP Download Plus」(S550-0433)を参照してください。

ホットフォルダー入力装置

ホットフォルダー入力装置は、1次または2次サーバー上のディレクトリーであり、システムが入力ファイルを監視している場所です。

入力ファイルをホットフォルダーに移動するには、コピーコマンド、ファイル転送プロトコル (FTP)、セキュアコピープロトコル (SCP) など、指定した場所にファイルを転送する任意の方法を使用できます。

RICOH ProcessDirectorでは、いくつかのホットフォルダー入力装置が事前定義され、ご使用の環境に合わせてコピーおよび変更できます。

LPD入力装置

LPD入力装置は、LPRコマンドを使用して実行依頼されたジョブを受信します。LPD入力装置は、制御ファイル、`receive_lpd_jobtype.cfg`または`receive_lpd_pdf_jobtype.cfg`を指定し、そのジョブのLPD制御ファイルパラメーターをテキストベースのジョブプロパティファイルに変換します。

RICOH ProcessDirectorには、使用可能ないくつかの定義済みLPD入力装置が用意されています。

Download入力装置

Download入力装置はDownload for z/OS®またはAFP Download Plusからジョブを受け取ります。Download入力装置は制御ファイルを指定して、ジョブのJCLパラメーターを、ワークフローが使用するRICOH ProcessDirector property name=valueフォーマットのジョブプロパティファイルに変更します。

AFP Support機能には、使用可能ないくつかの定義済みDownload入力装置が用意されています。

ステップテンプレート

ステップテンプレートは、処理コードの独立したまとまりです。入力ファイルに対して実行する必要がある処理に基づいて、ワークフローに組み込むことができます。

RICOH ProcessDirectorには多くのステップテンプレートがあり、ワークフローに組み込むことができます。また、オプション機能も追加できます。そのようなステップテンプレートをそのまま使用することも、コピーして環境に合わせて動作するように変更することもできます。

↓ 補足

一部のステップテンプレートはコピーできませんが、そのプロパティを編集することはできます。

独自のステップテンプレートを作成してワークフローに組み込むことは、できません。しかし、スクリプトや他のプログラムを作成してコマンド行から呼び出せるようにした場合は、RunExternalProgramステップテンプレートを使用してそれにアクセスできます。

他のアプリケーションと対話するために、次のステップテンプレートは特に重要です。

- **SetJobType**ステップテンプレート

入力装置はSetJobTypeステップを使用して、印刷ジョブを処理するためにどのワークフローを使用するかを判断します。SetJobTypeステップテンプレートは、次のとおりです。

- **SetJobTypeFromFileName**

パターンマッチング文字列を使用して、入力ファイル名の一部（ファイル拡張子など）からワークフローを設定します。例えば、ファイル拡張子が**.AFP**のすべてのジョブをワークフロー**AFP**に送ったり、ファイル拡張子が**.pdf**のすべてのジョブ

をワークフローpdfに送ることができます。このステップはまた、ジョブと一緒に実行依頼されたオプションの指定変更ファイルを、[SetJobPropsFromTextFile] ステップがジョブプロパティを設定するために使用するテキストベースの *jobID.overrides.text* ファイルに変換できます。

– SetJobTypeFromRules

制御ファイルを使用して、入力ファイルに付随する指定変更ファイルのパラメーターの値に基づいてワークフローを選択します。このステップはまた、ジョブと一緒に実行依頼されたオプションの指定変更ファイルを、[SetJobPropsFromTextFile] ステップがジョブプロパティを設定するために使用するテキストベースに変換できます。

印刷システム管理者は、印刷実行依頼アプリケーションの出力とこれらのステップの値を調整することがあります。

• SubmitInputFiles ステップテンプレート

入力装置はSubmitInputFilesステップを使用して、印刷ジョブをワークフローの最初のステップに送ります。指定されたバッチ方式にしたがって、親ジョブと子ジョブとして、入力ファイルのグループを実行依頼します。入力ファイルが1つだけの場合は、親ジョブのない、子ワークフローの単一ジョブとして実行依頼します。

• SetJobPropsFromTextFile ステップテンプレート

SetJobPropsFromTextFileステップは、通常はワークフローの最初のステップです。入力ファイルに付随するテキストファイルを使用してジョブプロパティを設定します。テキストファイルには、設定するプロパティが指定されています。テキストファイルの値は、それ以前に設定された値を指定変更します。オプションの *jobID.overrides.text* ファイルを処理した後、ステップはオプションのJDF (Job Definition Format) のジョブチケットファイル、*jobID.overrides.jdf* を探索し、そのファイルを使用して、さらにジョブのプロパティを設定します。

• 外部ステップ

外部ステップは、データストリーム変換、アドレスのクリア、組み付けなどの処理のために印刷ジョブをRICOH ProcessDirector外部のアプリケーションに送ります。外部ステップテンプレートは、次のとおりです。

– RunExternalProgram

コマンド行インターフェースを使用して印刷ジョブを外部プログラムに実行依頼します。

– RunHotFolderApplication

他のアプリケーションが監視しているホットフォルダーに印刷ジョブを配置します。そのアプリケーションは、印刷ジョブを取得し、その構成設定に従って処理し、出力フォルダーに配置します。RICOH ProcessDirectorは、出力フォルダーを監視し、準備ができたならジョブを取得します。

RICOH ProcessDirector の Web サービス

RICOH ProcessDirector は、REST (Representational State Transfer) ソフトウェアアーキテクチャー原理を使用する Web サービスを提供するので、他のアプリケーションからその機能を使用できます。

RESTを使用する Web サービスは、要求の送信と結果の受信に HTTP (Hypertext Transfer Protocol) を使用します。各 Web サービスには、それぞれに関連付けられた URI (Universal Resource Indicator) があります。要求を作成する際、URIを変更して、対象のオブジェクト

または行うアクションに関する具体的な情報を持たせます。URI の変更は、プリンターオブジェクトの名称をURIに挿入するなどの簡単な場合もあれば、Extensible markup language (xml) を使用して、オブジェクトを検索する際の基準と返ってきたときのソート法を記述するなどの非常に複雑な場合もあります。XML エlementをコーディングして要求に含める場合、URI に追加する前に URL (Universal Resource Locator) でエンコードする必要があります。

RICOH ProcessDirector を使用すれば、Web サービスを使用して印刷ジョブやシステムの他のオブジェクトについての情報を要求できます。また、Web サービスを使用してプロパティを設定し、オブジェクトの使用可能化と使用不可化、プロパティの変更、プリンターの開始と停止などのアクションを実行することもできます。

使用上の注意

RICOH ProcessDirector で用意されている Web サービスは、特定の規則に従います。Web サービスをアプリケーションに組み込むときには、以下の使用上の注意を参照し、インプリメンテーションが正しく機能することを確認します。

- 他の Web サービスを使用できるようにするには、**POST /users/login/** Web サービスを使用して接続を確立し、証明書トークンを RICOH ProcessDirector サーバーから受け取る必要があります。他のすべての Web サービスでは、URI の要求ヘッダーに証明書トークンを含める必要があります。含めない場合、即時に 401 権限がありません HTTP エラーを受け取ります。
- アクションと URI は固定の文字列であるため、他の言語に変換することはできません。例えば、**"token:"** はすべての言語で同じです。
- 取り出されたレコードセットは、サービスの呼び出し間で異なる場合があります (特にソートまたはフィルター機能を使用する場合)。同一要求があとに続いても同じレコードになるとは限りません。
- SSL (Secure Sockets Layer) または TLS (Transport Layer Security) のサポートをアクティブにすると、RICOH ProcessDirector は、Web サービスなどのすべての HTTP 通信に SSL プロトコルを使用します。SSL または TLS のサポートがアクティブな場合、SSL または TLS をサポートする Web サービスクライアントを使用して Web サービスを起動する必要があります。
- RICOH ProcessDirector Web サービスが返すのは、JavaScript Object Notation (JSON) データのみです。XML はサポートされていません。

2. 他のアプリケーションからジョブを実行依頼する

- ホットフォルダー入力装置
- LPD入力装置

ご使用のアプリケーションが文書構成またはジョブ実行依頼のツールの場合、ホットフォルダーまたはLPD入力装置を使用して印刷ジョブをRICOH ProcessDirectorに取得して、処理および印刷できます。

アプリケーションでREST Webサービスを使用できる場合は、[submitFile] ユーティリティを使用して、ファイルをワークフローまたはホットフォルダーに実行依頼できます。このインプリメンテーションについて詳しくは、[P. 103 「Webサービスを使用してジョブの実行依頼を準備する」](#)を参照してください。

入力測地の主要な機能は、次のとおりです。

- システムにジョブを受け入れる。
- ジョブをワークフローに割り当てる。
- ジョブをワークフローの最初のステップに送って処理を開始する。

ホットフォルダー入力装置は、JDF ジョブチケットとともに実行依頼されたものなど、さまざまな印刷ジョブを受け取ります。LPD 入力装置は、ラインプリンター (LPR) コマンドを使用して実行依頼された印刷ジョブを受け取ります。

↓ 補足

どちらのタイプの入力装置も、印刷ジョブを受け取ったときには実行依頼したアプリケーションに情報を返しません。例えば、ホットフォルダー入力装置に印刷ジョブを送った場合、そのホットフォルダーは、実行依頼したアプリケーションにジョブの進行を監視できるようにジョブ番号を送り返しません。

ホットフォルダー入力装置

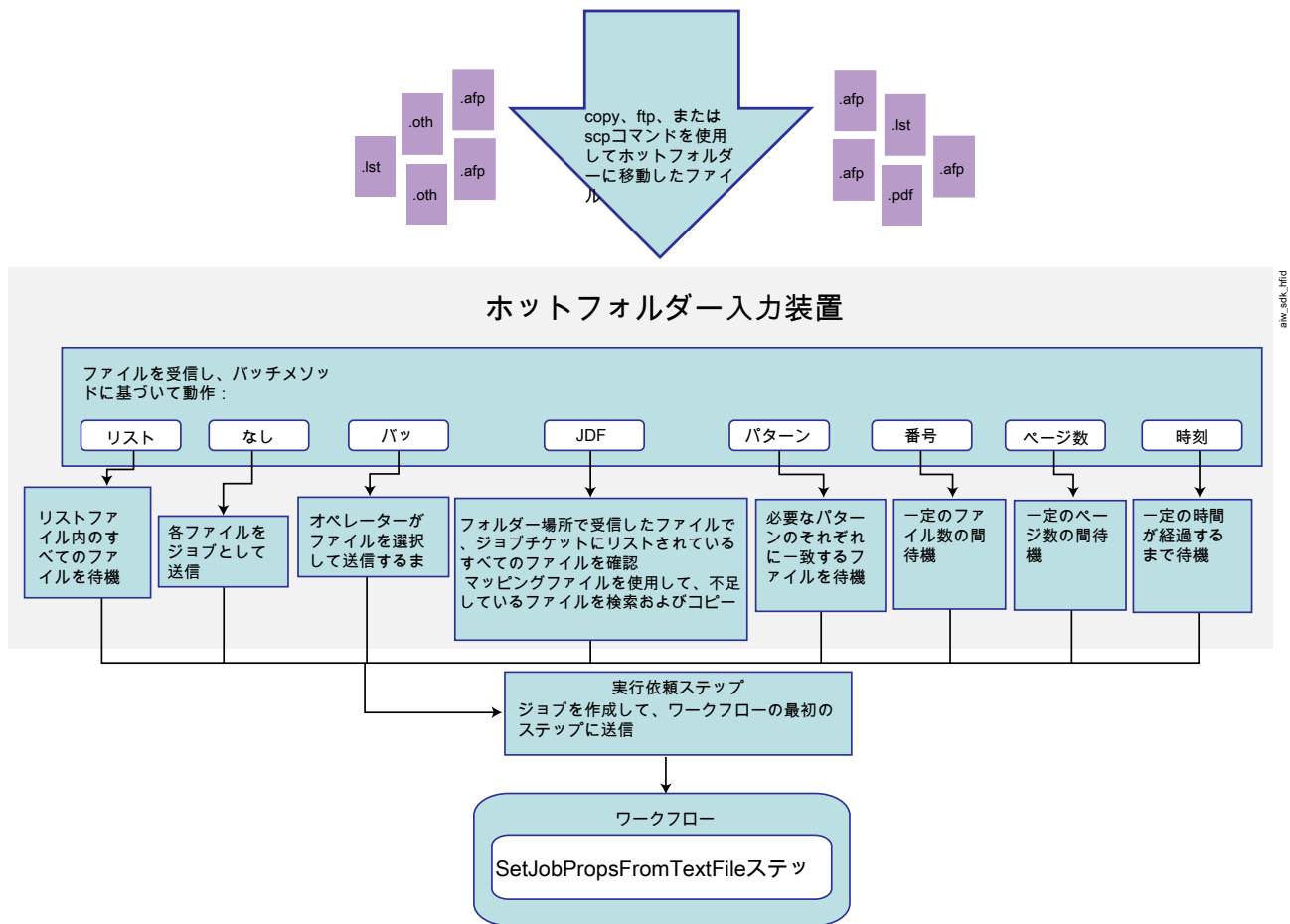
ホットフォルダー入力装置は、単一ファイルを含む印刷ジョブ、複数ファイルのジョブ JDFジョブチケットを含むジョブを受け取ります。

ホットフォルダーを構成するときは、それによって処理されることになるジョブのタイプを判断する必要があります。次に、ジョブが正しいホットフォルダーに実行依頼されて正しく処理されることを確認する必要があります。そうしないと、印刷ジョブは、ワークフローによる処理が開始されないうちにエラーになります。

入力ファイルは、個別に、またはグループとして処理されます。入力ファイルをグループとして処理するために、バッチを作成できます。バッチ方式によっては、入力ファイルとともに追加のサポートファイルが実行依頼される必要があります。

図P. 20 「[ホットフォルダー入力装置の処理](#)」に、ホットフォルダー入力装置がジョブを処理する方法を示します。入力装置は、バッチ方式の値に基づいてジョブに作用し、そのジョブを実行依頼ステップに渡します。

ホットフォルダー入力装置の処理



許可

ホットフォルダーにジョブを実行依頼するユーザーはすべて（ジョブを実行依頼するアプリケーションを実行しているユーザーIDも含む）、そのフォルダーに対する適切な権限を持つ必要があります。ユーザーが正しい権限を持っていることを確認する簡単な方法は、RICOH ProcessDirectorのインストール時に作成されるRICOH ProcessDirectorグループ（デフォルトは**aiwgrp1**）に、すべての実行依頼者を追加することです。

バッチ方式

ホットフォルダーおよびSFTP入力装置がジョブを実行依頼する方式は、入力装置の「バッチ方式」プロパティによって決まります。

デフォルトでは、「なし」以外のバッチ方式を使用した場合、入力装置は親子構造を持ったグループとしてジョブを作成します。親ジョブにはデータは含まれず、他のジョブ同士の間関係を維持するコンテナになります。それらは、子ジョブです。バッチ方式によってグループに含まれる各入力ファイルは、子ジョブになります。

「なし」、「JDF」、「リスト」以外の全てのバッチ方式の場合、RICOH ProcessDirector for Windowsは、ファイルの最終修正日時の順序で子ジョブを処理します。Windowsの「[[更新日]]」の値は、「[[実行依頼時刻]]」ジョブプロパティの値として表示されま

す。入力装置がファイルを受信したときには「更新日」の値は変更されないため、2010年に作成され2011年に実行依頼されたファイルの「実行依頼時刻」は2010と表示されます。

↓ 補足

- 入力装置の「.zip ファイルの作成」プロパティを「はい」に設定してある場合、その入力装置は親子構造のジョブのグループを作成しません。代わりに、入力装置はすべての入力ファイルを1つのグループに集めて、ZIP ファイルに格納します。このZIP ファイルが、単一のジョブとして実行依頼されます。別のステップでZIPファイル形式のファイル进行处理する場合を除いて、このワークフローには、ファイルを解凍するステップを組み込む必要があります。
- 「バッチ方式」が「JDF」または「パターン」以外の場合は、入力装置の「全てのバッチ処理」アクションで、入力装置にある全ての入力ファイルを実行依頼できます。「全てバッチ処理」アクションは、「ポーリング間隔」に到達するのを待たずにジョブを作成します。

バッチ

バッチ方式が「バッチ」の場合、入力装置は（オペレーターの選択に基づいて）ファイルをグループとして実行依頼します。

「バッチ」バッチ方式では、入力装置はジョブを即時に実行依頼することができません。入力装置はファイルを受信しますが、オペレーターがデータファイルを選択して「バッチの作成」をクリックするまで、何もしません。入力装置は全てのデータファイルの名前を含むリストファイルを作成して、ジョブを実行依頼します。

「バッチ」バッチ方式を使用する場合、次のように入力装置プロパティを設定します。

- 「ワークフロー」：ParentNoPrint
- 「子ワークフロー」：ジョブのデータファイルに適したワークフローです。
- 「実行依頼ステップ」：SubmitInputFiles
- 「.zipファイルの作成」：このプロパティが「はい」の場合、「データパターン」プロパティに設定された値と一致するすべての入力ファイルが含まれるZIPファイルが生成され、1つのジョブとして実行依頼されます。この値が「いいえ」の場合、すべての入力ファイルが子ジョブとして実行依頼されます。
- 「データパターン」：印刷ファイルのファイル名と部分的にでも一致するパターンです。ホットフォルダーおよびSFTP入力装置の場合、デフォルト値は.*\$の正規表現です。このパターンは、すべてのファイル名と一致します。

JDF

バッチ方式が「JDF」の場合、ホットフォルダー入力装置またはSFTP入力装置は（ジョブチケットの内容に基づいて）1つまたは複数のファイルをグループとして実行依頼します。

ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、そのジョブを構成するすべてのファイルのリストが含まれているジョブチケットを検索します。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置がジョブチケットを見つけたときは、そのチケットを読み取って全てのファイルを検索し、

全てのファイルを見つけるとすぐにそれを単一のジョブとして実行依頼します。ジョブチケットで指定された順序にしたがって、各ファイルが印刷します。

ジョブチケットのファイル名は、[JDF パターン] プロパティで指定されたパターンと一致する必要があります。デフォルトのパターンは、拡張子が .jdf のファイルと一致します。

ジョブチケットのファイルのリストは、たとえば次のようになります。

```
myfile1.pdf
myfile2.pdf
myfile3.pdf
another.pdf
```

また、ジョブチケットにはジョブのプロパティを設定するための情報が含まれることがあります。

[JDF] バッチ方式を使用する場合、次のように入力装置プロパティを設定します。

- [ワークフロー] : ParentNoPrint
- [子ワークフロー] : ジョブの印刷ファイルに適したワークフローです。
- [実行依頼ステップ] : SubmitInputFiles
- [.zipファイルの作成] : このプロパティが [はい] の場合、[データパターン] プロパティに設定された値と一致するすべての入力ファイルが含まれるZIPファイルが生成され、1つのジョブとして実行依頼されます。この値が [いいえ] の場合、すべての入力ファイルが子ジョブとして実行依頼されます。ジョブチケットが異なる入力ファイルに対して別々の設定を指定していて、[zip ファイルの作成] プロパティが [はい] の場合、ジョブチケットの最初の入力ファイル名に対する設定がすべての入力ファイルに使用されます。
- [JDFパターン] : ジョブチケットのファイル名と部分的にでも一致するパターンです。
HotFolderJDF 以外のすべての入力装置に対して、デフォルト値はヌルです。
HotFolderJDF の場合、この値は正規表現 .*¥jdf\$ になります。
- [データパターン] : 印刷ファイルのファイル名と部分的にでも一致するパターンです。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置の場合、デフォルト値は.*\$の正規表現です。このパターンは、すべてのファイル名と一致します。

リスト

バッチ処理方式がListの場合、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、（入力装置が受信したリストファイルの内容に基づいて）1つまたは複数のファイルをグループとして実行依頼します。

ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、そのジョブを構成するすべてのファイルのリストが含まれているテキストベースのリストファイルを検索します。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置がリストファイルを見つけたときは、そのリストを読み取ってすべてのファイルを検索し、すべてのファイルを見つけるとすぐにそれを単一のジョブとして実行依頼します。リストファイルで指定された順序にしたがって、各ファイルが印刷します。

リストファイルは以下の基準を満たしている必要があります。

- ファイル名は、[リストパターン] プロパティで指定されたパターンと一致する必要があります。デフォルトのパターンは、拡張子が.lstのファイルと一致します。
- 印刷ジョブのそれぞれのファイルは、リストファイルの別の行で指定する必要があります。
- リストファイルのリストに含まれるファイル名は、パス情報を含まないファイル名だけで、すべてのファイルが同じディレクトリーにある必要があります。

リスト・ファイルの内容は次のようになります。

```
afpinput1.afp
afpinput2.afp
afpinput3.afp
inputfile.afp
```

[リスト] バッチ方式を使用する場合、次のように入力装置プロパティを設定します。

- [ワークフロー] : ParentNoPrint
- [子ワークフロー] : ジョブの印刷ファイルに適したワークフローです。
- [実行依頼ステップ] : SubmitInputFiles
- [.zipファイルの作成] : このプロパティが[はい]の場合、[データパターン] プロパティに設定された値と一致するすべての入力ファイルが含まれるZIPファイルが生成され、1つのジョブとして実行依頼されます。この値が[いいえ]の場合、すべての入力ファイルが子ジョブとして実行依頼されます。
- [リストパターン] : リストファイルのファイル名と部分的にでも一致するパターンです。
デフォルトでは、この値は正規表現 .*lst\$ になります。
- [データパターン] : 印刷ファイルのファイル名と部分的にでも一致するパターンです。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置の場合、デフォルト値は.*\$の正規表現です。このパターンは、すべてのファイル名と一致します。
ある印刷ファイルがリストファイルに含まれていて、そのファイル名が[データパターン]の値と一致しない場合、入力装置はそのファイルを印刷ファイルとは識別しません。リストに含まれる印刷ファイルが不足していると判断されるため、入力装置は不足ファイルを待機して、ジョブを作成しません。
- [指定変更パターン] : 指定変更ファイルを使用する場合、指定変更ファイルのファイル名と部分的にでも一致するパターンです。

なし

バッチ方式が[なし]の場合、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、各ファイルを別々の印刷ジョブとして実行依頼します。

番号

バッチ方式が[番号]の場合、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は指定された個数のファイルをグループとして実行依頼します。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置の[データパターン] プロパティと一致するファイルだけが対象として数えられ、実行依頼されます。

ホットフォルダーまたはSFTP入力装置はファイル名を解析し、[データパターン] プロパティの値と一致するかどうか判別します。名前がパターンと一致する場合、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置はそのファイルを数えます。それらのファイルの数が[バッチ対象のファイル数] プロパティに設定された値になると、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置はそれらのファイルを単一のグループとして実行依頼します。

↓ 補足

- RICOH ProcessDirector for Windowsはファイルの最終修正日時の順序で子ジョブを処理します。Windows の[更新日] の値は、[実行依頼時刻] ジョブプロパティの値として表示されます。ファイルが入力装置に置かれたときには**更新日**の値は変更されないため、2010年に作成され2011年に実行依頼されたファイルの[実行依頼時刻] は2010と表示されます。

[番号] バッチ方式を使用する場合、次のように入力装置プロパティを設定します。

- [ワークフロー] : ParentNoPrint
- [子ワークフロー] : ジョブの印刷ファイルに適したワークフローです。
- [実行依頼ステップ] : SubmitInputFiles
- [.zipファイルの作成] : このプロパティが[はい] の場合、[データパターン] プロパティに設定された値と一致するすべての入力ファイルが含まれるZIPファイルが生成され、1つのジョブとして実行依頼されます。この値が[いいえ] の場合、すべての入力ファイルが子ジョブとして実行依頼されます。
- [バッチ対象のファイル数] : このファイル数になるまで待機して、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置はそれらを単一のグループとして実行依頼します。
- [データパターン] : 印刷ファイルのファイル名と部分的にでも一致するパターンです。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置の場合、デフォルト値は.*\$の正規表現です。このパターンは、すべてのファイル名と一致します。

セット数

バッチ方式が[セット数] の場合、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、ファイルの特定セット数を受信した後にジョブを実行依頼します。完全なファイルセットのみがカウントされ、実行依頼されます。

次のすべての条件を満たすセットが完全と判断されます。

- [データパターン] プロパティ値に一致するファイルが存在する。
- [指定変更パターン] プロパティまたは[JDF パターン] プロパティに値が入力されている場合、これらの値の一方または両方に一致するファイルが存在する。
- [ファイルパターン] として指定された項目がある場合、それぞれの値に一致するファイルが存在する。

完全セットの数が[バッチ対象のファイル数] プロパティに設定された値に達すると、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は1セットを1個の子ジョブとするセットのグループを実行依頼します。[.zip ファイルの作成] プロパティが[はい] の場合、全セットの全ファイルを含む1個のジョブがZIP ファイル形式で実行依頼されます。

[セット数] バッチ方式を使用する場合、入力装置プロパティを次のように設定します。

- [ワークフロー] : ParentNoPrint
- [子ワークフロー] : ジョブの印刷ファイルに適したワークフローです。
- [実行依頼ステップ] : SubmitInputFiles
- [.zipファイルの作成] : このプロパティが [はい] の場合、すべてのファイルが ZIP ファイルとしてまとめられ、1つのジョブとして実行依頼されます。この値が [いいえ] の場合、各セットは子ジョブとして実行依頼されます。
- [バッチ対象のファイル数] : このファイル数になるまで待機して、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置はそれらを単一のグループとして実行依頼します。
- [データパターン] : 印刷ファイルのファイル名と部分的にでも一致するパターンです。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置の場合、デフォルト値は.*\$の正規表現です。このパターンは、すべてのファイル名と一致します。
- [ファイルパターン] : セットに含める必要があるファイルを定義するパターンコレクションです。
- [JDFパターン] : ジョブ定義フォーマット (JDF) ジョブチケットを識別するために使用する、1つ以上のパターンマッチングストリングです。このプロパティに値が指定されている場合、セットが完全になるには、JDF ジョブチケットが必要になります。
- [指定変更パターン] : ジョブプロパティ値を含むファイルを識別するために使用する、1つ以上のパターンマッチングストリングです。

ページ数

バッチ処理方法が [Pages] の場合、ホットフォルダーまたは SFTP 入力装置は (入力装置が受信したファイルのページ数に基づいて) PDF ファイルをグループとして実行依頼します。この方式は、PDF ファイルに対してのみ有効です。

ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、PDFファイルが到着するとそれを確認し、含まれているページ数を判断します。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、現在そこに含まれているPDFページ数の合計を維持します。そのPDFページ数の合計が [バッチ対象のページ数] プロパティに設定された値以上になると、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置はそれらのファイルのグループを実行依頼します。

↓ 補足

- RICOH ProcessDirector for Windowsはファイルの最終修正日時の順序で子ジョブを処理します。Windows の [更新日] の値は、[実行依頼時刻] ジョブプロパティの値として表示されます。ファイルが入力装置に置かれたときには**更新日**の値は変更されないため、2010年に作成され2011年に実行依頼されたファイルの [実行依頼時刻] は 2010と表示されます。

ページ数の合計が [[バッチ対象のページ数]] プロパティに設定された値を超えた場合、その超過した PDF ファイルは、 [[バッチ対象のページ数を超える]] プロパティが [[はい]] に設定されている場合にのみグループに含まれます。 [バッチ対象のページ数を超える] プロパティが [いいえ] の場合、このPDFはホットフォルダーまたはSFTP入力装置に残り、次のバッチの最初のページになります。

単一のファイルのページ数が [[バッチ対象のページ数]] プロパティより大きく、 [[バッチ対象のページ数を超える]] プロパティが [[はい]] の場合、そのファイルは、既に待機していた他の PDF ファイルも含まれたバッチとして、またはそのファイ

ル1つだけが含まれたバッチとして、印刷のために実行依頼されます。しかし、[[バッチ対象のページ数を超える]]プロパティーが[[いいえ]]の場合は、そのファイルは実行依頼されません。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置の処理は停止します。その入力ファイルを削除するか、[[バッチ対象のページ数]]プロパティーをそのファイルのページ数以上に増やすか、[[バッチ対象のページ数を超える]]プロパティーを[[はい]]に変更すると、そのファイルを実行依頼できるようになります。

↓ 補足

2

- [[ページ数]] バッチ方式では、暗号化またはパスワード保護された PDF ファイルをサポートしていません。暗号化またはパスワード保護された PDF ファイルを [[ページ数]] バッチ方式を使用するホットフォルダーまたはSFTP入力装置に送信すると、ファイルを開いてページ数をカウントできないため、RICOH ProcessDirectorからエラーメッセージが表示されます。

[[ページ数]] バッチ方式を使用する場合、次のように入力装置プロパティーを設定します。

- [[ワークフロー]] : ParentNoPrint
- [[子ワークフロー]] : ジョブの印刷ファイルに適したワークフローです。
- [[実行依頼ステップ]] : SubmitInputFiles
- [[.zipファイルの作成]] : このプロパティーが[[はい]]の場合、[[データパターン]]プロパティーに設定された値と一致するすべての入力ファイルが含まれるZIPファイルが生成され、1つのジョブとして実行依頼されます。この値が[[いいえ]]の場合、すべての入力ファイルが子ジョブとして実行依頼されます。
- [[バッチ対象のページ数]] : このページ数になるまで待機して、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置はそれらを単一のグループとして実行依頼します。
- [[バッチ対象のページ数を超える]] : このプロパティーが[[はい]]の場合、あるPDFファイルに含まれるページ数によってホットフォルダーまたはSFTP入力装置内の合計ページ数が[[バッチ対象のページ数]]プロパティーの値を超えると、そのPDFファイルは他のファイルとともに実行依頼されます。このプロパティーが[[いいえ]]の場合、このファイルは次のバッチの最初のページとしてホットフォルダーまたはSFTP入力装置に保持されます。
- [[データパターン]] : PDF ファイル名と一致するパターンで、.*pdf\$、.*PDF\$ などです。

セット内のページ数

バッチ処理方法が[[セット内のページ数]]の場合、指定されたページ数がある PDF ファイルのセットが入力装置によって受信されると、ホットフォルダーまたは SFTP入力装置はジョブを実行依頼します。この方式は、PDF ファイルに対してのみ有効です。

次のすべての条件を満たすセットが完全と判断されます。

- [[データパターン]] プロパティー値に一致するファイルが存在する。
- [[指定変更パターン]] プロパティーまたは [[JDF パターン]] プロパティーに値が入力されている場合、これらの値の一方または両方に一致するファイルが存在する。
- [[ファイルパターン]] として指定された項目がある場合、それぞれの値に一致するファイルが存在する。

ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、PDFファイルが到着するとそれを確認し、含まれているページ数を判断します。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、現在そこに含まれている完全セット内のPDFページ数の合計を維持します。完全セット内のPDFページ数の合計が「[バッチ対象のページ数] プロパティ」に設定されている値以上になると、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は1セットを1個の子ジョブとするセットのグループを実行依頼します。「[zip ファイルの作成] プロパティ」が「はい」の場合、全セットの全ファイルを含む1個のジョブがZIP ファイル形式で実行依頼されます。

ページ数の合計が「[バッチ対象のページ数] プロパティ」に設定されている値を超えるPDF ファイルを含むセットは、「[バッチ対象のページ数を超える] プロパティ」が「はい」に設定されている場合にのみグループに含まれます。「[バッチ対象のページ数を超える] プロパティ」が「いいえ」の場合、このセットはホットフォルダーまたはSFTP入力装置に残り、次のバッチの最初のセットになります。

単一のセットのページ数が「[バッチ対象のページ数] プロパティ」より大きく、「[バッチ対象のページ数を超える] プロパティ」が「はい」の場合、そのセットは、すでに待機していた他のセットも含まれるバッチとして、またはデータファイル1つだけを含むバッチとして、印刷が実行依頼されます。「[バッチ対象のページ数を超える] プロパティ」が「いいえ」の場合、そのセットは実行依頼できません。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置の処理は停止します。その入力ファイルを削除するか、「[バッチ対象のページ数] プロパティ」をそのセットのページ数以上に増やすか、「[バッチ対象のページ数を超える] プロパティ」を「はい」に変更すると、そのセットを実行依頼できるようになります。

↓ 補足

- 「[セット内のページ数] バッチ方式では、暗号化またはパスワード保護された PDF ファイルがあるセットをサポートしていません。暗号化またはパスワード保護された PDF ファイルがあるセットを「[セット内のページ数] バッチ方式」を使用するホットフォルダーまたはSFTP入力装置に送信すると、ファイルを開いてページ数をカウントできないため、RICOH ProcessDirectorからエラーメッセージが表示されます。

「[セット内のページ数] バッチ方式」を使用する場合、入力装置プロパティを次のように設定します。

- 「[ワークフロー]」：ParentNoPrint
- 「[子ワークフロー]」：ジョブの印刷ファイルに適したワークフローです。
- 「[実行依頼ステップ]」：SubmitInputFiles
- 「[zipファイルの作成]」：このプロパティが「はい」の場合、すべてのファイルがZIPファイルとしてまとめられ、1つのジョブとして実行依頼されます。この値が「いいえ」の場合、各セットは子ジョブとして実行依頼されます。
- 「[バッチ対象のページ数]」：このページ数になるまで待機して、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置はそれらを単一のグループとして実行依頼します。
- 「[バッチ対象のページ数を超える]」：このプロパティが「はい」の場合、あるPDF ファイルに含まれるページ数によってホットフォルダーまたはSFTP入力装置内の合計ページ数が「[バッチ対象のページ数] プロパティ」の値を超えると、そのPDF ファイルは他のファイルとともに実行依頼されます。このプロパティが「いいえ」の場合、このファイルは次のバッチの最初のページとしてホットフォルダーまたはSFTP入力装置に保持されます。
- 「[データパターン]」：PDFファイル名と一致するパターンで、.*pdf\$、.*PDF\$などです。

- **〔ファイルパターン〕**：セットに含める必要があるファイルを定義するパターンコレクションです。
- **〔JDFパターン〕**：ジョブ定義フォーマット（JDF）ジョブチケットを識別するために使用する、1つ以上のパターンマッチングストリングです。このプロパティに値が指定されている場合、セットが完全になるには、JDF ジョブチケットが必要になります。
- **〔指定変更パターン〕**：ジョブプロパティ値を含むファイルを識別するために使用する、1つ以上のパターンマッチングストリングです。

パターン

バッチ方式が**〔パターン〕**の場合、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、必要な1つの印刷ファイルとそれに関連するすべてのファイルがそろうとすぐに、それらをそのジョブのスプールファイルディレクトリーにコピーします。そのすべてのファイルは、**〔データパターン〕** プロパティ、および入力装置のプロパティノートブックの**〔バッチ〕** タブの各プロパティに設定されている値と一致する必要があります。

〔パターン〕 バッチ方式を使用する場合、次のように入力装置プロパティを設定します。

- **〔ワークフロー〕**：ParentNoPrint
- **〔子ワークフロー〕**：ジョブの印刷ファイルに適したワークフローです。
- **〔実行依頼ステップ〕**：SubmitInputFiles
- **〔.zipファイルの作成〕**：No

例えば、JDF ジョブチケットとともに1つのジョブの指定変更ファイルとデータファイルを送信することがあります。ジョブチケットの入力ファイル名の末尾が.jdf、スプールファイルの使用状況が「指定変更」、スプールファイルのタイプが「jdf」の場合、これら3つのパターンを相互に関連付けることができます。RICOH ProcessDirectorの正規表現構文を使用すると、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置が認識して、新しいジョブを作成するときにそれに含める入力ファイル名のパターンを定義します。この表には、パターンマッチングを使用してまとめて処理できるファイルの簡単な例を示します。

データパターン	ファイルパターン	ファイルの使用状況	ファイル形式	スプールファイルタイプ	一致するファイル名の例	スプールファイル名の例	注
.*\$	.*jdf\$	overrides	その他	jdf	ab-c000317.jdf	/aiw/aiw1/spool/default/10000143/10000143.overrides.jdf	JDF ジョブチケット
.*\$	.*oth\$	overrides	その他	txt	ab-c00317.oth	/aiw/aiw1/spool/default/10000143/10000143.overrides.txt	指定変更ファイル
.*\$	.*pdf\$	印刷する	データ	pdf	ab-c00317.pdf	/aiw/aiw1/spool/default/10000143/1000143.print.pdf	PDF ファイル

〔データパターン〕 プロパティと 〔ファイルパターン〕 プロパティを使用して、ファイル名とファイルタイプを正確に一致させることができます。〔データパターン〕 フィールドの一部をファイルパターンの一部として使用する場合は、〔データパターン〕 の表現の利用部分を括弧で囲み、〔ファイルパターン〕 フィールド内ではバックスラッシュと1つの数字で後方参照を表現します。次の表では、後方参照を使用したパターンマッチングの結果を示します。

タブ	フィールド	値	説明
バッチ	データパターン	(.*)¥.pdf	式 (.*) は、拡張子を除いたデータファイル名への後方参照を定義します。データファイル名がこのパターンと一致すると、(.*) と一致するすべての文字が後方参照 \1 に代入されます。
バッチ	ファイルパターン	¥1¥.jdf	データファイル名は一致しますが、拡張子は .jdf です。Job1.pdf と Job1.jdf が一致すると見なされてジョブに含まれますが、Job2.jdf は一致しません。

もっと複雑な例では、次のようになります。

タブ	フィールド	値	説明
バッチ	データパターン	(abc)(def)¥.pdf,.*(12)-.*¥.pdf	データファイルは、カンマで区切られた 2 つのパターンの 1 つと一致する必要があります。 データパターン 1: ¥1 = abc and ¥2 = def 表現 (abc) と (def) は、データファイル名への後方参照を定義します。拡張子は .pdf にする必要があります。 パターン 1 と一致するデータファイルは、abcdef.pdf です。 データパターン 2: ¥1 = 12 表現 (12) は、12 月に対するデータファイルを要求する後方参照です（データファイルの日付形式が <i>year-month-day</i> と想定します）。拡張子は .pdf にする必要があります。 パターン 2 と一致するデータファイルは、2011-12-02.pdf です。
	指定変更パターン	¥1¥.oth	パターン 1 と一致するには、指定変更ファイルで名前が abc.oth である必要があります。
	ファイルパターン	2011-(¥1)¥.jdf	ファイル 2011-12.jdf が、データパターン 2 と一致します。
	ファイルの使用状況	overrides	
	ファイル形式	jdf	
	必須	はい	
	シーケンス	1	
バッチ	ファイルパターン	¥2¥1¥.jdf	ファイル defabc.jdf が、データパターン 1 と一致します。
	ファイルの使用状況	overrides	
	ファイル形式	jdf	
	必須	はい	
	シーケンス	2	
バッチ	ファイルパターン	¥1¥.txt	ファイル 12.txt が、データパターン 2 と一致します。
	ファイルの使用状況	ファイル	
	ファイル形式	txt	
	必須	いいえ	
	シーケンス	3	

[バッチ] タブを編集するには、次の手順に従います。

- ファイルパターンを追加するには、[[バッチ]] タブのフィールドに値を入力し、[追加] をクリックします。フィールドに値を入力して[保存] をクリックします。
- ファイルパターンを削除するには、そのファイルパターンのチェックボックスを選択して[除去] をクリックします。
- ファイルパターンを編集するには、そのファイルパターンのチェックボックスを選択して[編集] をクリックします。ファイルパターンの入力フィールドに値が表示されるので、必要に応じて変更し、[保存] をクリックします。
- 同じファイルパターンを2つ作成した場合、またはあるパターンのファイルのタイプと使用状況が別のパターンのファイルのタイプと使用状況と一致する場合は、警告メッセージが表示されますが、そのパターンを追加することはできます。[シーケンス] プロパティの値に基づいた最初のファイルパターンが処理されます。
- 変更をキャンセルするには、[キャンセル] をクリックします。システムは、保存されていない最後の変更をキャンセルします。

[[バッチ]] タブでパターンをセットアップするときは、これらの情報を忘れないでください。

- パターンのセットアップでは、指定したパターンにはファイルが1つだけ一致するように、特に必須フィールドを慎重に定義することをお勧めします。1つのパターンに複数のファイルが一致するように指定することはできません。必要な1つのファイルがパターンと一致するとすぐに、システムは要件が満たされたと考えるため、それぞれの定義されたパターンの要求に対して少なくとも1つのファイルがホットフォルダーまたはSFTP入力装置にそろった時点でジョブの処理を開始します。
- そのページから移動する前に、忘れずに[OK] をクリックして変更を保存してください。変更を保存しないでそのページから移動すると、その変更は破棄されます。
- その表で指定した規則は、順番に(上から下に)処理されます。表の中に矛盾する行がある場合、順番が先にあるパターンが使用されます。
- [パターン] バッチ方式を使用するとき、[拡張] タブのフィールドには次のガイドラインを使用してください。
 - [バッチ] タブではなく[拡張] タブの[[指定変更パターン]] フィールドを使用します。
 - [拡張] タブの[[JDF パターン]] フィールドは使用しません。それらのパターンは[バッチ] タブで定義します。

時刻によるセット

バッチ方式が[時刻によるセット] の場合、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、指定された期間内に到着したファイルの完全セットを含むジョブを実行依頼します。この期間は、[バッチ開始日]、[バッチ開始時刻]、[バッチ間隔]、および[バッチ日] または[頻度] の各プロパティの設定値によって決まります。

次のすべての条件を満たすセットが完全と判断されます。

- [データパターン] プロパティ値に一致するファイルが存在する。
- [指定変更パターン] プロパティまたは[JDF パターン] プロパティに値が入力されている場合、これらの値の一方または両方に一致するファイルが存在する。

- 「ファイルパターン」として指定された項目がある場合、それぞれの値に一致するファイルが存在する。

ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、「バッチ開始日」プロパティと「バッチ開始時刻」プロパティで指定された日時になるまで待機します。その後、指定の時刻または間隔で、1つまたは複数の完全セットの入力ファイルを実行依頼します。時刻または間隔は、「バッチ間隔」プロパティと、「バッチ日」プロパティまたは「頻度」プロパティで設定します。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、1セットを1個の子ジョブとするセットのグループを実行依頼します。「.zip ファイルの作成」プロパティが「はい」の場合、全セットの全ファイルを含む1個のジョブがZIP ファイル形式で実行依頼されます。ファイルは、「最終変更日時」のタイムスタンプが示す順序で印刷されます。

↓ 補足

- 「バッチ開始日」プロパティと「バッチ開始時刻」プロパティに設定された最初の日時より前にホットフォルダーまたはSFTP入力装置にファイルの完全セットが存在した場合、それらのセットも入力装置から実行依頼される最初のバッチに含まれます。
- 「バッチ開始時刻」プロパティでは、ブラウザーの時間帯を使用します。その値は、ユーザーインターフェースにアクセスするために使用するコンピュータの時間帯に基づいて表示されますが、汎用形式で保存されます。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は親サーバーの時間帯に基づいて汎用の時刻形式を解釈し、指定された時刻にバッチを作成します。

「時刻によるセット」バッチ方式を使用する場合、入力装置プロパティを次のように設定します。

- 「ワークフロー」：ParentNoPrint
- 「子ワークフロー」：ジョブの印刷ファイルに適したワークフローです。
- 「実行依頼ステップ」：SubmitInputFiles
- 「.zipファイルの作成」：このプロパティが「はい」の場合、すべてのファイルがZIPファイルとしてまとめられ、1つのジョブとして実行依頼されます。この値が「いいえ」の場合、各セットは子ジョブとして実行依頼されます。
- 「バッチ開始日」：入力装置が「時刻によるセット」バッチ方式の使用を開始する日付です。
- 「バッチ開始時刻」：入力装置が「時刻によるセット」バッチ方式の使用を開始する時刻です。
- 「バッチ間隔」：ファイルのグループを実行依頼する日時と頻度を判断するための時間間隔です。
- 「バッチ日」または「頻度」：「バッチ間隔」プロパティとともに使用され、ファイルのグループを実行依頼する日時と頻度の正確な値を指定します。
- 「データパターン」：印刷ファイルのファイル名と部分的にでも一致するパターンです。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置の場合、デフォルト値は.*\$の正規表現です。このパターンは、すべてのファイル名と一致します。
- 「ファイルパターン」：セットに含める必要があるファイルを定義するパターンコレクションです。

- [JDFパターン] : ジョブ定義フォーマット (JDF) ジョブチケットを識別するために使用する、1つ以上のパターンマッチングストリングです。このプロパティに値が指定されている場合、セットが完全になるには、JDF ジョブチケットが必要になります。
- [指定変更パターン] : ジョブプロパティ値を含むファイルを識別するために使用する、1つ以上のパターンマッチングストリングです。

時刻

バッチ方式が[時刻]の場合、ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、1つまたは複数のファイルをグループとして実行依頼します。[[データパターン]] プロパティと一致して、[[バッチ開始日]]、[[バッチ開始時刻]]、[[バッチ間隔]]、および[[バッチ日]]または[[頻度]]の各プロパティに設定された値で判別される期間内に到着したファイルだけが、実行依頼されます。

ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は、[[バッチ開始日]] プロパティと[[バッチ開始時刻]] プロパティで指定された日時になるまで待機します。その後、指定の時刻または間隔で、1つまたは複数のグループの入力ファイルを実行依頼します。時刻または間隔は、[[バッチ間隔]] プロパティと、[[バッチ日]] プロパティまたは[[頻度]] プロパティで設定します。ファイルは、[[最終変更日時]]のタイムスタンプが示す順序で印刷されます。

↓ 補足

- RICOH ProcessDirector for Windowsはファイルの最終修正日時の順序で子ジョブを処理します。Windowsの[[更新日]]の値は、[[実行依頼時刻]] ジョブプロパティの値として表示されます。ファイルが入力装置に置かれたときには[[更新日]]の値は変更されないため、2010年に作成され2011年に実行依頼されたファイルの[[実行依頼時刻]]は2010と表示されます。

↓ 補足

- [[バッチ開始日]] プロパティと[[バッチ開始時刻]] プロパティに設定された最初の日時より前にホットフォルダーまたはSFTP入力装置にファイルが存在する場合、これらのファイルも入力装置が実行依頼する最初のバッチに含まれます。
- [[バッチ開始時刻]] プロパティでは、ブラウザの時間帯を使用します。その値は、ユーザーインターフェースにアクセスするために使用するコンピュータの時間帯に基づいて表示されますが、汎用形式で保存されます。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置は親サーバーの時間帯に基づいて汎用の時刻形式を解釈し、指定された時刻にバッチを作成します。

[時刻] バッチ方式を使用する場合、次のように入力装置プロパティを設定します。

- [[ワークフロー]] : ParentNoPrint
- [[子ワークフロー]] : ジョブの印刷ファイルに適したワークフローです。
- [[実行依頼ステップ]] : SubmitInputFiles
- [[.zipファイルの作成]] : このプロパティが[[はい]]の場合、[[データパターン]] プロパティに設定された値と一致するすべての入力ファイルが含まれるZIPファイルが生成され、1つのジョブとして実行依頼されます。この値が[[いいえ]]の場合、すべての入力ファイルが子ジョブとして実行依頼されます。

- [バッチ開始日] : 入力装置が [時刻] バッチ方式の使用を開始する日付です。
- [バッチ開始時刻] : 入力装置が [時刻] バッチ方式の使用を開始する時刻です。
- [バッチ間隔] : ファイルのグループを実行依頼する日時と頻度を判断するための時間間隔です。
- [バッチ日] または [頻度] : [バッチ間隔] プロパティーとともに使用され、ファイルのグループを実行依頼する日時と頻度の正確な値を指定します。
- [データパターン] : 印刷ファイルのファイル名と部分的にでも一致するパターンです。ホットフォルダーまたはSFTP入力装置の場合、デフォルト値は.*\$の正規表現です。このパターンは、すべてのファイル名と一致します。

バッチジョブ用のファイル

ホットフォルダー入力装置は、各ファイルを別々の印刷ジョブとして実行依頼することも、ファイルをまとめてグループ化して**バッチジョブ**という大きなジョブを作成することもできます。最も単純なバッチジョブには、印刷ファイルのみが含まれます。より複雑なバッチジョブには、印刷ファイルの場所を示すファイルと、ジョブプロパティーを設定するファイルが含まれます。

指定変更ファイル

ワークフローを作成するとき、多くのジョブプロパティーにデフォルト値を設定できます。しかし、そのようなデフォルト値がすべてのジョブに適しているわけではありません。印刷ジョブとともに異なる値を送信する場合、指定変更ファイルを使用できます。

指定変更ファイルは、ジョブプロパティーのプロパティー名と値のペアを含むテキストファイルで、印刷ファイルとともに実行依頼されます。ワークフローにジョブが送信されると、[SetJobPropsFromTextFile] ステップは指定変更ファイルの情報を使用してデフォルト値を置換します。

指定変更ファイルは以下の基準を満たしている必要があります。

- 指定変更ファイルは印刷ファイルの**後**でホットフォルダーまたはSFTP入力装置に到着する必要があります。
- ジョブ内の印刷ファイルごとに別々の指定変更ファイルを作成する必要があります。
- ファイル名は、[指定変更パターン] プロパティーで指定されたパターンと一致する必要があります。デフォルトのパターンは、拡張子が **.oth** のファイルと一致します。
- それぞれのプロパティーと値のペアは、別の行で指定する必要があります。
- ホットフォルダーまたはSFTP入力装置の場合、各ペアは **データベースプロパティー名 = 値** の形式で表現する必要があります。等号(=)の前後には空白を入れません。

↓ 補足

Download 入力装置に使用する指定変更ファイルはフォーマットが異なり、また AFP サポート機能がインストールされている必要があります。

指定変更ファイルは、次のいずれかのフォーマットで指定します。

- プロパティに RICOH ProcessDirector のデータベース名を使用し、プロパティと値をそれぞれ別の行にリストします。例:

```
Job.Duplex=Yes
Job.CustomerName=BankName
Job.Location=Boulder
```

- AFP サポート機能がインストールされており、指定変更が Download 入力装置から JCL フォーマットで到着する場合、receive_jcl_jobtype.cfg ファイルが、JCL フォーマットを解釈するように構成されます。メインフレームプログラムは、指定変更ファイルを JCL フォーマットで作成します。

1 つまたは複数の印刷ファイルとそれに伴う指定変更ファイルを同じジョブで実行依頼するには、[リスト] バッチ方式を使用してジョブとともにリストファイルを実行依頼する必要があります。そのリストファイルには、各印刷ファイルと指定変更ファイルの名前が含まれ、印刷ファイルは関連する指定変更ファイルの前にリストされる必要があります。そのリストファイルは次のようになります。

```
input1.pdf
values.oth
input2.pdf
morevalues.oth
input3.pdf
values3.oth
inputfile.pdf
inputfile.oth
```

プロパティに RICOH ProcessDirector のデータベース名を使用し、プロパティと値をそれぞれ別の行にリストします。例:

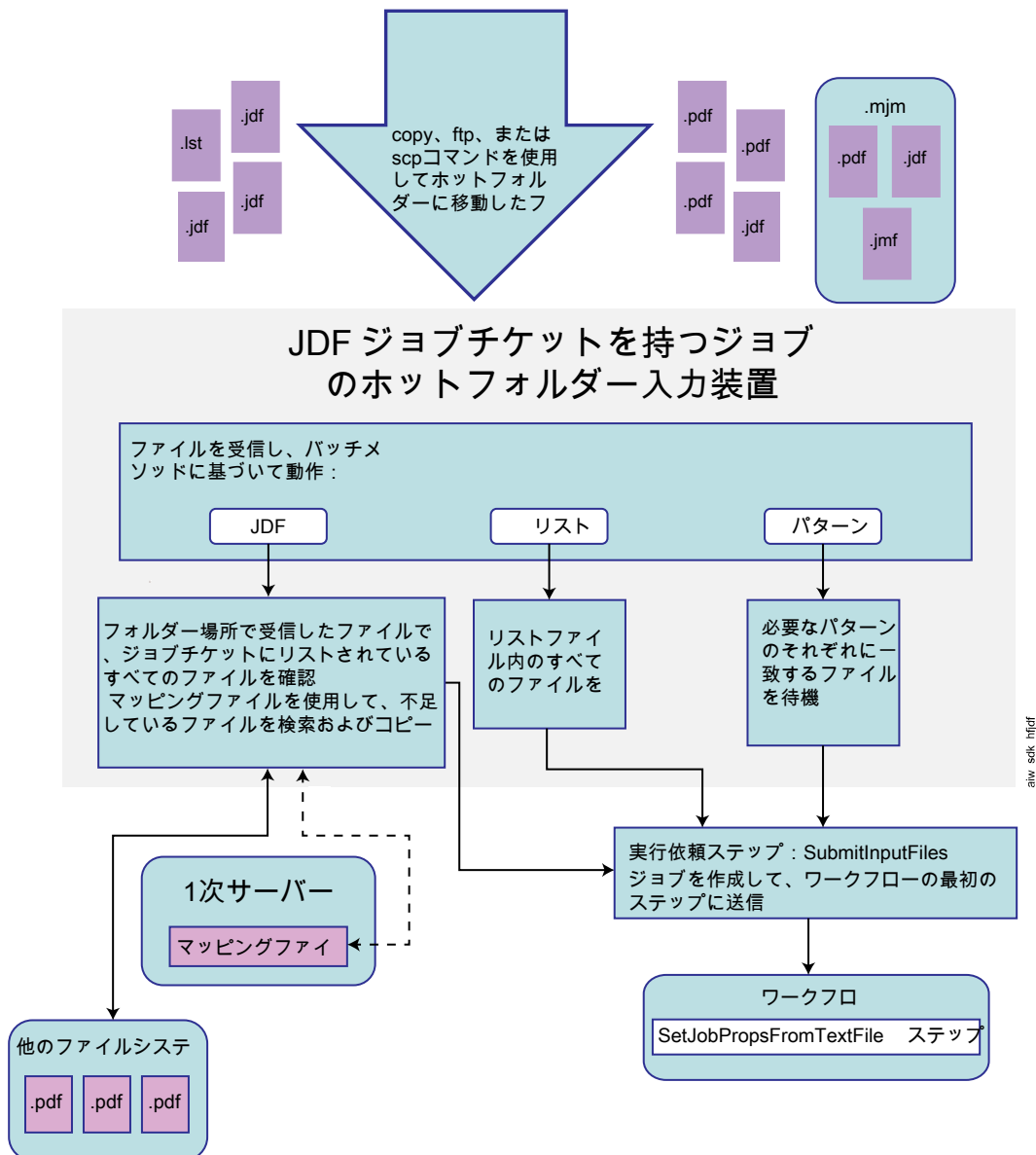
```
Job.Duplex=Yes
Job.CustomerName=BankName
```

JDFジョブチケット

JDFジョブチケットを使用してジョブを実行依頼すると、ホットフォルダー入力装置がそのジョブチケットを読み取り、その内容を使用して印刷ファイルを見つけてジョブのプロパティを設定します。ジョブは、全ての印刷ファイルが見つかった後で作成されます。

図P.36 「JDFジョブチケットによるホットフォルダー入力装置の処理」に、ホットフォルダー入力装置が、JDFジョブチケットで実行依頼されたジョブを処理する方法を示します。入力装置はジョブファイルを受け入れ、そのバッチ方式に基づいて処理し、それを SubmitInputFiles ステップに送ります。

JDF ジョブチケットによるホットフォルダー入力装置の処理



JDFジョブチケットからジョブプロパティを設定する

RICOH ProcessDirectorは、JDFジョブチケット内でサポートする値を使用してジョブプロパティを設定します。

RICOH ProcessDirectorは、そのシステムが要求するJDF Specificationで定義されている機能（JDF IDP ICS（Integrated Digital Printing Interoperability Conformance Specification：統合化デジタル印刷の相互運用と適合の仕様）と関連するアプリケーションノートのサブセットなど）をサポートします。IDP ICSは、統合デジタルプリンターのためのJDFの複合デジタル印刷処理に基づいています。

RICOH ProcessDirectorは、JDFジョブチケットで使用可能な全ての値をサポートしているわけではありません。RICOH ProcessDirectorが値を使用してジョブプロパティを設定できない場合は、サポートされていない値をジョブチケットから削除します。

↓ 補足

- [IdentifyPDFDocuments] ステップは複数セットのPDFファイルとジョブチケットを受信できます。このステップは、これらを1つのPDFファイルと1つのジョブチケットに結合します。ステップが結合されたジョブチケットを作成する場合、ステップは RICOH ProcessDirectorがサポートする値のみを含めます。ステップは、結合されたジョブチケットにはサポートされない値を含めません。[IdentifyPDFDocuments] ステップは、PDF文書サポート機能により提供されます。

JDF ジョブチケットの値によって更新可能なジョブプロパティのリストについては、P. 193 「ジョブチケットで設定可能なジョブプロパティ」を参照してください。

このプロパティ値が設定されると、RICOH ProcessDirectorはジョブチケットをジョブファイルとともに格納します。あるステップでジョブチケットが要求された場合、RICOH ProcessDirectorはそのデータベース内の最新のジョブプロパティ値でジョブチケットを更新し、ジョブチケットをそのステップで呼び出されたアプリケーションに送ります。アプリケーションがJDFジョブチケットを返すと、RICOH ProcessDirectorでサポートされるジョブプロパティ値が変更されている場合に、これを更新します。これらはRICOH ProcessDirectorのジョブプロパティノートブックで確認できます。

次のように、[メディア] プロパティの値は[メディアマッチング] の設定に依存するため、特殊なケースです。

- [メディアマッチング] が [メディア製品 ID またはメディア名を使用する] に設定されている場合、RICOH ProcessDirectorでは、ジョブの [メディア] プロパティの値として、次のいずれかのメディア名が使用されます。
 - ジョブチケットで指定された製品 ID と一致するメディアオブジェクトの名前。
 - ジョブチケットで指定されたメディアの名前。

RICOH ProcessDirector は最初に、ジョブチケットがメディア製品 ID を指定しているかどうかをチェックします。存在する場合、RICOH ProcessDirectorは、同じ製品 ID を持つシステムメディアオブジェクトを検索します。RICOH ProcessDirector が一致するものを見つけた場合、一致するメディアオブジェクトの名前をジョブの [メディア] プロパティに保存します。RICOH ProcessDirector が一致するものを見つけられなかった場合、JDF ジョブチケットで指定されたメディア名を持つメディアオブジェクトを検索します。RICOH ProcessDirector が一致するものを見つけた場合、一致するメディアオブジェクトの名前をジョブの [メディア] プロパティに保存します。

- [メディアマッチング] が [以下で選択したプロパティを使用する] に設定されている場合、RICOH ProcessDirectorでは、ジョブチケットにリストされているメディアプロパティ（サイズなど）を使用して、既存のシステムメディアオブジェクトを検索し、一致するオブジェクトを検索します。適切なメディアオブジェクトを見つけると、そのオブジェクトの名前がジョブの [メディア] プロパティの値として設定されます。

ご使用のインストールの要件に基づいて、[メディアマッチング] に使用されるプロパティを選択できます。

複数のメディアオブジェクトが一致する場合、RICOH ProcessDirectorは、ジョブチケットの他のメディアプロパティ（メディアの名前など）に基づいて、最も一致するものを決定します。システムが最適なものを判断できないか、一致するメディアオブジェクトがない場合、そのジョブはエラー状態になります。そのジョブで [メディアの修正] アクションを使用してメディアを選択すると、ジョブをエラー状態から脱出させられます。

ジョブチケットがメディアとステープルの値を指定している場合、ジョブプロパティリーノートブックでそれらの値を表示して変更できます。[スケジューリング] タブの [メディアが必要] プロパティに、そのジョブまたはすべてのページ例外のメディア値がリストされます。[ステープルが必要] プロパティに、ステープルが必要かどうかが表示されます。[スケジューリング] タブの [メディア] と [ステープル] に、ジョブの値を設定できます。ページ例外アクションを使用して、[ページ例外] タブのページ値を変更できます。

ジョブチケットで面例外の値を指定した場合は、ジョブで [ページ例外] アクションを使用して値を表示できます。[面ページ例外] は変更できません。

使用可能なパンチやステープルのオプションは、プリンターによって異なります。RICOH ProcessDirector プリンターがパンチまたはステープルを実行できるように構成できますが、それらのパンチやステープルに対するフィニッシングパターンを構成することはできません。そのため、RICOH ProcessDirector が、要求されたパンチやステープルのパターンをサポートしないプリンターにジョブをスケジュールすることがあります。この場合プリンターは、指定したパターンに最も近いパターンのパンチまたはステープルを適用します。

JDFジョブチケットを表示する

JDFジョブチケットの一部の値はRICOH ProcessDirectorのユーザーインターフェースでは表示されませんが、ワークフローはこれらの値を使用するアプリケーションを呼び出す可能性があります。そのため、JDFジョブチケットを表示する必要があるかもしれません。

JDFジョブチケットを表示するには、以下の操作を行います。

1. ジョブのスパールファイルディレクトリーにあるJDFジョブチケットを検索します。
スパールファイルディレクトリー名は `/aiw/aiw1/spool/default/JobNumber` (Linux) または `C:\aiw\aiw1\spool\default\JobNumber` (Windows) です。
JDFジョブチケットの名前は `JobNumber.filename.jdf` です。

JDFジョブチケットが指定変更ファイルまたはアプリケーションによって変更されている場合、別のファイル名でJDFジョブチケットを検索する可能性があります。最後に変更された日でどのJDFジョブチケットが一番最新かがわかります。

2. テキストエディターまたはWebブラウザーを使用してJDFジョブチケットを表示します。

JDFジョブチケットはXML形式です。



RICOH ProcessDirectorはユーザーインターフェースおよびJDFジョブチケットを常に同期化し続けるわけではありませんが、ジョブチケットの要求を受け取ったときのみ、ジョブチケットの値を更新します。ジョブチケットを見ると、リスト化された一部の値がRICOH ProcessDirectorジョブプロパティリーの値に一致しない場合があります。

ファイルを検索する

JDFジョブチケットによってジョブを実行依頼するアプリケーションは、そのジョブチケットとともにファイルを送信することも、それらのファイルをネットワーク上の別の場所に置いたままにすることもできます。ジョブチケットは、そのジョブに含まれるファイルをリストするためには、必要ありません。しかし、ジョブチケットがファイルをリストする場合は、相対パス名と絶対パス名のどちらかを使用します。

RICOH ProcessDirectorがどのようにファイルを検索するかにかかわらず、ファイルをホットフォルダー入力装置の**フォルダー位置**プロパティで指定された場所にコピーし（それ以前にコピーされていない場合）、ジョブの処理を開始します。RICOH ProcessDirectorでは、JDFジョブチケットで送信されるジョブで使用されているすべてのファイルが自動的に削除されるわけではありません。[フォルダー位置]のファイルを削除するだけです。[フォルダー位置]のサブフォルダー、または別のファイルシステムのフォルダーにあるファイルを削除しません。システム保守の一部として、これらの場所に残されたファイルを計画的に削除する必要があります。

JDFではファイルをリストしない

ジョブチケットでファイルがリストされない場合、RICOH ProcessDirectorはジョブチケットと、ホットフォルダー入力装置の**フォルダー位置**プロパティで指定された場所のすべての印刷ファイルを受信することを想定します。いずれかのファイルが不足している場合、RICOH ProcessDirectorは待機し続けます。

この場合、[リスト] バッチ方式を使用して、そのジョブに伴うリストファイルを実行依頼します。

相対パス名を使用したファイルのリスト

ジョブチケットが相対ファイル名を使用してファイルをリストする場合、RICOH ProcessDirectorはすべての印刷ファイルがフォルダー位置のサブフォルダーにあると想定します。並列するフォルダーや別のファイルシステムにある場合は処理できません。例えば、ジョブチケットにファイルパス`printfiles/test.pdf`が含まれる場合、次の場所にファイルがあるとホットフォルダーは想定します。[フォルダー位置]/`printfiles/test.pdf`

- 相対パス名は、次の形式で指定します。

```
dir/filename
filename
```

- 次の形式はサポートされていますが、推奨しません。

```
file://dir/filename
file://dir\filename
dir\filename
file://./dir/filename
file://.\dir\filename
./dir/filename
.\dir\filename
```

絶対パス名を使用したファイルのリスト

ジョブチケットが絶対パス名を使用してファイルをリストする場合、RICOH ProcessDirector1次サーバーからアクセス可能なネットワーク上の任意の場所にファイルを保存できます。RICOH ProcessDirectorは、絶対パス文とマッピングファイルを組み合わせでファイルを検索します。**マッピングファイル**は、ジョブチケット内のファイルパスとマウントされたファイルシステムのファイルパスを照合するファイルです。このマッピングファイルは、1次サーバーに保管されます。マッピングファイルには、必要とされるだけのファイルパスのリストが含まれるため、1次サーバーにはマッピングファイルが1つしか必要ありません。

RICOH ProcessDirectorが絶対パスを使用してジョブチケットにリストされたファイルを検索する場合は、すべてが見つかるまで、マッピングファイルにリストされたそれぞれの場所が検索されます。If ファイルが見つからないままマッピングファイルの最後の場所まで検索し終えた場合は、[フォルダー位置]で受信したファイルを検索します。それでも見つからないファイルがある場合は、次のポーリング間隔まで待機して再度検索します。

- 絶対パス名は、次の形式で指定します。

Linux の場合:

```
file://hostname/drive:/dir/filename
```

Windows の場合:

```
file:///drive:/dir/filename
```

ドライブ名を使用しないシステム上のファイルの場合、*drive:*を省略してください。

- 次の形式はサポートされていますが、推奨しません。

```
file:///drive:\dir\filename
```

```
file://drive:/dir/filename
```

```
file://drive:\dir\filename
```

```
drive:\dir\filename
```

```
drive:/dir/filename
```

- 次の形式は、サポートされていません。

```
file://IP_address/drive:/dir/filename
```

```
file://localhost/drive:/dir/filename
```

↓ 補足

- ファイルパスに同一のディレクトリー名で形式の異なるものが含まれる場合、ファイルシステムのマッピングファイルが必要です。例えば、ジョブチケットの指定が `file:¥¥¥C:¥myfiles¥testfiles¥test1.pdf` で、実際のファイルパスが `/myfiles/testfiles/test1.pdf` の場合は、ファイルシステムのマッピングファイルを作成し、そのファイルパスをWindowsからLinuxフォーマットに変換する必要があります。
- ファイルパスに同一のディレクトリー名でドライブの異なるものが含まれる場合、ファイルシステムのマッピングファイルが必要です。例えば、ジョブチケットの指定が `file:¥¥¥D:¥myfiles¥testfiles¥test1.pdf` で、実際のファイルパスが `file:¥¥¥C:¥myfiles¥testfiles¥test1.pdf` の場合、ファイルパスをDドライブからCドライブに変更するには、ファイルシステムのマッピングファイルを作成する必要があります。マッピングは次のとおりです。

```
D:¥;C:¥
```

マッピングファイルを使用して入力ファイルを検索する

JDF (Job Definition Format) のジョブチケットを使用してホットフォルダー装置にジョブを実行依頼する場合は、すべての入力ファイルをホットフォルダーにコピーする必要はありません。ジョブチケットがホットフォルダーに配置されると、RICOH ProcessDirectorはそれを読み取って、リストに含まれる入力ファイルを検索します。

ジョブチケットのファイルパスが、マウントされているファイルシステムのディレクトリー名と一致しない場合、RICOH ProcessDirectorは、ファイルシステムマッピングファイルを使用して入力ファイルを検索します。

RICOH ProcessDirectorには、サンプルのファイルシステムマッピングファイルsystem_map.cfgが/a/w/a/w1/samples/config/ (Linux) またはC:\a/w/a/w1\samples\config\ (Windows) に用意されています。必要に応じて、このファイルをコピー、編集できます。このファイルは、/a/w/a/w1/control_files/config/ (Linux) またはC:\a/w/a/w1\control_files\config\ (Windows) ディレクトリーにコピーした後でカスタマイズします。サンプルファイルのコメントには、ファイル形式が説明されています。

ファイルシステムマッピングファイルを指定するには、次の手順に従います。

1. [管理] タブをクリックします。
2. 左側にある設定 → システムをクリックします。
3. [ファイルシステムマッピングファイル] フィールドに、マッピングファイルのファイルパスを入力します。
4. [SAVE] をクリックします。

システムを再始動する必要はありません。

リストファイル

リストファイルを使用すると、JDFジョブチケットを使用して、または使用しないで、複数のファイル进行处理したり、ファイルとともに指定変更ファイル进行处理したりできます。

リストファイルをジョブチケットとともに使用するには、下記の制限事項が適用されます。

- ファイルはジョブチケットとともに実行依頼される必要があります。印刷ファイルを別のシステム上に置いてマッピングファイルによってアクセスすることはできません。
- すべてのファイルは [フォルダー位置] の直下に (サブフォルダーではなく) 実行依頼される必要があります。

リストファイルを使用する場合は、リストバッチ方式を使用する必要があります。

リストファイルの使用方法は、以下のとおりです。

- ジョブチケットにすべての入力ファイルの名前が含まれていない場合、リストファイルにジョブチケットファイルの名前とともに入力ファイル名を含めることができます。すべてのファイルが存在する場合、そのジョブは実行依頼されます。
- 汎用のジョブチケットを作成し、実際のファイル名の代わりのプレースホルダーを使用すると、さまざまなジョブにそのチケットを再利用できます。そのジョブで使用するファイルを特定する名前をリストファイルに含めます。リストファイル内のファイル名の順序は、ジョブチケットのプレースホルダーのファイル名と一致する必要があります。リストファイルの最初のファイルは、ジョブチケットのリストの最初のプレースホルダーファイル名と一致する必要があります。

たとえば、それぞれ4つのファイル (表紙、見返し、本文、裏表紙) を含むさまざまなブックレットを印刷するアプリケーションがある場合、次の順序で4つのファイルを印刷するジョブ・チケットを作成できます。

frontcover.pdf
flyleaf.pdf

```
bookletbody.pdf
backcover.pdf
```

↓ 補足

この場合、ジョブチケットに含まれるのはファイル名だけで、パス情報は含まれません。

それぞれのブックレットに対して、ファイルを特定するリストファイルを作成し、以下のように各ファイルを同じ順序で指定します。

- ブックレット 1 のリスト・ファイルの内容は、以下のようになります。

```
booklet1fc.pdf
booklet1fl.pdf
booklet1body.pdf
booklet1bc.pdf
```

- ブックレット 2 のリストファイルの内容は、以下のようになります。

```
booklet2fc.pdf
booklet2fl.pdf
booklet2body.pdf
booklet2bc.pdf
```

- 入力ファイルおよびそれに関連付けられている指定変更ファイルの名前が含まれているリストファイルを作成します。この指定変更ファイルの名前は、リスト内で関連付けられている入力ファイルの直後に配置する必要があります。入力ファイルおよび指定変更ファイルの名前には大/小文字の区別があり、ファイル名はそれぞれ別の行で指定する必要があります。ファイル名にディレクトリー情報を入れないでください。たとえば、リスト・ファイルには以下の情報を入れることができます。

```
input1.pdf
prop1.oth
input2.pdf
prop.oth
input3.pdf
duplex.oth
input4.pdf
inputfiles.oth
```

ワークフローを割り当てる

入力ファイルが RICOH ProcessDirector システムに送られたときに入力装置が行う最初のアクションの 1 つは、ワークフローをジョブに割り当てることです。入力装置がワークフローを割り当てると、ジョブは処理ステップ内の移動を開始できます。入力装置がワークフローを割り当てる方法はいくつかあります。インストール済み環境の要件に適合する方法を構成する必要があります。

ワークフローを割り当てるには、次のいずれかの方法を使用します。

- ワークフローをジョブに割り当てる最も簡単な方法は、入力装置の [子ワークフロー] プロパティを使用することです。入力装置で [子ワークフロー] を設定すると、その入力装置が処理するすべてのジョブにそのワークフローが割り当てられま

す。RICOH ProcessDirector に用意された入力装置はすべて、この方法を使用して、受信するデータセットまたは入力ファイルのワークフローを割り当てます。

↓ 補足

- 複数の入力ファイルから構成されているジョブは、それらをグループ化している親ジョブの子ジョブとして処理されます。親ジョブは入力装置の「ワークフロー」プロパティによって設定されたワークフローを使用し、子ジョブは入力装置の「子ワークフロー」プロパティによって設定されたワークフローを使用します。
- 入力装置の「子ワークフロー初期化ステップ」を使用して、ジョブのワークフローを設定できます。この方法を選択すると、入力装置に到着したすべてのジョブが、指定された初期化ステップを通過します。この初期化ステップによってワークフローが割り当てられます。ジョブに複数の入力ファイルがある場合は、「ワークフロー初期化ステップ」プロパティも設定してください。親ジョブは、その初期化ステップを通過して、ワークフローを割り当てます。RICOH ProcessDirectorには、ワークフロー初期化ステップに使用できる次のステップテンプレートが用意されています。
 - 「[SetJobTypeFromRules]」ステップテンプレートは、入力装置がワークフローの決定に使用できる制御ファイルを指示します。この制御ファイルには、ジョブが実行依頼されるとときにジョブに付随するジョブパラメーター (LPR 制御ファイルパラメーターなど) と、それぞれに対応する RICOH ProcessDirector プロパティがリストされています。たとえば、制御ファイルを編集して、コピー LPR パラメーターの値を「子ワークフロー」プロパティの値にマッピングすることができます。入力装置の「子ワークフロー構文解析規則」プロパティで入力装置が使用する制御ファイルを指定します。
 - 「[SetJobTypeFromFileName]」ステップテンプレートは、入力ファイルのファイル名を構文解析して、割り当てるワークフローを決定します。このステップを使用するには、特定のタイプの入力ファイル名に常に現れるテキストを指定し、ワークフローにマッピングします。ワークフローに使用するストリングを定義するには、「子ワークフローパターン」プロパティを使用します。
指定した拡張子に対応する名前のワークフローを作成して使用可能にしたことを確認してください。これらのストリングでは、大文字と小文字が区別されます。
- 入力装置には、「子ワークフロー」と「子ワークフロー初期化ステップ」の両方のプロパティを設定できます。「子ワークフロー初期化ステップ」プロパティが設定されると、ステップはこの方法を使用してワークフローを設定しようと試みます。初期化ステップでワークフローを設定できない場合、入力装置は、「子ワークフロー」プロパティが指定するワークフローを割り当てます。プロパティに値がない場合、RICOH ProcessDirector はエラーメッセージを表示します。また、入力装置には、「ワークフロー」と「ワークフロー初期化ステップ」の両方のプロパティを設定して、親ジョブのワークフローを割り当てることができます。RICOH ProcessDirectorには、同じ割り当て階層を使用します。

プリンターホットフォルダーにファイルをコピーするワークフローを定義する

PDFやPostScriptの形式、またはJDFジョブチケットで印刷ジョブを受け入れるワークフローを定義し、プリンターに関連付けられたホットフォルダーにコピーすることができます。

プリンターホットフォルダーにファイルをコピーするワークフローを定義するには、次の手順に従います。

1. [ワークフロー] タブをクリックします。
2. [PDF] ワークフローを右クリックして、[コピー] を選択します。
3. ワークフローのコピーに名前を付け、必要なその他の値を入力または編集して、[続行] をクリックします。
4. [PrintJobs] ステップを右クリックして、[削除] を選択します。
5. このワークフローにPostScriptジョブを送信する予定の場合は、[CountPages] ステップと [CreatePageRanges] ステップを削除します。
6. [CopyToFolder] ステップを [印刷] フェーズに追加します。
7. [CopyToFolder] ステップを [RetainCompletedJobs] ステップに接続します。
 1. [CopyToFolder] ステップの端にポインターを置きます。強調表示されたセクション () をクリックしたままにして、コネクターを表示します。
 2. コネクターを [RetainCompletedJobs] ステップにドラッグします。
8. [CopyToFolder] ステップを左側のステップ (PDFワークフローの場合は [CreatePageRanges]、PostScriptの場合は [RunExternalProgram]) に接続します。
9. [CopyToFolder] ステップを右クリックして、[プロパティ] を選択します。
10. [外部] をクリックします。
11. [外部コマンド] プロパティのコンテンツを削除し、次のいずれかのコマンドに置き換えます。

印刷ファイルをコピーするには、以下の操作を行います。

- Linux : `cp ${getCurrentFile(${Job.InputDatastream})} destinationHotFolder/${Job.ID}`
- Windows : `copy ${getCurrentFile(${Job.InputDatastream})} destinationHotFolder¥${Job.ID}`

JDFジョブチケットをコピーするには、以下の操作を行います。

- Linux : `cp ${getFileName(overrides,jdf,read)} destinationHotFolder/${Job.ID}`
- Windows : `copy ${getFileName(overrides,jdf,read)} destinationHotFolder¥${Job.ID}`

このテキストで、*destinationHotFolder*を、プリンターがホットフォルダーとして使用するディレクトリー名に置き換えます。

12. [OK] をクリックします。
13. ワークフローを保存します。

同一の物理プリンターを表すためにAFPプリンター装置も定義する場合は、AFPプリンター装置に次のプロパティを設定します。

- [共用プリンター接続] プロパティを [[はい]] に設定します。

- [IPDSプリンター接続タイマー] プロパティの値を [非アクティブタイマー] プロパティより小さく設定します。[IPDSプリンター接続タイマー] プロパティが [非アクティブタイマー] プロパティより大きい場合、RICOH ProcessDirectorは、ホットフォルダーとプリンターを共有する前にプリンター接続を解除します。

パススループリンターに印刷するワークフローを定義する

ワークフローを定義し、そのワークフローで、PDFまたはPostScript形式の印刷ジョブを受け入れて、その印刷ジョブをパススループリンターに送信することができます。

パススループリンターに印刷するワークフローを定義するには、次の手順に従います。

1. [ワークフロー] タブをクリックします。
2. [PDF] ワークフローを右クリックして、[コピー] を選択します。
3. ワークフローのコピーに名前を付け、必要なその他の値を入力または編集して、[続行] をクリックします。
4. 新しいワークフローでPDFジョブを処理しない場合は、[CreatePageRanges] ステップを右クリックして [削除] を選択します。
新しいワークフローでPDFジョブを処理する場合は、このステップを削除しないでください。このステップは、PDFジョブ内の特定の範囲のページを再印刷するのに必要です。
5. [RunExternalProgram] ステップを [PrintJobs] ステップに接続します。
6. [PrintJobs] ステップを右クリックして、[プロパティ] を選択します。
7. [スケジューリング] タブで、印刷するパススループリンターのスケジューリングプロパティに適合するように、[製本]、[折りオプション]、[要求された位置]、[メディア]、[出力ビン]、[パンチ] [ステープル] の各プロパティの値を変更します。AFPサポート機能がインストールされている場合は、[ジョブクラス]、[ジョブ用紙]、[ジョブ宛先] の各プロパティの値も同様に変更します。その他のスケジューリングプロパティは、構成ファイルで定義できます。
8. ワークフローがPDFファイルを処理し、このワークフローにジョブを割り当てるホットフォルダーの [.zipファイルの作成] プロパティが [はい] に設定されている場合は、ワークフロー内でPDF入力を待つ最初のステップ（[CreatePageRanges] や [PrintJobs] など）の前に、[BuildPDFFromZIP] ステップテンプレートに基づくステップを追加します。
9. [OK] をクリックします。
10. ワークフローを保存します。

バッチジョブを処理するようにホットフォルダー入力装置を設定する

バッチジョブを処理するようにホットフォルダーの入力装置をセットアップするには、適切なバッチ方式を使用して入力ファイルを認識するように構成する必要があります。

↓ 補足

- たとえば、いくつかのファイルを受信した、指定された時間になった、予想されるファイルのリストが到着したなどの条件が考えられます。場合によっては、その条件を満たす前、および現在のポーリング間隔が終了する前に、入力ファイルの実行依頼が必要になることがあります。

たとえば、シフトの終了まで1時間あるときに、3857の入力ファイルが待機しています。入力装置は、[番号] バッチ方式を使用していて、待機している入力ファイルの数が5000に達しているときに、ジョブを実行依頼します。入力装置の[全てバッチ処理] アクションを使用すれば、さらにファイルが追加されるのを待たずに、これらの3857ファイルをすぐに実行依頼できます。

[全てバッチ処理] アクションは、[JDF] または [パターン] バッチ方式では使用できません。

バッチジョブを処理するようにホットフォルダー入力装置をセットアップするには、次の手順に従います。

1. JDF ジョブチケット、リストファイル、指定変更ファイルなど、処理に必要なファイルを作成して保存するか、これらのファイルが処理で必要に応じて生成されることを確認します。
2. RICOH ProcessDirector にログインします。
3. [入力装置] ポートレットで、バッチジョブの処理に使用する入力装置を検索します。
4. 入力装置を右クリックして、[プロパティ] を選択します。
5. 左側にある [すべてのタブを表示] をクリックして、ノートブックを完全に開きます。
6. どのバッチ方式の場合でも、次のように入力装置プロパティを設定する必要があります。

ワークフロー

[ParentNoPrint]

[子ワークフロー]

ジョブの印刷ファイルに適したワークフローです。

↓ 補足

- [[リスト]] バッチ方式を使用する場合、ジョブが正しい順序で印刷されるようにするには、[WaitForGroup] ステップテンプレートに基づくステップが [PrintJobs] ステップの前にあるワークフローを選択してください。
- 指定変更ファイルを使用する場合、[SetJobPropsFromTextFile] ステップテンプレートに基づくステップを含むワークフローを選択してください。

データパターン

データファイルのどの文字列と入力装置に到着する他のファイルの名前と照合するかを定義するパターンマッチングストリングです。複数のデータパターンを指定した場合、いずれかのパターンと一致したときにそのファイルが一致したと見なされます。データパターンは正規表現です。

実行依頼ステップ

[SubmitInputFiles]

7. 使用するバッチ方式に従って、次の入力装置プロパティを設定します。

JDF

JDF パターン

ジョブチケットの名前と部分的にでも一致するパターンです。
HotFolderJDF 以外のすべての入力装置に対して、デフォルト値はヌルです。
HotFolderJDF の場合、この値は正規表現 `.*%jdf$` になります。

リスト

リストパターン

リストファイルのファイル名と部分的にでも一致するパターンです。
フォルトでは、この値は正規表現 `.*lst$` になります。

指定変更パターン (オプション)

指定変更ファイルのファイル名と部分的にでも一致するパターンです。

.zip ファイルの作成

このプロパティが [はい] の場合、[データパターン] プロパティの設定値と一致し、なおかつ、リストファイルに含まれているすべての入力ファイルから .zip ファイルが生成され、1 つのジョブとして実行依頼されます。
このプロパティが [いいえ] の場合、すべての入力ファイルが子ジョブとして実行依頼されます。

ファイル数とセット数

バッチ対象のファイル数

入力装置は、このファイル数または完全セット数になるまで待機して、それらを単一のグループとして実行依頼します。

.zip ファイルの作成

このプロパティが [はい] の場合、[データパターン] プロパティに設定された値と一致するすべての入力ファイルが含まれる .zip ファイルが生成され、1 つのジョブとして実行依頼されます。
このプロパティが [いいえ] の場合、すべての入力ファイルが子ジョブとして実行依頼されます。
このプロパティは、[セット数] バッチ方式では使用できません。

ページ数とセット内のページ数

バッチ対象のページ数を超える

- [はい] の場合: 1つのPDFファイル、またはPDFファイルの完全セットに含まれるページ数によって入力装置内の合計ページ数が [バッチ対象のページ数] の値を超えると、そのファイルまたはセットは他のファイルとともに実行依頼されます。
- [いいえ] の場合: このファイルまたはセットは入力装置に残り、次のバッチの最初のページになります。

バッチ対象のページ数

入力装置は、このページ数になるまで待機して、ファイルまたは完全セットを単一のグループとして実行依頼します。

.zipファイルの作成

このプロパティが [はい] の場合、[データパターン] プロパティに設定された値と一致するすべての入力ファイルが含まれる .zip ファイルが生成され、1つのジョブとして実行依頼されます。このプロパティが [いいえ] の場合、すべての入力ファイルが子ジョブとして実行依頼されます。このプロパティは、[セット内のページ数] バッチ方式では使用できません。

時刻と時刻によるセット

バッチ開始日

入力装置でこのバッチ方式の使用を開始する日付です。

バッチ開始時刻

入力装置でこのバッチ方式の使用を開始する時刻です。

バッチ間隔

入力装置がジョブを実行依頼する日時または頻度を判断するための時間間隔です。

バッチ日または頻度

[バッチ間隔] プロパティとともに使用して、ジョブを実行依頼する日時または頻度の正確な値を指定します。

.zipファイルの作成

このプロパティが [はい] の場合、[データパターン] プロパティに設定された値と一致するすべての入力ファイルが含まれる .zip ファイルが生成され、1つのジョブとして実行依頼されます。このプロパティが [いいえ] の場合、すべての入力ファイルが子ジョブとして実行依頼されます。このプロパティは、[時刻によるセット] バッチ方式では使用できません。

パターン

データパターン

データファイルのどの文字列と入力装置に到着する他のファイルの名前と照合するかを定義するパターンマッチングストリングです。複数のデータパターンを指定した場合、いずれかのパターンと一致したときにそのファイルが一致したと見なされます。データパターンは正規表現です。

ファイルパターン (入力ファイルのタイプごとに 1 つの値)

特定のタイプの入力ファイルを定義するパターンマッチングストリングです。例えば、ジョブチケットの場合は .*jdf\$ です。

スプールファイル使用法 (入力ファイルのタイプごとに 1 つの値)

入力ファイルの使用目的を識別する値です (ジョブチケットの場合は ticket、印刷ファイルの場合は print、など)。

スプールファイルタイプ (入力ファイルのタイプごとに 1 つの値)

入力ファイルのファイル拡張子。

必須ファイルパターン (入力ファイルのタイプごとに 1 つの値)

そのジョブにこのタイプの入力ファイルが含まれるかどうかを示します。

必要なすべてのファイルがそろうと、ジョブは処理を開始します。入力装置に必要なファイルがそろう前にオプションのファイルが全て存在していることを確認してください。そうしないと、オプションのファイルがジョブに含まれなくなります。

ファイルパターンシーケンス (入力ファイルのタイプごとに 1 つの値)

2 つ以上の [ファイルパターン] の値が同じ場合、または 2 つ以上の [ファイルパターン] プロパティーが同じ [スプールファイル使用法] および [スプールファイルタイプ] の値と関連付けられている場合、値のセットが適用される順序です。

8. [OK] をクリックします。

入力装置が使用可能で接続されている場合は、確認ウインドウに、その入力装置を使用不可にして切断するかどうかを確認するメッセージが表示されます。変更を保存するには、入力装置を使用不可にして切断する必要があります。

9. 入力装置を使用するには、その装置を選択して [使用可能にして接続] をクリックします。

特定のバッチ方式を使用するように入力装置を構成したら、実行依頼する入力ファイルが、選択したバッチ方式に適切であることを確認します。識別されない入力ファイルは、入力装置のステージング位置に残り、その状態は [待ち] のままです。

JDFジョブチケットを使用するように構成する

JDFチケットによってジョブを実行依頼する前に、ジョブを受け取る入力装置を構成する必要があります。また、ジョブが割り当てられるワークフローも構成する必要があります。Ricoh PDF プリンターとして定義されたプリンターは、パススループリンターまたはカスタム PDF プリンターとして定義されたプリンターよりも適切に JDF チケットで PDF ジョブを管理できます。

PDF を受け入れる Kodak プリンターの場合は、一部の JDF 情報を製造元が推奨する KDK データストリームでプリンターに送信できます。これには、Cut Sheet Support for Kodakが必要です。

PDF を受け入れる Xerox プリンターの場合は、一部の JDF 情報を製造元が推奨する XPIF または XRX データストリームで送信できます。これには、Cut Sheet Support for Xerox機能が必要です。

この手順を開始する前に、提供されるワークフローのいずれかに、必要とするステップの一部またはすべてが含まれているかどうか確認してください。適切なワークフローが見つかった場合は、それをコピーして、要件に合うように修正します。このワークフローには、[SetJobPropsFromTextFile] ステップテンプレートに基づくステップが組み込まれている必要があります。

↓ 補足

- このステップテンプレートは、オプションの `jobID.overrides.jdf` ファイルを使用して、ジョブに追加プロパティを設定できます。

さらに RICOH ProcessDirector が提供するホットフォルダー入力装置を使用できるかどうか、またはインストールにカスタマイズされた入力装置が必要であるかどうかを判断します。RICOH ProcessDirector は複数のホットフォルダー入力装置を提供しており、小さな変更のみでそのまま使用したり、コピーしてカスタマイズされたホットフォルダー入力装置を作成したりすることができます。

最後に、使用するバッチ方式を決定します。[JDF]、[リスト]、および[パターン]バッチ方式は、すべてJDF ジョブチケットを使用するジョブに適しています。

JDF ジョブチケットを使用するように構成するには、次の手順に従います。

1. JDF ジョブチケットを使用して実行依頼されるジョブで実行する処理ステップを含むワークフローをコピーして、次のように変更します。
 1. [ワークフロー] タブをクリックします。
 2. コピーするワークフローを右クリックして、[コピー] を選択します。
 3. ワークフローのコピーに名前を付け、必要なその他の値を入力または編集して、[続行] をクリックします。
 4. 各ステップを右クリックして、[プロパティ] を選択します。必要に応じて、プロパティを変更します。
 5. [保存] および [使用可能/使用不可] スイッチをオンの位置  に変更し、ワークフローを保存して使用可能にします。
 6. 追加のワークフローを作成する場合は、上記のステップを繰り返します。
2. RICOH ProcessDirector システムで、JDF ジョブチケットに対する正しいワークフローを割り当てるように入力装置を構成します。提供されている HotFolderJDF 入力装置をコピーしてその名前を変更し、以下のステップで説明されている設定を確認または更新します。
 1. [管理] タブをクリックします。
 2. 左のペインで装置 → 入力装置をクリックします。
 3. HotFolderJDF 入力装置を右クリックして、[コピー] を選択します。
 4. 左のペインで、[すべてを表示] をクリックして、この入力装置のプロパティを全て表示します。
 5. 次のプロパティの値を確認または更新します。

[ワークフロー]

[ParentNoPrint]

[子ワークフロー]

ジョブのデータファイルに適したワークフローです。

↓ 補足

- [[リスト]] バッチ方式を使用する場合は、[WaitForGroup] ステップ テンプレートに基づくステップが [PrintJobs] ステップの前にあるワーク フローを選択してください。これらのステップによって、ジョブが正しい 順序で印刷されます。
- 指定変更ファイルを使用する場合、[SetJobPropsFromTextFile] ステップ テンプレートに基づくステップを含むワークフローを選択してください。

[データパターン]

1 つ以上のパターンマッチングストリングです。ホットフォルダーに到着する 他のファイルの名前と照合する、データファイルの名前の文字列を定義しま す。複数のデータパターンを指定した場合、いずれかのパターンと一致した ときにそのファイルが一致したと見なされます。データパターンは正規表現 です。

[.zip ファイルの作成] プロパティが [はい] の場合、データパターンと一 致するファイルだけが .zip ファイルに含まれます。

[実行依頼ステップ]

[SubmitInputFiles]

6. 使用するバッチ方式に従って、次のプロパティの値を確認または更新します。

プロパティ	バッチ方式が [JDF] の場合の値	バッチ方式が [リス ト] の場合の値	バッチ方式が [パ ターン] の場合の値
[JDF パターン]	ジョブチケットの名 前と部分的にでも一 致するパターンで す。HotFolderJDF の 場合、デフォルト値 は正規表現 <code>.*%jdf\$</code> です。		
[リストパターン]		リストファイルの ファイル名と部分的 にでも一致するパ ターンです。デフォ ルトでは、この値は 正規表現 <code>.*lst\$</code> に なります。	
[指定変更パター ン]	指定変更ファイルの ファイル名と部分的 にでも一致するパ ターンです。一部の 提供されたホット フォルダー入力装置 の場合、この値は正 規表現 <code>.*oth\$</code> で す。	指定変更ファイルの ファイル名と部分的 にでも一致するパ ターンです。一部の 提供されたホット フォルダー入力装置 の場合、この値は正 規表現 <code>.*oth\$</code> で す。	
[.zipファイルの作 成]	• [はい] : [デー タパターン] プロ パティに設定さ れた値と一致する すべての入力ファ イルが含まれた。	• [はい] : [デー タパターン] プロ パティに設定さ れた値と一致する すべての入力ファ イルが含まれた。	[いいえ]

プロパティ	バッチ方式が [JDF] の場合の値	バッチ方式が [リスト] の場合の値	バッチ方式が [パターン] の場合の値
	zip ファイルが生成され、1つのジョブとして実行依頼されます。ジョブチケットが異なる入力ファイルに対して別々の設定を指定していて、[.zip ファイルの作成] プロパティが [はい] の場合、ジョブチケットの最初の入力ファイル名に対する設定がすべての入力ファイルに使用されます。 • [いいえ] : すべての入力ファイルが子ジョブとして実行依頼されます。	zip ファイルが生成され、1つのジョブとして実行依頼されます。ジョブチケットが異なる入力ファイルに対して別々の設定を指定していて、[.zip ファイルの作成] プロパティが [はい] の場合、ジョブチケットの最初の入力ファイル名に対する設定がすべての入力ファイルに使用されます。 • [いいえ] : すべての入力ファイルが子ジョブとして実行依頼されます。	
「ファイルパターン」 (入力ファイルのそれぞれのタイプに対して1つの値)			特定のタイプの入力ファイルを定義するパターンマッチングストリングです (ジョブチケットの場合は . *jdf\$、印刷ファイルの場合は . *pdf\$、など)。
「スプールファイル使用法」 (入力ファイルのそれぞれのタイプに対して1つの値)			入力ファイルの使用目的を識別する値です (ジョブチケットの場合は ticket、印刷ファイルの場合は print、など)。
「スプールファイルタイプ」 (入力ファイルのそれぞれのタイプに対して1つの値)			入力ファイルのファイル拡張子。

プロパティ	バッチ方式が [JDF] の場合の値	バッチ方式が [リスト] の場合の値	バッチ方式が [パターン] の場合の値
〔必須ファイルパターン〕 (入力ファイルのそれぞれのタイプに対して1つの値)			そのジョブにこのタイプの入力ファイルが含まれるかどうかを示します。
〔ファイルパターンシーケンス〕 (入力ファイルのそれぞれのタイプに対して1つの値)			2つ以上の〔ファイルパターン〕の値が同じ場合、または2つ以上の〔ファイルパターン〕プロパティが同じ〔スプールファイル使用法〕および〔スプールファイルタイプ〕の値と関連付けられている場合、値のセットが適用される順序です。

3. 新しい入力装置が接続され、使用可能になっていることを確認します。
4. 新しい入力装置にジョブを実行依頼します。エラーが発生した場合、RICOH ProcessDirectorまたはそれから呼び出されるすべてのアプリケーションのメッセージに示されるエラーを訂正してください。

LPD入力装置

ご使用のアプリケーションがジョブを実行依頼するために **lpr** クライアント、またはLPDプロトコルを使用する別のコマンドを使用する場合、そのジョブはLPD入力装置に送られる必要があります。コマンドではターゲットプリンターの名前として、その入力装置の名前を使用します。

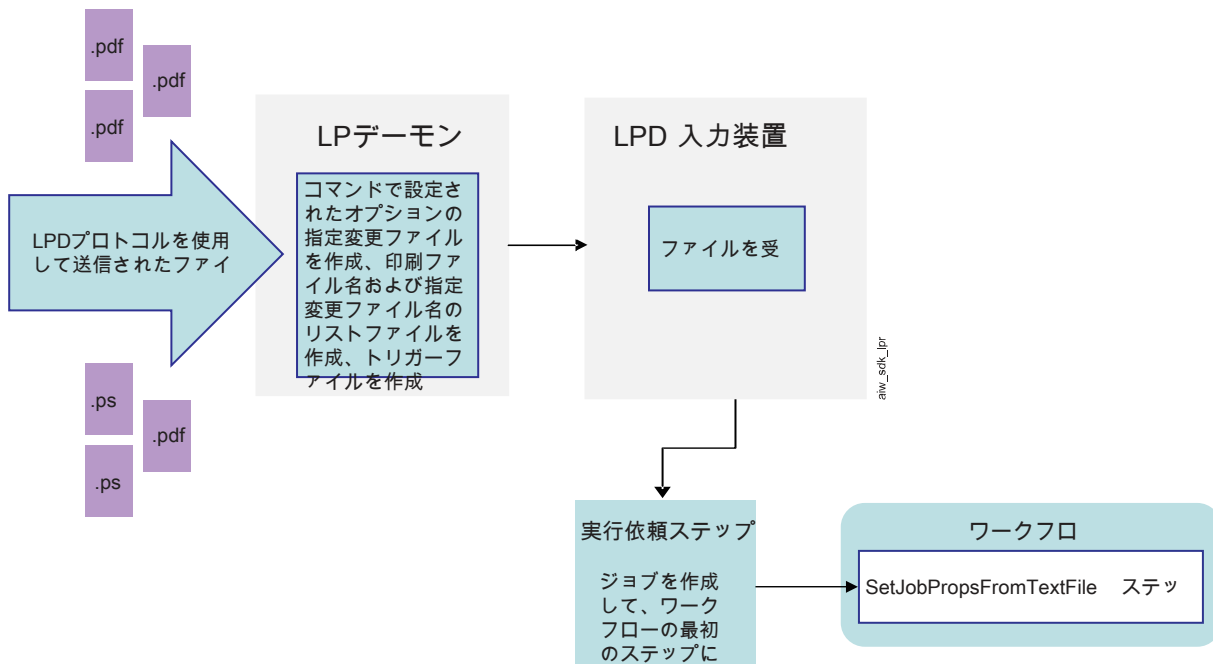
↓ 補足

一部の **lpr** コマンドではプリンター名が切り捨てられるため、LPD入力装置の名前を8文字以内にすることをお勧めします。

一般的に、LPDプロトコルで提供される機能は、他のジョブ実行依頼の方法より制限されます。しかし、一部の **lpr** クライアントには他の方法より多くのオプションがあります。アプリケーションが使用する **lpr** クライアントの機能についてよく理解したうえで、入力装置の構成を始めてください。

P. 54 「LPD入力装置の処理」 に、LPデーモンとLPD入力装置が印刷ジョブを処理する方法を示します。入力ファイルは、LPDプロトコルを使用して実行依頼されます。LPデーモンはそれらのファイルを受信して、指定変更ファイル、リストファイルトリガーファイルを1つずつ作成します。デーモンはすべてのファイルをLPD入力装置に送信し、それらのファイルはそこで実行依頼ステップに渡されます。

LPD入力装置の処理



↓ 補足

Linux 1次サーバーと2次サーバーでは、RICOH ProcessDirectorが固有のLPDをインストールして使用します。

そのため、他のLPDがインストールされている場合はすべてシャットダウンして、RICOH ProcessDirectorLPDだけが実行するようにする必要があります。RICOH ProcessDirectorLPDはポート515を使用してジョブを受信します。それ以外のプロセスは、そのポートを使用できません。

許可

ホスト名またはIPアドレスによって、LPD入力装置にジョブを実行依頼する許可を持つシステムに、制限できます。ご使用のRICOH ProcessDirectorシステムにLinux 1次または2次サーバーが組み込まれている場合は、許可ユーザーとしてRICOH ProcessDirectorにログインして [LPDジョブを実行依頼できるホスト] システムプロパティを更新することで、リストを設定します。

LPDのオプション

一般的には、指定可能なパラメーターの数はlprクライアントのほうが少ないです。しかし、ご使用のクライアントが **-o** オプションを受け入れる場合、RICOH ProcessDirectorプロパティにマップされる値を実行依頼できます。

LinuxのLPD入力装置は、**-o** オプションで実行依頼されたステートメントを読み取り、それらを指定変更ファイルに直接コピーします。ワークフローの後で、制御ファイルのマッピングに基づいて、1つのステップが指定変更ファイルを解釈します。`/aiw/aiw1/samples/rules/` (Linux) または `C:%aiw%aiw1%samples%rules%` (Windows) には、RICOH ProcessDirectorのサンプル制御ファイル `receive_lpd_overrides.cfg` が用意されています。必要な場合はファイルをコピーして、異なる値を割り当てるように更新できます。ファイルを変更するには、`/aiw/aiw1/control_files/rules/` (Linux) または

C:\aiw\aiw1\control_files\rules¥ (Windows) にファイルをコピーして、そのディレクトリーで変更します。

↓ 補足

- 更新によって/aIW/aIW1/samples/ (Linux) またはC:\aiw\aiw1\samples ¥ (Windows) ディレクトリー内のファイルが上書きされることがありますが、/aiw/aIW1/control_files (Linux) またはC:\aiw\aiw1\control_files (Windows) ディレクトリー内のファイルは上書きされません。サンプルファイルを/aIW/aIW1/control_files (Linux) またはC:\aiw\aiw1\control_files (Windows) ディレクトリーにコピーして、コピーされたファイルですべての変更を行うことをお勧めします。

例えば、LinuxサーバーのLPD入力装置にジョブを実行依頼する場合は、次のコマンドを使用できます。

```
lpr -S morris -P LPDPDF -O outbin=3 /aiw/aIW1/testfiles/Demo.pdf
```

LPD入力装置は次のような指定変更ファイルを作成しますが、必要な値のいくつかはコマンドによって、他はデフォルト値によって設定します。

```
orighost=prtroom2.ricoh.com
origuser=root
bannername=/aiw/aIW1/testfiles/Demo.pdf
bannerclass=9.17.160.63
printbanner=Yes
origname=/aiw/aIW1/testfiles/Demo.pdf
outbin=3
```

デフォルトの制御ファイル (receive_lpd_pdf_jobtype.cfg) を使用する入力装置にジョブを実行依頼する場合、値は次のようにプロパティーにマップされます。

- Job.Info.NodeID=prtroom2.ricoh.com
- Job.Host.UserID=root
- Job.Name=/aiw/aIW1/testfiles/Demo.pdf
- Job.OutputBin=3

bannerclassと**printbanner**の値は、デフォルトの制御ファイルに含まれないため、マップされません。

処理の流れ

LPD入力装置には常に次の設定があって、変更できません。

- バッチ方式：リスト
- 完了方法：トリガー
- データパターン：.*\prt\$
lpデーモンは、受信したすべての印刷ファイルに接尾部**.prt**を追加するため、このパターンは常に一致します。ご使用の印刷ファイルにこれらの文字が含まれる必要はありません。
- リストパターン：*list\lst\$
- 指定変更パターン：.*other\oth\$
- トリガーパターン：.*\trg\$

ジョブがLPD入力装置に実行依頼されると、LPDはその印刷ファイルとコマンドに設定されたすべてのオプション（フラグ）を受信します。LPDはジョブに対する指定変更ファイルを作成、後のステップで解釈されるような形式でオプションを書き込みます。lprコマンドが-oオプションをサポートして追加のジョブプロパティーが組み込まれる場合、それらのプロパティーも指定変更ファイルに書き込まれます。そのファイルは、拡張子`.oth`が追加されて保存されます。

LPDは、ジョブのリストファイルも作成します。リストファイルには印刷ファイル（複数のファイルが実行依頼された場合はそのすべて）と指定変更ファイルの名前が含まれ、拡張子は`.lst`です。印刷ファイルの名前は受信した順序でリストファイルに追加されます。一部のlprクライアントはコマンドにリストされている順序でファイルを送信しますが、すべてのクライアントがそうするわけではありません。ファイルが順不同で到着することもあります。

LPDが指定変更ファイルとリストファイルの作成を終了すると、トリガーファイルを作成します。トリガーファイルにはデータは含まれず、存在することで、入力ファイルの処理準備ができていることを入力装置に示します。入力装置の【完了方法】が【トリガー】に設定されている場合、その入力装置に設定されている【トリガーパターン】の1つと一致するファイルを検出するまで待機します。

入力装置がトリガーファイルを検出すると、ジョブを処理するためにワークフローの最初のステップに実行依頼します。そのステップは、`SetJobPropsFromTextFile`ステップテンプレートに基づきます。このステップは、入力ファイルが子ワークフロー構文解析規則プロパティーで指定した制御ファイルを使用して、指定変更ファイルを解釈してジョブプロパティーに値を割り当てます。デフォルトの制御ファイルは、`receive_lpd_jobtype.cfg`または`receive_lpd_pdf_jobtype.cfg`です。

LPDプロトコルを使用するよう構成する

ユーザーがラインプリンターデーモン (LPD) プロトコルを使用してRICOH ProcessDirectorシステムにジョブを実行依頼できるようにするには、管理者がRICOH ProcessDirectorシステムで構成タスクを実行し、ジョブを受け取る入力装置を構成して、ジョブが割り当てられるワークフローを構成し、LPDプロトコルでジョブをRICOH ProcessDirectorに実行依頼できるホストを定義しておく必要があります。また管理者は、これらのホストに対していくつかの構成タスクを実行する必要がある場合もあります。

この手順を開始する前に、提供されているワークフローを検討してください。ワークフローに組み込みたいステップの一部またはすべてが含まれているワークフローが見つかった場合は、そのワークフローをコピーして、要件に合うように変更することができます。

さらに、RICOH ProcessDirectorで提供されるLPD入力装置のいずれかを使用できるかどうか、そのインストールにカスタマイズされた入力装置が必要かどうかを判断します。RICOH ProcessDirectorでは、LPD入力装置を提供しており、これにわずかな変更を加えてそのまま使用したり、これをコピーしてカスタマイズされたLPD入力装置を作成したりできます。

では、LPD入力装置が提供されています。

1. RICOH ProcessDirectorに属していないLPDデーモンまたは処理（例えば、Common UNIX印刷システム[CUPS] LPD デーモン）が入力装置の親サーバーと同じシステムで実行されている場合は、それらを停止します。

★重要

- CUPSをアンインストールしないでください。
- 2. システム設定を更新し、LPDプロトコルを使用してジョブを実行依頼することを許可されているホストを指定します。
 1. [管理] タブをクリックします。
 2. 左側にある設定 → システムをクリックします。
 3. [LPDジョブを実行依頼できるホスト] フィールドで、許可されているホスト名またはIPアドレスを入力します。
ホスト名とIPアドレスはセミコロンで区切ってください。

↓ 補足

- ホスト名およびIPアドレスではワイルドカードを使用できます（例えば、*.acmeproducts.comや192.*）。*という値は、すべてのホストがジョブの実行依頼を許可されていることを意味します。数字、小数点ワイルドカードしか含まれていない値は、IPアドレスと比較されます。ワイルドカードと少なくとも1つの英字が含まれている値はホスト名と比較されます。値が空の場合は、ホストはジョブの実行依頼を許可されていないことを意味します。
- デフォルト値は [*] です
- 基本製品がLinuxにインストールされている場合は、1次コンピューターからLPD入力装置にジョブを実行依頼することはできません。
- 待機時間が長い場合やジョブが見つからない場合、LPDホストエントリーをIPアドレスまたは完全修飾ホスト名 (*.acmeproducts.comの代わりに hostserver.co.acmeproducts.comなど) に設定します。
- 4. [保存] をクリックします。
- 3. LPDジョブの実行依頼を許可した各システムで、印刷コマンドでサーバー名を指定できるかどうかを判別します。指定できない場合、次のいずれかのステップを実行して、入力装置にジョブを送信する印刷キューをシステムに作成します。

↓ 補足

- Windowsの一部のバージョンの基本オペレーティングシステムに付属し、その他のバージョンではオプション機能として使用可能なLPRクライアントでは、サーバー名を指定できます。このLPRクライアントまたは同等のクライアントを使用するのであれば、Windowsに印刷キューを作成する必要はありません。
- 4. SLES 12.0で印刷キューを作成するには、次の手順に従います。
 1. root ユーザーとしてログインします。
 2. YaSTを開始します。
 3. ハードウェア → プリンターをクリックします。[プリンター構成] が強調表示された状態で、[追加] をクリックします。[接続ウィザード] をクリックし、[ラインプリンターデーモン (LPD) プロトコル] を選択します。
 4. [IPアドレスまたはホスト名] フィールドに、LPD入力装置が定義されているシステムのホスト名またはIPアドレスを入力します。
 5. [キュー名] フィールドにLPD入力装置の名前を入力し、[OK] をクリックします。

6. [任意の名前の設定] フィールドにLPD入力装置の名前を入力します。この名前は、このLinuxシステム上で固有でなければなりません。LPD入力装置名は大文字と小文字が区別されますが、Linuxでは、大文字と小文字の違いを除けば同じ名前となるLPD入力装置名を複数定義することはできません。例えば、あるLPD入力装置にHotFolderLPDという名前を付けた場合は、別のプリンターにはhotfolderlpdという名前を付けることはできません。
7. [OK] をクリックします。
5. Red Hat由来のオペレーティングシステム上で印刷キューを作成するには、以下の操作を行います。

↓ 補足

- 以下の前提条件を満たしていることを確認してください。
 - CUPSを設定していること。
 - CUPSでプリンターを管理する権限を持っていること。
- 1. root ユーザーとしてログインします。
- 2. ブラウザーを使用して、`https://hostname:631/admin/`にアクセスします。`hostname`はホスト名またはIPアドレスです。
- 3. [プリンターの追加] をクリックします。
- 4. [その他のネットワークプリンター] をクリックし、[LPD/LPRホストまたはプリンター] を選択します。
- 5. 接続フィールドに、LPD入力装置が定義されているシステムのホスト名またはIPアドレスを入力します。例:

```
lpd://hostname/queue
```

`hostname`はホスト名またはIPアドレス、`queue`はキュー名です。

6. [続行] をクリックします。
7. [プリンターの追加] ダイアログで、プリンターの名前、概要、場所を入力します。
8. [続行] をクリックして、プリンターのメーカーとモデルを選択します。
9. [プリンターの追加] をクリックします。
10. 次のダイアログでデフォルトオプションを設定し、[デフォルトオプションの設定] をクリックします。
6. LPDプロトコルを介して実行依頼されるジョブに実行する処理ステップを含むワークフローを、RICOH ProcessDirectorシステムでコピーして変更します。

1つ以上のワークフローをコピーして変更するには、次の手順に従います。

 1. [ワークフロー] タブをクリックします。
 2. コピーするワークフローを右クリックして、[コピー] をクリックします。
 3. ワークフローのコピーに名前を付け、必要なその他の値を入力または編集して、[続行] をクリックします。
 4. 各ステップを右クリックして、[プロパティ] を選択します。必要に応じて、プロパティを変更します。

[SetJobPropsFromTextFile] ステップの [ジョブ名] プロパティから \${Job.InputFile} を削除します。

5. AFP Support機能がインストールされており、このワークフローを使用して処理されるジョブに必要なAFPリソース（フォント、オーバーレイ、ページセグメントなど）を入力ファイルとともにインラインで送信しない場合は、そのリソースがRICOH ProcessDirectorシステムで 사용할 수 있는ことを確認します。/aiw/aiw1/resources (Linux) または C:\aiw\aiw1\resources (Windows) のすべてのコンポーネントで 사용할 수 있도록、これらのリソースを /usr/lpp/psf/reslib (Linux) または C:\Program Files (x86)\Ricoh\PSF\reslib (Windows) または RICOH ProcessDirectorに移動しておくことをお勧めします。上記のディレクトリを使用できない場合は、ワークフローのいずれかのステップで、リソースを保持するディレクトリを指すように [AFPリソースパス] プロパティを設定できます。

↓ 補足

- [AFPリソースパス] は、[EnableRepositioning]、[PrintJobs]、[ConvertLineDataJobIntoAFP] など、さまざまなステップテンプレートでデフォルトジョブプロパティとして設定できます。値はステップの1つで設定すれば十分です。残りのステップはその値を継承します。
6. ワークフローを使用するには、[保存] および [使用可能/使用不可] スイッチをオンの位置  に変更し、保存して使用可能にします。
 7. 追加のワークフローを作成する場合は、上記の手順を繰り返します。
7. 受信する入力ファイルに正しいワークフローが割り当てられるように、RICOH ProcessDirectorシステムで入力装置を構成します。提供されているLPD入力装置の1つをコピーしてその名前を変更し、下の説明にある設定値を確認または更新することをお勧めします。
1. [管理] タブをクリックします。
 2. 左のペインで装置 → 入力装置をクリックします。
 3. コピーする入力装置を右クリックして、[コピー] を選択します。

↓ 補足

- 新しい入力装置のタイプは、コピー元の入力装置と同じになります。例えば、ホットフォルダーをコピーして新しいLPD入力装置を作成することはできません。
4. 左側にある [すべてのタブを表示] をクリックして、この入力装置のプロパティをすべて表示します。
 5. 次のプロパティの値を確認または更新します。

入力装置名

入力装置の名前にはスペースを含めないでください。LPRクライアントは、スペースが含まれている名前を処理できません。

入力装置の名前の文字数を8文字に制限することをお勧めします。使用する印刷コマンドによっては、入力装置と同じ名前で送信システム上の印刷キューを作成する必要がある場合があります。一部のシステムでは、印刷キュー名は8文字に切り捨てられます。

フォルダー位置

許可されているホストからジョブを受け取る1次コンピューター上のディレクトリー。ここでリストするディレクトリーのサイズが、ファイルシステムを埋め尽くすことなく、LPRクライアントが送信するデータの量を処理できるだけの大きさになるように、ファイルシステムがセットアップされていることを確認してください。

ステージング位置

入力ファイルがジョブとして実行依頼される前に、RICOH ProcessDirectorが入力ファイルを移動するディレクトリー。ここでリストするディレクトリーのサイズが、ファイルシステムを埋め尽くすことなく、LPRクライアントが送信するデータの量を処理できるだけの大きさになるように、ファイルシステムがセットアップされていることを確認してください。入力ファイルの2つのコピーが常にシステムに存在している場合があります。1つは「フォルダー位置」ディレクトリーにあり、もう1つは「ステージング位置」ディレクトリーにあります。

親サーバー

ファイルを受信する RICOH ProcessDirector サーバー。例えば、実行依頼者は [lpr] コマンドまたは [lprafp] コマンドでこのサーバー名を指定します。ここで指定されたサーバーはLPDプロトコルを介してジョブを受け入れるよう構成する必要があります。

6. 1つ以上の入力ファイルと一緒にワークフローをジョブに割り当てるには、次の手順に従います。

補足

- 親サーバーがLinuxの入力装置では、複数の子を持つ親ジョブは作成できません。この場合、入力ファイルごとに、1つの親ジョブと1つの子ジョブが作成されます。
- 1. 「実行依頼ステップ」プロパティを [SubmitInputFiles] に設定し、「ワークフロー」プロパティを [ParentNoPrint] に設定します。
- 2. どのようにして入力装置で単一ジョブまたは子ジョブごとにワークフローを割り当てるかを決定します。次のいずれかを選択できます。
 - 「子ワークフロー初期化ステップ」プロパティを [SetJobTypeFromRules] に設定し、「子ワークフロー構文解析規則」プロパティを使用して、印刷コマンドのオプションの値からワークフローを設定できる制御ファイルの名前を指定します。
RICOH ProcessDirectorには、ワークフローを設定するために使用される2つのサンプル制御ファイルが用意されています。receive_lpd_jobtype.cfgおよびreceive_lpd_pdf_jobtype.cfgというサンプル制御ファイルが/a/w/a/w1/samples/rules/ (Linux) またはC:\a/w/a/w1\samples\rules\ (Windows) ディレクトリーにインストールされています。いずれかのファイルを/a/w/a/w1/control_files/rules/ (Linux) またはC:\a/w/a/w1\control_files\rules\ (Windows) ディレクトリーにコピーして要件に合わせて変更できます。その後、目的のファイルを指すように「子ワークフロー構文解析規則」プロパティの値を更新できます。
 - 「子ワークフロー初期化ステップ」プロパティを [SetJobTypeFromFileName] に設定し、「子ワークフローパターン」プ

ロパティータを使用して、RICOH ProcessDirectorが入力ファイル名の中で検索し、ワークフロー名として使用する必要がある文字列を指定します。この方法を使用する場合、対応する名前を持つワークフローが存在することを確認してください。

8. 前のステップで作成した制御ファイルで、印刷コマンドのオプション値に基づいて [メディア] や [ジョブサイズ] などのジョブスケジューリングプロパティータが設定されている場合は、対応するスケジューリングプロパティータがRICOH ProcessDirectorのターゲットプリンターに設定されていることを確認します。これらのスケジューリングプロパティータが一致しない場合、ターゲットプリンターにジョブをスケジューリングすることはできません。
9. LPD入力装置が接続され、使用可能になっていることを確認します。

↓ 補足

- LPD入力装置の場合、[lpq] コマンドに対する応答において、状況情報は返されません。
10. 許可したホストシステムから、いくつかのテストジョブを実行依頼します。エラーが発生した場合は、ホストシステムまたはRICOH ProcessDirectorからのメッセージに示されているエラーを修正します。

LPDプロトコルを使用した印刷コマンド

LPD プロトコルにより、**lpr** と呼ばれる印刷コマンドが定義されます。**lpr** コマンドまたは LPD プロトコルを使用する別のコマンドを使用して、LPD 入力装置にジョブを実行依頼します。

構文および使用可能なオプションは、ある印刷コマンドと他のコマンドとの間、さらにあるバージョンの **lpr** と別のバージョンとの間で異なります。そのため、システムに適合した印刷コマンドの例を採用する必要があります。

さらに、送信システムを構成して、印刷コマンドが提供していないオプションを補正する必要があります。例えば、印刷コマンドにプリントサーバーを指定するオプションがない場合は、LPD 入力装置と同じ名前の送信システム上でリモート印刷キューを作成する必要があります。

ここでは、いくつかの共通の LPD 印刷コマンドが示されています。これらのコマンドの詳細情報については、オペレーティングシステムまたは製品の資料を参照してください。

Linux印刷コマンド

コマンド名	入手先	プリンターオプション	サーバーオプション	ジョブプロパティオプション
lpr	ネイティブ	-P	なし	変更 ↓ 補足 LPR クライアントには、-o コマンドでジョブオプションを送信できるものもあります。これを実行できるか判別するには、ご使用の LPR クライアントの資料を参照してください。
lpafp	Ricoh Production PrintWebサイトからダウンロードする (Windows用 InfoPrint Managerのダウンロード)	-p	-s	-o ↓ 補足 lpafp オプションを使用してジョブを実行依頼し、-o フラグでオプションをインクルードする場合、オプションには半角文字のみを使用する必要があります。オプションに全角文字を使用すると、RICOH ProcessDirectorでは文字を読み取ることができず、lpafp 要求は拒否されます。

AIX印刷コマンド

コマンド名	入手先	プリンターオプション	サーバーオプション	ジョブプロパティオプション
lpr	ネイティブ	-P	なし	なし
enq	ネイティブ	-P	なし	-o
lp	ネイティブ	-d	なし	-o
lpafp	AIX用InfoPrint Managerの場合は、Ricoh Production PrintWebサイトから最新バージョンをダウンロードします (Windows用 InfoPrint Managerのダウンロード)。	-p	-s	-o

コマンド名	入手先	プリンターオプション	サーバーオプション	ジョブプロパティオプション
				↓ 補足 lprafp オプションを使用してジョブを実行依頼し、-o フラグでオプションをインクルードする場合、オプションには半角文字のみを使用する必要があります。オプションに全角文字を使用すると、RICOH ProcessDirectorでは文字を読み取ることができず、lprafp要求は拒否されます。
qp rt	ネイティブ	-P	なし	なし
qp rt	InfoPrint Manager for AIX	-P	なし	-o

Windows印刷コマンド

コマンド名	入手先	プリンターオプション	サーバーオプション	ジョブプロパティオプション
lpr	ネイティブ	-P	-S	なし ↓ 補足 Windows lpr コマンドには -o オプションがありますが、これはジョブプロパティではなく、ファイルタイプを示します。
lptrafp	Ricoh Production PrintWebサイトからダウンロードする (Windows用 InfoPrint Managerのダウンロード)	-P	-S	-o ↓ 補足 lptrafp オプションを使用してジョブを実行依頼し、 。フラグでオプションをインクルードする場合、オプションには半角文字のみを使用する必要があります。オプションに全角文字を使用すると、RICOH ProcessDirectorでは文字を読み取ることができず、 lptrafp 要求は拒否されます。

例

このコマンドはreport.pdfと呼ばれるファイルを、Windowsシステムからmorrisと呼ばれるサーバー上で定義されているLPDAFPというLPD入力装置に実行依頼して、次の2つのコピーを実行依頼します。

```
lpr -S morris -P LPDPDF -# 2 report.pdf
```

いずれのコマンドでも、AIXシステムからのreport.afpファイルが、morrisサーバー上で定義されているLPDAFPと呼ばれるLPD入力装置に実行依頼されます。AIX **lpr** コマンドを使用するには、ジョブの送信元AIXシステムで、最初にLPDAFPのリモート印刷キューを定義する必要があります。

```
lpr -P LPDAFP -C A report.afp
lptrafp -smorris -pLPDAFP -oclass=A report.afp
```

LPDプロトコルによるジョブの実行依頼を制限する

同じ親サーバーを持つすべての入力装置にLPDプロトコルでジョブを実行依頼できるホストを制限できます。デフォルトでは、すべてのシステムからの入力が許可されます。

LPDプロトコルの使用を制限するには

1. [管理] タブをクリックします。
2. 左のペインで、設定 → システムをクリックします。
3. [LPDジョブを実行依頼できるホスト] フィールドに、許可されているホスト名またはIPアドレスのリストをセミコロンで区切って入力します。

ゼロ個以上の文字を表すには、アスタリスク (*) を使用できます。数字 (0~9)、小数点 (.)、アスタリスク (*) のみを含む値は、着信接続のIPアドレスと比較されます。1つ以上の英字 (A-Z、a-z) が含まれている値は、着信接続のホスト名であると判断されます。

リストの値*は、すべてのホストがジョブの実行依頼を許可されていることを意味します。リストの値が空であれば、ジョブの実行依頼を許可されているホストはありません。

4. [保存] をクリックします。

3. ワークフローに機能を追加する

- 外部プログラムを設定する
- 外部ステップ
- 外部ステップ用にステップテンプレートを設定する
- 外部ステップ用にワークフローをセットアップする

RICOH ProcessDirectorワークフローを構成して、印刷ジョブを他のアプリケーションに送って追加処理し、それをシステムに送り返すようにできます。他のアプリケーションは、1次サーバーと同じサーバー上、2次サーバー上、またはアプリケーションサーバー上で実行できます。

アプリケーションが提供する処理が印刷ワークフローに組み込み可能な場合（アドレスのクリアや組み付けなど）、RICOH ProcessDirectorからアプリケーションに印刷ジョブを送り、アプリケーションの完了を待機し、RICOH ProcessDirectorで処理を続行するためのステップを作成できます。RICOH ProcessDirectorの使用説明書では、これらのステップを**外部ステップ**と呼びます。

条件付きワークフローでは、外部ステップは複数のステップから入力を受け取り、その入力に基づいて異なるプログラムを実行します。[PDFProduction] サンプルワークフローでは、外部ステップはジョブのページ数に基づいて異なるプロパティを受け取ります。外部ステップは、複数の場所に結果を書き込み、複数のステップに出力を送ることができます。例えば、外部ステップは、外部プログラムによって計算された値に基づいて、3つの異なるステップにジョブを送ることができます。外部ステップは条件付きワークフローの分岐を終了できます。

RICOH ProcessDirectorには、外部ステップに対するさまざまなステップテンプレートが含まれています。

- **RunExternalProgram**

コマンド行インターフェースを使用して印刷ジョブを外部プログラムに実行依頼します。

- **RunHotFolderApplication**

他のアプリケーションが監視しているホットフォルダーに印刷ジョブを配置します。そのアプリケーションは、印刷ジョブを取得し、その構成設定に従って処理し、出力フォルダーに配置します。RICOH ProcessDirectorは、出力フォルダーを監視し、準備ができたらジョブを取得します。

どのステップテンプレートを使用するかを選択は、第1に外部アプリケーションがジョブを受け入れる方法に依存します。アプリケーションがコマンド行インターフェースの場合、ワークフローは**RunExternalProgram**を組み込みます。アプリケーションが入力ホットフォルダーを監視している場合は、ワークフローは**RunHotFolderApplication**を組み込みます。アプリケーションに両方のインターフェースがある場合は、使用するステップを自分で決めることができます。

RICOH ProcessDirectorは、外部プログラムと統合されるオプション機能を提供します。これらの機能には、ユーザーが使用できる追加のステップテンプレートが含まれています。

- **Quadient Inspire Connect**

- **[ComposePDF]**

Quadient Inspire Designerを使用して、WFDファイルと1つ以上のRAWデータファイルから新しいPDFファイルを作成します。このステップは、新しいファイルが返されるまで待機します。

- [ComposeAFP]
Quadient Inspire Designerを使用して、WFDファイルと1つ以上のRAWデータファイルから新しいAFPファイルを作成します。このステップは、新しいファイルが返されるまで待機します。**ComposeAFP**は、Quadient Inspire Connect機能およびAFP Support機能がインストールされている場合に使用可能になります。
- MarcomCentral Connect
 - [ApplyXSLTransform]
MarcomCentral形式の情報をRICOH ProcessDirectorジョブプロパティに変換します。
 - [CallSOAPService]
MarcomCentral [ジョブチケット] Webサービスを呼び出して、各注文のジョブチケットを取得します。
 - [CreateJobsFromXML]
MarcomCentral Webサービスによって返された情報を使用して、各ジョブチケットのジョブを作成します。このステップは、[MarcomProcessJobTicket] ワークフローにジョブを実行依頼します。
- FusionPro Connect
 - [RunFusionPro]
FusionPro Server上の入力データファイルに基づいて印刷ファイルを作成します。このステップは、新しいファイルが返されるまで待機します。
- Pitstop Connect
 - [RunPitStopOnJob]
アクションリストまたはPDFプロファイルとともにPDF印刷ジョブをPitStop Serverに実行依頼します。Ricoh ProcessDirectorは、PitStop Serverがジョブを処理し、返すのを待ってから、ワークフローの次のステップに進みます。
- Postal Enablement
 - [SetPostalJobProps]
郵便ソフトウェアで必要なジョブプロパティを設定し、外部文書プロパティファイルに含まれる郵便物情報をどのように処理するかを決定できます。
 - [BuildExternalDocPropsFile]
文書プロパティファイルから文書データを抽出して、外部プログラムに送信する必要のある文書データと見出しを含むファイルを作成できます。作成したファイルは、外部文書プロパティファイルと呼ばれます。
 - [MapExternalResultsFiletoDocProps]
外部結果ファイルから選択した文書プロパティを変更済み結果ファイルに含まれる文書プロパティにマッピングします。外部結果ファイルは、外部プログラムによって作成されます。
 - [UpdateDocPropsFromExternalResultsFile]
変更済み結果ファイル内のプロパティは、ジョブの文書プロパティファイルにマージされます。

- Ultimate Impostrip® Connect

- [RunImpostripOnJob]

正しく構成されている場合、ジョブで適切な面付け機能を実行するように設定されたUltimate Impostrip®入力ホットフォルダーに、PDF印刷ジョブを実行依頼します。RICOH ProcessDirectorは、Ultimate Impostrip®サーバーが更新されたジョブを返すのを待ってから、ワークフローの次のステップによる処理に進みます。

使用するステップを決めるときには、次のことを考慮します。

- RunExternalProgram

- コマンドを記述して必要なオプションをすべて指定する必要があります。アプリケーションを実行するためのコマンド記述に慣れていない場合や、コマンドの構文がわからない場合、このステップを利用すると構成が困難になります。



補足

外部プログラムがstdoutまたはstderrに書き込んだすべての出力は、RICOH ProcessDirectorジョブログに表示されます。stdoutにすべての出力を書き込むプログラムやシステムコマンドを実行するコマンドを使用する場合、出力を別の場所にリダイレクトできるように、外部プログラムを呼び出すスクリプトを使用することをお勧めします。

- 他のアプリケーションに送られるコードページと言語を指定できます。
 - 印刷ジョブをエラーにすることなくプログラムが提供できる戻りコードを指定できます。
 - 外部アプリケーションが使用できる処理パラメーター（プログラムが受け入れる場合）が含まれる、制御ファイルを使用できます。

- RunHotFolderApplication

- 他のアプリケーションに1つ以上のファイルを送信できます。
 - 送信フォルダーおよび検索フォルダーを正しく構成する必要があります。送信するファイルのファイル名が検索パターンに一致しない限り、送信フォルダーと検索フォルダーを同じにできます。[検索パターン]は、返されたジョブを特定するためのパターンマッチング文字列です。

例えば、外部アプリケーションがファイルをPostScriptからPDFに変換する場合は、検索パターンで拡張子.PDFのファイルが検索されます。ステップはprintfile.psをディレクトリーにコピーしますが、検索パターンはprintfile.PDFを検索するため、コピーされたファイルが変換済みファイルと混同されることはありません。

しかし、プリフライトアプリケーションにPDFファイルを送信するためにホットフォルダーを使用すると、そのアプリケーションは別のPDFファイルを送り返すため、同じ名前になる可能性があります。その場合は、送信フォルダーと検索フォルダーを別の場所にする必要があります。

- 有効な戻りコードを指定するためのオプションは、ありません。
- 外部アプリケーションが予期されたファイルを返した場合、ステップはファイルを取得して、エラーをチェックしないで次のステップに処理を移動します。その結果、エラーがあるファイルを出力ディレクトリーにコピーしないように、他のアプリケーションを構成する必要があります。ホットフォルダーがタイムアウトするように設定されている場合、ジョブは最終的にはエラー状態になって問題を解決する

ことがます。ホットフォルダーが無期限に待機するように構成されている場合、ジョブはオペレーターが介入するまで待機し続けます。

一部の環境では、ステップが連携するように構成できます。例えば、FTPまたはSCPを使用して入力ファイルを他のプログラムに転送する場合、**RunExternalProgram**に基づくステップを作成してファイルを転送できます。次に、**RunHotFolderApplication**に基づくステップを追加して、**【送信フォルダー】**プロパティを空白のままにします。ステップは、外部送信用ホットフォルダーにはファイルを送信しませんが、結果ファイルを検索するために検索フォルダーをポーリングします。

処理フロー：RunExternalProgram

3

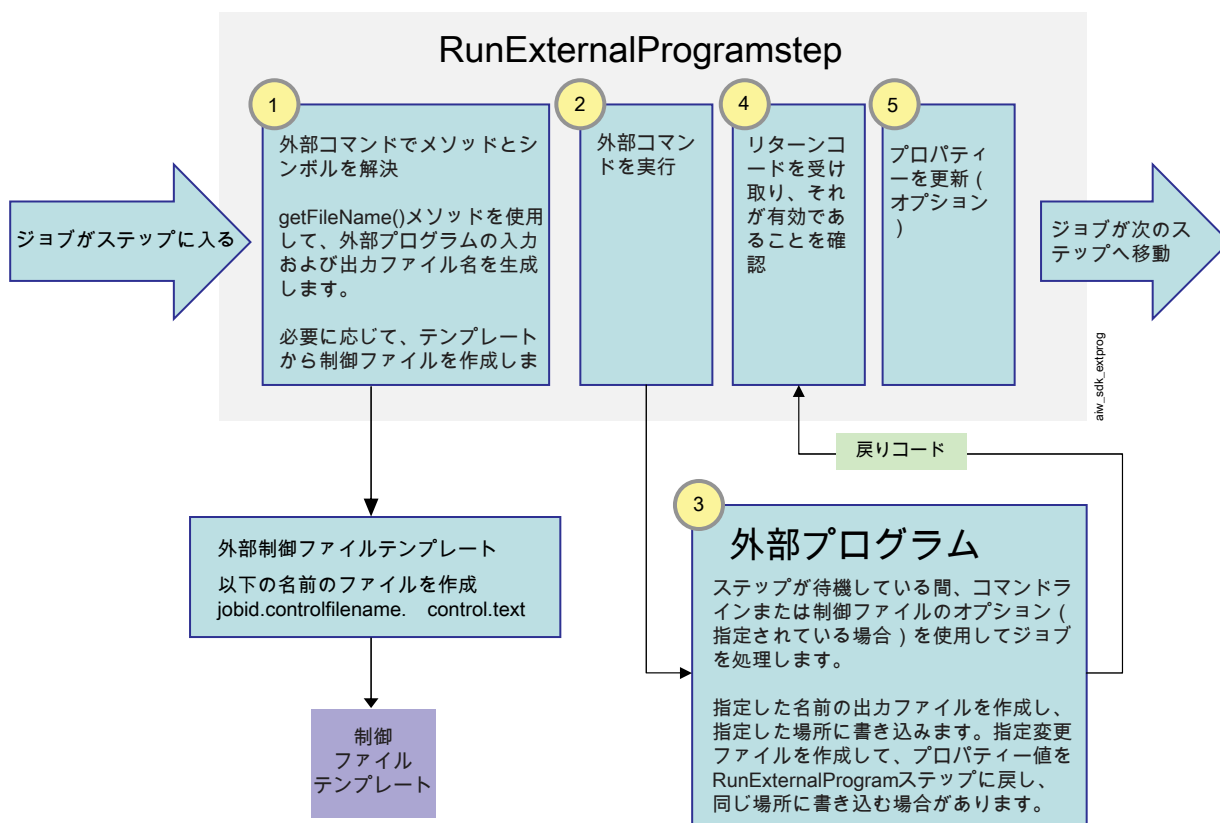
RunExternalProgramステップテンプレートに基づくステップは、ジョブのスプールディレクトリーのファイルにアクセスできます。入力装置が入力ファイルからジョブを作成するとき、ジョブのために固有のスプールディレクトリーも作成します。スプールディレクトリーには入力ファイルと、ジョブに関する情報を提供するその他のファイルのコピーが入ります。外部ステップは、スプールディレクトリーにある既存のファイルを更新したり、新しいファイルをディレクトリーに書き込んだりするプログラムを呼び出すことができます。

RunExternalProgramステップテンプレートに基づくステップを作成するときは、次のプロパティに対する値を含めることができます。

- Job.External.Command
- 外部制御ファイルテンプレート
- 外部プログラムコードページ
- 外部プログラム言語
- 有効な戻りコード

次の図に、RunExternalProgramStepステップがジョブを処理する方法を示します。このステップはコマンドのメソッドとシンボルを解決し、必要な場合は制御ファイルを作成し、コマンドを実行し、他のプログラムが処理を完了したときに戻りコードを受け取り、そのプログラムが指定変更ファイルを送り返した場合はジョブプロパティを更新します。次に、ジョブは次のステップに移動します。

RunExternalStepステップテンプレートの処理



3

ジョブが**RunExternalProgram**ステップに入ると、そのステップは【外部コマンド】プロパティで提供されたコマンドを実行しようとします。コマンドにRICOH ProcessDirectorシンボル表記で記述された部分が含まれている場合、このステップはそのコマンドを発行する前にすべての参照を解決します。

- コマンドには、次の2つのファイル名が含まれます。入力ファイル名（他のプログラムが取得するファイル）と出力ファイル名（他のプログラムがRICOH ProcessDirectorに返すファイル）です。ステップは、RICOH ProcessDirectorのメソッド**getFileName()**を使用してこれらの名前を生成する必要があります。コマンド内で実際のファイル名を使用する代わりに、このメソッドはファイル名のシンボルとして使用されます。
たとえば、入力ファイル名は`${getFileName(print,pdf,read)}`という記号で表され、出力ファイル名は`${getFileName(print,pdf,write)}`という記号で表されます。このメソッドを使用すると、アプリケーションは正しいファイルを検索して返すことができるようになります。
- コマンドにはRICOH ProcessDirectorプロパティに対するシンボルを含めることができます。その場合、それらのプロパティ値がコマンドに取り込まれます。
たとえば、他のアプリケーションがジョブ名を確認する必要がある場合、シンボル`${Job.Name}`を含むことができます。ステップは【ジョブ名】プロパティの値を見つけて、それをコマンドに取り込みます。
- アプリケーションは、パラメーターまたは制御ファイルのプロパティ値を受け入れます。
その場合、制御ファイルの名前を作成する**getControlFileName()**メソッドがコマンドに含まれます。ステップは【外部制御ファイルテンプレート】プロパティにリストされた制御ファイルテンプレートを使用して、制御ファイルの内容をビルドし、ファイル名をコマンドに挿入します。

- アプリケーションは、JDFジョブチケットの値を受け入れることもあります。
その場合は、JDFジョブチケットの名前を生成する`getFileName()`メソッドがコマンドに含まれます。この構文の例は、`${getFileName(overrides,jdf,read)}`のようになります。

すべてのシンボルが解決された後で、コマンドが実行します。

外部アプリケーションはそれ自体の処理を実行し、出力ファイルを正しい場所にコピーし、戻りコードを返します。出力ファイルには、次のようなものが含まれます。

- 変更された印刷ファイルで、コマンドに含まれた`getFileName()`シンボルの値に基づいて名前が付けられたもの
- プロパティー値をRICOH ProcessDirectorに戻すためのファイル
RICOH ProcessDirectorは、次のような方法で外部プログラムからプロパティー値を受け入れます。
 - RICOH ProcessDirectorの属性と値のペアのリストを含む`jobid.overrides.txt`または`.text`というファイルによる
 - ファイル名に属性と値のペアを含む空のファイルによる（コマンドの出力パラメーターのプロパティー値のペアがファイルに含まれる場合はスプールファイルの場所に作成される）

このステップは、そのステップの「有効な戻りコード」プロパティーにリストされた値と戻りコードを比較します。リストされたコードの1つと一致する場合、処理は続行します。一致しない場合は、ジョブはエラー状態になります。

このステップは、プロパティー値を保有するファイルを検索します。ファイルを検出した場合は、そのファイル（またはファイル名）を読み取って、プロパティー値を更新します。その後、ステップは処理を完了します。ジョブを他のステップに渡すか、ワークフローの分岐を終了します。

処理フロー：RunHotFolderApplication

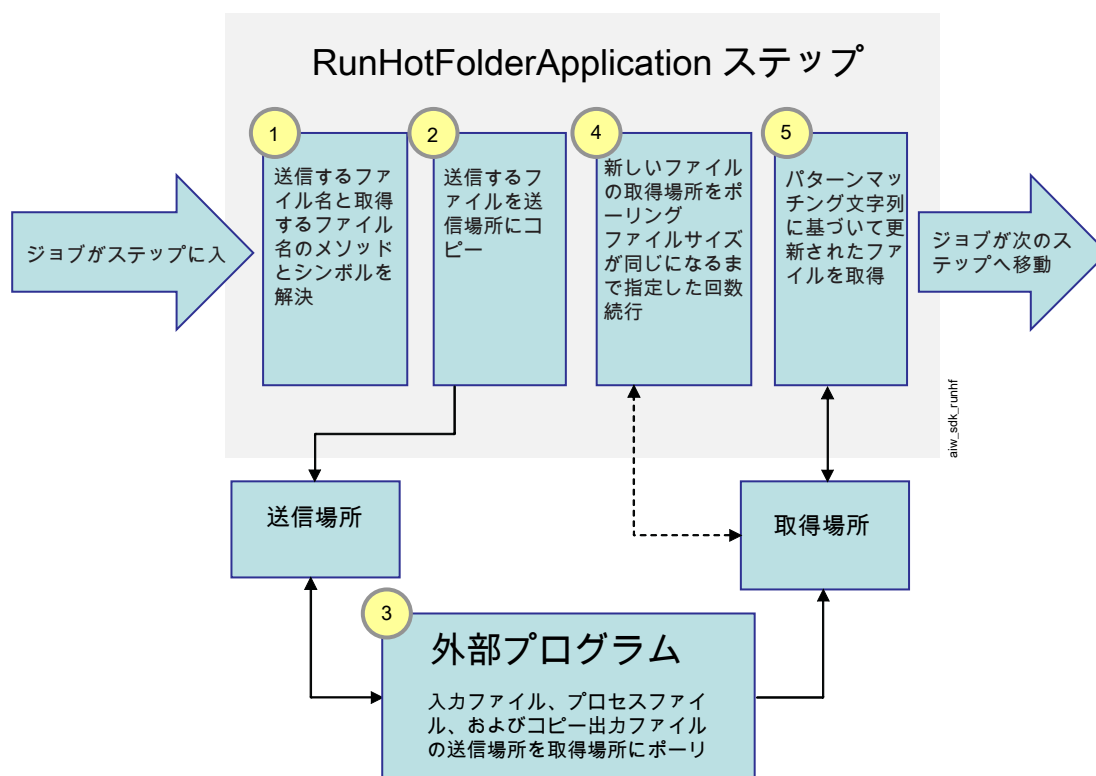
このステップを作成するとき、次のプロパティーに対する値を含めることができます。

- ファイルサイズ検査カウント
- 送信するファイル
- ポーリング間隔
- 検索フォルダー
- 検索パターン
- 検索済みファイル
- 送信フォルダー
- タイムアウト間隔

次の図に、RunHotFolderApplicationステップがジョブを処理する方法を示します。このステップは、送信するファイルの名前のメソッドおよびシンボルを解決し、送信場所にファイルをコピーし、外部プログラムがファイルを処理するのを待機します。このステップは、検索場所でファイルを監視して、その場所に完全にコピーされたときにファイルを取得します。次に、ジョブは次のステップに移動します。

このステップは、1つ以上のファイルを持つジョブを処理します。

RunHotFolderApplicationステップテンプレートの処理



ジョブがこのステップに入ると、[送信するファイル] プロパティの値を解決して、そのファイルをスプールディレクトリ内で検索します。このステップは、[送信フォルダー] プロパティで指定された場所に印刷ファイルをコピーします。他のアプリケーションがこの場所からファイルを取得することを期待します。

ファイルがコピーされると、[検索フォルダー] プロパティのリストにあるディレクトリの監視を開始します。このステップは、そのフォルダーで[検索パターン]に指定されたパターンを一致する名前のファイルを検索します。その基準と一致するファイルが存在しない場合、ステップは[ポーリング間隔] プロパティに指定された時間待機して、再度チェックします。

指定された時間が経過するまで、ファイルのチェックを継続します。この時間の長さは、[タイムアウト間隔] プロパティの値で決定されます。タイムアウト間隔は、印刷ファイルが[送信フォルダー]にコピーされてからの時間で計算されます。変更されたファイルがタイムアウト間隔が経過するまでに[検索フォルダー]に存在しない場合、ジョブはエラー状態になります。

ステップがそのディレクトリで予期したファイルを初めて検出したときは、ファイルのサイズを記録しますが、それ以外は何もしません。ステップは、処理を続行する前に、ファイル全体が他のアプリケーションから転送されたことを確認する必要があります。ポーリング間隔が経過すると、ステップは再度チェックし、ファイルを見つけ、ファイルのサイズを前回のチェックと比較します。

- ファイルが前回より大きくなっている場合、ステップは待機を続けて、再度ポーリング間隔が経過したときに再度サイズをチェックします。
- ファイルのサイズが前回と同じ場合、ファイルサイズが変化していないと注記され、「2回にわたってサイズは同じでした」のように表示されます。

ステップは、[ファイルサイズ検査カウント] の値を確認します。ファイルサイズが同じになった回数がこの値に達すると、ファイルが完全にコピーされたとステップがみなすようになります。ファイルサイズが同じだった回数がファイルサイズ検査カウントと等しくなった場合、そのステップはファイルが完了したとみなします。

ファイルが完了すると、ステップは[検索済みファイル] プロパティの値に基づいてそのファイルの名前を変更し、ジョブのスプールディレクトリーにコピーします。その後、ステップは処理を完了します。ジョブを他のステップに渡すか、ワークフローの分岐を終了します。

↓ 補足

RICOH ProcessDirectorは、特定の外部プログラムとのインターフェースとして機能する、個別に販売されている機能を提供します。具体例としては、Avanti Slingshot Connect、FusionPro Connect、Quadient Inspire Connect、PitStop Connect、Ultimate Impostrip®接がConnectがあげられます。Postal Enablementは、複数の外部プログラムと連携します。

- Avanti Slingshot Connectは、Avanti Slingshot Management Information Systemとのインターフェースとして機能します。
- FusionPro ConnectはFusionPro Serverとのインターフェースを提供します。
- PitStop Connectは、Enfocus PitStop Server 10以上とのインターフェースとして機能します。
- Postal Enablementは、Bell and Howell BCC Mail ManagerやTEC Mailing Solutions MailPreparerなど、郵便最適化ソフトウェアとのインターフェースとして機能します。
- Quadient Inspire Connectは、Quadient Inspire Designerバージョン8以上とのインターフェースとして機能します。
- Ultimate Impostrip®接続は、Windows上のUltimate Impostrip®自動化またはスケーラブルとのインターフェースを提供します。

RICOH ProcessDirectorは、これらの機能とともに外部プログラムソフトウェアを提供するわけではありません。

外部プログラムを設定する

外部ステップ用の構成タスクを開始する前に、外部ステップが呼び出す外部プログラムをセットアップする必要があります。

外部プログラム、さらに可能な場合は、アプリケーション/2次サーバーソフトウェアをインストールしてから、この手順を開始してください。

基本製品またはアプリケーション/2次サーバーおよび他アプリケーションをインストールするときは、以下の点に留意してください。

- RICOH ProcessDirectorソフトウェアをLinuxシステムにインストールする際に、インストールプログラムはRICOH ProcessDirectorシステムユーザー（**aiw1**がデフォルト）を作成します。Linuxシステムで実行される外部プログラムの動作を検証する場合は、RICOH ProcessDirectorシステムユーザーを使用して検証テストを実行してください。
- RICOH ProcessDirectorは、Windowsアプリケーションサーバー上ではRICOH ProcessDirectorのシステムユーザーアカウントを自動的に作成しません。インストールプログラムは、RICOH ProcessDirectorユーザーとして使用するユーザーアカウント名の入力を求めるプロンプトを出します。Windowsアプリケーションサーバーでは、

RICOH ProcessDirectorユーザーのユーザーアカウントから、外部プログラムの動作を検証してください。

- RICOH ProcessDirector1次コンピューターがLinuxシステムの場合、RICOH ProcessDirectorシステムユーザーおよび他アプリケーションで使用されるユーザーに、使用するディレクトリーおよびファイルシステムに対する適切な権限が与えられていることを確認してください。
 - RICOH ProcessDirector1次コンピューターがWindowsシステムで、マッピングされたネットワークドライブに他のアプリケーションが存在する場合、RICOH ProcessDirectorが始動したら必ずmountDrives.batファイルを編集してネットワークドライブをマッピングします。ファイルは c:¥aiw¥aiw1¥bin¥ ディレクトリーにあります。
 - Linux 1次コンピューター上のRICOH ProcessDirectorシステムユーザーまたはWindows 1次コンピューター上のRICOH ProcessDirectorが他のアプリケーションを実行できることを確認してください。次のいずれかの方法を使用します。
 - 作成するコマンドに、アプリケーションへの絶対パスを含めます。
 - Windows 1次コンピューターのPATH環境変数にアプリケーションを追加するか、Linux 1次コンピューターでRICOH ProcessDirectorシステムユーザーを追加します。この方法が最も効果を発揮するのは、他アプリケーションが1次サーバーと同じシステムで実行される場合です。アプリケーションがアプリケーション/2次サーバーで実行される場合は、この方法を使用するには他アプリケーションがインストールされているディレクトリーをマウントする必要があります。
 - Linux 1次コンピューターで、他アプリケーションへのシンボリックリンクを作成して、そのリンクを /aiw/aiw1/bin に保存します。
そのディレクトリーにシンボルリンクを保存することには、いくつかの重要な利点があります。RICOH ProcessDirectorは、RICOH ProcessDirectorシステムユーザーを作成する際に、そのディレクトリーをPATH環境変数に付加するため、PATHを別途編集することなくアプリケーションが認識できるようになります。このディレクトリーは、サービス適用時に削除されることはありません。ただし、このディレクトリー内のファイルが更新される可能性はあります。リンクファイルに影響が及ぶことはありません。
- さらに、このディレクトリーにはアプリケーションおよび2次サーバーからアクセスできます。したがって、/aiw ファイルシステム内にある場合、シンボリックリンクを使用して外部アプリケーションを検出できます。外部アプリケーションは、Linux 1次コンピューターとWindowsアプリケーションサーバーのどちらでも、実行することができません。

外部プログラムをセットアップするには、次の手順に従います。

1. 外部プログラムがスタンドアロンプログラムとして正常に実行されることを、プログラムの資料を参照しながら検証します。
2. **RunExternalProgram** を使用する予定の場合は、次の手順に従います。
 1. アプリケーションがLinuxコンピューターで実行される場合、RICOH ProcessDirectorシステムユーザーとしてログインします。Windowsコンピューターで実行される場合、管理者としてログインします。
 2. プログラムをコマンドラインから呼び出して入力ファイルを渡すためのコマンドを作成します。

ステップテンプレートを構成するときにモデルとして使用できるように、正常に動作するコマンドを記録してください。

3. オプション：ステップで使用する制御ファイルテンプレートを作成します。

外部プログラムに必要なプロパティ値を、印刷ファイルに付随するパラメーターファイルから読み取らせる場合は、このファイルを

RunExternalProgram ステップで作成できます。このステップでのファイル生成には、制御ファイルテンプレートが使用されます。制御ファイルテンプレートを作成するには、次の手順に従います。

1. アプリケーションで使用可能なパラメーターファイルのコピーを作成します。

2. ファイル内のすべてのプロパティ値を、プロパティの RICOH ProcessDirector シンボル表記で置き換えます。プロパティ値がジョブ内のファイルの名前の場合は、ファイル名を決定するための適切な RICOH ProcessDirector メソッド呼び出しで置き換えてください。

このステップが実際に処理されるときに、テンプレートのすべての参照が解決され、現在のジョブの値が代入されてパラメーターファイルが作成されます。

3. 制御ファイルテンプレートを /aiw/aiw1/ (Linux) または C:¥aiw¥aiw1¥ (Windows) 共有ファイルシステム (RICOH ProcessDirector) 内のディレクトリーにコピーします。

外部プログラム用のサンプル制御ファイルテンプレートは、/aiw/aiw1/samples/external_programs/ (Linux) または C:¥aiw¥aiw1¥samples¥external_programs¥ (Windows) にインストールされています。これらのファイルを /aiw/aiw1/control_files/external_programs/ (Linux) または C:¥aiw¥aiw1¥control_files¥external_programs¥ (Windows) ディレクトリーにコピーしてカスタマイズしたり、独自の制御ファイルを /aiw/aiw1/control_files/external_programs/ (Linux) または C:¥aiw¥aiw1¥control_files¥external_programs¥ (Windows) ディレクトリーに追加したりできます。制御ファイルテンプレートのディレクトリー位置を書き留めておきます。

4. Linux システムでは、制御ファイルテンプレートのファイル許可で、他のクラスのスistem ユーザーによるアクセスが許可されていることを確認します。例えば、制御ファイルテンプレートの許可を **666** に設定してください。

5. 外部コマンドが、予期されているとおりのパラメーターで制御ファイルを渡すことを確認します (例えば、追加のジョブ・プロパティを組み込むための -o オプション)。

4. オプション：Linux システムでは、アプリケーションへのシンボリックリンクを1次コンピューター上で作成します。

1. RICOH ProcessDirector 基本製品が稼働しているシステムに、RICOH ProcessDirector システムユーザーとしてログインします。
2. stopaiw コマンドを使用して、1 次サーバーを停止します。
3. 次のコマンドを使用してシンボリックリンクを作成します。

```
ln -s application_file /aiw/aiw1/bin/link_file
```

application_file をアプリケーションの実行可能ファイルへの絶対パスで置き換え、*link_file* は、作成するシンボリックリンクファイルの名前で置

き換えてください。実行可能ファイルは、/aiw ファイルシステム内に存在する必要があります。

4. startaiw コマンドを使用して 1 次サーバーを始動します。
3. **RunHotFolderApplication** を使用する予定の場合は、次の手順に従います。
 1. 1 次コンピューターにログオンします。Linux システムで、RICOH ProcessDirector システムユーザーとしてログインします。
 2. サンプルの印刷ファイルを、アプリケーションの入力フォルダーにコピーまたは転送します。
 3. 他アプリケーションによってこのファイルの処理が開始されたことを確認します。
 4. 作成されるファイルの出力フォルダーを監視します。出力ファイルが作成されたら、別のディレクトリーにコピーするか転送してから、ファイルが正しいことを検証します。
 5. 他アプリケーションのログファイルが保管されているディレクトリーにナビゲートし、ログファイルを開いて表示できることを確認します。

外部ステップ

外部コマンド

RunExternalProgram ステップテンプレートを使用する場合、ステップテンプレートの作成を始める前に、使用するコマンドについて理解してください。RICOH ProcessDirector シンボル表記を使用する外部コマンドの例を次に示します。

新しい印刷ファイルを宛先にコピーする

次の例では、Linux **cp** コマンドが、ソースファイルが宛先ファイルよりも新しい場合にのみ、ジョブのスプールディレクトリーから *JobNumber.print.pdf* ファイルをコピーします。

```
cp -u ${getAbsoluteFileName(print, pdf, read)} /tmp/jobarchives
```

\${getAbsoluteFileName(print, pdf, read)} は、スプールディレクトリーにある PDF 印刷ファイルの名前を返す RICOH ProcessDirector シンボル式です。PDF 印刷ファイルがスプールディレクトリーにない場合は、外部プログラムの実行時にエラーが発生します。

印刷ファイルを更新してそれをスプールディレクトリーに書き込む

次の例では、外部プログラム **myprogram** がスプールディレクトリーから *JobNumber.print.pdf* ファイルを読み取り、リダイレクトを使用してファイルの更新バージョンをスプールディレクトリーに書き込みます。

```
myprogram -i ${getFileName(print, pdf, read)} >
${getFileName(print, pdf, write)}
```

\${getFileName(print, pdf, read)} は、スプールディレクトリーにある PDF 印刷ファイルの名前を返す RICOH ProcessDirector シンボル式です。外部プログラムの実行時にスプールディレクトリーに PDF 印刷ファイルがない場合、RICOH ProcessDirector はジョブの入力ファイル名 *JobNumber.print.unknown* を返します。そのファイルがスプールディレクトリー内にない場合、エラーが発生します。

印刷ジョブの指定変更ファイルを読み取って統計ファイルをスプールディレクトリーに書き込む

次の例では、外部プログラム**auditstatistics**がスプールディレクトリーから**JobNumber.overrides.text**ファイルを読み取り、新しい統計ファイル**JobNumber.statistics.text**をスプールディレクトリーに書き込みます。

```
auditstatistics inputfile=${getFileName(overrides, text, read)}
outputfile=${getFileName(statistics, text, write)}
```

個別のファイルを使用してプロパティー値を印刷ファイルとともに外部プログラムに渡す

この例では、Linux **cp** コマンドが、既存のRICOH ProcessDirector制御ファイルに対応するCSVファイルを生成します。制御ファイルは、9個のRICOH ProcessDirectorジョブプロパティーに対するシンボルをリストします。

```
cp ${getControlFileName()} /aiw/aiw1/samples/${Job.ID}.info.csv
```

\${getControlFileName()}は、RICOH ProcessDirector解決された制御ファイルの名前を返すシンボル式です。RICOH ProcessDirectorは、指定した制御ファイルテンプレートから制御ファイルを生成します。

制御ファイルは**getChildFileName**メソッドを使用して子ファイルの名前を返すことにより、外部プログラムがファイルをスプールディレクトリーの**children**サブディレクトリーに書き込むことができるようにします。外部プログラムは子ジョブファイルのファイル名を、次の形式で書き込む必要があります。

```
JobNumber.UsageType.DataType.n,Job.JobType=JobTypeName
```

JobTypeNameは、子ジョブが必要とするワークフローの名前です。ワークフローは、存在していて使用可能になっている必要があります。

RunExternalProgramステップテンプレートに基づくステップを【ジョブタイプ】プロパティーノートブックを使用するワークフローに追加すると、ジョブのデフォルト設定で【受信】と表示されているプロパティーが、ステップの追加先である実際のフェーズを反映するように変わります。

完全パス名を使用してコマンドを呼び出す

この例では、完全パス名を使用してユーザーに提供された外部プログラム**mytransform**を呼び出してファイルをPDF形式に変換します。**mytransform**は入力ファイルと出力ファイルの名前を制御ファイルから読み取ります。

```
/opt/myprograms/bin/mytransform -c ${getControlFileName()}
```

印刷ファイルをWindowsシステムにアーカイブする

次の例では、外部プログラムがWindows **copy** コマンドを使用して、スプールディレクトリーからの**JobNumber.print.pdf**ファイルのコピーをWindowsシステム上のアーカイブディレクトリーに書き込みます。

```
copy ${getAbsoluteFileName(print,pdf,read)} d:%archive%pdf
```

↓ 補足

- WindowsシステムディレクトリーにRICOH ProcessDirectorがインストールされ、Windowsアプリケーションサーバーが1次サーバーと接続されている必要があります。
- Windowsディレクトリーは、ディレクトリー名のネイティブWindows形式を使用して指定します。
- 必要に応じて、Windows Services for UNIX (SFU) コマンドの代わりにネイティブWindowsコマンドを使用します。例えば、cpコマンドの代わりにcopyコマンドを使用してください。すべてのSFUコマンドがWindowsシステムで使用できるわけではありません。
- コマンドによっては、Windowsシステム上のディレクトリーがなくてもよい場合があります。このコマンドにより、Windowsシステム上にディレクトリーが作成されます。
- ステップテンプレートがWindowsアプリケーションサーバー上でのみ実行されるように調整されていることを確認します。Linuxではディレクトリー名の形式が異なるため、このステップテンプレートに基づくステップをRICOH ProcessDirectorがWindows以外のシステムで実行しようとするすると失敗します。

RICOH ProcessDirector メソッドの使用

RICOH ProcessDirector は、ジョブの作成時に、スプールディレクトリーも作成します。スプールディレクトリーには入力ファイルと、ジョブに関する情報を提供するその他のファイルのコピーが入ります。ステップとコマンドは、処理中にスプールディレクトリー内のさまざまなファイルにアクセスし、これらを使用できます。また、外部プログラムは、既存のスプールファイルを更新し、新しいファイルをディレクトリーに書き込むことができます。

RICOH ProcessDirector は、ジョブのスプールディレクトリーでファイルの読み取りや書き込みを実行するために、以下のメソッドを提供しています。

- `getFileName`
- `getAbsoluteFileName`
- `getCurrentFile`
- `getCurrentAFPFile`
- `getControlFileName`
- `getChildFileName`
- `getChildFileStem`

スプールディレクトリー名

RICOH ProcessDirectorがジョブ用に作成するデフォルトのスプールディレクトリーは/`aiw/aiw1/spool/default/JobNumber` (Linux) または`C:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥JobNumber` (Windows) です。

例:

- /aiw/aiw1/spool/default/10000006 (Linux)
- C:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥10000006 (Windows)

子ジョブ用に作成されるデフォルトのスプールディレクトリーは/aIW/aIW1/spool/default/JobNumber.Number (Linux) またはC:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥JobNumber.Number (Windows)です。例:

- /aiw/aiw1/spool/default/10000006.4 (Linux)
- C:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥10000006.4 (Windows)

RICOH ProcessDirectorメッセージおよびジョブのプロパティーノートブックは、スプールディレクトリーをルートファイルパスとして参照します。

RICOH ProcessDirectorは、常にデフォルトのスプールディレクトリーの名前にこれらの命名規則を使用します。承認されたユーザーは、デフォルトの命名規則を変更できません。

追加のスプールディレクトリーを作成できます。追加のスプールディレクトリー名の形式は、/aiw/aiw1/spool/SpoolName/JobNumber (Linux) またはC:¥aiw¥aiw1¥spool¥SpoolName¥JobNumber (Windows) と/aIW/aIW1/spool/SpoolName/JobNumber.Number (Linux) またはC:¥aiw¥aiw1¥spool¥SpoolName¥JobNumber.Number (Windows)です。SpoolNameは、許可ユーザーが定義したサブディレクトリー名です。

スプールファイル名

RICOH ProcessDirector はジョブを処理するとき、そのジョブ用のスプールファイルを作成します。RICOH ProcessDirector スプールファイル名のフォーマットは次のとおりです。

構文 1、親ジョブまたはスタンドアロンジョブ:

```
JobNumber.Usagetype.Datatype
```

構文 2、子ジョブ:

```
JobNumber.Usagetype.Datatype.ChildGroupID
```

ここで、

Usagetype

ジョブ中のスプールファイルの目的または役割を記述します。使用タイプキーワードには大/小文字の区別があります。RICOH ProcessDirector には、ここにリストされているキーワード以外の使用タイプキーワードもありますが、外部プログラムによる読み取りまたは書き込みの対象となるスプールファイルの使用タイプキーワードは次のとおりです。

aiwlist

ジョブの入力ファイルとその実行依頼タイプごとに 1 つの項目が入っています。ジョブによって異なりますが、RICOH ProcessDirector は 1 つ以上の入力ファイルを作成しているか、または初期ジョブデータが入っている入力ファイルを伴っている場合があります。aiwlist ファイルは問題判別に役立ちます。

次の例は、RICOH ProcessDirector が 1 つ以上の入力ファイルを作成するときのファイルの内容を示しています。最初の列の情報は実行依頼タイプです。

Linux:

```
Data;/aiw/aiw1/System/hf/PDF/Staged/
sample.PRD.AIW_TS.2006-04-27-08.57.31.476
Other;/aiw/aiw1/System/hf/PDF/Staged/
sample.JCL.AIW_TS.2006-04-27-08.57.31.593
List;/aiw/aiw1/System/hf/PDF/Staged/
sample.lst.AIW_TS.2006-04-27-08.57.31.534
AIWList;/aiw/aiw1/System/hf/PDF/Staged/
AIWList.AIW_TS.2006-04-27-08.57.31.794
```

Windows:

```
Data;C:\aiw\aiw1\System\hf\PDF\Staged\
sample.PRD.AIW_TS.2006-04-27-08.57.31.476
Other;C:\aiw\aiw1\System\hf\PDF\Staged\
sample.JCL.AIW_TS.2006-04-27-08.57.31.593
List;C:\aiw\aiw1\System\hf\PDF\Staged\
sample.lst.AIW_TS.2006-04-27-08.57.31.534
AIWList;C:\aiw\aiw1\System\hf\PDF\Staged\
AIWList.AIW_TS.2006-04-27-08.57.31.794
```

制御

RICOH ProcessDirector が生成する特殊な制御ファイルです。これには、ジョブの入力ファイルに付随する制御ファイルテンプレートで指定された処理パラメーターが含まれます。RICOH ProcessDirectorは、ジョブの【外部制御ファイルテンプレート】プロパティーで指定されたファイルから制御ファイルを生成します。制御ファイルを作成するとき、RICOH ProcessDirector 固有の項目を制御ファイルテンプレートから解決します。例えば、PDF ワークフローは準備フェーズで RunExternalProgram ステップを実行します。RunExternalProgram ステップは、この【外部コマンド】プロパティーを指定します。

```
/aiw/aiw1/bin/copy_files.pl ${getControlFileName()} /aiw/
aiw1/samples/${Job.ID}.info.csv
```

RunExternalProgram ステップは、この【外部制御ファイルテンプレート】プロパティーを指定します。

```
/aiw/aiw1/control_files/external_programs/job_info.cfg (Linux)
C:\aiw\aiw1\control_files\external_programs\job_info.cfg
(Windows)
```

[job_info.cfg] 制御ファイルテンプレートには、次の情報が入っています。

```
Job.ID,Job.Name,Job.JobType,Job.SubmitTime,Job.RequestedPrinter,
Job.InputFile.Size,Job.JobSize,Job.TotalPages,Job.TotalSheets

${Job.ID},${Job.Name},${Job.JobType},${Job.SubmitTime},
${Job.RequestedPrinter},${Job.InputFile.Size},${Job.JobSize},
${Job.TotalPages},${Job.TotalSheets}
```

RICOH ProcessDirector がこのテンプレートから制御ファイルを作成するとき、\${Job.ID}、\${Job.Name}、\${Job.JobType}、\${Job.SubmitTime}、\${Job.RequestedPrinter}、\${Job.InputFile.Size}、\${Job.JobSize}、\${Job.TotalPages}、および \${Job.TotalSheets} の各シンボルの値を実際の RICOH ProcessDirector ジョブプロパティーに解決します。例：

```
${Job.ID}=10000001
```

```

${Job.Name}=Demo.pdf
${Job.JobType}=PDF
${Job.SubmitTime}=10:02.35
${Job.RequestedPrinter}=Sample
${Job.InputFile.Size}=2608549
${Job.JobSize}=26
${Job.TotalPages}=26
${Job.TotalSheets}=26

```

↓ 補足

- RICOH ProcessDirector によって作成されるすべてのジョブに、そのスプールディレクトリー内の制御ファイルが関連付けられているわけではありません。

overrides

ジョブの入力ファイルに付随するジョブ固有のパラメーターのコピーが含まれます。RICOH ProcessDirectorは、制御ファイルとともにこれらのパラメーターを使用して、ジョブのジョブプロパティーを設定できます。

たとえば、AFPサポート機能がインストールされている場合、RICOH ProcessDirectorが Download for z/OS またはAFP Download Plusから受信するジョブには、Downloadデーモンが生成する *datasetname.JCL* ファイルが含まれています。これらのファイルには、JCL パラメーターに指定された値を表す情報があります。次の例は、パラメーターの JCL 値が入っている指定変更ファイルの内容を示しています。

```

"-odatat=line -ofileformat=record -occ=yes -occtype=a -ochars=GF10
-opagedef=P1A 06462 -of=F1A10110 -ocop=001 -odatac=block -ojobn=PAYROLL
-ous=ADMIN1 -ono=BLD PDEVL -opr=KYSMITH -opa=forms=STD,class=C,
destination=CHI3,jobid=JOB 02357,OUTGRP=NEXT"

```

制御ファイル (RICOH ProcessDirector が提供する /aiw/aiw1/samples/rules/ (Linux) または C:\aiw\aiw1\samples\rules\ (Windows) の receive_jcl_jobtype.cfg など) は指定変更ファイルを処理できます。

↓ 補足

- RICOH ProcessDirector によって作成されるすべてのジョブに、そのスプールディレクトリー内の指定変更ファイルが関連付けられているわけではありません。

印刷する

ジョブのデータが入っている印刷ファイル。このデータは、RICOH ProcessDirector が受信した入力ファイルのフォーマットと一致する場合もあれば、異なるフォーマットである場合もあります。フォーマットは、ジョブに対して実行された処理によって異なります。たとえば、入力ファイルは処理中に PostScript に変換される場合があります。

RICOH ProcessDirector で使用される使用タイプキーワードに加えて、許可ユーザーは、RICOH ProcessDirector メソッドを使用してスプールディレクトリー内のファイルを操作するとき、独自の使用タイプキーワードを指定できます。ただし、外部プログラムによってスプールディレクトリーに書き込まれたファイルが RICOH ProcessDirector でさらに処理される場合は、ユーザー定義キーワードを RICOH ProcessDirector キーワードの変形にすることはできません。例えば、**PRINT** または

Print という使用タイプを使用しないでください。RICOH ProcessDirector は **print** のみ認識します。

Datatype

スプールファイルの内容またはデータストリームタイプを記述します。特定のジョブのスプールディレクトリーに特定のデータタイプのスプールファイルが入るかどうかは、ジョブに対して実行された処理によって異なります。データタイプキーワードでは大/小文字が区別されます。RICOH ProcessDirector には、次のキーワードが用意されています。

afp

AFP (Advanced Function Presentation) フォーマット。スプールファイルにはジョブ印刷データが入っています。

gif

グラフィック交換形式 (GIF) スプールファイルにはイメージデータが入っています。

jdf

ジョブ定義フォーマット (JDF)。スプールファイルには、ジョブチケットからのジョブ固有パラメーターが入っています。

jpeg

Joint Photographic Experts Group (JPEG) フォーマット。スプールファイルにはイメージデータが入っています。

json

JavaScript Object Notation (JSON) 形式。

linedata

行データフォーマットまたは混合モードフォーマット。スプールファイルにはジョブ入力データが入っています。

mjm

Portable Document Format (PDF)、Job Definition Format (JDF)、Job Messaging Format (JMF) 形式のデータを使用する Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME) パッケージ。スプールファイルには、ジョブチケットからのジョブ入力データとジョブ固有パラメーターが入っています。

pcl

Printer control language (PCL) フォーマット。スプールファイルにはジョブ入力データが入っています。

pdf

Portable Document Format (PDF)。スプールファイルにはジョブ入力データが入っています。

ps

PostScript フォーマット。スプールファイルにはジョブ入力データが入っています。

テキスト

データストリームはプレーンテキストファイルです。スプールファイルには、処理パラメーターや外部プログラムによって作成された情報など、非ジョブデータを入れることができます。

tiff

Tagged Image File Format (TIFF)。スプールファイルにはイメージデータが入っています。

xml

Extended Markup Language (XML) 形式。スプールファイルには、詳細に構造化された XML が入っています。

zip

1 つ以上のファイルのデータ圧縮およびアーカイブフォーマットです。スプールファイルには、zip ファイル内のファイルの形式に応じて、ジョブ入力データ、イメージデータ、または非ジョブデータを入れることができます。

不明

データストリームのフォーマットは不明です。これは、ジョブのオリジナル入力ファイルのコピーであるスプールファイルに、RICOH ProcessDirector が最初から設定しているデータタイプキーワードです。詳しくは、[[入力データストリーム]] ジョブプロパティの説明を参照してください。データタイプキーワードが **unknown** であるファイルは、RICOH ProcessDirector によってジョブが作成された後、少しの間だけスプールディレクトリーに残っている場合があります。

RICOH ProcessDirector で使用されるデータタイプキーワードに加えて、許可ユーザーは、RICOH ProcessDirector メソッドを使用して、外部プログラムでスプールディレクトリーにファイルを書き込むとき、独自のデータタイプキーワードを指定できます。ただし、外部プログラムによってスプールディレクトリーに書き込まれたファイルが RICOH ProcessDirector でさらに処理される場合は、データタイプのユーザー定義キーワードを RICOH ProcessDirector キーワードの変形にすることはできません。例えば、PDF または Pdf というデータタイプは使用しないでください。RICOH ProcessDirector は pdf のみ認識します。

ChildGroupID

外部プログラムによって作成された子ジョブに関連するすべてのファイルを識別してグループ化するために、RICOH ProcessDirector が使用する固有の数値。子グループ ID キーワードは、データタイプキーワードに追加されます。親ジョブまたは単一のジョブには、子グループ ID キーワードはありません。

getFileNameおよびgetAbsoluteFileNameの構文

getFileName および **getAbsoluteFileName** メソッドを使用して、スプールディレクトリーにある特定のファイルの名前を返すことができます。RICOH ProcessDirector はジョブごとに固有のジョブ番号を割り当て、ファイル名にそのジョブ番号を使用するため、役に立ちます。2 つのメソッドの主な違いは、明確に要求したファイルが存在しない場合に **getAbsoluteFileName** は失敗すること、**getFileName** は代替スプールファイルの名前を返すことができることです。

RICOH ProcessDirector **getFileName** メソッドまたは **getAbsoluteFileName** メソッドを使用するには、シンボル表記を使用して、RICOH ProcessDirector シンボル式としてこれらのメソッドを参照してください。次のいずれかの構文を使用します。

構文 1、単一検索:

```
${getFileName(UsageKeyword, DatatypeKeyword, FileaccessKeyword)}  
${getAbsoluteFileName(UsageKeyword, DatatypeKeyword, FileaccessKeyword)}
```

構文 2、反復検索:

```
${getFileName(UsageKeyword, (DatatypeKeyword1, DatatypeKeyword2...),  
FileaccessKeyword)}  
${getAbsoluteFileName(UsageKeyword, (DatatypeKeyword1,  
DatatypeKeyword2...), FileaccessKeyword)}
```

ここで、

UsageKeyword

スプールファイルの使用タイプを識別する、大/小文字の区別があるキーワード。許可ユーザーが指定できる値は、スプールファイル名の使用タイプ部分に指定できる値と同じです。たとえば、**aiwlist**、**control**、**overrides**、**print**などのRICOH ProcessDirector提供のキーワードを指定できます。また、独自のユーザー定義キーワードを指定することもできます。

DatatypeKeyword または (*DatatypeKeyword1*, *DatatypeKeyword2*...)

スプールファイルのデータタイプを指定する、大/小文字の区別があるキーワード。許可ユーザーが指定できる値は、スプールファイルのデータタイプ部分に指定できる値と同じです。たとえば、RICOH ProcessDirector提供のキーワード (**jdf**、**pdf**、または**gif**) を指定できます。また、独自のユーザー定義キーワードを指定することもできます。

最初のタイプのスプールファイルが見つからなくても、RICOH ProcessDirectorに別のスプールファイルの検索を続行させたい場合は、複数のデータタイプキーワードを指定できます。キーワードは、コンマで区切り、括弧で囲んでください。例:

```
${getFileName(UsageKeyword, (print, pdf), FileaccessKeyword)}
```

この例では、まず **getFileName** メソッドは、データタイプ **print** のスプールファイルを探します。一致するファイル名が見つからない場合、データタイプ **pdf** のスプールファイルを探します。一致するスプールファイル名が見つからない場合は、データタイプが【不明】のスプールファイルを探します。このスプールファイルが存在しない場合、RICOH ProcessDirectorはエラーメッセージを出します。

↓ 補足

処理において、ファイルの名前をRICOH ProcessDirectorが解決しようと試みる時点で、メソッドがファイルを検索するかどうかが決まります。ワークフローで **SetJobPropsFromTextFile** ステップが組み込まれている場合、**getFileName** メソッドの代わりに **getAbsoluteFileName** メソッドを使用してください。**SetJobPropsFromTextFile** ステップは、入力装置がジョブを作成した後、すぐに **getFileName** メソッドが提示するファイル名を解決しようと試みます。処理において、この時点ですべてのスプールファイルを使用できるわけではありません。RICOH ProcessDirectorは、ジョブを作成した後、すぐに **getAbsoluteFileName** メソッドが提示するファイル名を解決しようとしません。

また、複数のデータタイプ値を **getAbsoluteFileName** メソッドで指定することもできます。例:

```
${getAbsoluteFileName(UsageKeyword, (pdf, postscript, text),  
FileaccessKeyword)}
```

getAbsoluteFileName メソッドは **getFileName** メソッドと同じ方法でスプールファイルを探しますが、1つだけ例外があります。指定されているどのデータタイプのスプールファイルも存在しない場合、デフォルトでは、**getAbsoluteFileName** メソッドはデータタイプ **unknown** のスプールファイルを探しません。

FileaccessKeyword

読み込みまたは**書き込み**のいずれかのファイルアクセス権のキーワードにより、外部プログラムがファイルをスプールディレクトリーから読み込むかどうか、またはファイルをスプールディレクトリーに書き込むかどうかを指定します。RICOH ProcessDirectorは、外部プログラムがファイルを読み込みまたは書き込みするかどうかに応じて、スプールディレクトリーのサブディレクトリーにファイルを作成します。

checkpoints サブディレクトリー

外部プログラムが書き込み操作によってファイルを変更した場合、RICOH ProcessDirectorはファイルのオリジナルバージョンをこのサブディレクトリーに移動します。その後で許可ユーザーから再処理アクションが要求された場合、RICOH ProcessDirectorはcheckpointsサブディレクトリーからオリジナルのスプールファイルを復元できます。これで、外部プログラムは、最初にファイルを処理したときと同じ入力を書き込み操作で使用できます。

tmp サブディレクトリー

外部プログラムが新しいファイルを作成した場合、RICOH ProcessDirectorは外部プログラムを呼び出した外部ステップが終了するまで、そのファイルをこのサブディレクトリーに保管します。ステップが完了すると、RICOH ProcessDirectorは、その新しいファイルをスプールディレクトリーに移動します。

↓ 補足

子ジョブを作成する外部プログラムは、それらをジョブのスプールディレクトリーのchildrenサブディレクトリーに書き込む必要があります。外部プログラムが作成する子ジョブのファイル名は、次の形式である必要があります。

```
JobNumber.UsageType.Datatype,ChildGroupID,Job.JobType=JobType
```

*ChildGroupID*は、単一の子ジョブに関連付けられているすべてのファイルで同じである必要があります。外部プログラムが複数の子ジョブを生成する場合は、新しい子ジョブに関連付けられたファイルセットごとに *ChildGroupID* を増やす必要があります。

外部プログラムはファイル名に **,Job.JobType=** を追加します。これは、ワークフロープロパティのデータベース名です。**JobType** 値は、子ジョブが必要とするワークフローの名前です。このワークフローは、存在していて使用可能になっていなければなりません。

getFileName および getAbsoluteFileName の読み取りの例

これらの例はすべて、スプールディレクトリーを使用しています。

- /aiw/aiw1/spool/default/10000006 (Linux)
- C:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥10000006 (Windows)

スプールディレクトリーには、次のスプールファイルが含まれます。

```
10000006.banner_attributes.text
10000006.control.text
10000006.overrides.text
10000006.print.pdf
10000006.print.unknown
10000006.resources.pdf
10000006.resources.log
10000006.resources.outlines
```

これらの例は、[[入力データストリーム]] ジョブプロパティの値が、どのような方法でも (例えば、ワークフローのジョブデフォルトまたは検出ステップによって) 設定されなかったことが前提となっています。そのため、データタイプ **unknown** のスプールファイルがスプールディレクトリーに存在しています。

- 外部プログラムがファイルに対して読み取り操作を実行できるよう、ジョブの制御ファイルのパスと名前 /aiw/aiw1/spool/default/10000006/10000006.control.text (Linux) または C:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥10000006¥10000006.control.text (Windows) を返すには、次のようにします。

```
{getFileName(control, text, read)}
{getAbsoluteFileName(control, text, read)}
```

- 外部プログラムがファイルに対して読み取り操作を実行できるよう、ジョブの入力ファイルのパスと名前 /aiw/aiw1/spool/10000006/10000006.print.unknown (Linux) または C:¥aiw¥aiw1¥spool¥10000006¥10000006.print.unknown (Windows) を返すには、次のようにします。

```
{getFileName(print, unknown, read)}
{getAbsoluteFileName(print, unknown, read)}
```

この例では、スプールディレクトリーを使用します。

- /aiw/aiw1/spool/default/10000009 (Linux)
- C:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥10000009 (Windows)

スプールディレクトリーには、次のスプールファイルが含まれます。

```
10000009.banner_attributes.text
10000009.control.text
10000009.overrides.text
10000009.print.ps
10000009.resources.pdf
10000009.resources.log
10000009.resources.outlines
```

この例では、入力データストリームのタイプが検出され、10000009.print.ps はオリジナルの入力ファイルのコピーです。サポートされているいずれかの PostScript 形式の入力ファイルを検索するには、次のようにします。

```
${getFileName(print, (pdf, ps), read)}
```

```
${getAbsoluteFileName(print, (pdf, ps), read)}
```

どちらのメソッドも、まず名前 10000009.print.pdf のスプールファイルを探します。ただし、このファイルは存在しないため、メソッドは引き続き名前 10000009.print.ps のスプールファイルを探します。

getFileName および getAbsoluteFileName の書き込みの例

これらの例はすべて、スプールディレクトリーを使用しています。

- /aiw/aiw1/spool/default/10000006 (Linux)
- C:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥10000006 (Windows)
- 新しい統計レコードファイルをスプールディレクトリーに書き込む、外部プログラムによる書き込み操作をセットアップするには、次のようにします。

```
${getFileName(statistics, record, write)}
```

```
${getAbsoluteFileName(statistics, record, write)}
```

RICOH ProcessDirectorには、パスおよびファイル名/aiw/aiw1/spool/default/10000006/10000006.statistics.record (Linux) およびC:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥10000006¥10000006.statistics.record (Windows) の外部プログラムが用意されています。

- スプールディレクトリー内の AFP 印刷ファイルを更新する、外部プログラムによる書き込み操作をセットアップするには、次のようにします。

```
${getFileName(print, pdf, write)}
```

```
${getAbsoluteFileName(print, pdf, write)}
```

RICOH ProcessDirector は、ジョブのスプールディレクトリーの checkpoint サブディレクトリーに、10000006.print.pdf という名前のファイル (存在する場合) をチェックポイント指定します。

また、RICOH ProcessDirectorには、パスおよびファイル名/aiw/aiw1/spool/default/10000006/tmp/10000006.print.pdf (Linux)およびC:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥10000006¥tmp¥10000006.print.pdf (Windows) の外部プログラムが用意されています。

- プログラムが失敗した場合、外部プログラムがRICOH ProcessDirectorがtmpサブディレクトリーに移動したファイルに書き込んだため、ジョブのスプールディレクトリーは変更されません。RICOH ProcessDirectorは、外部プログラムを呼び出す外部ステップが正常に完了した場合にのみ、ファイルをスプールディレクトリーに移動します。
- プログラムが成功した場合、RICOH ProcessDirectorは、ファイルをtmpサブディレクトリーからスプールディレクトリーに移動します。その名前のファイルがスプールディレクトリー内にすでに存在する場合、RICOH ProcessDirectorはそのファイルをチェックポイントサブディレクトリーに移動してから、新たに作成したファイルをtmpからジョブのスプールディレクトリーに移動します。

getCurrentFileの構文

[getCurrentAFPFile] メソッドは、印刷ファイルの名前を返します。このファイルはジョブのスプールディレクトリーにあります。元の印刷ファイルから選択されたページ範囲が含まれているファイルが存在する場合は、そのファイルの名前を返します。それ以外の場合は、元の印刷ファイルの名前を返します。再印刷ではしばしばあることなので、ジョブ全体でもジョブのサブセットでと同様に同じコマンドが動作できるようにすると、便利です。

許可ユーザーは常に、このメソッドを次のフォーマットで指定できます。

```
${getCurrentFile(datatype)}
```

ここで、

datatype

印刷ファイルのデータストリームです。AFP を指定できます。その場合、このメソッドは [getCurrentAFPFile] メソッドと同じになります。このパラメーターには、`${Job.InputDataStream}` のようなシンボル表記も使用できます。

getCurrentFile の例

UNIX ベースのシステムで **lpr** を使用してパススループリンターにジョブを実行依頼するには、次のように、`[[プリンターコマンド]]` プロパティの値としてこのコマンドを使用できます。

```
lpr -Pmyprinter ${getCurrentFile(${Job.InputDataStream})}
```

最初にジョブがプリンターに送信されると、ジョブ全体が印刷されます。再度、サブセットのページを印刷するためにそのジョブが処理されると、サブセットだけが印刷されます。

getCurrentAFPFileの構文

[getCurrentAFPFile] メソッドは、AFP印刷ファイルの名前を返します。このファイルはジョブのスプールディレクトリーにあります。元の印刷ファイルから選択されたページ範囲が含まれているファイルが存在する場合は、そのファイルの名前を返します。それ以外の場合は、元の印刷ファイルの名前を返します。これは、元のジョブのサブセットが含まれている可能性のある、再印刷ジョブの処理を行うときに便利です。

このメソッドはパラメーターを使用しません。許可ユーザーは常に、このメソッドを次のフォーマットで指定する必要があります。

```
${getCurrentAFPFile()}
```

getCurrentAFPFile の例

あるワークフローに、印刷フェーズの外部ステップが含まれています。このステップは、PrintJobs ステップの前です。指定されるプロパティと値は次のとおりです。

外部コマンド [Prepare][RunExternalProgram]

```
値: itm_driver -C ${getControlFileName()} -F"-itm_in_files  
${getCurrentAFPFile()} -itm_out_files ${getFileName(print,  
pdf,write)}"
```

このタイプのジョブを初めて印刷するときは、RICOH ProcessDirector は印刷ファイルを tmp サブディレクトリーに 10000004.print.afp としてコピーします。外部コマンドによって、AFPファイルは印刷用PDFに変換されます。

ジョブを再印刷すると、オペレーターは元の印刷ファイルからページ範囲を選択します。RICOH ProcessDirectorは、選択したページのみを10000004.print_range.afpとして tmpサブディレクトリーにコピーします。外部コマンドによって 10000004.print_range.afp が PDF フォーマットに変換されます。

getControlFileNameの構文

3

getControlFileName メソッドは、ジョブの解決済み制御ファイルの名前を返します。

このメソッドはパラメーターを使用しません。このメソッドを次のフォーマットで指定してください。

```
${getControlFileName()}
```

getControlFileName の例

この例では、次のスプールディレクトリーを使用します。

- /aiw/aiw1/spool/default/10000003 (Linux)
- C:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥10000003 (Windows)

getControlFileNameメソッドを使用したときにRICOH ProcessDirectorがファイルを作成し、値を生成する方法について説明します。

ワークフローには、これらのプロパティーと値を指定する外部ステップが準備フェーズにあります。

外部制御ファイルテンプレート **[Prepare][ConvertLineDataIntoAFP]**

値:

- /aiw/aiw1/control_files/external_programs/job_info.cfg (Linux)
- C:¥aiw¥aiw1¥control_files¥external_programs¥job_info.cfg (Windows)

外部コマンド **[Prepare][RunExternalProgram]**

値:

- cp \${getControlFileName()} /aiw/aiw1/samples/\${Job.ID}.info.csv (Linux)
- copy \${getControlFileName()} C:¥aiw¥aiw1¥samples¥\${Job.ID}.info.csv (Windows)

RICOH ProcessDirectorは、外部ステップを実行する直前に、外部制御ファイルテンプレートをスプールディレクトリーのtmpサブディレクトリーにコピーし、制御ファイルテンプレートに含まれるすべてのシンボルを解決します。これは、RICOH ProcessDirectorが結果である制御ファイルを作成するために使用する手順です。たとえば、次のファイルを生成します。たとえば、Linuxでこのファイルを生成します。

```
/aiw/aiw1/spool/default/10000003/tmp/job_info.control.text
```

Windows の場合は次のファイルが生成されます。

```
C:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥10000003¥tmp¥job_info.control.text
```

RICOH ProcessDirectorがワークフローを使用して初期プロパティ値を設定するジョブを作成する際に、**getControlFileName**メソッドによって返された値を使用して外部コマンドを次のように解決します。コマンドは以下の通りです。

```
cp /aiw/aiw1/spool/default/10000003/tmp/job_info.control.text /aiw/aiw1/samples/10000003.info.csv
```

または、Windows の場合は次のように解決します。

```
copy C:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥10000003¥tmp¥job_info.control.text C:¥aiw¥aiw1¥samples¥10000003.info.csv
```

getChildFileNameの構文

外部プログラムが子ジョブと関連ファイルを1つだけ作成する場合、**getChildFileName**メソッドを使用できます。このメソッドは子ジョブのファイル名を返します。外部プログラムが子ジョブのデータの書き込みを開始する時、**getChildFileName**メソッドが返す名前です。データをファイルに書き込みます。

RICOH ProcessDirector**getChildFileStem**メソッドを使用するには、シンボル表記を使用して、RICOH ProcessDirectorシンボル式としてこのメソッドを参照します。次の構文を使用します。

```
#{getChildFileName(UsageKeyword, DatatypeKeyword, ChildGroupID)}
```

ここで、

UsageKeyword

スプールファイルの使用タイプを識別する、大/小文字の区別があるキーワード。

getChildFileNameメソッドでの **UsageKeyword**の使用法は、このトピックでスプールファイル、**getFileName**メソッド、および**getAbsoluteFileName**メソッドについて前述した使用法と同じです。

DatatypeKeyword

スプールファイルのデータタイプを識別する、大/小文字の区別があるキーワード。

getChildFileNameメソッドでの **DatatypeKeyword**の使用法は、このトピックでスプールファイル、**getFileName**メソッド、および**getAbsoluteFileName**メソッドについて前述した使用法と同じです。

ChildGroupID

RICOH ProcessDirectorが同じ子ジョブに属するファイルを特定するために使用する固有の数値通常、外部プログラムが単一の子ジョブを生成するには、値は1に設定されます。

getChildFileStemの構文

外部プログラムが複数の子ジョブを作成する場合、または外部プログラムが生成する子ジョブの数が分からない場合は、**getChildFileStem**メソッドを使用できます。このメソッドは、外部プログラムが、必要な数の子ジョブファイル名を生成するために使用できる、ルート子ジョブファイル名を生成します。

RICOH ProcessDirector **getChildFileStem** メソッドを使用するには、シンボル表記を使用して、RICOH ProcessDirector シンボル式としてこのメソッドを参照します。次の構文を使用します。

```
${getChildFileStem(UsageKeyword, DatatypeKeyword)}
```

ここで、

UsageKeyword

スプールファイルの使用タイプを識別する、大/小文字の区別があるキーワード。
getChildFileStem メソッドでの **UsageKeyword** の使用法は、このトピックでスプールファイル、**getFileName** メソッド、および **getAbsoluteFileName** メソッドについて前述した使用法と同じです。

DatatypeKeyword

スプールファイルのデータタイプを識別する、大/小文字の区別があるキーワード。
getChildFileStem メソッドでの **DatatypeKeyword** の使用法は、このトピックでスプールファイル、**getFileName** メソッド、および **getAbsoluteFileName** メソッドについて前述した使用法と同じです。

外部ステップ用にステップテンプレートを設定する

外部プログラムを呼び出すコマンドを含むステップテンプレートを作成できます。次に、外部プログラムがインストールされているLinuxまたはWindowsシステムで実行されるように、ステップテンプレートを調整します。

コマンド行または制御ファイルを使用する外部ステップ用にステップテンプレートをセットアップする

このプロセスは、RICOH ProcessDirectorと外部プログラムの間で、コマンド行または制御ファイルを使用してパラメータをやり取りする外部ステップのステップテンプレートをセットアップする場合に使用します。

↓ 補足

- ジョブごとに外部プログラムの要件が異なる場合、ステップテンプレートを設定する必要はありません。[RunExternalProgram] ステップ・テンプレートを使用してステップをワークフローに追加し、そのステップの[「外部コマンド」]、[「有効な戻りコード」]、および[「外部プログラム言語」] プロパティを更新しますが、これについては後で説明します。

ステップテンプレートを外部ステップ用にセットアップするには、次の手順に従います。

1. [ワークフロー] タブをクリックします。
2. 左ペインで、[ステップテンプレート] をクリックします。
3. **RunExternalProgram** ステップテンプレート横のチェックボックスを選択します。
4. [コピー] をクリックします。
5. 新しいステップテンプレートの名前と説明を指定します。
6. [外部] タブをクリックします。

7. [外部コマンド] プロパティを更新します。

この値は、外部プログラムを実行するためにRICOH ProcessDirectorが発行する、実際のコマンドとコマンド行パラメーターです。コマンド文字列にはRICOH ProcessDirectorシンボル表記を使用できます。

8. 外部プログラムで使用するための制御ファイルテンプレートを作成した場合は、[外部制御ファイルテンプレート] プロパティを更新します。制御ファイルテンプレートのディレクトリー位置と名前の値を設定してください。外部プログラムがそのパラメーターをコマンド行引数でのみ受け取る場合は、このプロパティの値をすべて削除してください。

9. [有効な戻りコード] プロパティを更新します。

有効な戻りコードは、ユーザー処置を必要としない外部プログラムからの戻りコードを意味します。複数の戻りコード番号をコンマで区切ります。外部プログラムがこの値に含まれていない値を戻す場合、RICOH ProcessDirector はジョブをエラー状態にします。また、メッセージをジョブのログに書き込み、外部プログラムが報告した問題について警告します。

たとえば、[有効な戻りコード] プロパティの値が**0,4**の場合、外部プログラムが戻りコード**16**で終了すると、RICOH ProcessDirectorから次のようなメッセージが表示されます。

AIWI6073E External step cp /aiw/aiw1/spool/default/10000016/10000016.print.unknown/archive/directory が戻りコード 16 で終了しましたが、このコードはエラーとして定義されています。

10. インストール済み環境に特定の言語要件がある場合は、外部プログラムに対して、サポートしている言語でメッセージを返すように指示することもできます。[外部プログラム言語] プロパティのドロップダウンリストには、RICOH ProcessDirectorがサポートしている言語がリストされます。
11. [OK] をクリックします。
12. 新しいステップテンプレートを選択し、[使用可能] をクリックします。

ホットフォルダーを使用する外部ステップ用にステップテンプレートをセットアップする

ホットフォルダーを使用して、入出力をRICOH ProcessDirectorと外部プログラムの間で受け渡す外部ステップ用のステップテンプレートをセットアップする場合に、このプロセスを使用します。

ステップテンプレートを外部ステップ用にセットアップするには、次の手順に従います。

1. [ワークフロー] タブをクリックします。
2. 左のペインで、[ステップテンプレート] をクリックします。
3. [RunHotFolderApplication] ステップテンプレートを右クリックして、[コピー] を選択します。
4. 新しいステップテンプレートの名前と説明を指定します。
5. [ホットフォルダー] をクリックします。

6. [[送信フォルダー]] プロパティを更新します。

このプロパティの値は、外部プログラム用の入力ホットフォルダーの名前です。RICOH ProcessDirectorは、外部プログラムに実行依頼するために、ジョブをこのフォルダーに入れます。

↓ 補足

- 値は存在するフォルダーの名前でなければなりません。RICOH ProcessDirectorは、フォルダーを作成しません。
- このフォルダーは、RICOH ProcessDirectorと外部プログラムの両方からアクセスできる必要があります。次の場所に置くことができます。
 - RICOH ProcessDirectorファイル共有システム、/aiw/aiw1/ (Linux) または C:¥aiw¥aiw1¥ (Windows)内の、1次サーバーがインストールされているコンピューター上。
 - ファイル共有ソフトウェア (Sambaなど) を使用して共有されるファイルシステム内。
- フォルダーがWindowsシステム上にある場合でも、パスはLinuxの形式で指定します。例えば、フォルダーがC:Sendingにある場合、/Sendingと入力します。
- この値がヌルの場合、ファイルはコピーされず、ステップは待機します。

7. [[送信するファイル]] プロパティを更新します。

このプロパティの値は、RICOH ProcessDirectorが外部プログラムに送信するファイルの名前に解決するシンボル式です。

↓ 補足

- デフォルト値はgetAbsoluteFileName(print, pdf, read)です。これは、スプールディレクトリーにあるAFP印刷ファイルの名前を返します。PDF印刷ファイルがスプールディレクトリーにない場合は、外部プログラムの実行時にエラーが発生します。

8. [[検索フォルダー]] プロパティを更新します。

このプロパティの値は、外部プログラム用の出力ホットフォルダーの名前です。外部プログラムがジョブを処理した後で、RICOH ProcessDirectorは、このフォルダーからジョブを取得します。

↓ 補足

- 値はすでに存在するフォルダーの名前でなければなりません。RICOH ProcessDirectorは、フォルダーを作成しません。
- このフォルダーは、RICOH ProcessDirectorと外部プログラムの両方からアクセスできる必要があります。次の場所に置くことができます。
 - RICOH ProcessDirectorファイル共有システム、/aiw/aiw1/ (Linux) または C:¥aiw¥aiw1¥ (Windows)内の、1次サーバーがインストールされているコンピュータ上。
 - ファイル共有ソフトウェア (Sambaなど) を使用して共有されるファイルシステム内。
- フォルダーがWindowsシステム上にある場合でも、パスはLinuxの形式で指定します。例えば、フォルダーがC:Retrievalにある場合、/Retrievalと入力します。
- [検索フォルダーのクリーンアップ] プロパティを [いいえ] に設定すると、ステップが取得するファイルは、ジョブがステップに到達したときに検索フォルダーに入れることができます。このステップでは、ファイルを取得してから、[送信するファイル] プロパティで指定されたファイルを送信フォルダーに入れます。このステップでは、ジョブと取得したファイルを、ワークフローの次のステップに送信します。このステップでは、新しいファイルが検索フォルダーに入るまでは待機しません。

9. [[検索パターン]] プロパティを更新します。

このプロパティの値は、RICOH ProcessDirectorが外部プログラムの出力ホットフォルダーから取得する出力ファイルを特定するために使用するパターンマッチング文字列です。

例えば、値\${Job.ID}.*は、ファイル名がジョブIDと同じであるファイルに、ファイル拡張子が付いたすべてのファイルと一致します。

10. [[検索済みファイル]] プロパティを更新します。

このプロパティの値は、RICOH ProcessDirectorが検索済みファイルの名前変更に使用する名前に解決するシンボル式です。

11. [検索フォルダーのクリーンアップ] プロパティを更新します。

ジョブがこのステップに入ると、この値は、ファイル名が[検索パターン] と一致する検索フォルダー内のファイルを削除するかどうかをRICOH ProcessDirectorに指示します。

12. [[アプリケーションログファイル]] プロパティを更新します。

このプロパティの値は、外部プログラムがログファイルを書き込むフォルダーです。この値は空白にすることができます。

13. [[ポーリング間隔]] プロパティを更新します。

このプロパティの値は、RICOH ProcessDirectorが出力ホットフォルダーを調べて完了したジョブを検査する間隔 (秒単位) です。

14. [[ファイルサイズ検査カウント]] プロパティを更新します。

このプロパティの値は、RICOH ProcessDirectorが出力ホットフォルダーをポーリングし、ファイルのサイズが変更されていないことを検出する回数です。RICOH ProcessDirectorはファイルが完成したと判断します。

15. [[タイムアウト間隔]] プロパティを更新します。

このプロパティの値は、外部プログラムの出力ホットフォルダーからジョブを取得するための時間制限（分単位）です。ジョブが受信されていないか、時間制限に達したときに完了していない場合、ジョブはエラーになります。

↓ 補足

- タイムアウト間隔は、ポーリング間隔とファイル検査カウントを掛けたものよりも長くします。
- タイムアウト間隔が0の場合、RICOH ProcessDirectorは永久に待機します。

16. [OK] をクリックします。

17. [調整] タブで設定を更新し、外部プログラムがインストールされているコンピュータでステップを実行します。

手順については、P.96 「[ステップテンプレートを調整する](#)」を参照してください。

18. 新しいステップテンプレートを選択し、[使用可能] をクリックします。

ステップテンプレートを調整する

ステップテンプレートを調整すると、ステップの処理に必要なシステムリソースの量を指定できます。またそのステップテンプレートから作成されたステップを実行可能なコンピュータを指定することもできます。

RICOH ProcessDirectorから他のコンピュータ上のアプリケーションにアクセスするためのステップテンプレートは、それらのアプリケーションがインストールされているサーバー上で実行されるように調整する必要があります。

[RunExternalProgram] および [RunHotFolderApplication] ステップテンプレート（およびそれらのコピー）は、1次サーバー、アプリケーションサーバー、または2次サーバーで実行されるように調整できます。

RICOH ProcessDirector 1次コンピュータがLinuxシステムの場合、一部の機能でインストールされたステップテンプレートは、アプリケーションサーバー上で実行されるように調整する必要があります。次のステップテンプレート（およびそれらのコピー）は、アプリケーションサーバー上で実行されるように調整する必要があります。

- RunPitStopOnJob

文書処理機能を含む機能によってインストールされたステップテンプレートは、1次サーバーでのみ実行できます。環境にRICOH ProcessDirectorアプリケーションサーバーまたは2次サーバーがある場合は、1次サーバーでのみ実行されるように、これらのステップテンプレートを調節してください。

- CreateInserterReprints
- CreateJobsFromDocuments
- CreateOrdersFromFile

- CreateReprints
- GroupDocuments
- InsertJobs
- ReadBarcodeData
- ReadDocumentsFromDatabase
- ReadDocumentsFromParent
- SendInserterControlFile
- SetDocPropsFromConditions
- SetInsertProperties
- SetJobPropsFromOriginal
- UpdateDocumentsInDatabase
- WaitForDocumentCompletion
- WriteDocumentsToDatabase
- WriteInserterControlFile
- WritePropsToReportsDatabase

ステップテンプレートを調整するには、次の手順に従います。

1. [ワークフロー] タブをクリックします。
2. 左ペインで、[ステップテンプレート] をクリックします。
3. 調整するステップテンプレートの名前をクリックします。
4. [調整] タブをクリックします。
5. [同時ステップ制限] セクションで、ステップテンプレートから作成された同時実行可能なステップ数の制限を設定する場所を指定します。
6. [OK] をクリックします。

外部ステップ用にワークフローをセットアップする

外部プログラムを呼び出すためのステップテンプレートを作成し、その外部プログラムがインストールされているサーバーで実行するようにステップテンプレートを調整した後で、そのステップテンプレートに基づいたステップをワークフローに追加します。次にワークフローを入力装置に割り当てるか、または別のメソッドを使用してワークフローを特定のジョブに割り当てます。

ワークフローを外部ステップ用にセットアップするには、次の手順に従います。

1. [ワークフロー] タブをクリックします。
2. 既存のワークフローのコピーを使用できるか、または新しいワークフローが必要かを判別します。次のいずれかを行ってください。
 - いずれかのワークフローを右クリックして、[コピー] を選択します。ワークフローのコピーに名前を付け、必要なその他の値を入力または編集して、[続行] をクリックします。
 - [追加] をクリックし、新しいワークフローの名前と説明を指定します。

3. 外部ステップを追加するには、次の手順に従います。
 1. ワークフローエディターで、ウィンドウの右上隅にあるサイドパネルをクリックします。
 2. [ステップ] に移動し、クイック検索フィールドを使用して外部ステップを検索します。
 3. 外部ステップをクリックして、ワークフローエディターにドラッグします。必要な場所にそのステップを配置します。
 4. **オプション**： ステップの名前を変更する場合は、ステップを右クリックします。[プロパティ] を選択し、[一般] をクリックします。[ステップ名] プロパティに、新しいステップの名前を入力し、[OK] をクリックします。
4. 必要に応じて処理動作のプロパティを編集します。
5. ステップを他のステップに接続します。

外部ステップは条件付きの処理を使用して、ジョブを複数のステップから受け取り、複数のステップに送ることができます。条件を伴う規則をコネクターに設定し、[AssignJobValues] ステップテンプレートに基づいたステップを追加することでワークフローのさまざまな分岐に対してジョブプロパティを設定できます。
6. 必要に応じて、ワークフローの他のステップを追加または更新します。ワークフローには、外部プログラムを呼び出す複数のステップを入れることができます。
7. ワークフローを保存し、使用可能にします。
8. 外部プログラムをテストします。

4. Webサービスを使用する

- RICOH ProcessDirector Rest APIドキュメントを使用する
- Webサービスを使用してジョブの実行依頼を準備する

アプリケーションがRICOH ProcessDirectorシステムに関する情報を表示するためのインターフェースが異なる場合や追加処理のためにRICOH ProcessDirectorから情報を抽出する必要がある場合は、Webサービスを使用してさまざまな種類の情報を要求し、システムオブジェクトを管理できます。

Webサービス要求を受信するためにRICOH ProcessDirectorを準備する

Webサービス要求を実行依頼する前に、使用するWebサービスのRICOH ProcessDirectorユーザーとパスワードを作成する必要があります。Webサービスで指定される操作を行うために、RICOH ProcessDirectorでのユーザーIDの権限レベルが適切であることを確認してください。この章の例に対しては、**オペレーター**権限で十分です。認証のためにライトウェイトディレクトリアクセスプロトコル (LDAP) を使用している場合は、Webサービスで使用するためにLDAP内にユーザーを作成します。LDAP ユーザーは、RICOH ProcessDirector で適切な権限レベルが与えられているグループに属している必要があります。

すべてのユーザーは最初にログインしたときにパスワードを変更する必要があるため、作成したユーザーIDでRICOH ProcessDirectorユーザーインターフェースにログインして、パスワードを変更します。指定した期間が過ぎるとパスワードが期限切れになるように設定した場合、必要に応じてログインしてこのパスワードを変更する必要があります。

Webサービス要求を準備する

要求を作成するときは、次の点に注意してください。

- Webサービスユーザーは、アクションを実行する前にログインする必要があります。Webサービス要求を実行依頼するには、最初に [GET /users/login] Webサービスを使用してWebサービスユーザーとしてRICOH ProcessDirectorにログインして、証明書トークンを受け取る必要があります。それ以降、[POST /users/logout/{name}] Webサービスを実行依頼するまでのすべてのWebサービス要求のヘッダーに、そのトークンを組み込む必要があります。
- プロパティ名は、ユーザーインターフェース形式ではなく、データベース形式で記述する必要があります。
要求にプロパティ名を組み込むときは、データベースプロパティ名を使用する必要があります。例えば、[GET /objects/{objectType}] を使用してジョブのクラスの値を検索する場合、要求に [attribute] 値としてJob.Classを組み込みます。データベースプロパティ名は、各プロパティのフィールドヘルプ、製品のヘルプシステム、一部のWebサービスから受信した結果、[P.135 「データベースプロパティ名」](#) で使用可能です。
- プロパティ値は、ユーザーインターフェース形式ではなく、データベース形式で記述する必要があります。
照会に値を組み込むときは、それが有効な値であることを確認する必要があります。通常、数値フィールドには数値が必要で、テキストフィールドにはテキスト値が必要になります。しかし、一部のプロパティには制限された値のリストがあります。
ドロップダウンリストが提供されるプロパティでは、その決まった値だけを受け入れます。さらに、そのようなリストに表示される値は、データベースに保存されている値と常に同じではありません。例えば、ユーザーインターフェースで、**ステابل** プロパティの値は次のとおりです。

- 2、左
- 2、右
- 左上
- 左上垂直
- 左下

しかし、データベースの値は次のようになります。

- 2_at_left
- 2_at_right
- Top_left
- Top_left_vertical
- Bottom_left

Webサービス要求では、データベースの値を使用する必要があります。プロパティのデータベース値は、製品のヘルプシステムとP.135「データベースプロパティ名」で使用可能です。

- 定位置ジョブのプロパティには、プロパティ名の後に、フェーズ、ステップワークフローの名前をこの順序で含める必要があります。3つの名前のそれぞれを大括弧で囲みます。

このJSON文字列の例では、Linuxシステム上の制御ファイルを、[PDF制御ファイルの識別] のジョブプロパティ（データベース名 [Job.IdentifyPDFControlFile] ）の値として指定しています。

```
"Job.IdentifyPDFControlFile[Prepare][IdentifyPDFDocuments]
[PullPDFSample]": "/aiw/aiw1/testfiles/PullPDF.ct1"
```

ジョブプロパティは、[PullPDFSample] ワークフローの[準備] フェーズの [IdentifyPDFDocuments] ステップにあります。

RICOH ProcessDirector Rest APIドキュメントを使用する

RICOH ProcessDirector は Web サービス統合用に REST API を提供するこれらの API には対話式のドキュメントが用意されており、使用可能な各 API のライブテスト機能や情報を提供します。

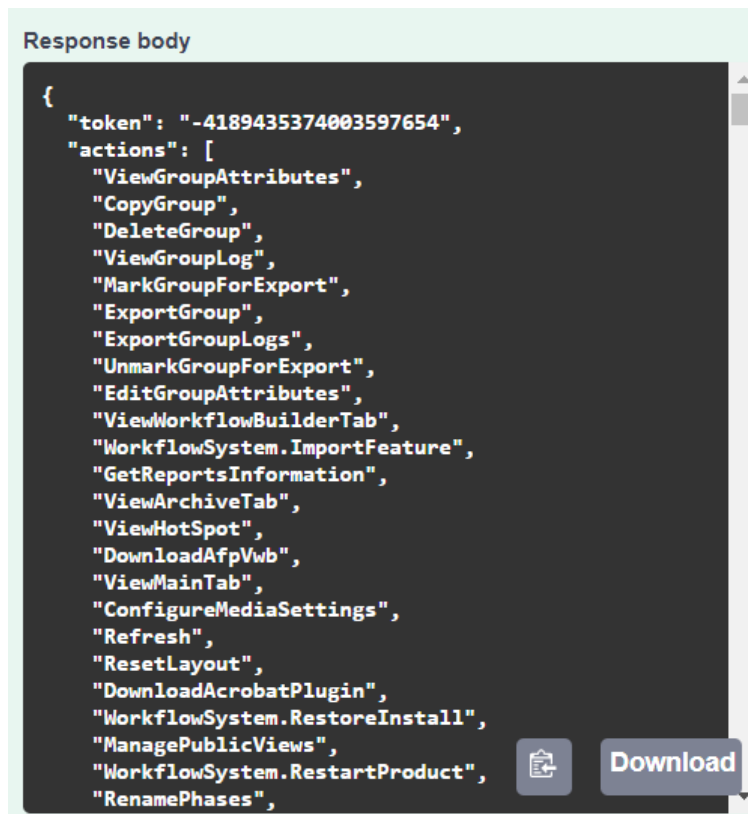
REST API ドキュメントには、アプリケーションで RICOH ProcessDirector への組み込みに使用できるさまざまな API が含まれています。REST API ドキュメントとテスト用インターフェースを使用して、パラメーター設定をテストできます。このインターフェースを使用して Web サービスをテストするときには、RICOH ProcessDirector 1 次サーバーにアクセスします。オブジェクトの作成、削除、および使用可能化などのアクションは 1 次サーバー上で実行されて、RICOH ProcessDirector ユーザーインターフェースに反映されます。このため、テスト専用のオブジェクトを作成することをお勧めします。

これらのステップは、REST API によってオブジェクトのログファイルを要求する方法を示します。これらのステップでは、RICOH ProcessDirector にログインし、サンプルプリンターのログファイルを要求して、ログアウトします。

1. Web ブラウザーを開いて、RICOH ProcessDirector のホスト名または IP アドレスをアドレスバーに入力します。REST API 文書にアクセスするには、ホスト名または IP アドレスの末尾に /restapi/ を追加します。例: `http://hostname:15080/restapi/`
2. [users] セクションで [POST /users/login] を見つけます。
3. [Try it Out] をクリックします。
4. RICOH ProcessDirector 資格情報を入力して RICOH ProcessDirector にログインします。
 - [名前] パラメーターには、RICOH ProcessDirector ユーザー名を入力します。
 - [pwd] パラメーターには、RICOH ProcessDirector ユーザー名と関連付けられているパスワードを入力します。
5. [実行] をクリックします。
 REST API ドキュメントはユーザー入力値を使用して、build a Curl コマンドと要求 URL を構築します。さらに、要求を要求 URL に実行依頼して、ユーザーのログインを実行します。

RICOH ProcessDirector は、ログインに成功したかどうかを示す応答を送信します。この応答には、トークンや、このユーザー ID に許可されているアクションなどの追加情報が含まれます。

6. [Response Body] ボックスで、トークン値を見つけてコピーします。



7. [objects] セクションで [POST /objects/log/{objectType}/{name}] を見つけるまでスクロールダウンします。
8. [Try it Out] をクリックします。

9. 次のパラメーターを入力して、サンプルプリンターのログメッセージを取得します。
 1. [token] パラメーターには、上の手順でコピーしたトークンを貼り付けます。
 2. [objectType] パラメーターには、Printerと入力します。
objectType の値は大/小文字の区別があります。Web サービス [POST /util/objecttypes] を使用して、システムで使用可能なオブジェクトタイプのリストを取得します。Web サービス [POST /util/objecttypes] は、[util] セクションにあります。
 3. [name] パラメーターには、Sampleと入力します。
 10. [実行] をクリックします。
サンプルプリンターのログエントリーは、[Response Body] ボックスに返されます。
Curl および要求 URL の値も返されます。
 11. [users] セクションで [POST /users/logout/{name}] を見つけます。
 12. [Try it Out] をクリックします。
 13. RICOH ProcessDirector からログアウトします。
 - [token] パラメーターには、上の手順でコピーしたトークンを貼り付けます。
 - [名前] パラメーターには、RICOH ProcessDirector ユーザー名を入力します。
 14. [実行] をクリックします。
RICOH ProcessDirector からログアウトしました。
- 値の例は、特定の API に含まれています。値の例を使用すると、サンプルコードを更新して、テスト用に変更できます。
- これらのステップは、REST API を使用してホットフォルダーを接続する方法を、値の例を用いて示します。これらのステップでは、RICOH ProcessDirector にログインし、[HotFolderPDF] からのファイルを受け入れるように入力装置を設定して、ログアウトします。
15. 上記のようにREST APIインターフェースを開きます。
 16. [users] セクションで [POST /users/login] を見つけます。
 17. [Try it Out] をクリックします。
 18. RICOH ProcessDirector 資格情報を入力して RICOH ProcessDirector にログインします。
 - [名前] パラメーターには、ユーザー名を入力します。
 - [pwd] パラメーターには、ユーザー名と関連付けられているパスワードを入力します。
 19. [実行] をクリックします。
 20. [Response Body] ボックスで、トークン値を見つけてコピーします。
 21. [objects] セクションで [POST /objects/{objectType}/connect] を見つけるまでスクロールダウンします。
 22. [Try it Out] をクリックします。

23. これらのパラメーターを入力して、[HotFolderPDF] を接続します。
 1. [token] パラメーターには、上の手順でコピーしたトークンを貼り付けます。
 2. [objectType] パラメーターには、InputDeviceと入力します。
objectType の値は大/小文字の区別があります。Web サービス [POST /util/objecttypes] を使用して、システムで使用可能なオブジェクトタイプのリストを取得します。Web サービス [POST /util/objecttypes] は、[util] セクションにあります。
 3. bodyパラメーターには、[Edit Value] をクリックします。例文がコードボックスに表示されます。"string"という単語を"HotFolderPDF"で置き換えます。オブジェクトの名前は二重引用符で囲んでください。
24. [実行] をクリックします。
HotFolderPDF のプロパティおよび設定は、[Response Body] ボックスに返されます。[Response Code] および [Response Headers] も返されます。
25. [users] セクションで [POST /users/logout/{name}] を見つけます。
26. [Try it Out] をクリックします。
27. RICOH ProcessDirector からログアウトします。
 - [token] パラメーターには、上の手順でコピーしたトークンを貼り付けます。
 - [名前] パラメーターには、RICOH ProcessDirector ユーザー名を入力します。
28. [実行] をクリックします。
RICOH ProcessDirector からログアウトしました。

Webサービスを使用してジョブの実行依頼を準備する

RICOH ProcessDirectorは、ジョブの実行依頼に使用できるREST Webサービスユーティリティを提供します。REST Webサービスを使用するようにアプリケーションを設定できる場合、[submitFile] ユーティリティを使用して、ワークフローまたはホットフォルダーにファイルを実行依頼できます。

Webサービスを呼び出す場合、Webサービスアプリケーションの要件に応じて [Curl] コマンドまたは [要求URL] が必要です。正しい構文を判別するには、RICOH ProcessDirector REST APIドキュメントを参照してください。

Webサービスを使用してジョブの実行依頼を準備するには、次の手順に従います。

1. 処理するファイルのRICOH ProcessDirectorでの受信方法を決定します。
ホットフォルダー入力装置を使用してファイルをRICOH ProcessDirectorに実行依頼することも、ワークフローに直接実行依頼することもできます。
 - ジョブごとに1つの入力ファイルしかない場合、またはRICOH ProcessDirectorでバッチ機能を使用する必要がない場合は、ワークフローに直接ファイルを実行依頼してください。
 - RICOH ProcessDirectorでバッチ機能を使用する場合は、ホットフォルダーにファイルを実行依頼してください。Webサービスでは、一度に1つのファイルのみを実行依頼できます。ジョブにジョブチケット、リストファイル、またはその他のリソースを含む複数の入力ファイルがある場合は、ファイルごとにWebサービスを呼び出す必要があります。
ワークフローまたはホットフォルダーの名前をメモします。

2. Webサービスアプリケーションを評価し、アプリケーションがRICOH ProcessDirectorにファイルを実行依頼するために必要な情報を確認します。RICOH ProcessDirector REST APIドキュメントは、[Curl] コマンドと [要求URL] の両方を提供しています。Webサービスアプリケーションの要件に応じて、どちらかを使用できます。
3. [submitFile] ユーティリティーのためにRICOH ProcessDirector REST APIドキュメントを使用し、Webサービスの呼び出しを作成して、ファイルを実行依頼します。Web ブラウザーを開いて、RICOH ProcessDirector のホスト名または IP アドレスをアドレスバーに入力します。REST API ドキュメントにアクセスするには、ホスト名または IP アドレスの末尾に /restapi/ を追加します。例：http://hostname:15080/restapi/。
[util] セクションを開き、[POST /util/ submitFile/{objectType}/{name}] を見つけます。
4. 前のステップで作成したコマンドまたはURLを使用してWebサービスアプリケーションを更新します。アプリケーションを使用してファイルをRICOH ProcessDirectorに実行依頼します。
5. ファイルを正しくRICOH ProcessDirectorに実行依頼するようにWebサービスアプリケーションが設定されていることを確認します。
 - ホットフォルダーに実行依頼する場合は、ファイルがホットフォルダー内のフォルダー位置にあることを確認します。実際にジョブを実行依頼することなく、ファイルが正しいディレクトリーで受信されることを確認する場合は、ホットフォルダーを接続して無効にします。入力装置でジョブを実行依頼する場合は、アプリケーションがファイルを実行依頼するときに両方とも有効になっており、接続されていることを確認します。
 - ワークフローに実行依頼する場合は、実行依頼したファイルでジョブが作成されることを確認します。ファイルを実行依頼するときにワークフローが有効になっていることを確認します。

5. RICOH ProcessDirectorシンボル表記

式でRICOH ProcessDirectorシンボルの表記を使用して、RICOH ProcessDirectorがジョブプロパティの値を設定するために評価する情報源を記述することができます。

シンボルの構文

RICOH ProcessDirectorでは、これはシンボル式で利用できるシンボルの基本構文です。
`${Name}`

NameはRICOH ProcessDirectorのデータベースプロパティ名またはジョブで渡されるパラメーターです。RICOH ProcessDirectorは、JCLのパラメーターおよび値を解析する規則ファイルなどの制御ファイルを使用して、ジョブで渡されるパラメーターを評価します。また、NameをRICOH ProcessDirectorメソッド（`[getFileName]`、`[getAbsoluteFileName]`、`[getControlFileName]`、`[getChildFileName]` など）にすることもできます。Nameの値には大/小文字の区別があります。

例

`${Get*Method}`

このシンボルにより、RICOH ProcessDirectorは内部メソッドを呼び出し、評価された値を返します。どのようにRICOH ProcessDirectorがこのタイプのシンボルを使用するかを調べるには、PDFワークフローの準備フェーズ内の`[RunExternalProgram]`ステップを参照してください。`[RunExternalProgram]`ステップは、この`[外部コマンド]`プロパティを指定します。

- Linux: `cp ${getControlFileName()} /aiw/aiw1/samples/${Job.ID}.info.csv`
- Windows: `copy ${getControlFileName()} C:¥aiw¥aiw1¥samples¥${Job.ID}.info.csv`

`${getControlFileName()}`シンボルは、外部制御ファイルテンプレートをspoolディレクトリのtmpサブディレクトリーにコピーし、制御ファイルに含まれるすべてのシンボルを解決するようにRICOH ProcessDirectorに命令します。

PDF ワークフローの準備フェーズ内の `[RunExternalProgram]` ステップは、この `[外部制御ファイルテンプレート]` プロパティを指定します。

- Linux: `/aiw/aiw1/control_files/external_programs/job_info.cfg`
- Windows: `C:¥aiw¥aiw1¥control_files¥external_programs¥job_info.cfg`

RICOH ProcessDirectorがワークフローを使用して初期プロパティ値を設定するジョブを作成する際に、`[getControlFileName]` メソッドによって返された値を使用して外部コマンドを次のように解決します。

- Linux: `cp /aiw/aiw1/spool/default/10000003/tmp/job_info.control.text /aiw/aiw1/samples/10000003.info.csv`
- Windows: `copy C:¥aiw¥aiw1¥spool¥default¥10000003¥tmp¥job_info.control.text C:¥aiw¥aiw1¥samples¥10000003.info.csv`

`${Job.PropertyName}`

このシンボルにより、RICOH ProcessDirectorは特定のRICOH ProcessDirectorジョブプロパティの値についてDB2データベースを照会します。

どのようにRICOH ProcessDirectorがこのタイプのシンボルを使用できるかを調べるには、[job_info.cfg] 制御ファイルテンプレートの内容を参照してください。この制御ファイルテンプレートは、/aiw/aiw1/control_files/external_programs (Linux) または C:\aiw\aiw1\control_files\external_programs (Windows) にあります。

RICOH ProcessDirectorがこのテンプレートから制御ファイルを作成すると、\${Job.ID}、\${Job.Name}、\${Job.JobType}、\${Job.SubmitTime}、\${Job.RequestedPrinter}、\${Job.InputFile.Size}、\${Job.JobSize}、\${Job.TotalPages}、および\${Job.TotalSheets}の各シンボルの値を実際のRICOH ProcessDirectorジョブプロパティに解決します。例：

```

${Job.ID}=10000001
${Job.Name}=Demo.pdf
${Job.JobType}=PDF
${Job.SubmitTime}=10:02.35
${Job.RequestedPrinter}=Sample
${Job.InputFile.Size}=2608549
${Job.JobSize}=26
${Job.TotalPages}=26
${Job.TotalSheets}=26

```

↓ 補足

- また、RICOH ProcessDirectorが評価するシンボル式で、任意のシステムプロパティを使用することもできます。たとえば、[\${WorkflowSystem.Transform.Server.Address}] などです。

\${Math}

このシンボルがある場合、RICOH ProcessDirectorは、2つの値（ジョブプロパティまたは数字）の加算、減算、乗算、または係数の計算を実行できます。また、指定された範囲で乱数を生成することもできます。

このシンボル式の構文は、次のとおりです。

`${Math(value1,operator,value2)}`

- `value1`**および**`value2`**は、シンボル表記に含まれるジョブプロパティ（\${Job.CurrentTime}、など）、または数字です。そのシンボル式を使用するプロパティが浮動小数点値をサポートする場合は、数字に2.45などの小数も含めることができます。
- `operator`**は、+、-、*、またはmodです（それぞれ加算、減算、乗算、係数を表します）。

たとえば、現在の時刻に5分を追加し、それを[Job.Info.Attr2]プロパティに保存するには、`${Math(${Job.CurrentTime},+,5)}`を使用します。

この式の**`value`**フィールドには、整数、数値、またはタイムスタンプ値を使用するプロパティのみ使用できます。シンボル式をサポートするプロパティのみ、この式を使用して設定できます。

どちらか一方の**`value`**がタイムスタンプ値のプロパティの場合、サポートされる演算子は+と-のみで、もう一方の値は整数である必要があります。整数値の単位は、分です。

一部のプロパティにタイムスタンプ値が設定されているように見える場合がありますが（Job.TimeSubmittedなど）、それらは文字列として定義されているため、Mathシンボルの式で値として使用することはできません。Mathシンボルは、ワークフロービルダー内でステップテンプレート（[AssignJobValues] ステップテンプレートなど）のフィールド、およびジョブプロパティのノートブックのフィールドに入力できます。

係数の場合、*value1*は0以上の整数にする必要があり、*value2*は1以上の整数にする必要があります。

乱数生成の場合、このシンボルの構文は次のようになります。

```
${Math(rand, value1, value2)}
```

たとえば、1から10までの乱数を生成するには、`${Math(rand, 1, 10)}`を使用します。

↓ 補足

- *value1*および*value2*は、シンボル表記でのジョブプロパティ（`${Job.Copies}`など）、または数字です。
- *value1*と*value2*はゼロ以上の整数である必要があります。
- 返される結果は*value1*と*value2*の間の整数（指定値も含む）です。
- 生成される乱数は、暗号論的な乱数ではありません。

5

`${RulesFileParameter}`

このシンボルはRICOH ProcessDirectorに、入力ファイルに付随するパラメーターファイルを照会させます。別のプログラムや製品に固有のパラメーター値を照会します。

たとえば、LPDPDF 入力装置は、入力ファイルを受け取ったとき、[receive_lpd_pdf_jobtype.cfg] 制御ファイルを使用して、入力ファイルに付随するパラメーターを解析します。

[receive_lpd_pdf_jobtype.cfg] 制御ファイルは、次のディレクトリーにあります。

- Linux: /aiw/aiw1/control_files/rules
- Windows: C:¥aiw¥aiw1¥control_files¥rules

(Linux)

(Windows)

[receive_lpd_pdf_jobtype.cfg] 制御ファイルには、以下の情報を入れることができます。

```
orighost=mywindowshost
origuser=annsmith
origname=TestPDF.pdf
```

これらのパラメーター値のシンボルは、以下のとおりです。

```
${ORIGHOST}
${ORIGUSER}
${ORIGNAME}
```

どのようにRICOH ProcessDirectorがこのタイプのシンボルを使用できるかを調べるには、このディレクトリーのreceive_lpd_pdf_jobtype.cfgファイルを参照してください。

- Linux: /aiw/aiw1/samples/rules
- Windows: C:¥AIW¥AIW1¥samples¥rules

↓ 補足

- このインプリメンテーションについて詳しくは、P.113 「RICOH ProcessDirector制御ファイルの構文」を参照してください。

シンボル式の使用上の注意

RICOH ProcessDirectorシンボル式を使用するとき、次の使用上の制限事項が適用されます。

サポートされるオブジェクト

RICOH ProcessDirectorは、ジョブプロパティの値を設定するシンボル式の使用のみをサポートしています。入力装置やプリンターなどの他のオブジェクトタイプのプロパティ値を設定するシンボル式を使用することはできません。値を設定するためRICOH ProcessDirectorが評価するシンボル式には、**`${Job.InputFile}`**、**`${Printer.Model}`**、および**`${getControlFileName()}`**などの、別のジョブプロパティ、1次サーバープロパティ、またはメソッド呼び出しにできます。ただし、特定のシンボル式には、ジョブプロパティとシステムプロパティまたはメソッド呼び出しの両方を同時に組み込むことはできません。

↓ 補足

- システムプロパティの値を変更すると、ジョブプロパティの多くのシンボル式が影響を受ける可能性があります。RICOH ProcessDirectorはすべてのシンボル式を同時に更新するため、操作が完了するまで長い時間がかかる場合があります。

除外されるプロパティ

RICOH ProcessDirectorは、シンボル式による [Job.Class] プロパティの値の設定をサポートしていません。

RICOH ProcessDirectorユーザーインターフェースの外観

RICOH ProcessDirectorインターフェースの [管理] ページで、ワークフローおよびステップテンプレートにシンボル式を指定できます。

これらのオブジェクトのプロパティノートブックを表示する場合、シンボル式は常に、**`${Job.InputFile}`** などの公式のフォーマットで**ジョブ名**プロパティの値として表示されます。シンボル式を指定するステップとともにワークフローを使用するジョブのプロパティノートブックでは、影響を受けるジョブプロパティに、公式から評価された値が表示されます。たとえば、[ジョブ名] プロパティの値は、reports.pdf などの入力ファイルの実際の名前です。

複数レベルの公式

公式の評価は、関連する公式のグループに拡張することができます。例:

```
Job.Name=${Job.Description}
Job.Description=${Job.CustomerName}
Job.CustomerName=${Job.Locations}
```

この場合、[Job.Locations] ジョブプロパティに値があると、RICOH ProcessDirectorは [Job.CustomerName] プロパティの値を設定します。これによ

り、RICOH ProcessDirectorは [Job.Description] プロパティの値を設定してから、[Job.Name] プロパティの値を設定できます。

循環式

循環式は、プロパティがシンボル式から値を受け取る公式で、別の関連プロパティの値を提供するために使用されます。例:

```
Job.Name=${Job.Description}
Job.Description=${Job.CustomerName}
Job.CustomerName=${Job.Name}
```

RICOH ProcessDirectorはこの使用をサポートしていないため、エラーメッセージを出します。

複数レベルの公式の最大の深さ

循環式の例では、公式の深さは3でした。RICOH ProcessDirectorは、99までの深さの関連する式をサポートしています。99を超える深さの公式が検出されると、エラーメッセージが出されます。

シンボル式で定位置プロパティを使用し、非定位置ジョブプロパティの値を設定

定位置プロパティとは、複数のフェーズおよびステップで使用でき、それぞれの位置で異なる値を取りうるプロパティです。例えば、管理者は、

[RunExternalProgram] ステップの [有効な戻りコード] ジョブプロパティをワークフロー内の複数のフェーズおよびステップに置き、それぞれが異なる値になるよう、ワークフローを構成することができます。フェーズおよびステップの名前はジョブプロパティノートブックのセクションの名前で、各インスタンスに対する個別のプロパティの名前と値がそれ自体のセクションに表示されます。RICOH ProcessDirectorでは、非定位置プロパティの値を設定するシンボル式で定位置プロパティを使用することはできません。これは、定位置プロパティのどのオカレンスを使用するかを指定するメカニズムがないためです。

シンボル式で定位置プロパティを使用し、他の定位置ジョブプロパティの値を設定

定位置プロパティは他の定位置プロパティを指定するシンボル式を使用できます。RICOH ProcessDirectorは、要求側の定位置プロパティが指定している同じフェーズおよびステップで、シンボル式で評価する定位置プロパティの値を探します。

シンボル式によって設定されるプロパティ値の優先順位

同じプロパティの値を指定するメソッドが複数存在する場合、RICOH ProcessDirectorは常に、シンボル式が指定する値を使用します。プロパティ値のシンボル式が存在する場合、RICOH ProcessDirectorは以下を行います。

- 制御ファイルに指定されている値をすべて廃棄します。
例えば、ワークフローが**ジョブ名**プロパティの値として`${Job.InputFile}`を指定していると仮定した場合、`/aiw/aiw1/control_files/rules/` (Linux) または`C:¥aiw¥aiw1¥control_files¥rules¥` (Windows) `receive_lpd_pdf_jobtype.cfg`などの制御ファイルは`DEFINE ${Job.Name} AS "${ORIGHOST}"`を指定します。

RICOH ProcessDirectorは、**ジョブ名**プロパティの値をジョブのORIGHOSTパラメーターが指定する値ではなく、ジョブの入力ファイルの名前に設定します。

- ワークフローがシンボル式でデフォルト設定する、ジョブプロパティのジョブプロパティノートブックで明示的に指定された値をすべて廃棄します。シンボル式をワークフローから削除し、明示的に指定された値を使用するよう、ジョブを再処理する必要があります。

シンボル式の検査

RICOH ProcessDirectorはシンボル式の構文および内容を検証し、エラー条件に関するメッセージを出します。たとえば、**Job.Description=\${Job.CustomerName}**および**Job.Description=\${Job.XYZ}**はどちらもエラーになります。前者は閉じ括弧がないための構文エラーで、後者はジョブプロパティ名が不明です。

6. ジョブチケットのファイルシステムマッピングファイル

/aiw/aiw1/samples/config/ (Linux) またはC:¥aiw¥aiw1¥samples¥config ¥ (Windows) にある、サンプルのsystem_map.cfgは、JDFジョブチケットのファイルパスを、マウントされているファイルシステムのファイルパスに変換します。必要に応じて、このファイルを/aiw/aiw1/control_files/config/ (Linux) またはC:¥aiw ¥aiw1¥control_files¥config¥ (Windows) ディレクトリーにコピーして編集できます。

ファイルシステムマッピングファイルの各行は、次のフォーマットです。

```
client_file_path;host_file_path
```

client_file_path

クライアントファイルパスは、ジョブチケットに表示されるファイルパスです。ファイルパスには、円記号 (¥) またはスラッシュ文字 (/) が最低1個含まれます。ドライブ名を示すワイルドカードとして、アスタリスク (*) を含めることができます。

host_file_path

ホストファイルパスは、RICOH ProcessDirectorサーバーが入力ファイルを探せるファイルパスです。ファイルパスには、円記号 (¥) またはスラッシュ文字 (/) が最低1個含まれます。ワイルドカードは使用できません。

Linuxの場合、この行は、WindowsのファイルパスをLinuxのファイルパスに変換します。

```
*:¥; /
```

例

ファイルシステムマッピングファイルに次の行が含まれているとします。

```
C:¥production¥siteA;/BankFiles/prod
*:¥production¥siteA¥test;/BankFiles/test
```

ジョブチケットは、C:¥production¥siteA¥test¥justAtest.pdfというファイルを参照します。RICOH ProcessDirectorは、Linux上の次のディレクトリーでjustAtest.pdfを検索します。

1. /BankFiles/prod/test/
2. /BankFiles/test/
3. /production/siteA/test
4. ホットフォルダー入力装置のステージング位置

Windows の場合、次のディレクトリーで検索します。

1. D:¥BankFiles¥prod¥test¥
2. D:¥BankFiles¥test
3. ホットフォルダー入力装置のステージング位置

7. RICOH ProcessDirector制御ファイルの構文

- 規則用
- パススループリンターの場合
- アーカイブ機能の制御ファイル

さまざまなプロパティ値を設定して渡すために、RICOH ProcessDirectorのさまざまな部分で、制御ファイルまたは制御ファイルテンプレートの情報が使用されます。RICOH ProcessDirectorに用意されている制御ファイルおよび制御ファイルテンプレートをコピーし、インストール済み環境の要件に合わせて変更できます。

規則用のサンプル制御ファイル

RICOH ProcessDirectorには、JCLパラメーター、LPD制御ファイルパラメーター、またはJDF値を解析して、ワークフローの設定およびジョブプロパティ値の設定を行う、規則用のサンプル制御ファイルが用意されています。

規則用のサンプル制御ファイル (receive_jcl_jobtype.cfg、receive_lpd_jobtype.cfg、receive_lpd_pdf_jobtype.cfg、および receive_text_jobtype.cfg) は /aiw/aiw1/samples/rules/ (Linux) または C:%aiw%aiw1%samples%rules% (Windows) ディレクトリーにインストールされています。

ユーザー固有の制御ファイルを作成するには、サンプルファイルのうちの1つを /aiw/aiw1/control_files/rules/ (Linux) または C:%aiw%aiw1%control_files%rules% (Windows) ディレクトリーにコピーして名前を変更し、必要に応じて編集します。

↓ 補足

- 更新によって /aiw/aiw1/samples/ (Linux) または C:%aiw%aiw1%samples% (Windows) ディレクトリー内のファイルが上書きされることがありますが、/aiw/aiw1/control_files (Linux) または C:%aiw%aiw1%control_files (Windows) ディレクトリー内のファイルは上書きされません。サンプルファイルを /aiw/aiw1/control_files (Linux) または C:%aiw%aiw1%control_files (Windows) ディレクトリーにコピーして、コピーされたファイルですべての変更を行うことをお勧めします。

receive_jcl_jobtype.cfg

サンプル receive_jcl_jobtype.cfg ファイルは、Download for z/OS および AFP Download Plus から受信したジョブに対して、ワークフローおよびジョブプロパティを設定します。

AFP Support 機能には receive_jcl_jobtype.cfg ファイルがあります。

RICOH ProcessDirector はこの制御ファイルを使用して、RICOH ProcessDirector が Download 入力装置から受信した、PRD データセットを持つ JCL ファイルを解釈できます。たとえば、JCL ファイルには以下の情報を入れることができます。

```
"-odatat=af -oburst=no -occ=yes -occtype=m -ocop=1 -odatac=unblock
-ofileformat=stream -of=F1HPSTP1 -ojobn=HPUNCH05 -ono=BLDPDEV9
-opr=HPUNCH -ous=WAITE
-opa=class=B,dest=LOCAL,forms=STD,jobid=JOB00105"
```

制御ファイルを使用するには、入力装置の【子ワークフロー初期化ステップ】プロパティの値を **SetJobTypeFromRules** または **SetJobTypeFromFileName** に設定し、【子ワークフロー構文解析規則】プロパティの値を制御ファイルのパスとファイル名に設定します。**SetJobTypeFromRules**ステップでは、制御ファイルを使用して、ジョブのワークフローの設定およびジョブと共に実行依頼されたオプションの指定変更ファイルをRICOH ProcessDirectorプロパティ名=値形式のジョブプロパティ設定用ファイルへの変換のどちらか一方またはその両方を行います。

SetJobTypeFromFileNameステップでは、制御ファイルを使用してジョブプロパティを設定します。制御ファイル内の情報はすべて大/小文字が区別されます。

↓ 補足

ジョブプロパティノートブックで、制御ファイルを使用して読み取り専用のジョブプロパティを設定することはできません。

制御ファイルには、次のセクションが含まれます。

CONFIGURATION セクション

これはグローバル設定セクションで、RICOH ProcessDirector が JCL ファイルをどのように解釈するかを定義する、以下のキーワードから構成されています。

FILE_MODE

このキーワードは、RICOH ProcessDirector による JCL ファイルの処理方法を制御します。値 **"FILE"** は、ファイル内のすべての情報を 1 つのレコードとして扱うように RICOH ProcessDirector に指示します。このモードでは、RICOH ProcessDirector は検索および置換アクションを実行できます。JCL ファイルを処理する制御ファイルの場合は、必ず **"FILE"** 値を使用してください。値の二重引用符は必須です。

ATTRIBUTE_PATTERN

このキーワードは、RICOH ProcessDirectorがプロパティの名前をどのように認識するかを定義する正規表現を指定します。RICOH ProcessDirectorで用意されている値は **"¥\$¥¥{Job.*¥¥}"** です。式を区切るために二重引用符が使用され、式の中の特殊文字の前にエスケープ文字として円記号 () が使用されます。

「¥\$¥¥{Job.*¥¥}」値は、RICOH ProcessDirectorがジョブで始まる文字列としてプロパティ名を認識するように指示します。その後には0個以上の文字が続きます。RICOH ProcessDirectorジョブのプロパティ名は、この規則に一致します (Job.Duplex や Job.Print.CumulativeSheetsStacked など。)

KEYWORD_CASE

このキーワードは、JCL ファイルパラメーター名の中の文字が大文字か小文字か定義します。送信システムでの設定によっては、パラメーターがすべて大文字、またはすべて小文字で受け渡されることがあります。インストール済み環境の要件に応じて、値 **"UPPER"** または **"LOWER"** を使用してください。

NORMALIZER_PROGRAM

このキーワードは、JCL ファイルを変更するプログラムの名前を指定して、このファイルで定義されるすべてのプロパティの形式が **"keyword=value"** になるようにします。RICOH ProcessDirectorには、さまざまなスタイルのJCLパラ

メーターを"**keyword=value**"形式に変更するための**normalize_jcl.pl**プログラムが用意されています。

たとえば、このJCL文字列

```
"-odatat=af -oburst=no -opa=class=B,dest=LOCAL,forms=STD,jobid=JOB00105"
```

を考えると、RICOH ProcessDirector が制御ファイルで指定された **normalize_jcl.pl** プログラムを使用すると、JCL文字列が次の値に置き換えられます。

```
datat=af,burst=no,class=B,dest=LOCAL,forms=STD,jobid=JOB00105,
```

CONFIGURATION セクションの開始と終了の区切りには、**CONFIGURATION** および **ENDCONFIGURATION** を指定します。

REPLACE セクション

このセクションでは、sed コマンドを使用して、JCL ファイルのストリングを置換します。NORMALIZER_PROGRAM キーワードで定義されているプログラムが JCL ファイルを変換するため、サンプルファイルではコメント化されています。

たとえば、次のステートメントは、-opa= (先頭のスペースに注意) をすべてコンマで置換します。

```
#s! -opa=!,!
```

REPLACE セクションの開始と終了の区切りには、**REPLACE** および **ENDREPLACE** を指定します。

PATTERN KEY_VALUE セクション

このセクションは、RICOH ProcessDirector がキーワードおよび値をどのように検出し、これらを正規表現グループを使用してどのようにトークンに変換するかを記述します。RICOH ProcessDirector で用意されているこのセクションは、次のとおりです。

```
PATTERN KEY_VALUE
"(.*)=(.*)","
ENDPATTERN
```

パターンは二重引用符で区切られ、等号の左側のパターンがキーワードを表します。右側のパターンは値を表します。このパターンは、キーワードと値のペアのコンマ区切りリストを作成します。

DEFINE ステートメントセクション

このセクションでは、シンボル式を使用して、ジョブと一緒に渡された JCL ファイルのパラメーターの値から、RICOH ProcessDirector ワークフローおよびジョブプロパティーを設定します。このセクションに組み込むことができる **DEFINE** ステートメントのタイプの例は次のようになります。

```
DEFINE ${Job.JobType} AS "BILLS" WHEN (${DEST} == "LOCAL")
DEFINE ${Job.Class} AS "${CLASS}"
DEFINE ${Job.InputDatastream} AS "AFP" WHEN (${DATAT} == "af")
DEFINE ${Job.Destination} AS "${DEST}"
DEFINE ${Job.RequestedPrinter} AS "${DEST}"
DEFINE ${Job.Customer} AS "XYZ" WHEN (${CLASS} == "Z") FINALLY QUIT
```

最初の **DEFINE** ステートメントは条件ステートメントです。この例で、RICOH ProcessDirector は、**Job.JobType** プロパティーの値を **BILLS** に設定します。これ

は、JCL ファイルからの **DEST** パラメーターの値が **LOCAL** の場合に当てはまります。**DEST** パラメーターが別の値の場合、RICOH ProcessDirector は制御ファイルからワークフローを設定しません。この場合、Download 入力装置に割り当てられたワークフローを使用するなど、別の方法を使用してワークフローが設定されます。

2 番目の **DEFINE** ステートメントは条件のないステートメントです。この例で、RICOH ProcessDirector は **Job.Class** ジョブプロパティの値を、ジョブと一緒に渡された **CLASS** パラメーターの値に設定します。このため、RICOH ProcessDirector が受け取ったオリジナルの JCL スtring が **-opa=class=B** を含む場合、RICOH ProcessDirector は **Job.Class** プロパティの値を **B** に設定します。

3 番目の **DEFINE** ステートメントは条件ステートメントです。この例で、RICOH ProcessDirector は、**Job.InputDataStream** プロパティの値を **AFP** に設定します。これは、JCL からの **DATAT** パラメーターの値が **af** の場合に当てはまります。**DATAT** パラメーターの値がこれ以外である場合、RICOH ProcessDirector は **Job.InputDataStream** プロパティの値を設定しません。

4 番目と 5 番目の **DEFINE** ステートメントは、条件のないステートメントで、2 つの異なるジョブプロパティの値を、同じパラメーターの値に設定します。

最後の **DEFINE** ステートメントは条件ステートメントです。このステートメントは、RICOH ProcessDirector に制御ファイルからの **DEFINE** ステートメントの読み取りを停止させることができます。ステートメントに定義された条件が真である場合、RICOH ProcessDirector は制御ファイルの読み取りを停止します。条件が **false** の場合、RICOH ProcessDirector は **FINALLY QUIT** ステートメント以降のすべての **DEFINE** ステートメントの評価を続行します。

7

receive_lpd_jobtype.cfg

サンプル **receive_lpd_jobtype.cfg** ファイルは、LPD プロトコルで受信した AFP ジョブに対して、ワークフローおよびジョブプロパティを設定します。

AFP Support 機能には **receive_lpd_jobtype.cfg** ファイルがあります。

RICOH ProcessDirector はこの制御ファイルを使用して、LPD 印刷プロトコルから受信した AFP 印刷ジョブを持つ LPD 制御ファイルを解釈します。LPD 制御ファイルのフォーマットは、送信ホストのオペレーティングシステムによって異なります。たとえば、Windows から受信した LPD 制御ファイルに、次の情報が含まれていることがあります。

```
orighost=mywindowshost
origuser=annsmith
origname=TestPDF.pdf
```

制御ファイルを使用するには、入力装置の [[子ワークフロー初期化ステップ]] プロパティの値を [SetJobTypeFromRules] または [SetJobTypeFromFileName] に設定し、[[子ワークフロー構文解析規則]] プロパティの値を制御ファイルのパスとファイル名に設定します。[SetJobTypeFromRules] ステップでは、制御ファイルを使用して、ジョブのワークフローの設定およびジョブと共に実行依頼されたオプションの指定変更ファイルを RICOH ProcessDirector プロパティ名=値形式のジョブプロパティ設定用ファイルへの変換のどちらか一方またはその両方を行います。

[SetJobTypeFromFileName] ステップでは、制御ファイルを使用してジョブプロパティを設定します。制御ファイル内の情報はすべて大/小文字が区別されます。

↓ 補足

ジョブプロパティノートブックで、制御ファイルを使用して読み取り専用のジョブプロパティを設定することはできません。

制御ファイルには、次のセクションが含まれます。

CONFIGURATION セクション

これはグローバル設定セクションで、RICOH ProcessDirector が LPD 制御ファイルパラメーターをどのように解釈するかを定義する、次のキーワードから構成されています。

FILE_MODE

このキーワードは、RICOH ProcessDirector による LPD 制御ファイルの処理方法を制御します。値 **"FILE"** は、ファイル内のすべての情報を 1 つのレコードとして扱うように RICOH ProcessDirector に指示します。このモードでは、RICOH ProcessDirector は検索および置換アクションを実行できます。値の二重引用符は必須です。

ファイルモードの値が **"RECORD"** であれば、RICOH ProcessDirector はファイル内の情報をレコード単位で読み取ります。値の二重引用符は必須です。

ATTRIBUTE_PATTERN

このキーワードは、RICOH ProcessDirector がプロパティの名前をどのように認識するかを定義する正規表現を指定します。RICOH ProcessDirector で用意されている値は **"¥\$¥¥{Job.*¥¥}"** です。式を区切るために二重引用符が使用され、式の中の特殊文字の前にエスケープ文字として円記号 () が使用されます。

「¥\$¥¥{Job.*¥¥}」値は、RICOH ProcessDirector がジョブで始まる文字列としてプロパティ名を認識するように指示します。その後 0 個以上の文字が続きます。RICOH ProcessDirector ジョブのプロパティ名は、この規則に一致します (Job.Duplex や Job.Print.CumulativeSheetsStacked など。)

KEYWORD_CASE

このキーワードは、LPD 制御ファイルパラメーター名の中の文字が大文字か小文字か定義します。送信システムでの設定によっては、パラメーターがすべて大文字、またはすべて小文字で受け渡されることがあります。インストール済み環境の要件に応じて、値 **"UPPER"** または **"LOWER"** を使用してください。

CONFIGURATION セクションの開始と終了の区切りには、**CONFIGURATION** および **ENDCONFIGURATION** を指定します。

REPLACE セクション

このセクションでは sed コマンドを使用して、LPD 制御ファイル内のストリングを置換します。これはサンプルファイルではコメント化されています。おそらくこれを使用する必要はありません。

REPLACE セクションの開始と終了の区切りには、**REPLACE** および **ENDREPLACE** を指定します。

PATTERN KEY_VALUE セクション

このセクションは、RICOH ProcessDirectorがキーワードおよび値をどのように検出し、これらを正規表現グループを使用してどのようにトークンに変換するかを記述します。RICOH ProcessDirectorで用意されているこのセクションは、次のとおりです。

```
PATTERN KEY_VALUE
"(.*)=(.*)","
ENDPATTERN
```

パターンは二重引用符で区切られ、等号の左側のパターンがキーワードを表します。右側のパターンは値を表します。このパターンは、キーワードと値のペアのコンマ区切りリストを作成します。

DEFINE ステートメントセクション

このセクションでは、シンボル式を使用して、ジョブと一緒に渡された LPD 制御ファイルの値から RICOH ProcessDirector ワークフローおよびジョブプロパティを設定します。このセクションに組み込むことができる **DEFINE** ステートメントのタイプの例:

Linux の場合の例:

```
DEFINE ${Job.JobType} AS "PDF" WHEN (${ORIGHOST} == "mywindowshost")
DEFINE ${Job.Name} AS "${ORIGNAME}"
DEFINE ${Job.Host.UserID} AS "${ORIGUSER}"
DEFINE ${Job.InputDatastream} AS "PDF" WHEN
(${ORIGHOST} == "mywindowshost")
DEFINE ${Job.Customer} AS "XYZ" WHEN
(${ORIGUSER} == "xyzadmin") FINALLY QUIT
```

[DEFINE \${Job.JobType}] ステートメントは条件ステートメントです。この例で、RICOH ProcessDirector は、[Job.JobType] プロパティの値を PDF に設定します。これは、LPD 制御ファイルからの [ORIGHOST] パラメーターの値が mywindowshost の場合に当てはまります。[ORIGHOST] パラメーターが別の値の場合、RICOH ProcessDirector は制御ファイルからワークフローを設定しません。この場合、LPD 入力装置に割り当てられたワークフローを使用するなど、別の方法を使用してワークフローが設定されます。

[DEFINE \${Job.Name}] ステートメントによって、[Job.Name] プロパティの値が元の入力ファイルの名前に設定されます。

[DEFINE \${Job.Host.UserID}] ステートメントは条件のないステートメントです。この例で、RICOH ProcessDirector は、[Job.Host.UserID] ジョブプロパティの値を、LPD 制御ファイルの [ORIGUSER] パラメーターの値に設定します。このため、RICOH ProcessDirector が受け取ったオリジナルの LPD 制御ファイルが origuser=annsmith を含む場合、RICOH ProcessDirector は、[Job.Host.UserID] プロパティの値を annsmith に設定します。

[DEFINE \${Job.InputDatastream}] ステートメントは条件ステートメントです。この例で、RICOH ProcessDirector は、[Job.InputDataStream] ジョブプロパティの値を PDF に設定します。これは、LPD 制御ファイルからの [ORIGHOST] パラメーターの値が mywindowshost の場合に当てはまります。[ORIGHOST] パラメーターの値がこれ以外である場合、RICOH ProcessDirector は [Job.InputDataStream] プロパティの値を設定しません。

[DEFINE \${Job.Customer}] ステートメントは条件ステートメントです。このステートメントは、RICOH ProcessDirector に制御ファイルからの [DEFINE] ステートメントの読み取りを停止させることができます。ステートメントに定義された条件が真である場合、RICOH ProcessDirector は制御ファイルの読み取りを停止します。条件が

falseの場合、RICOH ProcessDirector は [FINALLY QUIT] ステートメント以降のすべての [DEFINE] ステートメントの評価を続行します。

receive_lpd_pdf_jobtype.cfg

サンプル receive_lpd_pdf_jobtype.cfg ファイルは、LPD プロトコルで受信した PDF ジョブに対して、ワークフローおよびジョブプロパティを設定します。

RICOH ProcessDirectorはこの制御ファイルを使用して、LPD印刷プロトコルから受信した PDF印刷ジョブを持つLPD制御ファイルを解釈します。LPD 制御ファイルのフォーマットは、送信ホストのオペレーティングシステムによって異なります。たとえば、Windows から受信したLPD制御ファイルに、次の情報が含まれていることがあります。

```
orighost=mywindowshost
origuser=annsmith
origname=TestPDF.pdf
```

制御ファイルを使用するには、入力装置の【子ワークフロー初期化ステップ】プロパティの値を **SetJobTypeFromRules** または **SetJobTypeFromFileName** に設定し、【子ワークフロー構文解析規則】プロパティの値を制御ファイルのパスとファイル名に設定します。**SetJobTypeFromRules**ステップでは、制御ファイルを使用して、ジョブのワークフローの設定およびジョブと共に実行依頼されたオプションの指定変更ファイルをRICOH ProcessDirectorプロパティ名=値形式のジョブプロパティ設定用ファイルへの変換のどちらか一方またはその両方を行います。

SetJobTypeFromFileNameステップでは、制御ファイルを使用してジョブプロパティを設定します。制御ファイル内の情報はすべて大/小文字が区別されます。

↓ 補足

- ジョブプロパティノートブックで、制御ファイルを使用して読み取り専用のジョブプロパティを設定することはできません。

制御ファイルには、次のセクションが含まれます。

CONFIGURATION セクション

これはグローバル設定セクションで、RICOH ProcessDirector が LPD 制御ファイルパラメーターをどのように解釈するかを定義する、次のキーワードから構成されています。

FILE_MODE

このキーワードは、RICOH ProcessDirector による LPD 制御ファイルの処理方法を制御します。値 **"FILE"** は、ファイル内のすべての情報を 1 つのレコードとして扱うように RICOH ProcessDirector に指示します。このモードでは、RICOH ProcessDirector は検索および置換アクションを実行できます。値の二重引用符は必須です。

ファイルモードの値が **"RECORD"** であれば、RICOH ProcessDirector はファイル内の情報をレコード単位で読み取ります。値の二重引用符は必須です。

ATTRIBUTE_PATTERN

このキーワードは、RICOH ProcessDirectorがプロパティの名前をどのように認識するかを定義する正規表現を指定します。RICOH ProcessDirectorで用意さ

れている値は `"¥$¥¥{Job.*¥¥}"` です。式を区切るために二重引用符が使用され、式の中の特殊文字の前にエスケープ文字として円記号 () が使用されます。

「¥\$¥¥{Job.*¥¥}」値は、RICOH ProcessDirectorがジョブで始まる文字列としてプロパティ名を認識するように指示します。その後に0個以上の文字が続きます。RICOH ProcessDirectorジョブのプロパティ名は、この規則に一致します (Job.Duplex や Job.Print.CumulativeSheetsStacked など。)

KEYWORD_CASE

このキーワードは、LPD 制御ファイルパラメーター名の中の文字が大文字か小文字か定義します。送信システムでの設定によっては、パラメーターがすべて大文字、またはすべて小文字で受け渡されることがあります。インストール済み環境の要件に応じて、値 `"UPPER"` または `"LOWER"` を使用してください。

CONFIGURATION セクションの開始と終了の区切りには、**CONFIGURATION** および **ENDCONFIGURATION** を指定します。

REPLACE セクション

このセクションでは sed コマンドを使用して、LPD 制御ファイル内のストリングを置換します。これはサンプルファイルではコメント化されています。おそらくこれを使用する必要はありません。

REPLACE セクションの開始と終了の区切りには、**REPLACE** および **ENDREPLACE** を指定します。

7

PATTERN KEY_VALUEセクション

このセクションは、RICOH ProcessDirectorがキーワードおよび値をどのように検出し、これらを正規表現グループを使用してどのようにトークンに変換するかを記述します。RICOH ProcessDirectorで用意されているこのセクションは、次のとおりです。

```
PATTERN KEY_VALUE
"(.*)=(.*)"
ENDPATTERN
```

パターンは二重引用符で区切られ、等号の左側のパターンがキーワードを表します。右側のパターンは値を表します。このパターンは、キーワードと値のペアのコンマ区切りリストを作成します。

DEFINE ステートメントセクション

このセクションでは、シンボル式を使用して、ジョブと一緒に渡された LPD 制御ファイルの値から RICOH ProcessDirector ワークフローおよびジョブプロパティを設定します。このセクションに組み込むことができる **DEFINE** ステートメントのタイプの例は次のようになります。

```
DEFINE ${Job.JobType} AS "PDF" WHEN (${ORIGHOST} == "mywindowshost")
DEFINE ${Job.Name} AS "${ORIGNAME}"
DEFINE ${Job.Host.UserID} AS "${ORIGUSER}"
DEFINE ${Job.InputDatastream} AS "PDF" WHEN
(${ORIGHOST} == "mywindowshost")
DEFINE ${Job.Customer} AS "XYZ" WHEN
(${ORIGUSER} == "xyzadmin") FINALLY QUIT
```

DEFINE \${Job.JobType} ステートメントは条件ステートメントです。この例で、RICOH ProcessDirector は、**Job.JobType** プロパティの値を PDF に設定します。これは、LPD 制御ファイルからの **ORIGHOST** パラメーターの値が mywindowshost の場合に当てはまります。**ORIGHOST** パラメーターが別の値の場合、RICOH ProcessDirector は制御ファイルからワークフローを設定しません。この場合、LPD 入力装置に割り当てられたワークフローを使用するなど、別の方法を使用してワークフローが設定されます。

DEFINE \${Job.Name} ステートメントによって、**Job.Name** プロパティの値が元の入力ファイルの名前に設定されます。

DEFINE \${Job.Host.UserID} ステートメントは条件のないステートメントです。この例で、RICOH ProcessDirector は、**Job.Host.UserID** ジョブプロパティの値を、LPD 制御ファイルの **ORIGUSER** パラメーターの値に設定します。このため、RICOH ProcessDirector が受け取ったオリジナルの LPD 制御ファイルが origuser=annsmith を含む場合、RICOH ProcessDirector は、**Job.Host.UserID** プロパティの値を annsmith に設定します。

DEFINE \${Job.InputDatastream} ステートメントは条件ステートメントです。この例で、RICOH ProcessDirector は、**Job.InputDataStream** ジョブプロパティの値を PDF に設定します。これは、LPD 制御ファイルからの **ORIGHOST** パラメーターの値が mywindowshost の場合に当てはまります。**ORIGHOST** パラメーターの値がこれ以外である場合、RICOH ProcessDirector は **Job.InputDataStream** プロパティの値を設定しません。

DEFINE \${Job.Customer} ステートメントは条件ステートメントです。このステートメントは、RICOH ProcessDirector に制御ファイルからの **DEFINE** ステートメントの読み取りを停止させることができます。ステートメントに定義された条件が真である場合、RICOH ProcessDirector は制御ファイルの読み取りを停止します。条件が false の場合、RICOH ProcessDirector は **FINALLY QUIT** ステートメント以降のすべての **DEFINE** ステートメントの評価を続行します。

receive_text_jobtype.cfg

サンプル receive_text_jobtype.cfg ファイルは、テキスト指定変更ファイルから [ワークフロー] を設定します。

RICOH ProcessDirector で提供される **SetJobTypeFromRules** ステップは、receive_text_jobtype.cfg 制御ファイルを使用して、*jobID.overrides.text* ファイルからワークフローを設定できます。このステップはまた、この制御ファイルを使用して、オプションのジョブ定義フォーマット (JDF) ジョブチケットファイル、*jobID.overrides.jdf* を、ワークフローを設定するための *jobID.overrides.text* ファイルで使用できる一時テキストベース指定変更ファイルに変換できます。

制御ファイル内の情報はすべて大/小文字が区別されます。

制御ファイルには、次のセクションが含まれます。

CONFIGURATION セクション

これはグローバル設定セクションで、RICOH ProcessDirector がジョブチケットパラメーターをどのように解釈するかを定義する、以下のキーワードから構成されています。

FILE_MODE

このキーワードは、RICOH ProcessDirectorによるジョブチケットの処理方法を制御します。値 **"FILE"** は、ファイル内のすべての情報を1つのレコードとして扱うように RICOH ProcessDirector に指示します。このモードでは、RICOH ProcessDirector は検索および置換アクションを実行できます。値の二重引用符は必須です。

ファイルモードの値が **"RECORD"** であれば、RICOH ProcessDirector はファイル内の情報をレコード単位で読み取ります。値の二重引用符は必須です。

ATTRIBUTE_PATTERN

このキーワードは、RICOH ProcessDirectorがプロパティの名前をどのように認識するかを定義する正規表現を指定します。RICOH ProcessDirectorで用意されている値は **"¥\$¥¥{Job.*¥¥}"** です。式を区切るために二重引用符が使用され、式の中の特殊文字の前にエスケープ文字として円記号 () が使用されます。

「¥\$¥¥{Job.*¥¥}」値は、RICOH ProcessDirectorがジョブで始まる文字列としてプロパティ名を認識するように指示します。その後0個以上の文字が続きます。RICOH ProcessDirectorジョブのプロパティ名は、この規則に一致します (Job.Duplex や Job.Print.CumulativeSheetsStacked など。)

KEYWORD_CASE

このキーワードは、ジョブチケットパラメーター名の中の文字が大文字か小文字か定義します。送信システムでの設定によっては、パラメーターがすべて大文字、またはすべて小文字で受け渡されることがあります。インストール済み環境の要件に応じて、値 **"UPPER"** または **"LOWER"** を使用してください。

CONFIGURATION セクションの開始と終了の区切りには、**CONFIGURATION** および **ENDCONFIGURATION** を指定します。

REPLACE セクション

このセクションでは sed コマンドを使用して、ジョブチケット内のストリングを置換します。これはサンプルファイルではコメント化されています。おそらくこれを使用する必要はありません。

REPLACE セクションの開始と終了の区切りには、**REPLACE** および **ENDREPLACE** を指定します。

PATTERN KEY_VALUEセクション

このセクションは、RICOH ProcessDirectorがキーワードおよび値をどのように検出し、これらを正規表現グループを使用してどのようにトークンに変換するかを記述します。RICOH ProcessDirectorで用意されているこのセクションは、次のとおりです。

```
PATTERN KEY_VALUE
"(.*)=(.*)","
ENDPATTERN
```

パターンは二重引用符で区切られ、等号の左側のパターンがキーワードを表します。右側のパターンは値を表します。このパターンは、キーワードと値のペアのコンマ区切りリストを作成します。

DEFINE ステートメントセクション

このセクションでは、シンボル式を使用して、ジョブと一緒に渡されたジョブチケットの値からRICOH ProcessDirectorワークフローを設定します。RICOH ProcessDirectorは、ワークフローの設定に一般的に次のようなタイプの**DEFINE**ステートメントを使用します。

```
DEFINE ${Job.JobType} AS "Transform"
DEFINE ${Job.JobType} AS "PDF" WHEN (${Job.InputDatastream} == "pdf")
```

最初の **DEFINE** ステートメントは、デフォルトワークフローを設定します。2 番目の **DEFINE** ステートメントは条件付きです。この例では、RICOH ProcessDirectorは**Job.JobType**プロパティの値をPDFに設定します。これは、テキスト指定変更ファイルの**Job.InputDatastream**パラメーターの値がpdfの場合に当てはまります。**Job.InputDatastream** パラメーターが他の値の場合、RICOH ProcessDirector はデフォルトワークフローを使用します。

JCL および LPD の jobtype ファイルで -ooutbin パラメーターを使用する

RICOH ProcessDirector 付属の制御ファイル `receive_jcl_jobtype.cfg`、`receive_lpd_jobtype.cfg`、および `receive_lpd_pdf_jobtype.cfg` によって、`-ooutbin` パラメーターの値が `Job.OutputBin` プロパティにマッピングされます。

JCL および LPD の jobtype ファイルで `-ooutbin` パラメーターを使用するには、次の手順に従います。

1. 下記の表に、実際に使用するアプリケーション、プリンター、およびビンの情報を記入してください。1つの行が1つのビンの情報を表します。

列 1: -ooutbin パラメーターで使用する値 (プロパティ値)	列 2: プロパティ・ノートブックでのビン名 (オブジェクト名、outputBin 名)	列 3: プリンターのモデル (printerModel 名)	列 4: プリンター のビン名 (binNumber)
例: 9	例: Stacker9	例: InfoPrint 2085	例: 9

2. 次のテキストを空のテキストファイルにコピーします。

```
<IPPD_UpdateData version="1.0" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <object name="Stacker9" type="OutputBin">
    <property name="OutputBin.BinNumber" value="9"/>
  </object>
  <printerModel name="InfoPrint 2085">
    <outputBin name="Stacker9" binNumber="9"/>
  </printerModel>
</IPPD_UpdateData>
```

3. 表に記入した値を使用して、このテキストファイルを編集します。

1. `<object>` と `<printerModel>` タグのセットは、表の1つの行につき1セット必要です。必要なだけこれらのタグのセットをコピーしてください。
2. 列1の値を `property` タグの `value` 属性に使用します。

3. 列2の値を object タグおよび outputBin タグの name 属性に使用します。
4. 列3の値を printerModel タグの name 属性に使用します。
5. 列4の値を outputBin タグの binNumber 属性に使用します。
4. ファイルを保管します。
5. [管理] タブをクリックします。
6. 左のペインで、ユーティリティー → オブジェクトをインポートをクリックします。
7.  をクリックして、先ほど作成したXMLファイルに移動します。[開く] をクリックします。
8. [インポート] をクリックします。

パススループリンター用制御ファイルテンプレートの例

RICOH ProcessDirectorにより、パススループリンター用の制御ファイルテンプレートの例が示されます。このテンプレートは、passthru.cfg と呼ばれ、/aiw/aiw1/samples/passthru/ (Linux) またはC:%aiw%aiw1%samples%passthru% (Windows) にインストールされます。

パススループリンターで指定するプリンターコマンドにより制御ファイルが使用される場合は、RICOH ProcessDirectorが制御ファイルテンプレートから生成する制御ファイルにより、プリンターコマンドのオプションが指定されます。許可ユーザーは、RICOH ProcessDirectorで用意されている制御ファイルテンプレートのサンプルをコピーして変更できます。その後で、カスタマイズした制御ファイルテンプレートを、RICOH ProcessDirector からアクセス可能な任意のディレクトリーに配置します。**制御ファイルテンプレート**プリンタープロパティーを使用して、制御ファイルテンプレートの名前と場所を指定します。

↓ 補足

- 更新によって/aiw/aiw1/samples/ (Linux) またはC:%aiw%aiw1%samples% (Windows) ディレクトリー内のファイルが上書きされることがありますが、/aiw/aiw1/control_files (Linux) またはC:%aiw%aiw1%control_files (Windows) ディレクトリー内のファイルは上書きされません。サンプルファイルを/aiw/aiw1/control_files (Linux) またはC:%aiw%aiw1%control_files (Windows) ディレクトリーにコピーして、コピーされたファイルですべての変更を行うことをお勧めします。

passthru.cfg 制御ファイルテンプレートはRICOH ProcessDirectorシンボル式を使用して、プリンターコマンドのパラメーター値を設定します。制御ファイルテンプレート内の項目の例を以下に示します。

```
JobID=${Job.ID}

JobCopies=${Job.Copies}

PrinterId=${Printer.ID}

CustomerName=${Printer.CustomerName}
```

等号の左側のキーワードは、サンプルパラメーターです。

↓ 補足

すべてのプリンターコマンドが、制御ファイルを使用できるわけではありません。使用できる場合は、異なるパラメーター名を使用している可能性があります。

右側の値は、RICOH ProcessDirector ジョブプロパティのシンボル式です。

JobCopies=\${Job.Copies}の例の場合は、RICOH ProcessDirectorにより、**JobCopies**パラメーターの値が**Job.Copies** ジョブプロパティの値に設定されます。たとえば、ジョブがプリンターに送信されたときに保存されたオリジナルの入力ファイル名が必要な場合は、**JobID** パラメーターの制御ファイルテンプレート項目で、**\${Job.ID}** の代わりに **\${Job.Inputfile}** を使用できます。

アーカイブ機能の制御ファイル

RICOH ProcessDirectorアーカイブ機能では、StoreInRepositoryステップの入力として、関連プロパティファイルと文書プロパティファイルを使用できます。関連プロパティファイルは、リポジトリに保存する必要がある特定のプロパティを定義します。このプロパティは、ジョブに関連付けられている（他のオブジェクトの）プロパティです。文書プロパティファイルは、リポジトリに保存するプロパティ値が含まれている、タブ区切りのファイルです。アーカイブ処理にはどちらのファイルも必要ありませんが、会社が必要とするワークフロージョブの実働履歴の取得に役立ちます。

アーカイブ機能を使用すると、ジョブまたは文書がリポジトリに書き込まれたときに保存された、ジョブまたは文書のプロパティが含まれているファイルも生成できます。このファイルは、[ExportFromRepository] ステップテンプレートによって生成され、エクスポート結果ファイルと呼ばれます。

7

関連プロパティファイルを作成する

関連プロパティファイルを作成して、ジョブに関連付けられているが、他のオブジェクトのプロパティである 1 つ以上のプロパティを指定できます。[StoreInRepository] ステップテンプレートに基づくステップが実行されると、値がジョブと文書データともにリポジトリに保存されます。例えば、ジョブに要求されたプリンターのモデルや、ジョブの印刷に指定されたカラーを保存できます。

↓ 補足

- 関連プロパティファイルで定位置ジョブプロパティを指定し、リポジトリに値を保存することもできます。定位置ジョブプロパティを、[StoreInRepository] ステップの [保存するジョブプロパティ] プロパティの値として選択することはできません。ワークフローで、定位置プロパティの値が、同じステップテンプレートに基づく別のステップとは異なる場合があります。

定位置ジョブプロパティ

定位置ジョブプロパティを保存するには、プロパティ、ステップがあるフェーズ、プロパティのあるステップの内部名、プロパティのラベルを指定します。構文は次のとおりです。

```
Job_property[Phase][Step_identifier]:Property_label
```

この例では、Automated Verification機能があり、挿入フェーズの [ReadBarcodeData] ステップが、インサーターを通じてジョブの文書を追跡するのに使用するバーコードリーダーの名前を保存します。

関連プロパティファイルを作成する際に、次の行をテキストエディターに入力します。

```
Job.TrackAndTrace.BarcodeReader[Insert][ReadBarcodeData]:Property_label
```

プロパティのラベルは Job.BarcodeReader などになります。

[StoreInRepository] ステップが実行されると、RICOH ProcessDirector が次を実行します。

1. [挿入] フェーズの [ReadBarcodeData] ステップの [バーコードリーダー] ジョブプロパティ (データベース名 [Job.TrackAndTrace.BarcodeReader]) の値を取得します。
この値は [BarcodeReader1] などになります。
2. ジョブの他の情報とその文書とともに [バーコードリーダー] プロパティの値をリポジトリに保存します。

ステップテンプレートのプロパティが定位置にあるかどうかを確認するには、[?] アイコンをクリックし、ヘルプの [使用上の注意] を確認します。

ジョブに関連付けられたプロパティ

もう1つのオブジェクトのプロパティの値を保存するためには、そのプロパティに関する連鎖を作成できるようになる必要があります。連鎖は、オブジェクトを値として指定するジョブプロパティで始めます。連鎖の次のプロパティは、ジョブプロパティで指定されているオブジェクトのプロパティになります。連鎖は、保存する値のプロパティで終わります。

連鎖は、オブジェクトを値として指定する任意のプロパティで始めることができますが、これらのジョブプロパティでほとんどのニーズを満たします。

オブジェクト	ジョブプロパティのユーザーインターフェース名	ジョブプロパティのデータベース名	基本製品または機能
バーコードリーダー	バーコードリーダー	Job.TrackAndTrace.BarcodeReader	自動確認
入力装置	なし	Job.SourceInputDeviceName	基本製品
インサーター	インサーターコントローラー	Job.InserterSystem.ID	インサーター
メディア	メディア	Job.Media	基本製品
プリンター	要求されたプリンター	Job.RequestedPrinter	基本製品

次の行で、関連プロパティを指定する構文の簡単なバージョンを示します。

```
Property_to_store@Job_property:Property_label
```

↓ 補足

- [PrintJobs] ステップで [いずれかのプリンター] を選択しても、Job.RequestedPrinter データベース名は使用できません。名前を Job.PreviousPrinter に置き換えます。

コロンで始まり、右から左へプロパティーが読み込まれます。連鎖のプロパティーの数は、様々です。@ シンボルで、プロパティーを区切ります。コロンの右側がプロパティーのラベルです。プロパティーのラベルは必須です。

以下の例では、プロパティーのユーザーインターフェイス名を () で囲んだデータベース名とともに示します。関連プロパティーファイルを作成する際に、データベース名を使用します。

- [プリンターのモデル] プリンタープロパティー (データベース名 [Printer.Model.Specific]) の値を保存するとします。[要求されたプリンター] ジョブプロパティー (データベース名 [Job.RequestedPrinter]) をプリンタープロパティーに直接つなげます。

関連プロパティーファイルを作成する際に、次の行をテキストエディターに入力します。

```
Printer.Model.Specific@Job.RequestedPrinter:Property_label
```

プロパティーのラベルは Job.PrinterModel などになります。

[StoreInRepository] ステップが実行されると、RICOH ProcessDirector が次を実行します。

1. [要求されたプリンター] プロパティーの値を取得します。
この値は [Printer4] などになります。
2. [Printer.Model.Specific] プロパティーの [Printer.] 部分を使用して、連鎖の次のオブジェクトであるプリンターオブジェクトを識別します。
3. [Printer4] の [プリンターのモデル] の値を取得します。
この値は [Ricoh Pro C901] などになります。
4. [プリンターのモデル] プロパティーの値を、ジョブの他の情報とその文書とともにリポジトリに保存します。

★ 重要

- ジョブプロパティーと、次のプロパティーのオブジェクト部分の間のリンクは重要です。[要求されたプリンター] ジョブプロパティーをプリンタープロパティーとリンクする必要があります。プリンタープロパティーのデータベース名は、[Printer] で始まります。このトピックの最後で挙げる例で、中間プロパティーを使用して、ジョブプロパティーともう 1 つのプロパティーをリンクする方法を示します。
- この例では、Automated Verification機能があり、[バーコード形式] プロパティー (データベース名 [BarcodeReader.BarcodeFormat]) の値を保存します。[バーコードリーダー] ジョブプロパティー (データベース名 [Job.TrackAndTrace.BarcodeReader]) を [Barcode Format] プロパティーに直接つなげることができます。[バーコードリーダー] プロパティーは定位置プロパティーなので、フェーズおよびステップ ID を指定する必要があります。

2つの異なるステップがバーコードを読み込みますが、その2つのステップのバーコードリーダーは異なるバーコード形式を使用します。挿入フェーズで

[ReadBarcodeData] ステップが使用するバーコードリーダーが必要です。

関連プロパティファイルを作成する際に、次の行をテキストエディターに入力します。

```
BarcodeReader.BarcodeFormat@Job.TrackAndTrace.BarcodeReader
[Insert][ReadBarcodeData]:Property_label
```

プロパティのラベルは Job.BarcodeFormat などになります。

[StoreInRepository] ステップが実行されると、RICOH ProcessDirector が次を実行します。

1. [挿入] フェーズの [ReadBarcodeData] ステップの [バーコードリーダー] の値を取得します。
この値は [BarcodeReader2] などになります。
2. [BarcodeReader.BarcodeFormat] プロパティの [BarcodeReader.] 部分を使用して、連鎖の次のオブジェクトであるバーコードリーダーオブジェクトを識別します。
3. [BarcodeReader2] の [バーコード形式] の値を取得します。
この値は [BarcodeFormat2] などになります。
4. ジョブの他の情報とその文書とともに [バーコード形式] プロパティの値をリポジトリに保存します。

7

関連プロパティファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. テキストエディターで新しいファイルを作成します。
2. 保存する値の最初のプロパティに関する行を入力します。

次の構文を使用します。

```
Property_to_store@Intermediate_property@Job_property[Phase]
[Step_identifier]:Property_label
```

ここで、

- *Property_to_store* は、保存するプロパティのデータベース名です。
- *Intermediate_property* は中間プロパティのデータベース名です。必要な場合は、これでメディアなどの中間オブジェクト指定することで、ジョブプロパティを保存するプロパティにリンクします。中間プロパティを2つ指定する必要がある場合は、@ シンボルで区切ります。
Intermediate_property を使用しなくても、多くのジョブプロパティを直接プロパティにリンクできます。
- *Job_property[Phase][Step_identifier]* が、その部分です。
 - *Job_property* は、プリンターなどのオブジェクトを識別するジョブプロパティのデータベース名です。
定位置ジョブプロパティは、[StoreInRepository] ステップで [保存するジョブプロパティ] の値として使用できません。これを保存する場合は、*Job_property* が定位置ジョブプロパティのデータベース名です。追加のプロパティを指定する必要はありません。

- プロパティが定位置プロパティの場合、*Phase* がステップのあるフェーズの名前です。*Step_identifier* はプロパティがあるステップの内部名です。

プロパティが定位置プロパティでない場合は、「*Phase*」または「*Step_identifier*」を入力しないでください。

- *Property_label* は、[アーカイブ] タブの [結果] テーブルの [詳細を表示] をクリックすると、[プロパティ] タブに表示される名前です。Job形式をお勧めします。*MyProperty*. 関連プロパティファイルの各プロパティのプロパティラベルは一意である必要があります。

例えば、次のように入力します。

```
Job.TrackAndTrace.BarcodeReader[Insert][ReadBarcodeData]:Job.
BarcodeReader
```

3. 2 番目のプロパティに値を保存する場合は、改行を入力してから、2 番目のプロパティ用に以前のステップを繰り返します。

例えば、次のように入力します。

```
Printer.Model.Specific@Job.RequestedPrinter:Job.PrinterModel
```

4. テキストファイルを保存します。

この例では、ファイルに *associatedproperties.txt* という名前を付けます。

5. RICOH ProcessDirector サーバーの RICOH ProcessDirector システムユーザーがアクセスできるディレクトリー内に関連プロパティファイルを送信します。

これで、ワークフローの [StoreInRepository] ステップの [関連プロパティファイル] プロパティの値として、このファイルを使用できます。

[StoreInRepository] ステップが実行されると、RICOH ProcessDirector が、関連プロパティファイルで指定されているそれぞれの保存済みプロパティの値を (各文書とジョブとともに) 保存します。

- 関連プロパティファイルの行に保存されているプロパティ値がヌルの場合、RICOH ProcessDirector は、そのプロパティのヌル値を保存します。
- プロパティで複数の選択が許可されている場合は、RICOH ProcessDirector は、複数の選択を縦線 (|) で区切って保存します。例えば、保存されるプロパティの値は [BarcodeReader1|BarcodeReader2] などになります。
- 複数の値がジョブプロパティと関連オブジェクトプロパティの両方に選択されている場合、RICOH ProcessDirector は、下線とジョブプロパティの名前をプロパティのラベルに追加します。RICOH ProcessDirector はジョブプロパティ値を個別に保存します。例：

Job.BarcodeFormat_BarcodeReader1	Job.BarcodeFormat_BarcodeReader2
BarcodeFormat1 BarcodeFormat2	BarcodeFormat3

ユーザーは、これらのプロパティのリポジトリを検索できません。ジョブプロパティまたは文書プロパティを [アーカイブ] タブで検索した後に、[結果] テーブルの [詳細を表示] をクリックすると、RICOH ProcessDirector が [プロパティ] タブに関連プロパティの値を表示します。

例

ジョブの印刷に要求されるプリンターのモデルを保存する

- ファイルの内容:

```
Printer.Model.Specific@Job.RequestedPrinter:Job.PrinterModel
```

- [プリンターのモデル] プロパティの値:

```
Ricoh Pro C901
```

- 特定のジョブとそのジョブの各文書用にリポジトリに保存される情報:

```
Job.PrinterModelRicoh Pro C901
```

- 検索結果の [プロパティ] ノートブックに表示される情報:

Job.PrinterModel: Ricoh Pro C901

↓ 補足

- 関連プロパティファイルの処理中は、RICOH ProcessDirector は *Job_property_identifying_object* プロパティの値や *Property_identifying_intermediate_object* プロパティを保存または表示しません。
- [PrintJobs] ステップで [いずれかのプリンター] を選択しても、Job.RequestedPrinter データベース名は使用できません。名前を Job.PreviousPrinter に置き換えます。

バーコードリーダーで使用するバーコード形式を保存する

- ファイルの内容:

```
BarcodeReader.BarcodeFormat@Job.TrackAndTrace.BarcodeReader[Insert][ReadBarcodeData]
```

- [ReadBarcodeData] ステップで選択されているバーコードリーダー:
 - [BarcodeReader1]
 - [BarcodeReader2]
- [BarcodeReader1] で選択されているバーコード形式:
 - [BarcodeFormat1]
 - [BarcodeFormat2]
- [BarcodeReader2] で選択されているバーコード形式: [BarcodeFormat3]。
- 特定のジョブとそのジョブの各文書用にリポジトリに保存される情報:

```
Job.BarcodeFormat_BarcodeReader1    Job.BarcodeFormat_BarcodeReader2
BarcodeFormat1|BarcodeFormat2        BarcodeFormat3
```

- 検索結果の [プロパティ] ノートブックに表示される情報:

Job.BarcodeFormat_BarcodeReader1: BarcodeFormat1|BarcodeFormat2

Job.BarcodeFormat_BarcodeReader2: BarcodeFormat3

インサーターで使用する再印刷方式を保存する

- ファイルの内容:

```
InsertterSystem.ReprintMethod@Job.InsertterSystem.ID:Job.InsertterReprintMethod
```

- [再印刷方式] プロパティ値 (データベース名 [InserterSystem.ReprintMethod]):

Open loop

- 特定のジョブとそのジョブの各文書用にリポジトリに保存される情報:

Job.InserterReprintMethod
Open loop

- 検索結果の [プロパティ] ノートブックに表示される情報:
Job.InserterReprintMethod: Open loop

ジョブを受信した入力装置のフォルダー位置を保存する

- ファイルの内容:

InputDevice.FolderLocation@Job.SourceInputDeviceName:Job.InputDeviceFolder

- [フォルダー位置] プロパティ値 (データベース名 [InputDevice.FolderLocation]):

/aIW/aIW1/System/hf/defaultPDF

- 特定のジョブとそのジョブの各文書用にリポジトリに保存される情報:

Job.InputDeviceFolder
/aIW/aIW1/System/hf/defaultPDF

- 検索結果の [プロパティ] ノートブックに表示される情報:
Job.InputDeviceFolder: /aIW/aIW1/System/hf/defaultPDF

ジョブの印刷に要求されるメディアのカラーを保存する

- ファイルの内容:

MediaType.Color@Media.MediaTypeID@Job.Media:Job.MediaColor

- [メディアのカラー] プロパティ値 (データベース名 [MediaType.Color]):

Ricoh Pro C901

- 特定のジョブとそのジョブの各文書用にリポジトリに保存される情報:

Job.MediaColor
Blue

- 検索結果の [プロパティ] ノートブックに表示される情報:
Job.MediaColor : 青

↓ 補足

- [メディアのカラー] プロパティは、[メディアの重量] (データベース名 [MediaType.Weight]) や [メディアの詳細] (データベース名 [MediaType.Details]) など、他のメディアタイププロパティに置き換えることができます。
[メディアの重量] (データベース名 [MediaSize.Height]) などのメディアサイズプロパティの値を保存するには、次の行を使用します。MediaSize.Height@Media.MediaSizeID@Job.Media:Job.MediaHeight

文書プロパティファイル

文書プロパティファイルには、文書プロパティの値以外に、リポジトリに保存する必要があるプロパティ（RICOH ProcessDirectorに定義されていないもの）の値が含まれています。このファイルには、ワークフローの一部としてリポジトリに保存する、どちらか一方または両方のプロパティタイプを含めることができます。プロパティが RICOH ProcessDirector プロパティとして定義されていない場合は、そのプロパティを使用してアーカイブからジョブまたは文書を取得することはできませんが、ジョブまたは文書が保存されたときに指定されていたプロパティの値は表示できます。

保存する全てのプロパティ値が [保存する文書プロパティ] リストに選択されている場合は、通常の文書プロパティファイルが使用されます。RICOH ProcessDirectorで認識されていない追加のフィールドが使用されている場合は、固有の文書プロパティファイルを作成する必要があります。固有の文書プロパティファイルは、

[StoreInRepository] ステップの [文書プロパティファイル] プロパティで指定されている必要があります。また、追加のフィールドの値が文書プロパティファイルに確実に保存するには、[保存する文書プロパティ] リストで [すべて] を選択する必要があります。

このファイルには、通常の文書プロパティファイルと同様に、ヘッダー行と、それに続くタブ区切り形式の値の行が必要です。ファイル内のデータは次のように見えているかもしれません。（わかりやすいようにエントリ間のスペースが変更されています）

Doc.Email.Address	Doc.Custom1.AwardLevel	Member since	Anvrsry date
John_Doe@mail.com	Gold	3_1999	03_15
Jane_Doe@mail.com	Silver	7_2009	07_23
Bob_Smith@mail.com	Tin	9_2013	09_14

エクスポート結果ファイル

エクスポート結果ファイルには、リポジトリからコンマ区切り値 (CSV) ファイルとしてエクスポートするように選択した、文書プロパティの値が含まれています。このファイルは、ExportFromRepositoryステップによって作成されます。

エクスポートするプロパティは、[ExportFromRepository] プロパティノートブックで指定されているクエリによって選択されます。クエリは、ファイルから、または [検索基準] プロパティの直接入力から取得できます。クエリのソースを指定するには、[基準タイプ] プロパティで [ファイル] または [テキスト] を選択する必要があります。クエリは、[アーカイブ] タブの [結果] ポートレットの検索基準と同じ形式にする必要があります。

ワークフローで複数の [ExportFromRepository] ステップが使用されている場合は、後続の [ExportFromRepository] ステップの [エクスポート結果ファイル] プロパティで異なる結果ファイルを指定しない限り、追加の結果で以前の [ExportFromRepository] ステップからの結果が上書きされます。

エクスポート結果ファイルには、ヘッダー行と、それに続くコンマ区切り形式の値の行が含まれています。ヘッダーと値は、全て二重引用符で囲まれています。Null値の戻りは、二重引用符で囲まれたハイフン ("-") で示されます。ファイルのデータは次のようになります。

```
"Doc.OriginalSequence","Doc.OriginalFirstPage","Job.TotalPages"  
"1","1","4186"  
"2","5","4186"  
"4","13","4186"
```


8. データベースプロパティ名

- ジョブ用
- ワークフロー用
- プリンター用
- メディア用
- 入力装置用
- 入力ファイル用
- 通知オブジェクト用
- サーバー用
- ステップテンプレート用
- システムプロパティ用
- ユーザー用
- グループ用
- 位置用
- セキュリティー

RICOH ProcessDirector メッセージでは、プロパティノートブックに表示されているフィールド名ではなく、データベース名でプロパティが表されている場合があります。データベースプロパティ名の多くは、プロパティノートブックでの名前に似ていますが、異なるフォーマットで表現されています。

RICOH ProcessDirector 機能をインストールする場合は、別のデータベースプロパティを追加します。これらのデータベースプロパティ名のリストは、RICOH ProcessDirector のインフォメーションセンターを参照してください。

ジョブのデータベースプロパティ名

ジョブに関する一部のメッセージでは、**Job**で始まるデータベース名でジョブプロパティが参照されます。RICOH ProcessDirector 外部プログラムに指定するシンボル式で、ジョブプロパティのデータベースプロパティ名を使用することができます。また、RICOH ProcessDirector 制御ファイルでジョブプロパティのシンボル式を指定することもできます。

ユーザーインターフェースのリストに表示される値の中には、RICOH ProcessDirectorの内部で使用される値とは異なるものがあります。Webサービスを使用して要求を行うときや、指定変更ファイルを使用して値を設定するときは、内部値を使用する必要があります。【内部値】列に、このようなプロパティの内部値を示します。

編集可能列:

- はいを選択すると、ジョブが実行依頼された後で値を変更できます。
- いいえを選択すると値を変更できません。

ジョブチケット列:

- はい: ジョブの実行依頼に使用されるジョブチケットにある1つ以上の値からプロパティを設定できます。
- いいえ: ジョブチケットにある値からプロパティを設定できません。

ジョブプロパティ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
Job.Add. BlankPage	空白ページの追加	ZIP ファイルに含まれている PDF ファイルを結合するとき、ページ数が奇数の各 PDF ファイルの最後に空白ページを追加します。	• いいえ • はい	はい	いいえ
Job.Collate	印刷：丁合い	ジョブの複数のコピーを印刷するときに、プリンターが使用する丁合いのタイプを指定します。	• 設定なし • オフ • 照合	はい	いいえ
Job.Binding	製本	印刷するジョブに対する製本設定を設定します。	• なし • 完全 • リング • リングとパンチ	はい	はい
Job.Cjfx. FailOnMissingXpath	XML：一致するエレメントがない場合に停止	XPath式に一致するエレメントがないときに、 [CreateJobsFromXML] ステップテンプレートに基づくステップが、ジョブをエラー状態にするかどうかを指定します。	• いいえ • はい	はい	いいえ
Job.Cjfx.FileToSplit	XML：XML入力ファイル	[CreateJobsFromXML] ステップテンプレートに基づくステップが、ジョブ作成のために入力として使用するXMLファイルの名前を指定します。		はい	いいえ
Job.Cjfx. TypeOfJob	XML：子ジョブとして作成	[CreateJobsFromXML] ステップテンプレートに基づくステップが、子ジョブと元のジョブから独立したジョブのどちらを作成するかを指定します。	• いいえ • はい	はい	いいえ
Job.Cjfx.Workflow	XML：新規ジョブ用のワークフロー	[CreateJobsFromXML] ステップテンプレートに基づくステップが、新規XMLジョブを実行依頼するワークフローを指定します。		はい	いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
Job.Cjfx.Xpath	XML：ジョブ作成 用のXPath式	エレメントを識別するXPath式を指定します。 [CreateJobsFromXML] ステップテンプレートに基づくステップは、XML 入力ファイル内で一致するエレメントを検出するたびに、XML ファイルを作成してジョブとして実行依頼します。		はい	いいえ
Job.CompressAllFiles	RetainCompletedJobs ステップテンプレートのプロパティノートブックのジョブデフォルトタブ：すべてのファイルを圧縮	ジョブが保存されるときに、ジョブのすべてのスプールファイルおよびチェックポイントファイルを圧縮するかどうかを指定します。		はい	いいえ
Job.CompressFilePatterns	CompressFiles ステップテンプレートのプロパティノートブックのジョブデフォルトタブ：ファイルパターンを圧縮	ステップで圧縮されるジョブファイルを指定します。		はい	いいえ
Job.Copies	全般およびステータス：要求されたジョブコピー	要求されたジョブコピーの数が入っています。		はい	はい
Job.CopiesStacked	ステータス：スタック済みジョブコピー	印刷が完了し、プリンターの出力スタッカーに達した現在のジョブコピー数が入っています。		いいえ	いいえ
Job.CreateJobFromFiles.JobType	ジョブの作成：ワークフロー	子ジョブに使用するワークフローを指定します。		はい	いいえ
Job.CreateJobFromFiles.JobName	ジョブの作成：ジョブ名	子ジョブの名前を指定します。		はい	いいえ
Job.CreateJobFromFiles.DestUsage	ジョブの作成：グループID	宛先ファイルの役割を指定します。		はい	いいえ
Job.CreateJobFromFiles.DestType	ジョブの作成：グループサイズ	宛先ファイルの種類を指定します。		はい	いいえ
Job.CreateJobFromFiles.Source1	ジョブの作成：最初のソースファイル	ジョブの作成に使用する入力ファイルの		はい	いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
		フルパスと名前を指定します。			
Job. CreateJobFromFiles.Source2	ジョブの作成：2番目のソースファイル	ジョブの作成に使用する入力ファイルのフルパスと名前を指定します。		はい	いいえ
Job. CreateJobFromFiles.Source3	ジョブの作成：3番目のソースファイル	ジョブの作成に使用する入力ファイルのフルパスと名前を指定します。		はい	いいえ
Job. CreateJobFromFiles.Source4	ジョブの作成：4番目のソースファイル	ジョブの作成に使用する入力ファイルのフルパスと名前を指定します。		はい	いいえ
Job. CreateJobFromFiles.Source5	ジョブの作成：5番目のソースファイル	ジョブの作成に使用する入力ファイルのフルパスと名前を指定します。		はい	いいえ
Job. CreateJobFromFiles.Source6	ジョブの作成：6番目のソースファイル	ジョブの作成に使用する入力ファイルのフルパスと名前を指定します。		はい	いいえ
Job. CreateJobFromFiles.Source7	ジョブの作成：7番目のソースファイル	ジョブの作成に使用する入力ファイルのフルパスと名前を指定します。		はい	いいえ
Job. CreateJobFromFiles.Source8	ジョブの作成：8番目のソースファイル	ジョブの作成に使用する入力ファイルのフルパスと名前を指定します。		はい	いいえ
Job.CurrentPrinter	ステータス：割り当てられたプリンター	RICOH ProcessDirectorがこのジョブを印刷するよう割り当てたプリンターの名前が入っています。		いいえ	いいえ
Job. CustomerName	スケジューリング：カスタマー名	このジョブに関連付けられたカスタマーを識別します。		はい	はい
Job.Description	全般：ジョブの説明	ジョブを説明するテキストが入っています。		はい	はい
Job.DownloadFile	ダウンロードファイルのURL	ダウンロードするファイルのURLを指定します。		はい	いいえ
Job. DownloadFileToCreate	ダウンロードしたファイルへのパス	ファイル名とRICOH ProcessDirectorが		はい	いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
		ファイルを保存する場所を指定します。			
Job.Duplex	全般：両面印刷	ジョブで両面印刷がアクティブになっているかどうかと、アクティブになっている場合は両面印刷のタイプを示します。	• いいえ • 反転 • はい	はい	はい
Job.EJB. SMTPserver	SMTP サーバタイプ	このステップでシステムのデフォルトのメールサーバーと代替のメールサーバーのどちらを使用するかを指定します。	• システム • 代替	はい	いいえ
Job. EmailAddressBCC	BCCアドレス	Eメールの BCC の送信先となる 1 つまたは複数のアドレスです。		はい	いいえ
Job. EmailAddressCC	CCアドレス	Eメールの CC の送信先となる 1 つまたは複数のアドレス。		はい	いいえ
Job. EmailAddressTo	宛先アドレス	ジョブの送信先となる 1 つまたは複数 Eメールアドレス。		はい	いいえ
Job. EmailMessage	メッセージ	Eメールの本文に含めるテキストを指定します。		はい	いいえ
Job.Email. PageRange	送信するページ範囲	印刷ファイルのどのページが抽出され、別のファイルに挿入され、Eメールに添付されるかを示す数値が表示されます。		はい	いいえ
Job.Email. RangeDataStream	ページ範囲のデータストリーム	〔送信するページ範囲〕プロパティで指定されているページ範囲が含まれたファイルの作成に使用する印刷ファイルのデータストリームを指定します。	• 現在のストリームを使用 • AFP • PDF	はい	いいえ
Job.Email.Secure Connection	セキュア接続	メールサーバーとの接続に SSL と TLS のどちらのセキュリティーを使用するかを指定します。	• なし • SSL • TLS	はい	いいえ
Job. EmailSendFrom	送信者アドレス	この Eメールアドレスは、Eメールの〔From:〕フィールドで使用されます。		はい	いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
Job.EmailSubject	件名	Eメールの件名に挿入するテキストを指定します。		はい	いいえ
Job.External.CodePage	外部：外部プログラムコードページ	制御ファイルテンプレートなどの、処理のために外部コマンドに送信されるファイルの内容を書き込むために使用するコードページを指定します。このコードページは、外部コマンドが、stderr および stdout や外部コマンドが作成した他のファイルに書き込むメッセージを読み取るためにも使用されます。	• UTF-8 • ISO8859_1 • ISO8859_15 • EUC_JPEUC_JP	はい	いいえ
Job.External.Command	外部：外部コマンド	処理中にステップが実行可能なコマンドストリングを指定します。		はい	いいえ
Job.External.ControlFileTemplate	外部：外部制御ファイルテンプレート	外部コマンドが使用する制御ファイルテンプレートのパスと名前を指定します。		はい	いいえ
Job.External.Language	外部：外部プログラム言語	メッセージをRICOH ProcessDirectorに返すときに、外部コマンドが使用する言語を指定します。	• de_DE • en_US • es_ES • fr_FR • it_IT • ja_JP	はい	いいえ
Job.External.ValidRCs	外部：有効な戻りコード	外部コマンドが出すことができる戻りコード値をリストします。この値は、そのコマンドが正常に実行されたことを示します。コンマで区切ることによって、複数の戻りコードの値を指定できます。例えば、0,4。		はい	いいえ
Job.FileToEmail	添付	Eメールに添付し、宛先に送信する1つまたは複数のファイルの絶対パスを指定します。		はい	いいえ
Job.FoldOptions	折りオプション	ジョブやジョブの大きなシートの折り方、すべてのシート	• なし • Z折り	はい	はい

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
		をまとめて折るかどう か（重ねるか照合 するか）、および シートのおもて面を 折りの外側に向ける か内側に向けるか、 を指定します。	- 大きな用紙の Z 折 り 4 つ折り - 折り込み - レター折り込み - レター折りたたみ - サドル - サドルを下げる		
Job.HeaderConfig	ヘッダーページ構 成ファイル	RICOH ProcessDirector が、 ZIP ファイルに含ま れる各ファイルの前 に配置されるヘッ ダーページの内容と 形式を作成するた めに使用する、構 成ファイルのパス と名前を指定し ます。許可ユー ザーは、RICOH ProcessDirector に用意されている ヘッダーページの 構成ファイルのい ずれかを指定で きますが、カスタ マイズした構成 ファイルを指定す ることもできます。		はい	いい え
Job.HotFolder. ApplicationLogFile	ホットフォル ダー：アプリケー ションログファイ ル	外部プログラムがそ のログファイルを 保管するディレク トリー。このプロ パティを指定でき ます。		はい	いい え
Job.HotFolder. FileToSend	ホットフォル ダー：送信する ファイル	RICOH ProcessDirector で外部プログラム に実行依頼する ために送信フォル ダーに置くファイ ルを指定します。 このプロパティ は編集できます。		はい	いい え
Job.HotFolder. FileVerificationCo unt	ホットフォル ダー：ファイル検 証回数	RICOH ProcessDirector が検索フォルダー をポーリングし、 検索されたファイ ルが完成したと判 断する前に検索さ れたファイルのサ イズが変更され ていないことを検 出する回数です。		はい	いい え

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
Job.HotFolder. PollInterval	ホットフォル ダー：ポーリング 間隔	検索フォルダーの ポーリング間隔。値 の時間単位は、秒、 分、または時間で す。		はい	いい え
Job.HotFolder. RetrievalFolder	ホットフォル ダー：検索フォル ダー	外部プログラム用の 出力ホットフォル ダーの名前です。 RICOH ProcessDirectorは、 検索パターンを使用 して検索フォルダー で検索ファイルを検 索します。このプロ パティは編集でき ます。		はい	いい え
Job.HotFolder. RetrievalPattern	ホットフォル ダー：検索パター ン	検索フォルダー内の 返されたジョブの識 別にRICOH ProcessDirectorが使 用するパターンマッ チング文字列です。		はい	いい え
Job.HotFolder. RetrievedFile	ホットフォル ダー：検索ファイ ル	検索されたファイル の名前変更に使用さ れる名前。		はい	いい え
Job.HotFolder. SendingFolder	ホットフォル ダー：送信フォル ダー	RICOH ProcessDirectorで外 部プログラムに送信 するジョブファイ ルを置くホットフォル ダーを指定します。		はい	いい え
Job.HotFolder. TimeoutInterval	ホットフォル ダー：タイムアウト 間隔	検索対象ファイルが 見つからないか、不 完全である場合に、 ジョブがエラー状態 に移行するまでの時 間（分）。		はい	いい え
Job.ID	[プロパティ] ノートブックのタ イトルに表示され ます。	システムでジョブを 識別する固有の番号 が入っています。		いい え	いい え
Job.Info.Attr1	情報：カスタム1	ジョブに関する情報 の内、会社やプロセ スに固有であるため に他のプロパティ に含まれていないも のが含まれている。		はい	いい え
Job.Info.Attr2	情報：カスタム2	ジョブに関する情報 の内、会社やプロセ スに固有であるため に他のプロパティ		はい	いい え

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
		に含まれていないものが含まれている。			
Job.Info.Attr3	情報：カスタム3	ジョブに関する情報の内、会社やプロセスに固有であるために他のプロパティに含まれていないものが含まれている。		はい	いいえ
Job.Info.Attr4	情報：カスタム4	ジョブに関する情報の内、会社やプロセスに固有であるために他のプロパティに含まれていないものが含まれている。		はい	いいえ
Job.Info.Attr5	情報：カスタム5	ジョブに関する情報の内、会社やプロセスに固有であるために他のプロパティに含まれていないものが含まれている。		はい	いいえ
Job.Info.Attr6	情報：カスタム6	ジョブに関する情報の内、会社やプロセスに固有であるために他のプロパティに含まれていないものが含まれている。		はい	いいえ
Job.Info.Attr7	情報：カスタム7	ジョブに関する情報の内、会社やプロセスに固有であるために他のプロパティに含まれていないものが含まれている。		はい	いいえ
Job.Info.Attr8	情報：カスタム8	ジョブに関する情報の内、会社やプロセスに固有であるために他のプロパティに含まれていないものが含まれている。		はい	いいえ
Job.Info.Attr9	情報：カスタム9	ジョブに関する情報の内、会社やプロセスに固有であるために他のプロパティに含まれていないものが含まれている。		はい	いいえ
Job.Info.Attr10	情報：カスタム10	ジョブに関する情報の内、会社やプロセスに固有であるために他のプロパティに含まれていないものが含まれている。		はい	いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
Job. InputDataStream	全般：入力データ ストリーム	このジョブの入力 ファイルに入ってい るデータの形式を指 定します。	• afp • gif • jdf • jpeg • json • lcds • linedata • メタコード • pcl • pdf • ps • テキスト • tiff • 不明 • xml	いい え	はい
Job.InputFile	全般：入力ファイ ル名	RICOH ProcessDirectorが ジョブを作成した元 の入力ファイルの名 前が入っています。		いい え	はい
Job.InputFile.Size	全般：入力ファイ ルサイズ (バイ ト)	RICOH ProcessDirectorが ジョブを作成するた めに使用した元の入 力ファイルのサイズ をバイト単位で指定 します。		いい え	いい え
Job.Instance	全般：親サーバー	入力ファイルの実行 依頼ステップを所有 するRICOH ProcessDirectorサー バーの名前が入って います。		いい え	いい え
Job.JDF.JobID	全般：JDFジョブID	RICOH ProcessDirectorが ジョブとともに受信 したJDFジョブチケッ トに含まれるジョブ IDの値を表示しま す。		いい え	はい
Job.JDF.JobPartID	全般：JDFパートID	RICOH ProcessDirectorが ジョブとともに受信 したJDFジョブチケッ トに含まれるジョブ のパートIDの値を表 示します。		いい え	はい
Job.JobSize	ステータス：ジョ ブサイズ (シート 数)	ジョブをプリンター にスケジュールする ときに RICOH ProcessDirector が使 用する計算値が入っ ています。また、		いい え	いい え

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
		ワークフローが [VerifyPrintedSheetC- ount] ステップを使用 して、ジョブにつ いて印刷する実際の シート数を確認する 場合にも、このプロ パティの値が使用 されます。			
Job.JobType	全般：ワークフ ロー	ジョブの処理フェー ズおよびステップを 定義するワークフ ローの名前が入って います。		いい え	いい え
Job.JobType. History	ステータス：ワー クフロー履歴	ジョブが通過してい る処理フェーズおよ びステップを定義す るワークフローと、 ジョブを再始動でき る位置を定義する ワークフローのリス トが入っています。		いい え	いい え
Job.Locations	スケジューリン グ：要求された位 置	ジョブをどの位置で 印刷するかを指定し ます。		はい	いい え
Job.Media	スケジューリン グ：メディア（作 動可能 サポート すべて）	ジョブに使用するメ ディアを指定しま す。		はい	はい
Job. MediaRequired	メディアが必要	ジョブ全体または ページ例外に対して 指定されたメディア オブジェクトの名前 を表示します。この プロパティの値は 変更できません。		いい え	はい
Job.Name	全般：ジョブ名	ジョブの名前が入っ ています。		はい	はい
Job.OutputBin	スケジューリン グ：出力ビン（要 求 使用可能 す べて）	ジョブに使用する出 力ビンを指定しま す。		はい	はい
Job.OutputFormat	スケジューリン グ：出力形式	ジョブの最初のペー ジと最後のページの どちらを先に印刷す るかを指定します。 また、印刷前にジョ ブを異なるデータス トリームに変換する 必要があるかどうか も指定できます。	• AtoZforAFP • AtoZforPDF • ZtoAforAFP • ZtoAforPDF • 変換	いい え	いい え

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
Job.PageLength	変換：変換ページ の長さ（単位）	変換プログラムが生成するイメージの長さ（インチまたはミリメートル）を指定します。		はい	いいえ
Job.PageRange	印刷：再印刷する ページ	現在のジョブのどのページを再印刷するかを指定します。		いいえ	いいえ
Job.PageWidth	変換：変換ページ の幅（単位）	変換プログラムが生成するイメージの幅（インチまたはミリメートル）を指定します。		はい	いいえ
Job.PagesStacked	ステータス：スタック済みページ	印刷されて、プリンターの出力スタッカーに到達した論理ページ数が入っています。		いいえ	いいえ
Job.PDF.ActionList	拡張PDF：アクションリスト	「EnhancePDF」ステップテンプレートに基づくステップが、PDFファイルの操作または評価に使用する1つ以上のアクションを指定します。		はい	いいえ
Job.PDFCheckResult	拡張PDF：PDF結果 チェック	PDFファイルのコンテンツがPDF仕様に適合しているかどうかが表示されます。コンテンツを確認するには、「EnhancePDF」ステップテンプレートを基にして、ステップをワークフローに追加します。そのステップに、CheckPDF アクションで -RPDproperty を Job.PDFCheckResult に設定して指定します。		いいえ	いいえ
Job.PDF.FinisherOrderConfiguration	PDF：フィニッシャーの順序	2アップ印刷で、左側に最初のページを配置して右側を2ページ目にするか、その逆にするかを指定する。	• LeftToRight • RightToLeft	はい	いいえ
Job.PDF.NUpConfiguration	PDF：Nアップ	1枚の用紙に並べて印刷するページ数を指定する。	• 1 • 2	はい	いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
Job.PDF. Orientation	PDF方向	ジョブの印刷に使用する向きを指定します。	- 設定なし (デフォルト) - タテ - ヨコ	いいえ	いいえ
Job.PDF. PageRotationFromOriginal	PDF：追加のページ回転	【フィニッシャーに入るジョブの向き】プロパティによって指定されたページの回転を超えて、印刷するページの向きをジョブで変更するかどうかを指定する。	0 90 180 270	はい	いいえ
Job.PDF. RollConfiguration	PDF：フィニッシャーに入るジョブの向き	フィニッシャーに入るときの印刷ジョブの向きを指定します。	- JobEndEdgeIntoFinisher - JobStartEdgeIntoFinisher	はい	いいえ
Job.Phase	ステータス：現在のフェーズ	現在ジョブを処理しているRICOH ProcessDirector フェーズの名前が入っています。	- 完了 - 準備 - 印刷 - 受信	いいえ	いいえ
Job. PhaseProgress	ステータス：現行フェーズでの進行状況	【ジョブフェーズ】プロパティが識別するフェーズ内のジョブの進行状況が入っています。	- エラー - 手動 - ステージング - 実行しています	いいえ	いいえ
Job.Preview. AcceptedBy	プレビュー印刷：承認者	プレビュー印刷を承認したユーザーのIDを示します。		いいえ	いいえ
Job.Preview. AutoAccept	プレビュー印刷：プレビュー印刷を自動的に承認する	RICOH ProcessDirectorがプレビュー印刷を自動的に承認して、ジョブをワークフローの次のステップに移動するかどうかを指定します。	- いいえ - はい	はい	いいえ
Job.Preview. PageRange	プレビュー印刷：プレビュー印刷のページ範囲	PreviewPrintステップでサンプルとして印刷されるジョブのページを記述する数値文字列を表示します。		はい	いいえ
Job.Preview. Requested Printer	プレビュー印刷：プレビュー印刷を要求されたプリンター	PreviewPrintステップがプレビュー印刷ジョブを送信するプリンターの名前を指定します。		はい	いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
Job.Print. AssignPrintTime	ステータス：プリンターへの割り当て	プリンターがジョブを受信した日時を指定します。	日付と時刻は、UTC（ユニバーサルタイムコード）の値として、yyyy-mm-dd hh:mm:ss.fffffff というタイムスタンプ形式で格納されます。 • yyyyは4桁の年です。 • mmは2桁の月です。 • ddは2桁の日です。 • hhは2桁の時です。 • mmは2桁の分です。 • ssは2桁の秒です。 • fffffffは秒の小数点以下の9桁で、省略可能です。	いいえ	いいえ
Job.Print. CumulativePages-Stacked	ステータス：スタック済み累積ページ	印刷され、プリンターの出力スタッカーに達した論理ページの総数（再印刷されたページも含む）が入っています。		いいえ	いいえ
Job.Print. CumulativeSheets-Stacked	ステータス：スタック済み累積シート	RICOH ProcessDirectorシステムでのジョブの存続期間中に、印刷され、プリンターの出力スタッカーに到達した物理シートの総数が入っています。		いいえ	いいえ
Job.Print. EndPrintTime	ステータス：印刷完了時刻	プリンターがジョブの印刷を正常に完了した日時を示します。	日付と時刻は、UTC（ユニバーサルタイムコード）の値として、yyyy-mm-dd hh:mm:ss.fffffff というタイムスタンプ形式で格納されます。 • yyyyは4桁の年です。 • mmは2桁の月です。 • ddは2桁の日です。 • hhは2桁の時です。	いいえ	いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
			• mmは2桁の分です。 • ssは2桁の秒です。 • fffffffffffは秒の小数点以下の9桁で、省略可能です。		
Job.Print. HeaderConfig	バナーページ: ヘッダーページ構 成ファイル	RICOH ProcessDirectorが ジョブのヘッダー ページの内容と形式 を作成するために使 用する、構成ファ イルのパスと名前を 指定します。		はい	いい え
Job.Print. HeaderCopies	バナーページ: ヘッダーのコピー	RICOH ProcessDirectorが ジョブ自体の印刷 を開始する前に印 刷する必要がある 、ジョブヘッダー ページのコピー数 が入っています。		はい	いい え
Job.Print.SpoolID	全般: スプールID	RICOH ProcessDirectorが ジョブをプリンタ ードライバーコン ポーメントに送信 する前に生成す る、ジョブのス プールIDを識別 します。		いい え	いい え
Job.Print. TrailerConfig	バナーページ: トレーラーページ 構成ファイル	RICOH ProcessDirectorが ジョブのトレーラ ーページの内容と形 式を作成するため に使用する、構成 ファイルのパスと 名前を指定しま す。		はい	いい え
Job.Print. TrailerCopies	バナーページ: トレーラーのコピー	RICOH ProcessDirectorが ジョブを印刷した 後に印刷する必要 がある、ジョブト レーラーページ のコピー数が入 っています。		はい	いい え
Job.Priority	スケジューリン グ: ジョブの優先 順位	ジョブの印刷の優 先順位が入って います。		はい	はい
Job. ProcessGroupID	全般: プロセスグ ループID	ジョブが属してい る処理グループ がある		いい え	いい え

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
		場合に、そのグルー プの番号を指定しま す。			
Job. ProcessGroupOrd- er	全般：プロセスグ ループ配列	ジョブグループ内に ジョブがある場合、 その位置を識別しま す。		いい え	いい え
Job.Punch	スケジューリン グ：パンチ	出力に穴を開けるた めの穴の数と位置を 指定します。	• 2_at_bottom • 2_at_left • 2_at_right • 2_at_top • 3_at_bottom • 3_at_left • 3_at_right • 3_at_top • 4_at_bottom • 4_at_left • 4_at_right • 4_at_top • Multiple_at_bottom • Multiple_at_left • Multiple_at_left • Multiple_at_top	はい	はい
Job.ReprintCount	ステータス：再印 刷回数	ジョブが印刷のため に再処理された回数 を表示します。		いい え	いい え
Job. RequestedPrinter	スケジューリン グ：要求されたプ リンター	ジョブで要求された プリンターの名前が 入っています。		はい	はい
Job.Resolution	変換：変換解像度 (dpi)	標準的なTransform Featureの場合、デー タ変換プログラムが 生成するイメージ出 力のフルページの解 像度を指定します。 ジョブを印刷するプ リンターのモデルに 応じて適切な値を指 定します。		はい	いい え
Job.RestartSteps	【ジョブの再処 理】 ページで 【フェーズおよび ステップ】 リスト として表示	許可ユーザーがジョ ブの再処理を開始す るために選択可能な フェーズおよび関連 ステップを表示しま す。		いい え	いい え
Job. RetainDuration	全般：保存期間 (単位)	RICOH ProcessDirectorが完 了フェーズの RetainComplete- dJobs ステップに到 達した後でジョブを 保存する期間の長さ		はい	はい

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
		(分、時、または日)を制御します。			
Job. RetainStartTime	全般：保存開始時刻	完了フェーズでジョブの保存期間が始まった時刻が入っています。	日付と時刻は、UTC (ユニバーサルタイムコード) の値として、yyyy-mm-dd hh:mm:ss.fffffff というタイムスタンプ形式で格納されます。 • yyyyは4桁の年です。 • mmは2桁の月です。 • ddは2桁の日です。 • hhは2桁の時です。 • mmは2桁の分です。 • ssは2桁の秒です。 • fffffffは秒の小数点以下の9桁で、省略可能です。	いいえ	いいえ
Job. SavedSearches	保存済みフィルター	以前ジョブテーブルに保存したフィルターから選択できます。		いいえ	いいえ
Job. SetJobOverrides	ジョブ値ファイル	プロパティ値を設定するために使用する構成ファイルのフルパスとファイル名を指定します。		はい	いいえ
Job. SetJobOverrides	ジョブ値ファイル	プロパティ値を設定するために使用する構成ファイルのフルパスとファイル名を指定します。		はい	いいえ
Job. SheetsStacked	ステータス：スタック済みシート	印刷され、プリンターの出力スタックに到達した物理シート数が表示されます。		いいえ	いいえ
Job. SnapshotJobFile. FileToBeCopied	コピーするファイルタイプ	このステップがスプールディレクトリで検索し、後で使用するためにコピーするファイルの使用タイプおよび		はい	いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
		データタイプを指定 します。			
Job. SnapshotJobFile. NewFileDescriptor	スナップショット ファイルの記述子	このステップが、 ジョブファイルのス ナップショットを保 存するときに、ファ イルのジョブ ID と データタイプの間に 挿入するテキストで す。		はい	いい え
Job. SourceInputDevic- eName	全般：ソース入力 装置	ジョブが発信され た、システムのジョ ブの入力装置名を表 示します。		いい え	いい え
Job.SpoolFileStem	全般：ルートファ イルパス	このジョブに関連す る、すべてのファイ ルのディレクトリー 位置を指定します。		いい え	いい え
Job.Staple	スケジューリン グ：ステープル	出力で使用するス テープルの数と位置 を指定します。	• 2_at_bottom • 2_at_center • 2_at_left • 2_at_right • 2_at_top • Bottom_left • Bottom_right • Top_left • Top_left_diagonal • Top_left_horizontal • Top_left_vertical • Top_right • Top_right_diagonal • Top_right_horizontal • Top_right_vertical	はい	はい
Job. StapleRequired	ステープルが必要	このジョブまたはそ のページ例外をス テープルする必要が あるかどうかを表示 します。このプロパ ティの値は変更で きません。		いい え	はい
Job.State	ステータス：現行 ジョブの状態	ジョブの現行の処理 状態が入っていま す。	• 割り当て済み • 完了 • 作成中 • エラー • 手動、待ち • 手動、作動 • 印刷する • 処理中 • キュー • リリース • 保存	いい え	いい え

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
			• スプール • 停止 • 未割り当て • 待ち		
Job.Step	ステータス：現在のステップ	ジョブを処理しているステップの名前が入っています。		いいえ	いいえ
Job.StopAtPhase	ステータス：フェーズに入るときに停止	ジョブが特定のフェーズの最初のステップに到達したとき、RICOH ProcessDirectorがそのジョブを停止するかどうかを指定します。	• 完了 • 準備 • 印刷 • 受信	はい	いいえ
Job.SubmitTime	スケジューリング：実行依頼時刻	入力装置が入力ファイルを実行依頼し、対応するRICOH ProcessDirectorジョブを作成した日時が入っています。	日付と時刻は、UTC（ユニバーサルタイムコード）の値として、yyyy-mm-dd hh:mm:ss.fffffff というタイムスタンプ形式で格納されます。 • yyyyは4桁の年です。 • mmは2桁の月です。 • ddは2桁の日です。 • hhは2桁の時です。 • mmは2桁の分です。 • ssは2桁の秒です。 • fffffffは秒の小数点以下の9桁で、省略可能です。	いいえ	いいえ
Job.TestJob	全般：テストジョブ	ジョブがテストジョブであるか、実動ジョブであるかを指定します。	• いいえ • はい	はい	いいえ
Job.TotalPages	ステータス：合計ページ数	ジョブ内の論理ページの総数が入っています。		いいえ	いいえ
Job.TotalSheets	ステータス：合計シート数	ジョブ内の物理シートの総数が入っています。		いいえ	いいえ
Job.TrailerConfig	トレーラーページ構成ファイル	RICOH ProcessDirector が、ZIP ファイルに含まれ		はい	いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
		る各ファイルの後に配置されるトレーラーページの内容と形式を作成するために使用する、構成ファイルのパスと名前を指定します。許可ユーザーは、RICOH ProcessDirector に用意されているトレーラーページの構成ファイルのいずれかを指定できますが、カスタマイズした構成ファイルを指定することもできます。			
Job.UseProxy	プロキシサーバーを使用	[DownloadFile] ステップがダウンロードファイルのURL解決にプロキシサーバーを使用するかどうかを指定します。	• いいえ • はい	はい	いいえ
Job.Validate.FileTo	ファイル構造の確認: チェックするファイル	ファイル構文をチェックすることによって、[CheckFileStructure] ステップに基づくステップが検証するJSONまたはXMLファイルの完全パスと名前を指定します。		はい	いいえ
Job.Validate.FileType	ファイル構造の確認: ファイル形式	[CheckFileStructure] ステップテンプレートに基づくステップが検証するファイルの形式を指定します。	• XML • JSON	はい	いいえ
Job.Wait.Amount	待機: 待機時間	次のステップに進むまでにジョブが待つ時間を指定します。		はい	いいえ
Job.Wait.TimeOfDay	待機: 待機時刻	ジョブが次のステップに進むまでの特定の時間を指定します。		はい	いいえ
Job.Wait.TimeZone	待機: タイムゾーン	[待ち終了時刻] プロパティで使用する時間帯を指定します。		はい	いいえ
Job.Wait.WaitUntil	待機: 待機ステップの終了	待ち期間が終了し、ジョブが次のステップに進んだときの日		はい	いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集 可能	ジョ ブチ ケット
		付と時刻を表示します。			
Job.Wait. WhenToMove	待機：次の後にステップを完了	〔待ち終了時刻〕と〔待ち期間〕の両方のプロパティに値が設定されている場合、プロパティはこの2種類の時間の前後に到達した際に〔待ち〕ステップが完了するかどうかを指定します。	- 初回発生時 - 最終発生時	はい	いいえ
Job.WaitReason	ステータス：待ち状況の理由	それ以上RICOH ProcessDirectorがジョブを処理できなくなる条件を識別します。	- DeviceUnavailable - NoMatchingDevice - ServerUnavailable - StepTemplateDisabled	いいえ	いいえ
Job.XML. JSONInputFile	XML：JSON入力ファイル	XML 形式に変換する JSON ファイルを指定します。		はい	いいえ
Job.XML. XMLOutputFile	XML：XML出力ファイル	ステップで作成される XML ファイルの場所と名前を指定します。		はい	いいえ
Job.ZipFile. FilesToZip	ZIPファイル：ZIPするファイル	ZIPファイルを作成するために、〔ZIPFiles〕ステップテンプレートに基づくステップがコピーするファイルのコンマ区切りリストを指定します。		はい	いいえ
Job.ZipFile. ZipToSave	ZIPファイル：出力ファイル	〔ZIPFiles〕ステップテンプレートに基づくステップで作成される出力ファイルの完全パスと名前を指定します。		はい	いいえ
Job. ZipFilesToEmail	Eメール：ZIPファイルの添付	Eメールに添付する前にファイルを ZIP ファイルにパッケージ化するかどうかを指定します。	- いいえ - はい	はい	いいえ

ワークフローのデータベースプロパティ名

ジョブに関するメッセージでは、〔JobType〕で始まるデータベース名でワークフロープロパティが表されている場合があります。

〔編集可能〕列:

- はい: 許可ユーザーは、ワークフローが作成された後で値を変更できます。
- いいえ: 許可ユーザーは、値を変更できません。

ワークフロープロパティ

データベース名	ノートブックフィールド名	説明	編集可能
Connector.AnyOrAllFieldHelp	次の条件のいずれかまたはすべてを適用する	ジョブが、規則に指定された条件をすべて満たす必要があるか、条件の1つを満たす必要があるのかを指定します。	はい
Connector.ConditionPredicate	要約	【要約】フィールドでは、条件領域での選択内容がデータベースの照会フォーマットで表示されます。条件を変更すると、値も変化します。	はい
Connector.JsonRule	条件	規則に対して1つ以上の条件を定義できます。それぞれの条件は、ジョブプロパティ、比較、および値によって構成されます。	はい
Connector.Order	実行順	1つのステップに対応するコネクタが複数ある場合、RICOH ProcessDirectorは、ジョブを次のステップに進めるときに使用するコネクタを決定する必要があります。ジョブに使用するコネクタを選択する際に、RICOH ProcessDirectorは1つ目、2つ目、3つ目のように、順番にこの値を評価します。この値によって、使用するコネクタが示されます。	はい
Job.CurrentDay	現在の日付	この値を要求する条件が評価されるときに、RICOH ProcessDirectorを実行しているサーバーでの現在の曜日を指定します。	はい
Job.CurrentTime	現在の時刻	この値を要求する条件が評価されるときに、RICOH ProcessDirectorを実行しているサーバーでの現在の時刻を指定します。	はい
JobType.Changeld	代替 ID	ワークフローの代替 ID を指定します。	はい
JobType.CreatedBy	作成元	ワークフローを作成した拡張機能の ID を指定します。	いいえ
JobType.Description	説明	ワークフローを説明するテキストが入っています。	はい
JobType.GroupName	グループ名	ワークフローが属するグループの名前を指定します。	はい
JobType.LastModified	最終変更日時	ワークフローが最後に変更された日時。	いいえ
JobType.Location	ワークフローの位置	ワークフローに関連付けられる位置を指定します。	はい

データベース名	ノートブックフィールド名	説明	編集可能
JobType.ModifiedBy	変更ユーザー	このワークフローを最後に変更したユーザーのユーザー名を指定します。	いいえ
JobType.Owner	所有者	ワークフローの所有者を指定します。	はい
JobType.SourceID	ソース ID	ワークフローの ID を指定します。	いいえ
StepChain.Color	カラー	ワークフローに表示されるステップチェーンの色を指定します。	はい
StepChain.Description	ステップチェーンの説明	ステップチェーンの機能を説明します。	はい
StepChain.ID	ステップチェーン名	ステップチェーンの名前を指定します。	いいえ
StepChain.LastModified	最終変更日時	ステップチェーンが最後に変更された日時。	いいえ
StepChain.ModifiedBy	変更ユーザー	このステップチェーンを最後に変更したユーザー名を指定します。	いいえ
StepChain.Owner	所有者	ステップチェーンの所有者を指定します。	はい
StepChain.Usage	ステップチェーンの使用	ステップチェーン内にあるステップのグループの使用目的を指定します。	はい

プリンターのデータベースプロパティ名

8

プリンターに関するメッセージでは、データベース名でプロパティが表されている場合があります。すべてのプロパティがすべてのタイプのプリンターに当てはまるわけではありません。

ユーザーインターフェースのドロップダウンリストに表示される値の中には、RICOH ProcessDirector の内部で使用される値とは異なるものがあります。Webサービスを使用して要求を行うときや、指定変更ファイルを使用して値を設定するときは、内部値を使用する必要があります。【内部値】列に、このようなプロパティの内部値を示します。

編集可能列:

- はい: 許可ユーザーは、プリンターが作成された後で値を変更できます。
- いいえ: 許可ユーザーは、値を変更できません。

プリンタープロパティ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
CustomPDFPrinter. ImportPrinter	一般: カスタム PDFプリンター サーバー	カスタムPDFプリン ターデバイスを定義 するプリンターサー バーを選択します。		いいえ
CustomPDFPrinter. PrinterType	一般: カスタムプ リンタータイプ	カスタムPDFプリン ターオブジェクトと して定義するプリン ターのタイプを指定 します。		はい
JdfDirectPrinter. VPName	一般: 仮想プリン ター名	Ricoh TotalFlowプリン ターオブジェクトに 定義する仮想プリン ター名を指定しま す。		はい
JdfOutputPrinter. PrinterType	一般: プリンター のタイプ	プリンタータイプを 指定します。	Ricoh PDFプリンター として接続できるす べてのプリンターの リスト。	はい
JdfOutputPrinter. BannerPage.Tray	バナーページバ ナーページ給紙ト レイ	ヘッダーページとト レーラーページの用 紙を保持するプリン ターの給紙トレイを 指定します。		はい
JdfOutputPrinter. JobStatusPolling	一般: ジョブ状況 のポーリング間隔	Ricoh PDFプリンター またはカスタムPDFプ リンターが、ジョブ の状況の更新を要求 する頻度を定義しま す。		はい
JdfOutputPrinter. MergeBanner	バナーページバ ナーページをPDF 印刷ファイルに マージ	ヘッダーおよびト レーラーバナーファ イルをPDF印刷ファ イルにマージするか、 別のファイルとして プリンターに送信す るかを指定します。	• いいえ • はい	はい
JdfOutputPrinter.Port	一般: プリンター ポート	プリンターの通信 ポートを指定しま す。		はい
JdfOutputPrinter.URL	一般: Printer URL	プリンターとの通信 に使用するホスト名 またはTCP/IPアドレ スを指定します。		はい
PassThroughPrinter. CodePage	一般: コードペー ジ	プリンターが、プリ ンターコマンドを解 釈するのに使用する コードページを指定 します。		はい
PassThroughPrinter. Command	一般: プリンター コマンド	プリンターにジョブ を実行依頼するのに		はい

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
		使用されるコマンド。		
PassThroughPrinter. ControlFileTemplate	一般: 制御ファイル テンプレート	プリンターコマンド パラメーターにジョ ブプロパティを マッピングする制御 ファイルテンプレ ートの絶対パス名を指 定します。		はい
PassThroughPrinter. MergeBanner	バナーページバ ナーページをPDF 印刷ファイルに マージ	ヘッダーおよびト レーラーバナーファ イルをPDF印刷ファ イルにマージするか、 別のファイルとして プリンターに送信す るかを指定します。	• いいえ • はい	はい
PassThroughPrinter. ValidRCs	一般: 有効な戻り コード	ジョブが正常に印刷 されたことを示すた め、プリンターコマ ンドが発行すること ができる戻りコード 値のリストが入って います。		はい
Printer.CommunityName	SNMP: コミュニ ティー名	プリンターが属する Simple Network Management Protocol (SNMP) コミュニ ティーの名前を指定 します。		はい
Printer.CurrentJobID	状況: 現行ジョブ の番号	現在プリンターに割 り当てられている ジョブのジョブ番号 を指定します。		いいえ
Printer.CurrentJobName	状況: 現行ジョブ の名前	現在プリンターに割 り当てられている ジョブの名前を指定 します。		いいえ
Printer. CurrentJobPagesStack- ed	状況: 印刷される 現行ジョブページ	現在プリンターに割 り当てられている ジョブで印刷された ページ数を示しま す。		いいえ
Printer. CurrentJobProgress	状況: 印刷済みの 比率	プリンターに現在割 り当てられている ジョブで印刷されて いる現行ページを、 ジョブの合計ページ 数に対する割合 (%) で表示します。		いいえ
Printer. CurrentJobTotalPages	状況: 現行ジョブ の合計ページ数	現在プリンターに割 り当てられている		いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
		ジョブの合計ページ数 を示します。		
Printer.CurrentStatus	状況: 最終ステータス メッセージ	プリンター状況が [切断] または [ア テンションが必要] の場合、プリンター について受け取った 最新のエラーまたは 警告メッセージが 入っています。それ 以外の場合、プリン ターについて受け 取った最新の通知 メッセージが入って います。		いいえ
Printer.CustomerName	スケジューリング: カスタマー名	プリンターに割り当 てられたカスタマー 名を指定します。		はい
Printer.Description	一般: プリンター の説明	プリンターオブジェ クトを説明するテキ ストが含まれます。		はい
Printer.Enabled	状況: 使用可能状 況	RICOH ProcessDirectorがプリ ンターに対してジョ ブをスケジュールで きるかどうかを指定 します。		いいえ
Printer. EnhancePDFFilter	一般: アクション リスト	PDFファイルおよび JDFファイルをRICOH PDFまたはRICOH TotalFlow プリンター に送信する前に、PDF ファイルおよびJDF ファイルに適用でき るアクションを指定 します。		はい
Printer.FirstSegmentSize	一般: 最初のPDF セグメントサイズ	プリンターに送信さ れる最初のPDFジョ ブセグメントのサイ ズを、ページを単位 として指定します。		いいえ
Printer.FoldCapable	スケジューリング: 折り対応	プリンターがジョ ブに割り当てられた さまざまな方法でペ ージを折ることが できるかどうかを指 定します。		はい
Printer.HeaderExit	バナーページヘッ ダーページを使用 可能にする	プリンターが各ジョ ブの開始時にヘッ ダーページを印刷 するかどうかを制御 します。	• いいえ • はい	はい

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
Printer.ID	プロパティノートブックのタイトルに表示プリンター名	プリンターの名前が入っています。		いいえ
Printer.Instance	一般: プリンターサーバー	このプリンターにジョブを送信するRICOH ProcessDirectorサーバーの名前を指定します。		はい
Printer.JobSize	スケジューリング: サポートされるジョブサイズ	RICOH ProcessDirectorがプリンターに対してスケジューリングできるシート内のジョブサイズを指定します。		はい
Printer.Language	一般: プリンター言語	メッセージをRICOH ProcessDirectorに返すときに、プリンタードライバコンポーネントで使用する言語を示します。		はい
Printer.LastModified	一般: 最終変更日時	プリンターが最後に変更された日時。		いいえ
Printer.Locations	スケジューリング: プリンターの位置	プリンターの名前を指定します。		はい
Printer. MaxConcurrentJobs	一般: 最大並行ジョブ数	RICOH ProcessDirectorのプリンタードライバコンポーネントが同時に制御できるジョブの最大数を指定します。		はい
Printer.Media	スケジューリング: サポートされるメディア	プリンターでサポートされるメディアを指定します。		はい
Printer.MediaCatalog	メディア: 使用するメディア	プリンターに送信されるジョブのメディア情報がシステムメディアかプリンターメディアかを指定します。	- プリンター - システム	はい
Printer.Model	一般: プリンター用紙タイプ	プリンターのタイプ、例えば、連続用紙またはカットシートなどが入っています。		はい
Printer.Model.Specific	一般: プリンターモデル	プリンターの型式番号が入っています。		はい
Printer.ModifiedBy	一般: 変更ユーザー	このプリンターを最後に変更したユーザー		いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
		ザーのユーザー名を指定します。		
Printer.OutputBin	スケジューリング: 使用可能出力ビン	プリンターに取り付けることができる出力ビンを選択します。		はい
Printer.OutputFormat	スケジューリング: 出力形式	プリンターが、ジョブの最初のページと最後のページのどちらを先に印刷するようにセットアップされているかを指定します。通常、仕上げまたはその他の後処理の要件に応じて判断します。また、印刷前にジョブを異なるデータストリームに変換する必要があることを指定することもできます。	• AtoZforAFP • AtoZforPDF • ZtoAforAFP • ZtoAforPDF • 変換	はい
Printer. PerfectBindingCapable	スケジューリング: 完全バインド対応	プリンターが用地の端をとして背表紙を接着できるかどうかを指定します。		はい
Printer.PunchCapable	スケジューリング: パンチ対応	プリンターに接続されたフィニッシャーが出力に穴を開けることができるかどうかを指定します。		はい
Printer.Retry	接続: プリンター 接続再試行カウン ト	プリンターへの接続に失敗したときに、RICOH ProcessDirectorが接続を試みる回数を指定します。		はい
Printer.RetryInterval	接続: 再試行間隔	プリンターへの接続に失敗したときに、RICOH ProcessDirectorが接続を試みる頻度を指定します。		はい
Printer. RingBindingCapable	スケジューリング: リングバインド対 応	プリンターが用地の端をとしてリングを挿入できるかどうかを指定します。		はい
Printer.S2VBarcode	AFP: ジョブ後に空 白ページを送信す る	プリンターキューに入れられた最後のジョブが印刷された後、プリンターに送信する空白ページの数を指定します。		はい

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
Printer.SegmentSize	一般: PDFセグメントサイズ	プリンターに送信される PDF ジョブセグメントのサイズを、ページを単位として指定します。		はい
Printer.SerialNumber	状況: シリアル番号	プリンターのシリアル番号が入っています。		いいえ
Printer.SNMPStatus	状況: SNMP状況	SNMPが接続されているか、切断されているか、または使用不可になっているかを示します。		いいえ
Printer.StapleCapable	スケジューリング: ステープル対応	プリンターに接続されたフィニッシャーが出力をステープルで留めることができるかどうかを指定します。		はい
Printer.Status	状況: プリンター 状況	プリンターの現在の状況が入っています。		いいえ
Printer.TCPIP.Address	一般: プリンター TCP/IPアドレスまたは ホスト名	プリンターハードウェアのネットワークTCP/IPアドレスまたは完全修飾ホスト名のいずれかを指定します。		はい
Printer.TrailerExit	バナーページ トレーラーページを 使用可能にする	プリンターが各ジョブの末尾にトレーラーページを印刷するかどうかを指定します。	• いいえ • はい	はい
Printer.UseSNMP	SNMP: SNMPの 使用	RICOH ProcessDirectorがSNMPを使用してプリンターをモニターするかどうかを指定します。		はい
Printer. UseSnmpUpdateMedia	SNMP: プリンター からトレイ情報を 取得	RICOH ProcessDirectorでメディアを更新するためにSimple Network Management Protocol (SNMP) を使用するかどうかを指定します。	• いいえ • はい	はい
Printer.Version	状況: バージョン	SNMPによって戻されるプリンターバージョンが入っています。		いいえ

メディアのデータベースプロパティ名

メディアに関するメッセージでは、[Media] で始まるデータベース名でプロパティが表されている場合があります。

ユーザーインターフェースのドロップダウンリストに表示される値の中には、RICOH ProcessDirector の内部で使用される値とは異なるものがあります。Webサービスを使用して要求を行うときや、指定変更ファイルを使用して値を設定するときは、内部値を使用する必要があります。[内部値] 列に、このようなプロパティの内部値を示します。

[編集可能] 列:

- [はい] : 許可ユーザーは、メディアが作成された後で値を変更できます。
- [いいえ] : 許可ユーザーは、値を変更できません。

[ジョブチケット] 列:

- [はい] : ジョブの [メディア] プロパティを設定するために、ジョブの実行依頼に使用されるジョブチケットにある 1 つ以上の値とプロパティが比較されます。
- [いいえ] : プロパティはジョブチケットにある値と比較されません。

メディアのプロパティ

データベース名	フィールド名	説明	内部値	編集可能	ジョブチケット
Media.Description	メディアの説明	メディアについて説明するユーザー定義のテキストが入っています。		はい	いいえ
Media.ID	プロパティノートブックのタイトルに表示メディア名	メディアの名前が入っています。		いいえ	はい
Media.LastModified	最終変更日時	メディアが最後に変更された日時。		いいえ	いいえ
Media.MappedMedia	マップされたシステムメディア	このプリンターメディアにマップするシステムメディアを指定します。		はい	はい
Media.MappedMedia.PrinterFilter	プリンター	テーブル内のメディアマッピングを表示するプリンターを指定します。	• すべて	はい	はい
Media.ModifiedBy	変更ユーザー	このメディアを最後に変更したユーザーのユーザー名を指定します。		いいえ	いいえ
Media.Printer	プリンター	このプリンターメディアが関連付けられているプリンターの名前を指定します。		いいえ	はい

データベース名	フィールド名	説明	内部値	編集可能	ジョブチケット
Media. ProductId	製品 ID	メディアの製品 ID を指定します。このプロパティは、[JDF/PDF] の「送信するデータストリーム」の値を持つ Ricoh PDF プリンターに送信されたジョブでのみ使用されます。		はい	はい
Media. SendName	ジョブチケットでメディア名を送信	メディア名を JDF ジョブチケット内の Ricoh PDF プリンターに送信するかどうかを指定します。		はい	いいえ
MediaSize. Height	メディアの高さ	メディアの高さを指定します。		はい	はい
MediaSize. Units	メディア単位	メディアの高さおよび幅の計測単位を指定します。	• インチ • ミリメートル • ポイント	はい	いいえ  補足 ジョブチケットのメディアの寸法は常にポイント単位です。
MediaSize. Width	メディアの幅	メディアの幅を指定します。		はい	はい
MediaType. Color	メディアのカラー	メディアのカラーを指定します。	• 青 • バフ • ゴールデンロッド • グレー • 緑 • アイボリー • なし • オレンジ • ピンク • パープル • レッド • ユーザー • 白 • 黄	はい	はい
MediaType. Details	メディアの詳細	メディアが属する一般カテゴリー (例えば、レターヘッドまたは OHP フィルム) を指定します。	• ボンド • カードストック • 封筒 • ラベル • レターヘッド • 用紙(A) • 特殊紙 • タブストック • 半透明 • 透明	はい	はい

データベース名	フィールド名	説明	内部値	編集可能	ジョブチケット
MediaType.Preprinted	メディアは事前印刷される	メディアが事前印刷されるかどうかを指定します。	• いいえ • はい	はい	はい
MediaType.Punched	メディアはプリパンチされる	メディアがプリパンチされるかどうかを指定します。	• いいえ • はい	はい	はい
MediaType.Recycled	メディアは再生される	メディアが再生されるかどうかを指定します。	• いいえ • はい	はい	はい
MediaType.Weight	メディアの坪量 (gsm)	メディアの重さを 1 平方メートル当たりのグラム (gsm) で指定します。		はい	はい

入力装置のデータベースプロパティ名

入力装置に関するメッセージでは、データベース名でプロパティが表されている場合があります。**HotFolder** で始まるデータベースプロパティ名は、ホットフォルダー入力装置に固有のものです。**zOSDownload** で始まるデータベースプロパティ名は、Download 入力装置に固有のものです。名前が **InputDevice** で始まるプロパティは、すべてのタイプの入力装置が対象です。

ユーザーインターフェースのドロップダウンリストに表示される値の中には、RICOH ProcessDirector の内部で使用する値とは異なるものがあります。Webサービスを使用して要求を行うときや、指定変更ファイルを使用して値を設定するときは、内部値を使用する必要があります。【内部値】列に、このようなプロパティの内部値を示します。

編集可能列:

- はい: 許可ユーザーは、入力装置が作成された後で値を変更できます。
- いいえ: 許可ユーザーは、値を変更できません。

入力装置プロパティ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
HotFolder.CodePage	一般: 装置コードページ	入力装置が、印刷ファイルに付随するファイル (トリガーファイルやリストファイルなど) の内容を読み取るときに使用するコードページです。	• EUC_JP • ISO8859_1 • iso8859_15 • utf8	はい
HotFolder.SetPattern	バッチ: セットの一一致するパターン	セットの作成時に入力装置が使用するファイル名パターンを指定します。このパターンは正規表現であり、セット内で一致する必要がある、入力ファイル名の一部を示します。セットを構成する入力ファイルは、【デー		はい

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
		タパターン]、[JDF パターン]、[指定変更パターン]、[ファイルパターン] の各プロパティの値によって決まります。		
InputDevice. BatchingMethod	バッチ: バッチ方式	入力装置が複数の入力ファイルまたはファイルのセットをグループ化する方法、それらを1つのジョブまたは親子のジョブとして実行依頼する方法を指定します。ホットフォルダー入力装置であればこの値を変更することができますが、Download 入力装置または LPD 入力装置の場合は変更できません。	• AutoBatch • JDF • ListFile • MVSOutGrp • なし • PatternBased • NumberOfFiles • NumberOfPages • NumberOfSets • PagesInSets • SetsByTime • 時刻	はい (ホットフォルダー)、 いいえ (Download、LPD)
InputDevice.Child. InitJobTypeStep	一般: 子ワークフロー初期化ステップ	単一のジョブまたは子ジョブのワークフローを初期化したり、ジョブと一緒に実行依頼されるオプションの指定変更ファイルをジョブプロパティ設定用の <i>property name=value</i> 形式のテキストファイルに変換したりするために、入力装置で使用するステップの名前を指定します。		はい
InputDevice.Child. JobType	一般: 子ワークフロー	1つのファイルのみを含むジョブ、または親ジョブの子であるジョブに、入力装置が割り当てるワークフローの名前を指定します。		はい
InputDevice.Child. JobType ParsingRules	拡張: 子ワークフロー構文解析規則	制御ファイルのパスおよびファイル名が入っています。		はい
InputDevice.Child. JobTypeFilename Pattern	拡張: 子ワークフローパターン	ファイル名のどの部分が単一ジョブおよび子ジョブのワークフローに使用される必要があるかを示すパターンマッチングストリングが入っています。		はい
InputDevice. IDConvertOverrides	拡張: 変換指定変更	制御ファイルが、ジョブと一緒に実行依頼される指定変更ファイルを	• いいえ • はい	はい (ホットフォルダー)、 いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
		RICOH ProcessDirector <i>property name=value</i> フォーマットのジョブプロパティファイルに変換する必要があるかどうかを指定します。		(Download、LPD)
InputDevice. CreateZip	バッチ: .zipファイル の作成	入力装置がデータファイルを個別のジョブとして実行依頼するか、それらを.zip ファイルにまとめて単一のジョブとして実行依頼するかを指定します。	• いいえ • はい	はい
InputDevice. Description	一般: 入力装置の説明	入力装置を説明するテキストが入っています。		はい
InputDevice.Enabled	状況: 使用可能状況	この入力装置が、対応するRICOH ProcessDirectorジョブを作成するために受信する入力ファイルを実行依頼できるかどうかを指定します。	• いいえ • はい	いいえ
InputDevice. FileCompletion	拡張: 完了方法	入力ファイルの送信が完了したことを入力装置がどのようにして判断するかを指定します。	• CheckOpen • CheckSize • なし • トリガー	はい (ホットフォルダー)、 いいえ (Download、LPD)
InputDevice. FileDataPatterns	バッチ: データパターン	入力装置が単一のジョブとして処理するために受け入れる必要がある入力ファイルをRICOH ProcessDirectorが識別するために使用する、パターンマッチングストリングが入っています。		はい (ホットフォルダー)、 いいえ (Download、LPD)
InputDevice. FileJDFPatterns	バッチ: JDFパターン	RICOH ProcessDirectorがJDF (ジョブ定義フォーマット) ジョブチケットを識別するために使用するパターンマッチングストリングが入っています。		はい (ホットフォルダー)、 いいえ (Download、LPD)
InputDevice. FileListPatterns	バッチ: リストパターン	RICOH ProcessDirectorがリストファイルを識別するために使用するパターンマッチングストリングが入っています。		はい (ホットフォルダー)、 いいえ (Download、LPD)
InputDevice. FileOtherPatterns	バッチ: 指定変更パターン	RICOH ProcessDirectorが、リストファイルおよびそのリストファイルが指定する入力ファイル、または別の単一の入力ファイルとともに処理する必要があるファイルを		はい (ホットフォルダー)、 いいえ (Download、LPD)

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
		識別するために使用する パターンマッチングスト リングが入っています。		
InputDevice. IDFileTrigger Patterns	拡張: トリガーパ ターン	RICOH ProcessDirectorが トリガーファイルを識別 するために使用する、 ユーザー定義のパターン マッチングストリングが 入っています。		はい (ホット フォルダー)、 いいえ (Download、 LPD)
InputDevice. FolderLocation	一般: フォルダー位 置	入力装置が着信ジョブに ついてモニターするディ レクトリーの名前が入っ ています。		はい
InputDevice. Frequency	バッチ: バッチ間隔	入力ファイルのバッチを 実行依頼する時間間隔を 示します。		はい
InputDevice.ID	プロパティノート ブックのタイトルに 表示	入力装置の名前が入っ ています。		いいえ
InputDevice. InitJobTypeStep	一般: ワークフロー 初期化ステップ	入力装置が受信した入力 ファイルの親ワークフ ローを初期化したり、 ジョブと一緒に実行依頼 されるオプションの指定 変更ファイルをジョブプ ロパティ設定用の RICOH ProcessDirector <i>property name=value</i> 形式のテキストファイル に変換したりするた めに、入力装置で使用さ れるステップの名前を指 定します。		はい
InputDevice.Instance	全般: 親サーバー	この入力装置のメッセ ージを受信して記録する RICOH ProcessDirector サーバーの名前を指定し ます。		はい
InputDevice.JobType	一般: ワークフロー	この入力装置がジョブに 割り当てるワークフロー の名前を指定します。		はい
InputDevice. IDJobTypeFilename Pattern	拡張: 親ワークフ ローパターン	ファイル名のどの部分が 親ジョブのワークフロー に使用される必要がある かを示すパターンマッ チングストリングが入っ ています。		はい
InputDevice. IDJobTypeParsing Rules	拡張: 親ワークフ ロー構文解析規則	制御ファイルのパスおよ びファイル名が入ってい ます。		はい

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
InputDevice. LastModified	一般: 最終変更日時	入力装置が最後に変更された日時。		いいえ
InputDevice. Locations	一般: 入力装置の位置	この入力装置に関連付けられている位置です。		はい
InputDevice. MaxErrors	一般: 最大エラー数	RICOH ProcessDirectorが 入力装置を使用不可にする前に発生する可能性がある入力装置の通信エラーの数が入っています。		はい
InputDevice. ModifiedBy	一般: 変更ユーザー	この入力装置を最後に変更したユーザーのユーザー名を指定します。		いいえ
InputDevice. NumberOfFiles	バッチ: バッチ対象のファイル数	〔一般〕 タブで 番号 バッチ方式を選択したときに、単一の実行依頼にまとめられるファイル数を指定します。		はい
InputDevice. NumberOfPages	バッチ: バッチ対象のページ数	〔一般〕 タブで ページ数 バッチ方式を選択したときに、単一の実行依頼にまとめられる PDF ページ数の最大値を指定します。		はい
InputDevice. PageThreshold	バッチ: バッチ対象のページ数を超える	ホットフォルダーが PDF ファイルのコレクションを実行依頼するとき、そこに含まれるファイルのページ数が バッチ対象のページ数 プロパティの値を超えるとときにそのファイルを含めるかどうかを指定します。		はい
InputDevice. PollInterval	一般: 一般: ポーリング間隔 (単位)	ホットフォルダー入力装置の〔フォルダー位置〕プロパティが指定したディレクトリー内で RICOH ProcessDirector がファイルをチェックする時間間隔を指定します。		はい
InputDevice. ScheduleDaily	バッチ: 頻度 (日)	入力装置が入力ファイルのバッチを実行依頼する頻度を指定します。		はい
InputDevice. ScheduleHourly	バッチ: 頻度 (時間)	入力装置が入力ファイルのバッチを実行依頼する頻度を指定します。		はい
InputDevice. ScheduleMinute	バッチ: 頻度 (分)	入力装置が入力ファイルのバッチを実行依頼する頻度を指定します。		はい

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
InputDevice. ScheduleMonthly	バッチ: 頻度 (月)	入力装置が入力ファイルのバッチを実行依頼する頻度を指定します。		はい
InputDevice. ScheduleWeekly	バッチ: 頻度 (週)	入力装置が入力ファイルのバッチを実行依頼する頻度を指定します。		はい
InputDevice. StagingLocation	一般: ステージング 位置	入力装置が入力ファイル をジョブとして実行依頼 する前に、その入力ファ イルを移動するディレク トリーの名前が入ってい ます。		はい
InputDevice.StartDate	バッチ: バッチ開始 日	入力装置に対して「時刻」バッチ方式が有効になる日付を指定します。		はい
InputDevice. StartDateAndTime	バッチ: バッチ開始 日時	入力装置で「時刻」または「時刻によるセット」のバッチ方式を有効にする日時を指定します。		はい
InputDevice.Status	状況: 接続状態	入力装置の現在の状況 (接続、切断、または接 続不可) をリストしま す。	• 接続 • 切断 • UnableToConnect	いいえ
InputDevice. SubmitStep	一般: 実行依頼ス テップ	入力装置がジョブ処理の ために入力ファイルを送 信する実行依頼ステップ の名前が入っています。		はい
InputDevice. WaitingFileCount	状況: 待ち入力ファ イル	入力装置が受信しても、 対応するRICOH ProcessDirectorジョブを 作成するためにまだ実行 依頼していない入力ファ イルの数が入っています。		いいえ
InputFilePattern. FilePattern	バッチ: ファイルパ ターン	1 つ以上のファイルのパ ターンマッチングストリ ングを指定します。		はい
InputFilePattern. Required	バッチ: 必須ファイ ルパターン	ジョブを実行依頼する前 に入力ファイルのパター ンと一致するファイルが ホットフォルダーに存在 する必要があるかどうか を指定します。	• いいえ • はい	はい
InputFilePattern. Sequence	バッチ: ファイルパ ターンシーケンス	ファイルパターンの優先 順位を指定します。パ ターンは、この順序で チェックされます。		はい
InputFilePattern. SpoolFileType	バッチ: スプール ファイルタイプ	ファイルの内容または データストリームタイプ を指定します。		はい

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
InputFilePattern. SpoolFileUsage	バッチ: スプール ファイル使用法	ジョブ中のファイルの目的または役割を指定します。		はい
LPD.Codepage	一般: 装置コード ページ	制御ファイルやリスト ファイルなど、印刷ファイル を伴うファイルの内容を読み取る ために LPD 入力装置が使用する コードページです。	• EUC_JP • ISO8859_1 • iso8859_15 • utf8	はい

入力ファイルのデータベースプロパティ名

入力ファイルに関するメッセージでは、**InputFile**で始まるデータベース名でプロパティが表されている場合があります。

ユーザーインターフェースのドロップダウンリストに表示される値の中には、RICOH ProcessDirector の内部で使用される値とは異なるものがあります。Webサービスを使用して要求を行うときや、指定変更ファイルを使用して値を設定するときは、内部値を使用する必要があります。【内部値】列に、このようなプロパティの内部値を示します。

編集可能列:

- はい は、許可ユーザーが、入力ファイルが作成された後で値を変更できることを意味します。
- いいえ: 許可ユーザーは、値を変更できません。

入力ファイルプロパティ

データベース名	列見出し: 入力ファイルテーブル	説明	内部値	編集可能
InputFile.JobType	ワークフロー	入力ファイルをジョブ処理のために実行依頼するとき、入力装置がそのファイルに割り当てるワークフローの名前が入っています。		いいえ
InputFile.Location	入力ファイル	入力ファイルのパスと名前を指定します。		いいえ
InputFile.Status	状況	入力ファイルの現在の状況が入っています。	• エラー • 処理中 • キュー • 待ち	いいえ
InputFile.SubmitGroup	グループ	リストファイルからグループとして実行依頼された入力ファイルセットのメンバーを識別します。		いいえ

データベース名	列見出し：入力ファイルテーブル	説明	内部値	編集可能
InputFile.SubmitType	実行依頼タイプ	入力ファイルの実行依頼タイプが入っています。	• aiwlist • データ • リスト • その他 • トリガー	
InputFile.Timestamp	受信	入力ファイルが入力装置に到着した日時が入っています。	日付と時刻は、UTC（協定世界時）の値として、 yyyy-mm-dd hh:mm:ss. fffffff というタイムスタンプ形式で格納されます。 • yyyyは4桁の年です。 • mmは2桁の月です。 • ddは2桁の日です。 • hhは2桁の時です。 • mmは2桁の分です。 • ssは2桁の秒です。 • fffffffは秒の小数点以下の9桁で、省略可能です。	いいえ

通知オブジェクトのデータベースプロパティ名

メッセージは、Notificationプロパティを示している場合があります。

【編集可能】列:

- はい: 許可ユーザーは値を変更できます。
- いいえ: 許可ユーザーは、値を変更できません。

ワークフロープロパティ

データベース名	ノートブックフィールド名	説明	編集可能
User.EmailAddress	メールアドレス	ユーザーのメールアドレスを指定します。	はい
Notification.AnyAllCustom	次の条件のいずれかまたはすべてを適用する	通知オブジェクトの条件をどのように組み合わせるかを指定します。	はい
Notification.BCC	BCCアドレス	通知メールの BCC の送信先となる 1 つまたは複数のアドレスです。この値は、E メール の [BCC:] フィールドで使用されます。	はい
Notification.CC	CCアドレス	通知メールの CC の送信先となる 1 つまたは複数のアドレスです。この値は、E メール の [CC:] フィールドで使用されます。	はい
Notification.Condition	条件	通知オブジェクトに対して 1 つまたは複数の条件を定義できます。条件は、指定したイベントに対して送信される通知を制限します。それぞれの条件は、オブジェクトプロパティ、比較演算子、および値によって構成されます。	はい
Notification.Condition.NotifyWhen	Notify when	通知オブジェクトの条件をどのように組み合わせるかを指定します。	はい
Notification.Description	通知の説明	説明には、通知が送信されるタイミングなどを示すことができます。例: 「深夜以降にプリンターが無効になった場合に、2 番目のシフトのオペレーターにメールが送信されます。」	はい
Notification.EmailMessage	メッセージ	通知メールの本文に記入するメッセージを指定します。メッセージでは、プレーンテキスト、HTML、画像を使用できます。	はい
Notification.EmailSubject	件名	通知メールの件名に挿入するテキストを指定します。	はい
Notification.Enabled.Description	使用可能状況	この通知オブジェクトが通知を送信できるようにするかどうかを指定します。	いいえ
Notification.Event	イベント	通知オブジェクトに対して監視する 1 つまたは複数のプロパティを定義できます。それぞれのイベントは、オブジェクトプロパティ、アクション、およびオプションで値によって構成されます。ここに示すプロパティを持つオブジェクトのタイプは、通知プロパティノートブックの [一般] タブの [イベントタイプ] プロパティで設定されます。	はい
Notification.EventType	イベントタイプ	通知するために監視するオブジェクトのタイプを指定します。各通知オブジェクトに対して、1 つのタイプの [イベントタイプ] のみを使用できます。	はい
Notification.ID	通知名	通知オブジェクトの名前を指定します。	いいえ
Notification.JsonCondition	条件	通知オブジェクトに対して 1 つまたは複数の条件を定義できます。条件は、指定したイベントに対して生成される通知を制限します。	いいえ

データベース名	ノートブックフィールド名	説明	編集可能
Notification.SecureConnection	セキュア接続	通知メールを送信する際に、メールサーバーとの接続に SSL と TLS のどちらのセキュリティを使用するかを指定します。この機能を有効にするには、SMTP サーバーで SSL または TLS 接続がサポートされている必要があります。	はい
Notification.SendLog	ログの添付	特定の入力装置、ジョブ、またはプリンターのイベントが発生したときに、入力装置、ジョブ、またはプリンターのログを通知メールに添付し、メールの受信者に詳細情報を提供するかどうかを指定します。	はい
Notification.Threshold	通知の制限	一定期間に何通の通知を送信できるようにするかを指定できます。例えば、2 時間に [10] 通のメッセージを送信できるように指定した場合、最初の通知が送られたあとにタイマーが開始されます。次の 30 分以内に 9 通の通知が送信された場合は、タイマーが制限の 2 時間に達するまで、新しい通知は送信されません。	はい
Notification.To	宛先アドレス	通知の送信先となる 1 つまたは複数のメールアドレス。この値は、E メール の [To:] フィールドで使用されます。	はい
Notification.Type	通知方法	通知方法を指定します。	はい
WorkflowSystem.EmailFrom	送信者メールアドレス	すべての通知メールの [From:] フィールドで使用されるメールアドレス。	はい

サーバーのデータベースプロパティ名

サーバーに関するメッセージでは、**Instance**で始まるデータベース名でプロパティが表されている場合があります。

ユーザーインターフェースのドロップダウンリストに表示される値の中には、RICOH ProcessDirector の内部で使用される値とは異なるものがあります。Webサービスを使用して要求を行うときや、指定変更ファイルを使用して値を設定するときは、内部値を使用する必要があります。【内部値】列に、このようなプロパティの内部値を示します。

編集可能列:

- はい: 許可ユーザーは、サーバーが作成された後で値を変更できます。
- いいえ: 許可ユーザーは、値を変更できません。

サーバープロパティ

データベース名	ノートブックフィールド名	説明	内部値	編集可能
Instance.Description	サーバーの説明	RICOH ProcessDirector サーバーを説明するユーザー定義のテキストが入っています。		はい
Instance.Enabled	使用可能状況	サーバーがタスクを実行できるかを指定します。	• いいえ • はい	いいえ
Instance.ID	プロパティノートブックのタイトルに表示: サーバー名	サーバーの名前が入っています。		いいえ

データベース名	ノートブックフィールド名	説明	内部値	編集可能
Instance.IPAddress	サーバー IP アドレスまたはホスト名	サーバーを実行しているコンピュータのネットワーク IP アドレスまたは完全修飾ホスト名のいずれかを指定します。		はい
Instance.InGeneralServerPool	汎用サーバープール	サーバーが汎用サーバーか、または制限付き使用のサーバーかを指定します。	• いいえ • はい	はい
Instance.LastModified	最終変更日時	サーバーが最後に変更された日時。		いいえ
Instance.MaxHighUsageSteps	最大リソース集中ステップカウント	サーバーが並行して実行できるリソース集中ステップの数を制御します。		はい
Instance.MaxLowUsageSteps	他のステップの最大ステップカウント	サーバーが並行して実行できる非リソース集中ステップの数を制御します。		はい
Instance.ModifiedBy	変更ユーザー	このサーバーを最後に変更したユーザーのユーザー名を指定します。		いいえ
Instance.Status	接続状況	サーバーの現在の状況を表示します。	• 接続 • 切断	いいえ

8

ステップテンプレートのデータベースプロパティ名

ステップテンプレートに関するメッセージでは、**StepTemplate**で始まるデータベース名でプロパティが表されている場合があります。

ユーザーインターフェースのドロップダウンリストに表示される値の中には、RICOH ProcessDirector の内部で使用する値とは異なるものがあります。Webサービスを使用して要求を行うときや、指定変更ファイルを使用して値を設定するときは、内部値を使用する必要があります。【内部値】列に、このようなプロパティの内部値を示します。

編集可能列:

- はい: 許可ユーザーは、ステップテンプレートが作成された後で値を変更できます。
- いいえ: 許可ユーザーは、値を変更できません。

ステップテンプレートプロパティ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
Step.Color	ステップの色	ワークフローエディターに 表示されるステップの 色を指定します。	- 赤 - オレンジ - グレー - ブルー - パープル - 未設定	はい
Step.Description	ステップの説明	ステップの目的を説明し ます。たとえば、ステッ プによるジョブの処理方 法を説明します。		はい
Step.DisplayName	全般：ステップ名	ステップがワークフロー に追加されるときに与え られる名前です。		はい
Step.ID	全般：ステップ ID	このステップの内部名を 指定します。この値は、 ステップの名前に由来し ます。		いいえ
Step.Template.CreatedBy	全般：テンプレート 作成元	ステップテンプレートを作 成した機能または拡張機 能の名前を指定しま す。		いいえ
StepTemplate.Color	ステップの色	ワークフローエディター に表示されるステップの 色を指定します。	- レッド - オレンジ - グレー - ブルー - パープル - 未設定	はい
StepTemplate.Description	全般：テンプレート の説明	ステップテンプレートの 機能を説明するテキスト が入っています。		はい
StepTemplate.Enabled	全般：使用可能状況	ステップテンプレートが 使用可能であるかどうか を指定します。	- いいえ - はい	いいえ
StepTemplate. HighResourceUsage	調整プロパティ ページ：同時ステッ プ制限	ステップテンプレートか ら作成された同時に実行 可能なステップ数の制限 が設定される場所を指定 します。	- ここの 上限設 定を使 用する - サー バーの 上限設 定を使 用する	ここの上限 設定を使用 する
StepTemplate.ID	プロパティノート ブックのタイトルに 表示：ステップテン プレート名	ステップテンプレートの 名前が入っています。		いいえ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
StepTemplate.LastModified	最終変更日時	ステップが最後に変更された日時。		いいえ
StepTemplate. MaximumActiveCount	調整プロパティ ページ: システムで アクティブにする並 行ステップの数を制 限ラジオボタン	特定のタイプの RICOH ProcessDirector オブ ジェクトで並行して実行 できるステップテン プレートおよびこのステ ップテンプレートから作成 されるすべてのステップ の発生回数を指定しま す。		はい
StepTemplate. MaximumActiveUnit	調整プロパティ ページ: 次の項目ご とにドロップダウン リスト	ステップテンプレートの [最大アクティブカウ ント] プロパティの値を 適用する RICOH ProcessDirector オブ ジェクトのタイプを指定 します。	• PerInp- utDevic- e • PerPrin- ter • PerSer- ver • PerSys- tem	はい
StepTemplate.ModifiedBy	変更ユーザー	このステップを最後に変 更したユーザーのユー ザー名を指定します。		いいえ
StepTemplate.ModuleType	全般: モジュールタ イプ	ステップテンプレートの 機能のタイプを識別しま す。	• クリー ンアッ プ • InitJob- Type • Java • 手動 • 印刷 • 実行依 頼 • Submit- Child	いいえ
StepTemplate.Servers	調整プロパティ ページ: 選択した サーバーでのみ実行 ラジオボタン	ステップテンプレートか ら作成されるすべてのス テップを実行可能な、限 定使用サーバーおよび汎 用サーバーをすべてリス トします。		はい

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
StepTemplate.SourceID	全般：ステップテンプレートソース ID	このステップテンプレートを作成するのに使用したステップテンプレートの名前を指定します。		いいえ
StepTemplate. UseGeneralServerPool	調整プロパティページ：[使用するサーバー]	そのステップテンプレートによって作成されたステップを実行可能なコンピュータを指定します。	- 特定のサーバーで実行する - 汎用サーバープールのサーバーで実行する	汎用サーバープールのサーバーで実行する

システムプロパティのデータベースプロパティ名

RICOH ProcessDirector システムに関するメッセージでは、[WorkflowSystem] で始まるデータベース名でプロパティが表されている場合があります。

ユーザーインターフェースのドロップダウンリストに表示される値の中には、RICOH ProcessDirector の内部で使用される値とは異なるものがあります。Webサービスを使用して要求を行うときや、指定変更ファイルを使用して値を設定するときは、内部値を使用する必要があります。【内部値】列に、このようなプロパティの内部値を示します。

編集可能列:

- はいを選択すると値を変更できます。
- いいえを選択すると値を変更できません。

システムプロパティ

データベース名	フィールド名	説明	内部値	編集可能
WorkflowSystem.AdLdap. TestUserName	LDAPテストユーザー名	LDAP設定をテストするために使用するLDAPユーザー名を指定します。		はい
WorkflowSystem. AltSMTPAddress	代替 SMTP サーバー	ジョブステップで [SMTP サーバタイプ] プロパティが [代替] に設定されている場合に、ネットワーク IP アドレスと SMTP サーバーの完全修飾ホスト名のどちらを RICOH ProcessDirector でメール送信に使用する		はい

データベース名	フィールド名	説明	内部値	編集可能
		るのかを指定します。		
WorkflowSystem. AltSMTPPassword	代替 SMTP パスワード	一次サーバーで代替 SMTP サーバーへのログインに使用されるパスワードを指定します。		はい
WorkflowSystem. AltSMTPPort	代替 SMTP port	代替 SMTP サーバーで使用される TCP/IP ポートを指定します。		はい
WorkflowSystem. AltSMTPSSLPort	代替 SMTP SSL ポート	代替 SMTP サーバーで SSL セキュリティーが使用されている場合は、SSL 接続で使用される TCP/IP ポートを指定します。		はい
WorkflowSystem. AltSMTPTLSPort	代替 SMTP TLS ポート	代替メールサーバーで TLS セキュリティーが使用されている場合は、TLS 接続で使用される TCP/IP ポートを指定します。		はい
WorkflowSystem. AltSMTPUserName	代替 SMTP ユーザー名	RICOH ProcessDirector サーバーで代替 SMTP サーバーへのログインに使用されるユーザー名を指定します。		はい
WorkflowSystem. CaptureFileName	キャプチャーファイル	システムデータを取り込むときに作成されたキャプチャーファイルの名前を指定します。		はい
WorkflowSystem. CaptureLevel	取り込むデータ	キャプチャーファイルに含める情報の量を示します。		はい
WorkflowSystem. CaptureServer	データの取り込み元サーバー	キャプチャーファイルを作成するときに情報の収集元となるサーバーを示します。		はい
WorkflowSystem.Child. MaxJobID	最大子ジョブ番号	RICOH ProcessDirector が子ジョブに割り当てることができる最大ジョブ番号を指定します。		はい

データベース名	フィールド名	説明	内部値	編集可能
WorkflowSystem.Child.MinJobID	最小子ジョブ番号	RICOH ProcessDirector が子ジョブに割り当てることができる最小のジョブ番号を指定します。		はい
WorkflowSystem.CopyTracesToTemp	取り込む前にファイルをバックアップ	トレースファイルを、キャプチャーファイルに追加する前に一時ディレクトリーにコピーするかどうかを示します。		はい
WorkflowSystem.CredentialExpiration	ログイン非アクティブタイマー (分)	非アクティブユーザーが自動的にログアウトするまでの分数を指定します。		はい
WorkflowSystem.Email.SSLPort	Eメールの SSL ポート	メールサーバーで SSL セキュリティーが使用されている場合は、SSL 接続で使用する TCP/IP ポートを指定します。		はい
WorkflowSystem.Email.TLSPort	Eメールの TLS ポート	メールサーバーで TLS セキュリティーが使用されている場合は、TLS 接続で使用する TCP/IP ポートを指定します。		はい
WorkflowSystem.FileSystemMapping	ファイルシステムマッピングファイル	ファイルパスを RICOH ProcessDirector サーバー上のマウントポイントにマップするファイルの名前を指定します。		はい
WorkflowSystem.GUILoggingLevel	Web サーバーログレベル	【トレースレベル】プロパティに【カスタム】オプションが選択されている場合に、システム上でアクティブになっているトレースレベルを表示します。		はい
WorkflowSystem.JobDisplayTag	使用するジョブ識別子	プリンターポートレット、プリンターコンソール、および PSF ジョブ完了ログに、ジョブ名またはジョブ番号を表示するかどうかを指定します。	• Job.ID • Job.Name	はい
WorkflowSystem.LastCaptureFilename	最後のキャプチャーファイル名	システムデータが最後にキャプチャーさ		いいえ

データベース名	フィールド名	説明	内部値	編集可能
		れたときに作成された、最後のキャプチャーファイルの名前を指定します。		
WorkflowSystem. LastCaptureTimestamp	最後のキャプチャー完了	キャプチャーが最後に完了した日付と時刻。キャプチャーが完了するたびに、RICOH ProcessDirectorでこの値が更新されます。		いいえ
WorkflowSystem. LPDHostnames	LPD ジョブを実行 依頼できるホスト	LPD プロトコルを使用してジョブをRICOH ProcessDirector に実行依頼できるホスト名または IP アドレスを指定します。		はい
WorkflowSystem.MaxJobID	最大ジョブ番号	RICOH ProcessDirector がジョブに割り当てることができる最大のジョブ番号を指定します。		はい
WorkflowSystem. MediaTolerance. RecyclingPercentage	リサイクルコンテンツ許容値	メディアオブジェクトのリサイクルコンテンツに対する受け入れ可能な相違を指定します。		はい
WorkflowSystem. MediaTolerance.Size	サイズ許容値	メディアオブジェクトのサイズに対する受け入れ可能な相違を指定します。		はい
WorkflowSystem. MediaTolerance.Weight	重さ許容値	メディアオブジェクトの重さに対する受け入れ可能な相違を指定します。		
WorkflowSystem. PrinterProgress	印刷進行状況バー	プリンターポートレットに印刷進行状況バーを表示するかどうかを指定します。	• いいえ • はい	はい
WorkflowSystem. MaxPasswordAge	パスワードの有効期間	期限切れになるまでにパスワードを使用できる日数を指定します。		はい
WorkflowSystem.MinJobID	最小ジョブ番号	RICOH ProcessDirector がジョブに割り当てることができる最小の		はい

データベース名	フィールド名	説明	内部値	編集可能
		ジョブ番号を指定します。		
WorkflowSystem.Primary. MaxLowUsageSteps	他のステップの最大ステップカウント	1 次 RICOH ProcessDirector サーバーが並行して実行できる非リソース集中ステップの数を制御します。		はい
WorkflowSystem.Primary. MaxHighUsageSteps	最大リソース集中ステップカウント	1 次 RICOH ProcessDirector サーバーが並行して実行できるリソース集中ステップの数を制御します。		はい
WorkflowSystem. ProxyPassword	プロキシサーバー 1 のパスワード	1 次サーバーでプロキシサーバー 1 へのログインに使用されるパスワードを指定します。		はい
WorkflowSystem. ProxyPassword2	プロキシサーバー 2 のパスワード	1 次サーバーでプロキシサーバー 2 へのログインに使用されるパスワードを指定します。		はい
WorkflowSystem.ProxyPort	プロキシサーバー 1 のポート	RICOH ProcessDirector がプロキシサーバー 1 との通信に使用する TCP/IP ポートを指定します。		はい
WorkflowSystem. ProxyPort2	プロキシサーバー 2 のポート	RICOH ProcessDirector がプロキシサーバー 2 との通信に使用する TCP/IP ポートを指定します。		はい
WorkflowSystem. ProxyServer	プロキシサーバー 1	プロキシサーバー 1 のネットワーク IP アドレスまたは完全修飾ホスト名のいずれかを指定します。 RICOH ProcessDirector は、プロキシサーバーを使用して外部 Web サイトに接続します。		はい
WorkflowSystem. ProxyServer2	プロキシサーバー 2	プロキシサーバー 2 のネットワーク IP アドレスまたは完全修飾ホスト名のいずれかを指定します。 RICOH ProcessDirector は、		はい

データベース名	フィールド名	説明	内部値	編集可能
		プロキシサーバーを使用して外部Webサイトに接続します。		
WorkflowSystem.ProxyUser	プロキシサーバー1のユーザー	プロキシサーバー1が外部Webサイトに接続するときにRICOH ProcessDirectorが使用するユーザー名を指定します。		はい
WorkflowSystem.ProxyUser2	プロキシサーバー2のユーザー	プロキシサーバー2が外部ウェブサイトに接続するときにRICOH ProcessDirectorが使用するユーザー名を指定します。		はい
WorkflowSystem.RememberPrinterStatus	プリンターの使用可能状況を記憶する	システムシャットダウンの後、使用可能なプリンターの状況をRICOH ProcessDirectorが復元するかどうかを指定します。	• いいえ • はい	はい
WorkflowSystem.RetainPollInterval	保存ポーリング間隔 (分)	RICOH ProcessDirector が、さらなるアクションが必要かどうかを判別するためにシステムで保存されるジョブをポーリングする頻度を制御します。		はい
WorkflowSystem.SMTPPassword	SMTP パスワード	RICOH ProcessDirector でSMTP サーバーへのログインに使用されるパスワードを指定します。		はい
WorkflowSystem.SMTPPort	SMTP ポート	SMTP サーバーで使われる TCP/IP ポートを指定します。		はい
WorkflowSystem.SMTPServer	SMTPサーバー	RICOH ProcessDirector でEメールの送信に使用される SMTP サーバーのネットワーク IP アドレスまたは完全修飾ホスト名を指定します。		はい
WorkflowSystem.SMTPUsername	SMTP ユーザー名	RICOH ProcessDirector でSMTP サーバーへの接続に使用される		はい

データベース名	フィールド名	説明	内部値	編集可能
		ユーザー名を指定します。		
WorkflowSystem.SystemIdentifier	システム ID	ユーザーインターフェースに表示されるシステムの代替名を指定します。		はい
WorkflowSystem.TraceCustomTraceLevel	カスタムトレースレベル	【トレースレベル】プロパティに【カスタム】オプションが選択されている場合に、システム上でアクティブになっているトレースレベルを表示します。		はい
WorkflowSystem.TraceFileCount	トレースファイルの最大数	システムで作成可能なトレースファイルの最大数を示します。		はい
WorkflowSystem.TraceFileSize	最大トレースファイルサイズ	システムで作成されるトレースファイルの上限サイズ (KB 単位) を示します。		はい
WorkflowSystem.TraceLevel	トレースレベル	システムでアクティブなトレースのレベルを示します。		はい

ユーザーのデータベースプロパティ名

8

ユーザーおよびそのパスワードに関するメッセージでは、**User** で始まるデータベース名でプロパティが表されている場合があります。

編集可能列:

- はい: ユーザーは、ユーザーが作成された後で値を変更できます。
- いいえ: ユーザーは、値を変更できません。

ユーザープロパティ

データベース名	フィールド名	説明	編集可能
User.Description	ユーザーの説明	ユーザー名を説明するテキストが入っています。	はい
User.Groups	グループメンバーシップ	ユーザーが属しているグループの名前が入っています。	はい
User.ID	ページタイトルに表示	RICOH ProcessDirector の許可ユーザーのユーザー名が入っています。	いいえ
User.LastModified	最終変更日時	ユーザーが最後に変更された日時。ユーザーが変更さ	いいえ

データベース名	フィールド名	説明	編集可能
		れるたびに RICOH ProcessDirector はこの値を更新します。	
User.Login.Status	ログイン済み	ユーザーが RICOH ProcessDirector にログインしているかどうかを指定します。	いいえ
User.LocationFilterPreference	表示する位置	現在、ユーザーインターフェースのフィルターに使用されている位置を表示します。このリストで選択した位置にあるオブジェクトのみが表示されます。	はい
User.LocationSettings	許可された位置	ジョブ、プリンター、入力装置など、一部のオブジェクトには [位置] プロパティがあります。[許可された位置] プロパティでは、ユーザーがアクセスできる位置を指定できます。この設定により、ユーザーがユーザーインターフェースで表示できるオブジェクトが決まります。ユーザーは、[表示する位置] プロパティを使用して、ユーザーインターフェースのフィルターに使用する位置を選択できます。	はい
User.ModifiedBy	変更ユーザー	この入力装置を最後に変更したユーザーを指定します。RICOH ProcessDirector はこのプロパティ値を保持し、入力装置が変わるたびにこの値を更新します。	いいえ
User.Password	ユーザーパスワード	ユーザーのパスワードを受け入れます。	はい
User.PasswordConfirm	新規ユーザーパスワードを確認する	新規ユーザーのパスワードを指定します。[新規ユーザーパスワード] 値と一致している必要があります。	はい
User.PasswordLastChanged	パスワードの最終変更	パスワードが最後に変更された日時を指定します。	いいえ

データベース名	フィールド名	説明	編集可能
User.PasswordNew	新規ユーザーパスワード	新規ユーザーのパスワードを指定します。	はい
User.StartPage	開始ページ	ログイン後に RICOH ProcessDirector に表示されるページを指定します。新しいユーザーが作成されると、この制御は [グループメンバーシップ] 値が選択されるまでは使用できません。	はい

グループのデータベースプロパティ名

セキュリティグループに関するメッセージでは、**Group**で始まるデータベース名でプロパティが表されている場合があります。

編集可能列:

- はい: ユーザーは、グループが作成された後で値を変更できます。
- いいえ: ユーザーは、値を変更できません。

グループプロパティ

データベース名	フィールド名	説明	編集可能
Group.Actions	許可されたアクション	このグループのユーザーに実行が許可されているアクションのリストです。	はい
Group.Attributes	許可された属性	このグループのユーザーに編集が許可されているオブジェクトのリストです。	はい
Group.Description	グループの説明	グループを説明するテキストが入っています。	はい
Group.ID	ページタイトルに表示	ユーザーグループの名前。	いいえ
グループソース ID	グループソース ID	このグループのコピー元のグループの名前です。	いいえ

位置のデータベースプロパティ名

入力ファイルに関するメッセージでは、**Location**で始まるデータベース名でプロパティが表されている場合があります。

編集可能列:

- はい: 許可ユーザーは、位置が作成された後で値を変更できます。
- いいえ: 許可ユーザーは、値を変更できません。

Location.ID

データベース名	フィールド名	説明	編集可能
Location.Description	位置の説明	位置を説明します。たとえば、プリンターの設置場所の地名や建物の名前、建物内のフロアなどです。	はい
Location.ID	位置の名前	位置の名前を指定します。	いいえ
Location.LastModified	最終変更日時	位置が最後に変更された日時。	いいえ
Location.ModifiedBy	変更ユーザー	この位置を最後に変更したユーザーのユーザー名を指定します。	いいえ

セキュリティのデータベースプロパティ名

メッセージは、セキュリティプロパティを示している場合があります。

ユーザーインターフェースのドロップダウンリストに表示される値の中には、RICOH ProcessDirector の内部で使用される値とは異なるものがあります。Webサービスを使用して要求を行うときや、指定変更ファイルを使用して値を設定するときは、内部値を使用する必要があります。【内部値】列に、このようなプロパティの内部値を示します。

編集可能列:

- はい: 許可ユーザーは値を変更できます。
- いいえ: 許可ユーザーは、値を変更できません。

8

セキュリティプロパティ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	内部値	編集可能
User.AccountStatus	セキュリティ → ユーザー: アカウントステータス	ユーザーアカウントの現在の状況を表示します。	• アクティブ • ロック済み非アクティブ • ロック済みパスワード失敗	はい
User.LastLogin	セキュリティ → ユーザー: 最終ログイン	ユーザーが最後にログインした日時を指定します。		いいえ
WorkflowSystem.AdLdap.EmailAddress	設定 → LDAP: Eメール属性	RICOH ProcessDirector がユーザーのメールアドレスを取得するLDAP属性を指定します。		はい
WorkflowSystem.AdLdap.GroupMap	設定 → LDAP: LDAPグループ	RICOH ProcessDirector のグループからLDAPグループへのマッピングを指定します。		はい

データベース名	ノートブックタブ：フィールド名	説明	内部値	編集可能
WorkflowSystem.AdLdap.GroupSearchBase	設定 → LDAP ：グループ検索ベース	RICOH ProcessDirector が、LDAP のグループを含む組織単位 (OU) を識別するために検索する、LDAP の外部ディレクトリツリーの分岐を指定します。		はい
WorkflowSystem.AdLdap.GroupSearchFilter	設定 → LDAP ：グループ検索フィルター	特定の名前のグループが LDAP グループの検索ベースにあるかどうかを判断するために RICOH ProcessDirector が使用するフィルターを指定します。		はい
WorkflowSystem.AdLdap.GroupSearchMember	設定 → LDAP ：グループ検索メンバー	RICOH ProcessDirector が、LDAP グループメンバーの識別名を取得するために使用する LDAP 属性を指定します。		はい
WorkflowSystem.AdLdap.ManagerDN	設定 → LDAP ：マネージャー識別名	ユーザー検索のために LDAP サーバーにバインドするユーザーの完全な識別名 (DN) を指定します。		はい
WorkflowSystem.AdLdap.ManagerPassword	設定 → LDAP ：マネージャーパスワード	[マネージャー識別名] プロパティに指定されているユーザーのパスワードを指定します。		はい
WorkflowSystem.AdLdap.rootDN	設定 → LDAP ：ルート識別名	データベースの管理制限やアクセス制御の制約を受けない識別名 (DN) を指定します。		はい
WorkflowSystem.AdLdap.Server	設定 → LDAP ：LDAPサーバー	システムが認証に使用する 1 つまたは複数の LDAP サーバーのネットワーク IP アドレスまたは完全修飾ホスト名のいずれかおよびポートを指定します。		はい
WorkflowSystem.AdLdap.SyncLdapGrp	設定 → LDAP ：LDAPグループと同期	RICOH ProcessDirector が、ユーザーのログイン時に、[製品から LDAP グループのマッピング] プロパティの値に基づいて、ユーザーの製品	• はい • いいえ	はい

データベース名	ノートブックタブ：フィールド名	説明	内部値	編集可能
		セキュリティグループを更新するかどうかを指定します。		
WorkflowSystem.AdLdap.UserSearchBase	設定 → LDAP：ユーザー検索ベース	外部ディレクトリツリーの中で検索する部分を、LDAP の URL 内のベース識別名 (DN) から相対的に指定します。		はい
WorkflowSystem.AdLdap.UserSearchFilter	設定 → LDAP：ユーザー検索フィルター	ユーザーの識別名 (DN) が LDAP にあるかどうかを判断するために RICOH ProcessDirector が使用するフィルターを指定します。		はい
WorkflowSystem.AdLdap.YesNo	設定 → LDAP：LDAPで認証	ユーザーが、既存の Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーで定義されているユーザー ID で RICOH ProcessDirector にログインできるかを指定します。	• はい • いいえ	はい
WorkflowSystem.ComplexRules	設定 → セキュリティ：パスワード複雑性規則の適用	すべてのユーザーに複雑なパスワードを使用させるかどうかを指定します。	• はい • いいえ	はい
WorkflowSystem.InactiveLength	設定 → セキュリティ：アカウントの非活動期間	RICOH ProcessDirector で非アクティブになっているユーザーアカウントがシステムからロックアウトされるまでの日数を指定します。		はい
WorkflowSystem.LockOutLength	設定 → セキュリティ：ロックアウト期間	ユーザーがアカウントログインのしきい値を超えた場合に RICOH ProcessDirector でユーザーがシステムからロックアウトされる期間を指定します。この値の時間単位は分、時間、または日にできます。値の時間単位を選択するには、プロパティ名の右にあるトグルコントロールを使用します。		はい

データベース名	ノートブックタブ：フィールド名	説明	内部値	編集可能
WorkflowSystem. MaxLoginAttempts	設定 → セキュリ ティ：アカウント ロックアウトの しきい値	ユーザーがロックア ウトされるまでに許 可されるログイン失 敗およびパスワード 変更の試行回数を指 定します。		はい
WorkflowSystem. MinPasswordLength	設定 → セキュリ ティ：パスワー ドの最小長	パスワードに必要な 最小文字数を指定し ます。		はい
WorkflowSystem. PasswordReuseCount	設定 → セキュリ ティ：パスワー ドの再利用回数	ユーザーが、固有の パスワードを何回入 力すれば、以前のパ スワードを再利用で きるかを指定しま す。		はい

9. ジョブチケットで設定可能なジョブプロパティ

ジョブをジョブチケットを使用して実行依頼すると、RICOH ProcessDirectorはジョブチケットの値から、いくつかのジョブプロパティを設定します。

ジョブプロパティはジョブチケット内の属性にマッピングされます。ほとんどの場合、RICOH ProcessDirectorは、**ジョブチケットの属性列の属性値**に対応する値にジョブプロパティを設定します。（値は必ずしも同じとは限りません）。注列では、このプロセスでの変形について説明します。

ジョブチケットが複数の印刷ファイルを参照する場合、RICOH ProcessDirector は各ファイルの子ジョブを作成します。【**ジョブ当たりまたはチケット当たり**】列:

- **ジョブ**は、プロパティが個々の印刷ファイルに適用されるジョブチケットの属性にマッピングされ、それにより子ジョブごとに別々の値を持つことができることを意味します。
- **チケット**は、プロパティがジョブチケット全体に適用される属性にマッピングされ、それによりジョブチケットについて作成されたすべてのジョブに同じ値がなければならないことを意味します。
- **ジョブまたはチケット**は、プロパティが両方のタイプの属性にマッピングされ、それによりジョブチケットの属性に応じて同じ値または別の値を持つことができることを意味します。

ジョブチケットで設定可能なジョブプロパティ

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	ジョブ当たりまたはチケット当たり	JDF 属性名	注
Job.Binding	製本	印刷するジョブに対する製本設定を設定します。	ジョブまたはチケット	job-binding	
Job.Copies	全般およびステータス: 要求されたジョブコピー	要求されたジョブコピーの数が入っています。	ジョブまたはチケット	job-copies	
Job.CustomerName	スケジュール: カスタマー名	このジョブに関連付けられたカスタマーを識別します。	ジョブまたはチケット	job-contact-info	
Job.Description	全般: ジョブの説明	ジョブを説明するテキストが入っています。	ジョブまたはチケット	jt-comment	
Job.Duplex	全般: 両面印刷	ジョブで両面印刷がアクティブになっているかどうかと、アク	ジョブまたはチケット	job-sides	

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	ジョブ当たりまたはチケット当たり	JDF 属性名	注
		ティップになっている場合は両面印刷のタイプを示します。			
Job.FoldOptions	折りオプション	ジョブやジョブの大きなシートの折り方、すべてのシートをまとめて折るかどう (重ねるかソートか)、およびシートの表面を折りの外側に向けるか内側に向けるか、を指定します。	ジョブまたはチケット	job-folding	
Job.Info.Department	情報: 部門情報	ジョブの部門の説明が入っています。	ジョブまたはチケット	job-contact-info	
Job.InputDatastream	全般: 入力データストリーム	このジョブの入力ファイルに入っているデータの形式を指定します。	ジョブ	document-format	
Job.Line-2AFP.CC_TYPE	AFP: 紙送り制御タイプ	ジョブに存在する紙送り制御のタイプを示します。	チケット	job-carriage-control-characters	このプロパティは、AFP サポート機能がインストールされている場合にのみ使用可能になります。
Job.Line-2AFP.FORMDEF	AFPと印刷: 書式定義	ジョブで使用する書式定義を識別します。	チケット	job-form-definition	このプロパティは、AFP サポート機能がインストールされている場合にのみ使用可能になります。
Job.Line-2AFP.PAGEDEF	AFP: ページ定義	ジョブで使用するAFPページ定義を識別します。	チケット	job-page-definition	このプロパティは、AFP サポート機能がインストールされている場合にのみ使用可能になります。
Job.Line-2AFP.TR	AFP: テーブル参照文字	テーブル参照文字がジョブに存在するかどうかを示します。	チケット	job-table-reference-characters	このプロパティは、AFP サポート機能がインストールされている場合にのみ使用可能になります。

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	ジョブ当たりまたはチケット当たり	JDF 属性名	注
Job.Media	スケジューリング: メディア (作動可能 サポート すべて)	ジョブに使用するメディアを指定します。	ジョブまたはチケット	ジョブのメディアデータベース名が JDF のいくつかの job-media および document-media 属性にマッピングされます。	RICOH ProcessDirector はメディア検出の設定を使用して、この値の設定方法を判別します。 ジョブチケットにページレベルのメディア値とジョブレベルのメディア値を両方とも指定されている場合、このプロパティには複数の値が設定されます。しかし、ユーザーが [メディア] プロパティの値を更新しても、ジョブチケットにその値が書き込まれることはありません。そのメディアに対して使用されるページ範囲を指定できないためです。ジョブチケット内のメディア値は、変更されません。
Job.Name	全般: ジョブ名	ジョブの名前が入っています。	ジョブまたはチケット	job-name	
Job.OutputBin	スケジューリング: 出力ビン (要求 使用可能 すべて)	ジョブに使用する出力 BIN を指定します。	ジョブまたはチケット	document-output-bin-name、job-output-bin-name	
Job.Print.JogCopies	印刷: 出力コピーの用紙揃え	プリンターがジョブの出力コピーを用紙揃えするかどうかを制御します。	チケット	job-jog-offset	
Job.Print.Xoffset	印刷: X オフセット (単位)	用紙の原点から論理ページの原点までの、x 方向 (水平方向) のオフセット (インチまたはミリメートル) を識別します。	ジョブまたはチケット	image-shift-front-x	この値は、ページの表と裏の両方に適用されます。 このプロパティは、AFP サポート機能がインストールされている場合にのみ使用可能になります。

データベース名	ノートブックタブ: フィールド名	説明	ジョブ当たりまたはチケット当たり	JDF 属性名	注
Job.Print.Yoffset	印刷: Y オフセット (単位)	用紙の原点から論理ページの原点までの、y 方向 (垂直方向) のオフセット (インチまたはミリメートル) を識別します。	ジョブまたはチケット	image-shift-front-y	この値は、ページの表と裏の両方に適用されます。 このプロパティは、AFP サポート機能がインストールされている場合にのみ使用可能になります。
Job.Priority	スケジューリング: ジョブの優先順位	ジョブの印刷の優先順位が入っています。	ジョブまたはチケット	job-priority	
Job.Punch	スケジューリング: パンチ	出力に穴を開けるための穴の数と位置を指定します。	ジョブまたはチケット	document-hole-making、job-hole-making	
Job.RequestedPrinter	スケジューリング: 要求されたプリンター	ジョブで要求されたプリンターの名前が入っています。	ジョブまたはチケット	job-logical-destination-name	
Job.RetainDuration	全般: 保存期間 (単位)	RICOH ProcessDirector が RetainCompletedJobs ステップに到達した後でジョブを保存する期間の長さ (分、時、または日) を制御します。	ジョブまたはチケット	job-retain	
Job.Staple	スケジューリング: ステープル	出力で使用するステープルの数と位置を指定します。	ジョブまたはチケット	job-stitching、document-stitching	

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1-3-6 〒143-8555
<http://www.ricoh.co.jp/>



お問い合わせ

お買い上げいただきました弊社製品についての操作方法に関するお問い合わせは、お買い上げの販売店にご連絡ください。

転居の際は、販売店にご相談ください。転居先の最寄りの販売店をご紹介します。